

令和8年度シラバス 目次

全授業科目のシラバス(授業計画)

区分	ナンバリング	授業科目名	担当者	単 位	学 年	開講時期	ページ番号
教 養 科 目	CL10101	生活とかがく	箕浦龍一	2	1	後期	3-4
	CL10102	リズム遊び	渡辺ユリナ	2	1	前期	5-6
	CL10103	情報処理 I	中村紘也	1	1	前期	7-8
	CL10104	あそび入門	浦中こういち	2	1	前期	9-10
	CL10105	情報処理 II	中村紘也	1	1	後期	11-12
	CL10106	日本国憲法	中村紘也	2	1	後期	13-14
	CL10201	あそび探究	浦中こういち	2	2	後期	15-16
	CL20101	外国語コミュニケーション I (英語)	佐々木美紀	1	1	前期	17-18
	CL20102	外国語コミュニケーション I (中国語)	施昶妃	1	1	前期	19-20
	CL20103	外国語コミュニケーション II (英語)	佐々木美紀	1	1	後期	21-22
	CL20104	外国語コミュニケーション II (中国語)	施昶妃	1	1	後期	23-24
	CL20105	国語表現法	箕浦龍一	2	1	前期	25-26
	CL30101	キャリアデザイン I	田中浩之・北畠香世子	1	1(2年課程のみ)	通年	27-28
	CL30201	キャリアデザイン II	仲森みどり・小椋佐奈衣・河村浩世	1	2	通年	29-30
	CL40101	保健体育(実技)	加藤大門	1	1	前期	31-32
	CL40102	保健体育(講義)	加藤大門	1	1	後期	33-34
	CL40103	心理学	小椋佐奈衣	2	1	後期	35-36
	CL60101	ユマニテック教育学	平松孝代江・徳増全矢・加藤大門・子丹	2	1	前期	37-38
専 門 教 育 科 目	CS10101	教育原理	徳増全矢	2	1(2年課程のみ)	前期	39-40
	CS10102	教育課程論	柴田智世	2	1	前期	41-42
	CS10103	保育原理	田中浩之	2	1	前期	43-44
	CS10104	子ども家庭福祉	河村浩世	2	1	前期	45-46
	CS10105	社会福祉	河村浩世	2	1	後期	47-48
	CS10107	教職概論	田中浩之	2	1	後期	49-50
	CS10109	教育と社会	田中浩之	2	1	後期	51-52
	CS10201	児童館・放課後児童クラブの機能と運営	堀本浩史	2	2	前期	53-54
	CS20101	教育方法と技術	田中浩之	2	1(2年課程のみ)	前期	55-56
	CS20102	幼児の音楽表現 I	渡辺ユリナ・村木清子・北川由紀・宮田美佐・奥村優・新谷麻衣・松井奈都子	1	1	前期	57-58
	CS20103	幼児の造形表現 I	西脇義照	1	1	前期	59-60
	CS20104	保育内容論	田中裕子	1	1(2年課程のみ)	後期	61-62
	CS20105	幼児の音楽表現 II	渡辺ユリナ・村木清子・北川由紀・宮田美佐・奥村優・新谷麻衣・松井奈都子	1	1	後期	63-64
	CS20106	幼児の造形表現 II	西脇義照	1	1	後期	65-66
	CS20201	健康指導法	北畠香世子	1	2	前期	67-68
	CS20202	幼児の音楽 I	渡辺ユリナ・村木清子・北川由紀・宮田美佐	1	2	前期	69-70
	CS20203	保育指導法	寺西恵子	2	2	前期	71-72
	CS20204	環境指導法	田中裕子	1	2	前期	73-74
	CS20205	教育相談	小椋佐奈衣	2	2	後期	75-76
	CS20206	幼児の音楽 II	渡辺ユリナ・村木清子・北川由紀・宮田美佐	1	2	後期	77-78
	CS20207	障がい児の支援	仲森みどり	2	2	前期	79-80
	CS20208	児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法	堀本浩史	2	2	後期	81-82
	CS30101	基礎ゼミナール I	仲森みどり・小椋佐奈衣・北畠香世子・河村浩世・加藤大門・子丹・渡辺ユリナ	1	1	前期	83-84
	CS30102	基礎ゼミナール II	仲森みどり・小椋佐奈衣・北畠香世子・河村浩世・加藤大門・子丹・渡辺ユリナ	1	1	後期	85-86
	CS30201	専門ゼミナール I (障がい児プログラム)	仲森みどり・加藤大門	1	2	前期	87-88
	CS30201	専門ゼミナール I (地域連携プログラム)	田中浩之・河村浩世	1	2	前期	89-90
CS30201	専門ゼミナール I (乳幼児プログラム)	田中裕子・北畠香世子	1	2	前期	91-92	

令和8年度シラバス 目次

専
門
教
育
科
目

CS30202	専門ゼミナールⅡ(障がい児プログラム)	仲森みどり・加藤大門	1	2	後期	93-94
CS30202	専門ゼミナールⅡ(地域連携プログラム)	田中浩之・河村浩世	1	2	後期	95-96
CS30202	専門ゼミナールⅡ(乳幼児プログラム)	田中裕子・北畠香世子	1	2	後期	97-98
CS30203	保育・教職実践演習	平松喜代江・徳増全矢・田中浩之・北畠香世子	2	2	後期	99-100
CS40101	教育心理学	小椋佐奈衣	2	1(2年課程のみ)	前期	101-102
CS40102	幼児の言葉	田中浩之	1	1(2年課程のみ)	後期	103-104
CS40103	幼児の健康	奥田さおり	1	2	前期	105-106
CS40103	幼児の健康	加藤大門	1	1(2年課程のみ)	後期	107-108
CS40104	幼児の環境	徳増全矢	1	1(2年課程のみ)	後期	109-110
CS40106	障がい児保育	仲森みどり	1	1	後期	111-112
CS40107	幼児の人間関係	于丹	1	1(2年課程のみ)	後期	113-114
CS40201	幼児の人間関係	于丹	1	2	前期	115-116
CS40202	特別支援教育論	仲森みどり	1	2	前期	117-118
CS40203	子どもの理解と発達	小椋佐奈衣	1	2	前期	119-120
CS40204	子ども家庭支援の心理学	小椋佐奈衣	2	2	後期	121-122
CS40205	子どもの健康と安全	松井雅子	1	2	前期	123-124
CS40206	乳児保育Ⅰ	寺西恵子	2	2	前期	125-126
CS40207	障がい児の理解	仲森みどり	2	2	前期	127-128
CS40208	乳幼児の理解	北畠香世子	2	2	前期	129-130
CS40209	子どもの食と栄養	川端美鶴	2	2	通年	131-133
CS40210	子ども家庭支援論	河村浩世	2	2	後期	134-135
CS40211	乳児保育Ⅱ	寺西恵子	1	2	後期	136-137
CS60101	地域ボランティア実践Ⅰ	徳増全矢・浦中こういち・河村浩世・于丹	1	1	前期	138-139
CS60102	幼稚園教育実習事前事後指導	田中裕子・北畠香世子	1	1(2年課程のみ)	通年	140-141
CS60103	保育実習指導Ⅰ	田中浩之・于丹・仲森みどり・河村浩世	2	1(2年課程のみ),2	通年	142-144
CS60104	幼稚園教育実習Ⅰ	田中裕子・北畠香世子	1	1	後期	145-146
CS60105	地域ボランティア演習Ⅰ	河村浩世・加藤大門	1	1(長期履修課程のみ)	通年	147-149
CS60106	保育インターン実習Ⅰ	徳増全矢・北畠香世子・于丹	1	1(長期履修課程のみ)	通年	150-152
CS60201	保育実習Ⅰ	田中浩之・于丹・仲森みどり・河村浩世	4	2	前期	153-154
CS60202	幼稚園教育実習Ⅱ	田中裕子・北畠香世子	3	2	前期	155-156
CS60203	保育実習指導Ⅱ	田中浩之・于丹	1	2	通年	157-158
CS60204	保育実習Ⅱ	田中浩之・于丹	2	2	前期	159-160
CS60205	保育実習指導Ⅲ	仲森みどり・加藤大門	1	2	前期	161-162
CS60206	保育実習Ⅲ	仲森みどり・加藤大門	2	2	前期	163-164
CS60207	子育て支援演習	田中裕子・北畠香世子・于丹	1	2	後期	165-166

科目区分	教養科目	科目名	生活とかがく	担当者	箕浦龍一	開講時期	1年後期	授業形態・単位数	講義 2単位
卒業要件	選択必修	ナンバリング	CL10101	資格等取得との関連	保育士:選択必修				
テーマ・授業の到達目標(学修成果)	<p>テーマ: 子どもの発達段階における科学的探究心・好奇心の育成</p> <p>到達目標(学修成果)①:「なぜ空は青いの?」といった日常の素朴なギモンを、自分の言葉で園児に説明できるようになる。</p> <p>到達目標(学修成果)②:子どもたちが「かがく」を大好きになるような、温かい見守り方や応援のコツをマスターする。</p> <p>到達目標(学修成果)③:毎日の保育の中で、子どもと一緒にワクワクできる「科学遊び」を楽しく企画できるようになる。</p>								
授業概要	<p>「理科や科学は難しくて苦手...」と感じていませんか?この授業では、暗記や計算は必要ありません。まずは保育者となる皆さんが、身の回りの自然や不思議な現象を「おもしろい!」と心から楽しめるようになることから始めます。講師自身の小学校教諭としての経験を持ち、学校教育にファシリテーションの理念・技術を導入することを目的とした研修活動を続けてきました。絵本や対話、楽しいアクティビティを通して、子どもと同じ目線で世界をワクワクしながら眺める「眼」を一緒に養っていきましょう。</p> <p>難しく考えず、リラックスして参加してください。</p>								
ディプロマポリシー(DP)と到達目標(学修成果)との対応	◎	<p>① 保育者として必要な知識や技術、そして「子どもたちのために何が大切か」を考えるための、優しく誠実な心構えをしっかり学び、身につける。</p> <p>② 日々の活動の中で「どうしたらいいのかな?」という疑問や課題を見つけたとき、一番良い方法を自分で考え、判断し、周りの人に分かりやすく伝えて協力し合う力を養う。</p> <p>③ いろいろな人との出会いや体験を通じて、一人ひとりの違いを大切に育む心を持って、子どもたちや家族、地域の人たちと手を取り合いながら、より良い社会を一緒につくってほしいという強い気持ちを育む。</p>							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1回	<p>オリエンテーションと「生活とかがく」の概念理解</p> <p>「生活とかがく」というテーマと日常生活との関連と魅力等</p> <p>絵本の読み聞かせ、子どもたちと楽しむコミュニケーションゲーム</p>					<p>事前:シラバスを読んで、授業の全体像を捉える(2h)</p> <p>事後:情報を整理し、学習した内容を振り返る(2h)</p>			
2回	<p>緑の不思議な旅:植物の成長と生態のミステリー</p> <p>植物の成長、光合成の仕組み、植物の生態系における役割等</p> <p>絵本の読み聞かせ、子どもたちと楽しむコミュニケーションゲーム</p>					<p>事前:植物の成長等に関する事前学習(2h)</p> <p>事後:情報を整理し、学習した内容を振り返る(2h)</p>			
3回	<p>動物たちの秘密の生活:彼らの生態系の理解へ</p> <p>動物の種類、生態系での役割、食物連鎖、適応戦略、動物保護等</p> <p>絵本の読み聞かせ、子どもたちと楽しむコミュニケーションゲーム</p>					<p>事前:動物の生態に関する事前学習(2h)</p> <p>事後:情報を整理し、学習した内容を振り返る(2h)</p>			
4回	<p>フィールドワーク自然とのふれあい:観察の技術と記録の方法</p> <p>実際に野外に出て、様々な生物や植物を観察する方法等</p> <p>絵本の読み聞かせ、子どもたちと楽しむコミュニケーションゲーム</p>					<p>事前:自然観察の方法についての事前学習(2h)</p> <p>事後:情報を整理し、学習した内容を振り返る(2h)</p>			
5回	<p>水と空気の科学ショー:見えない力の探求</p> <p>水の性質、空気の圧力、浮力などの物理的な現象の理解等</p> <p>絵本の読み聞かせ、子どもたちと楽しむコミュニケーションゲーム</p>					<p>事前:水と空気の特性についての事前学習(2h)</p> <p>事後:情報を整理し、学習した内容を振り返る(2h)</p>			
6回	<p>季節の変わり目に科学を見つけよう:気象の謎解き</p> <p>季節の変化、気象現象の原因等</p> <p>絵本の読み聞かせ、子どもたちと楽しむコミュニケーションゲーム</p>					<p>事前:風、降水、気象、季節等に関する事前学習(2h)</p> <p>事後:情報を整理し、学習した内容を振り返る(2h)</p>			
7回	<p>食べ物の大冒険:健康へのパスポート</p> <p>食べ物の消化され、栄養が変わるのか、バランスの良い食事等</p> <p>絵本の読み聞かせ、子どもたちと楽しむコミュニケーションゲーム</p>					<p>事前:栄養素の種類と役割等に関する事前学習(2h)</p> <p>事後:情報を整理し、学習した内容を振り返る(2h)</p>			
8回	<p>私たちの体内探検隊:健康のメカニズムを知ろう</p> <p>人間の体の構造と機能、健康を維持するための体の仕組み等</p> <p>絵本の読み聞かせ、子どもたちと楽しむコミュニケーションゲーム</p>					<p>事前:人体の器官と機能等に関する事前学習(2h)</p> <p>事後:情報を整理し、学習した内容を振り返る(2h)</p>			
9回	<p>生命の不思議:人の誕生</p> <p>命の始まり、新しい命、お腹の中の様子を見てみると等</p> <p>絵本の読み聞かせ、子どもたちと楽しむコミュニケーションゲーム</p>					<p>事前:生命誕生に関する事前学習(2h)</p> <p>事後:情報を整理し、学習した内容を振り返る(2h)</p>			
10回	<p>身の回りの物質とエネルギー:動きの原理を探る</p> <p>物質の状態変化やエネルギーの形態、エネルギー保存法則等</p>					<p>事前:物質の運動法則に関する事前学習(2h)</p> <p>事後:情報を整理し、学習した内容を振り返る(2h)</p>			

	絵本の読み聞かせ、子どもたちと楽しむコミュニケーションゲーム																													
11回	光と音の冒険:波の世界を探検 光と音が波として伝わる仕組み、反射や屈折、共鳴などの現象等 絵本の読み聞かせ、子どもたちと楽しむコミュニケーションゲーム	事前:音や光とその伝播等に関する事前学習(2h) 事後:情報を整理し、学習した内容を振り返る(2h)																												
12回	星々の語る物語:宇宙への旅立ち 天体の動き、星座、宇宙の成り立ちと進化等 絵本の読み聞かせ、子どもたちと楽しむコミュニケーションゲーム	事前:太陽系の構成、惑星等に関する事前学習(2h) 事後:情報を整理し、学習した内容を振り返る(2h)																												
13回	科学とアートの融合:創造性を育む発見 科学的な現象をアート作品として表現する方法等 絵本の読み聞かせ、子どもたちと楽しむコミュニケーションゲーム	事前:科学的現象を利用したアートの事前学習(2h) 事後:情報を整理し、学習した内容を振り返る(2h)																												
14回	未来の科学者たちへ:思考から実験、教育までの科学プロジェクト 科学的な問い、実験計画の留意点、科学的な保育プログラム等 絵本の読み聞かせ、子どもたちと楽しむコミュニケーションゲーム	事前:子どもたちの科学的思考についての事前学習(2h) 事後:情報を整理し、学習した内容を振り返る(2h)																												
15回	科学の花を咲かせる保育:子どもたちの好奇心を育むためのアイデア 子どもたちが科学に興味を持つための保育活動や教材の作り方、科学を楽しむためのゲームやプロジェクトの計画・立案等 絵本の読み聞かせ、子どもたちと楽しむコミュニケーションゲーム	事前:これまでの講義内容の復習と総括(2h) 事後:情報を整理し、学習した内容を振り返る(2h)																												
16回	定期試験																													
テキスト	特に指定しない。																													
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	参考資料:講義で配布する。「科学絵本・科学読み物」:講義で読み聞かせる。 保育者として、知っておきたい情報:講義で紹介する。 スマホ・PC・タブレット等の使用:オンライン掲示板・ホワイトボード、グラフィックデザインツールなど																													
到達目標(学修成果)及び観点	【到達目標(学修成果)及び観点】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標(学修成果)及び観点</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>技能・表現</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○	○	○			到達目標②		○	○			到達目標③			○	○					
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○	○	○																											
到達目標②		○	○																											
到達目標③			○	○																										
評価方法・基準	【評価方法・基準】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標(学修成果)</th> <th>定期試験 (筆記試験・実技試験)</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物 レポート</th> <th>発表・実技</th> <th>取り組み 姿勢</th> <th>その他 ()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>10%</td> <td></td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>20%</td> <td></td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>10%</td> <td></td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ループリック評価: 取り入れている・取り入れていない		評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()	到達目標①	10%		10%	10%			到達目標②	20%		10%	10%			到達目標③	10%		10%	10%		
評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()																								
到達目標①	10%		10%	10%																										
到達目標②	20%		10%	10%																										
到達目標③	10%		10%	10%																										
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:講義中・講義前後、講義の振り返り、教室で、または、Teams・メールで質問を受け付けます。 学習成果のフィードバック:提出物の返却を通して実施します。																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:教養科目/外国語、体育以外の科目																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	発展的な学習の視点を提供し、学生の興味・関心や学修をより深めるための工夫 理論だけでなく実践的な情報を多く提供し、学生が安心して熱心に学べる環境づくり																													
受講生へのメッセージ・その他	毎回の講義で、ペア・グループでの活動(対面、web上)を行います。それを通して、主体的に学び合ひましょう。																													
実務経験の有無	<input checked="" type="checkbox"/> あり ・ なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無																												

科目区分	教養科目	科目名	リズム遊び	担当者	渡辺ユリナ	開講時期	1年 前期	授業形態・ 単位数	講義 2単位
卒業要件	選択必修	ナンバリング	CL10102	資格等取得との関連	保育士：選択必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	<p>テーマ：遊びを通してリズムに親しみ、音楽表現の基礎を養う</p> <p>到達目標(学修成果)①：リズムについて理解し、音符を用いて説明できる</p> <p>到達目標(学修成果)②：身体、言葉、楽器を用いたリズムの表現を考えることができる</p> <p>到達目標(学修成果)③：リズム遊びの意義を理解した上で、発達に即したリズム遊びを実践できる</p>								
授業概要	<p>遊びを通してリズムに親しむことで、保育現場で行われる様々な音楽表現の基礎を養うことを目的とした授業である。学生自身がリズムを感じ表現することの楽しさを実感すると共に、そうした感覚を子ども達にも伝えられるよう、保育者としてリズム遊びへの理解を深め、表現力を高める。授業ではグループワークを行い、他者と関わりの中でリズム遊びに必要な柔軟かつ受容的な姿勢を身に着ける。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と到達目標 (学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
		② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目									
授業計画						時間外学習			
1回	オリエンテーション、リズム遊びの目的と意義の説明				事前：保育のリズム遊びについて調べる(2h) 事後：学んだことを振り返り、ワークシートにまとめる(2h)				
2回	リズムの基礎知識 音符の長さ				事前：多様なリズムについて調べてまとめる(2h) 事後：学んだことを振り返り、ワークシートにまとめる(2h)				
3回	リズムと身体(1) 試行 (グループワーク)				事前：日常の身体を用いたリズム表現を見つける(2h) 事後：学んだことを振り返り、ワークシートにまとめる(2h)				
4回	リズムと身体(2) 試行 (グループワーク)				事前：リズムに合った動きを考える(2h) 事後：学んだことを振り返り、ワークシートにまとめる(2h)				
5回	リズムと身体(3) 実践 (プレゼンテーション)				事前：リズムに合った動きを考える(2h) 事後：学んだことを振り返り、ワークシートにまとめる(2h)				
6回	リズムと言葉(1) 試行 (グループワーク)				事前：日常の言葉を用いたリズム表現を見つける(2h) 事後：学んだことを振り返り、ワークシートにまとめる(2h)				
7回	リズムと言葉(2) 実践 (プレゼンテーション)				事前：言葉に合ったリズムを考える(2h) 事後：学んだことを振り返り、ワークシートにまとめる(2h)				
8回	楽譜の基礎知識 拍と拍子				事前：楽譜の読み方について調べてまとめる(2h) 事後：学んだことを振り返り、ワークシートにまとめる(2h)				
9回	楽譜の基礎知識 反復				事前：楽譜の読み方について調べてまとめる(2h) 事後：学んだことを振り返り、ワークシートにまとめる(2h)				
10回	リズムと楽器(1) 読譜 (グループワーク)				事前：担当楽器の奏法を調べてまとめる(2h) 事後：学んだことを振り返り、ワークシートにまとめる(2h)				
11回	リズムと楽器(2) 試行 (グループワーク)				事前：楽譜の読み方を確認する(2h) 事後：学んだことを振り返り、ワークシートにまとめる(2h)				
12回	リズムと楽器(3) 実践 (プレゼンテーション)				事前：課題曲を練習する(2h) 事後：学んだことを振り返り、ワークシートにまとめる(2h)				
13回	リズムで表現(1) 考案 (グループワーク)				事前：身体、言葉、楽器を用いた表現を考える(2h) 事後：学んだことを振り返り、ワークシートにまとめる(2h)				
14回	リズムで表現(2) 試行 (グループワーク)				事前：身体、言葉、楽器を用いた表現を練習する(2h) 事後：学んだことを振り返り、ワークシートにまとめる(2h)				

15回	リズムで表現(3)実践(プレゼンテーション)	事前:身体、言葉、楽器を用いた表現を練習する(2h) 事後:学んだことを振り返り、ワークシートにまとめる(2h)																												
16回	定期試験																													
テキスト	なし																													
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 監修:三瓶令子 共著:那須一彦、鈴木祥子、宮城純一、菅原三謝、柿沼恵美子 現場で生かせる幼児合奏～リズムあそびから発表会まで～ 圭文社(2016)																													
到達目標(学修成果)及び観点	<p>【到達目標(学修成果)及び観点】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標(学修成果)及び観点</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>技能・表現</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○		○			到達目標②		○	○			到達目標③			○	○					
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○		○																											
到達目標②		○	○																											
到達目標③			○	○																										
評価方法・基準	<p>【評価方法・基準】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標(学修成果)</th> <th>期末試験 (筆記試験・実技試験)</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物・レポート</th> <th>発表・実技</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>30%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>5%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>15%</td> <td>15%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> <td>15%</td> <td>10%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()	到達目標①	30%				5%		到達目標②				15%	15%		到達目標③	10%			15%	10%	
評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①	30%				5%																									
到達目標②				15%	15%																									
到達目標③	10%			15%	10%																									
ルーブリック評価	ルーブリック評価: 取り入れている ・ <input type="checkbox"/> 取り入れていない																													
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談: オフィスアワー 学習成果のフィードバック: 課題学習の振り返りは授業の中で講評します																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士: 教養科目/外国語、体育以外の科目																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	到達目標自体への意識と理解を高めることで、課題の遂行により到達目標に近づけていることを実感できるようにする。																													
受講生へのメッセージ・その他	授業を通して多様なリズムに親しむことで、保育者としての音楽表現の幅が広がります。日常のリズムに着目し、リズム遊びへの理解を深めるために、毎週の事前・事後学習に励みましょう。																													
実務経験の有無	あり ・ <input type="checkbox"/> なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無																												

科目区分	教養科目	科目名	情報処理 I	担当者	中村紘也	開講時期	1 年 前期	授業形態・ 単位数	演習 1 単位
卒業要件	選択必修	ナンバリング	CL10103	資格等取得との関連	幼稚園：必修・保育士：選択必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	<p>テーマ：情報機器の操作の基礎及び情報の取扱いの注意点を身につける。</p> <p>到達目標(学修成果)①：短期大学及び社会において必要となる情報リテラシーを身につける。</p> <p>到達目標(学修成果)②：保育現場で必要となる基本的な情報機器の操作を身につける。</p> <p>到達目標(学修成果)③：情報の発信及び情報の管理についての知識を身につける。</p>								
授業概要	<p>保育現場においても情報の発信が必要になるが、情報の発信は情報機器を操作して行われることが多い。そこで、保育現場で必要となる基本的な情報機器の操作方法を学んでいく。その過程において、課題解決に向け、必要な情報や知識をインターネット上で調査・収集するなど、PBL(課題解決型学習)を意識した授業を行っていく。また、実習や保育現場においてはアレルギー情報等秘匿性の高い個人情報を取り扱うことになるので、情報の取扱いに関する注意事項を学び、加えて文書作成の基本的知識を修得する。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と到達目 標(学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
		② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目									
	授業計画					時間外学習			
1 回	オリエンテーション					事前：テキスト 6 頁から 19 頁を概観する。(0.5h) 事後：タッチタイピングの練習(0.5h)			
2 回	Word の基本操作					事前：テキスト 1 章を熟読する。(0.5h) 事後：操作方法を確認し、再度入力等を行う。(0.5h)			
3 回	文字の入力					事前：テキスト 2 章を熟読する。(0.5h) 事後：操作方法を確認し、再度入力等を行う。(0.5h)			
4 回	文書の作成、印刷 PowerPoint の基本操作					事前：テキスト 3 章を熟読する。(0.5h) 事後：操作方法を確認し、再度入力等を行う。(0.5h)			
5 回	文書の編集					事前：テキスト 4 章を熟読する。(0.5h) 事後：操作方法を確認し、再度入力等を行う。(0.5h)			
6 回	文字の装飾					事前：テキスト 5 章を熟読する。(0.5h) 事後：操作方法を確認し、再度入力等を行う。(0.5h)			
7 回	文字の配置					事前：テキスト 6 章を熟読する。(0.5h) 事後：操作方法を確認し、再度入力等を行う。(0.5h)			
8 回	編集・装飾・配置を踏まえた文書の作成、印刷					事前：今まで学習した内容を確認する。(0.5h) 事後：できなかった点について確認する。(0.5h)			
9 回	表の作成					事前：テキスト 7 章を熟読する。(0.5h) 事後：操作方法を確認し、再度入力等を行う。(0.5h)			
10 回	図形の作成、編集					事前：テキスト 8 章を熟読する。(0.5h) 事後：操作方法を確認し、再度入力等を行う。(0.5h)			
11 回	写真等の利用					事前：テキスト 9 章を熟読する。(0.5h) 事後：操作方法を確認し、再度入力等を行う。(0.5h)			
12 回	ドロップキャップ等その他の機能					事前：テキスト 10 章 66 から 74 を熟読する。(0.5h) 事後：操作方法を確認し、再度入力等を行う。(0.5h)			
13 回	PDF での保存等その他の機能					事前：テキスト 10 章 75 から 80 を熟読する。(0.5h) 事後：操作方法を確認し、再度入力等を行う。(0.5h)			

14回	発展的な文書の作成	事前:今まで学習した内容を確認する。(0.5h) 事後:操作方法を確認し、再度入力等を行う。(0.5h)																												
15回	文書作成の確認及び印刷設定	事前:今まで学習した内容を確認する。(0.5h) 事後:できなかった点について確認する。(0.5h)																												
16回	実技試験																													
テキスト	AYURA『今すぐ使えるかんたん Word2024』技術評論社 2025年																													
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 随時紹介する。																													
到達目標(学修成果)及び観点	<p>【到達目標(学修成果)及び観点】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標(学修成果)及び観点</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>技能・表現</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○			○		到達目標②				○		到達目標③	○								
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○			○																										
到達目標②				○																										
到達目標③	○																													
評価方法・基準	<p>【評価方法・基準】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標(学修成果)</th> <th>期末試験 (筆記試験・実技試験)</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物・レポート</th> <th>発表・実技</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>20%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>15%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>20%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>15%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>20%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価: 取り入れている・<input type="checkbox"/>取り入っていない</p>		評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()	到達目標①	20%				15%		到達目標②	20%				15%		到達目標③	20%				10%	
評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①	20%				15%																									
到達目標②	20%				15%																									
到達目標③	20%				10%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談:授業終了前後に教室(もしくは非常勤講師室)で質問を受け付ける。</p> <p>学習成果のフィードバック:課題、提出物は授業の中で返却する。試験の返却方法は授業の中で指示する。</p>																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	<p>幼稚園:情報機器の操作</p> <p>保育士:教養科目/外国語、体育以外の科目</p>																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	<p>情報処理 I では Word を中心に講義を進めていきますが、入学までにパソコンや iPad をどれだけ使用してきたかで学生間に技能や知識に相当差があることは否定できません。そのため、まずは入力の練習をしたり、PowerPoint で様々なスライドを作成したりし、パソコンや iPad に慣れることから始めていきたいと思っています。</p>																													
受講生へのメッセージ・その他	<p>情報機器の使用法の基礎を学びつつ、情報の取り扱いにおいて注意すべき点や実際に発生した情報流出事例等も併せて学んでいきたいと思っています。情報機器の使用は、実習や保育の現場に直結しますので、がんばっていきましょう。</p>																													
実務経験の有無	あり・ <input type="checkbox"/> なし	<p>双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無</p> <p>あり・<input type="checkbox"/>なし</p>																												

科目区分	教養科目	科目名	あそび入門	担当者	浦中こういち	開講時期	1年 前期	授業形態・ 単位数	講義 2単位
卒業要件	選択必修	ナンバリング	CL10104	資格等取得との関連	保育士：選択必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	<p>テーマ：保育現場、実践に活用できる知識や技術、子どものあそびについて学ぶ。</p> <p>到達目標(学修成果)①:子どもの発達と絵本、シアター等を意欲的に制作し、グループで表現する。</p> <p>到達目標(学修成果)②:子どもを取り巻くあそび環境について理解し、意欲を持って環境準備ができる。</p> <p>到達目標(学修成果)③:子どもの経験やさまざまな表現活動を結びあそびの展開についての知識と技術が習得できる。</p>								
授業概要	<p>保育士としての現場での経験、現在活動している、絵本作家・あそび作家の経験を活かし、「今」の保育現場、子どもたちの現状「あそび」について理解を深め、その中から子どもたちと共に楽しめるシアター、模倣あそびに繋がる教材等の製作を実際に行い、グループワークによる演習を行う。保育現場に実際に入った時のことを考え実際に表現することであそびとは？保育とは何かを学ぶ。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と到達目標 (学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
		② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1回	オリエンテーション 子どもの発達と言葉あそびの特性／シアター製作・課題について					事前：シラバスを読み、概要の把握に務める(2h) 事後：講義内容を振り返り次回の授業に繋げる(2h)			
2回	子どもの発達と絵本の特性 絵本についての理解・シアター製作について					事前：絵本の選書(2h) 事後：シアター製作の準備(2h)			
3回	子どもの発達とパネルシアターの特性と理解 「年齢にふさわしいパネルシアターの選び方」 パネルシアター製作①「下書き・グループワーク」					事前：パネルシアターの理解(2h) 事後：パネルシアター製作の準備(2h)			
4回	子どもの発達とパネルシアターの特性と理解 パネルシアター製作②「仕掛けについて・グループワーク」					事前：パネルシアターの理解(2h) 事後：パネルシアター製作(2h)			
5回	子どもの発達とパネルシアターの特性と理解 パネルシアター製作③「教材作り・着色について・グループワーク」					事前：パネルシアターの理解(2h) 事後：パネルシアター製作(2h)			
6回	子どもの発達とパネルシアターの特性と理解 パネルシアター製作④「教材作り・着色について・グループワーク」					事前：パネルシアターの理解(2h) 事後：着色(2h)			
7回	子どもの発達とパネルシアターの特性と理解 パネルシアター製作⑤「着色・仕掛けについて・グループワーク」					事前：パネルシアターの理解(2h) 事後：着色完了・仕掛けについて完成(2h)			
8回	子どもの発達とパネルシアターの特性と理解 パネルシアター製作⑥「仕掛け・発表について」					事前：パネルシアターの理解(2h) 事後：仕掛け完成(2h)			
9回	子どもの発達とパネルシアターの特性と理解 パネルシアター製作⑦「グループ発表」					事前：発表についてグループ学習(2h) 事後：発表の振り返り(2h)			
10回	身近な素材を使ったシアター製作Ⅰ-① 子どもの発達と特性・理解 シアターをどのように子どもたちと楽しむか？導入／環境構成／準備について学ぶ<ストーリーを使ったペープサート製作／グループ製作>					事前：製作の準備(2h) 事後：製作の振り返り／グループ別プレゼンテーションの準備(2h)			
11回	身近な素材を使ったシアター製作Ⅰ-② 子どもの発達と特性・理解 シアターをどのように子どもたちと楽しむか？導入／環境構成／準備について学ぶ<ストーリーを使ったペープサート製作／グループ製作>					製作の準備(2h) 事後：製作の振り返り／グループ別プレゼンテーションの準備(2h)			
12回	身近な素材を使ったシアター製作Ⅰ-③ 子どもの発達と特性・理解 シアターをどのように子どもたちと楽しむか？導入／環境構成／準備について学ぶ<ストーリーを使ったペープサート製作／グループ製作>					製作の準備(2h) 事後：製作の振り返り／グループ別プレゼンテーションの準備(2h)			
13回	身近な素材を使ったシアター製作Ⅰ-④ 子どもの発達と特性・理解 グループ発表を通し、導入／環境構成／準備を学ぶ／製作発表					事前：グループ別プレゼンテーションの準備(2h) 事後：グループ別プレゼンテーションの振り返り(2h)			

14回	乳幼児保育に生かせる言葉あそび・模倣あそび 忍者あそびを通して模倣遊びの理解と製作	事前:忍者遊びについての理解(2h) 事後:模倣遊びの理解と振り返り(2h)																												
15回	学習のまとめ 定期テストについて/あそびについて	事前:提出物の準備(2h) 事後:あそびについての振り返り(2h)																												
16回	定期試験																													
テキスト	保育園・幼稚園で2歳から楽しい忍者あそびがいっぱい 著:浦中こういち (かがわ出版)																													
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 保育所保育指針解説、幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 わくわく・楽しいパネルシアター(著:浦中こういち/ナツメ社) 1年中つくれる!0から5歳児の製作・造形遊び(著:浦中こういち/ナツメ社)																													
到達目標(学修成果)及び観点	<p>【到達目標(学修成果)及び観点】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標(学修成果)及び観点</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>技能・表現</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○		○	○		到達目標②	○	○		○		到達目標③	○	○		○					
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○		○	○																										
到達目標②	○	○		○																										
到達目標③	○	○		○																										
評価方法・基準	<p>【評価方法・基準】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標(学修成果)</th> <th>期末試験(筆記試験・実技試験)</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物・レポート</th> <th>発表・実技</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>5%</td> <td></td> <td>30%</td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>5%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>30%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験(筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()	到達目標①	5%		30%	10%	10%		到達目標②	10%				5%		到達目標③	30%					
評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験(筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①	5%		30%	10%	10%																									
到達目標②	10%				5%																									
到達目標③	30%																													
ルーブリック評価	ルーブリック評価: 取り入れている・ <input type="checkbox"/> 取り入っていない																													
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談 オフィスアワー(掲示板にて確認)、授業日対応できる場合は随時行う 学習成果のフィードバック: その都度対面にて行う																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:教養科目/外国語、体育以外の科目																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	授業課題については保育士を目指すため必要な内容となっています。 引き続き丁寧な説明等も踏まえながら進めていきます。																													
受講生へのメッセージ・その他	授業では私語、許可以外の携帯電話等の使用、操作はしないこと。 授業の積極的参加、姿勢を重視します。実践向けのあそびへの積極的参加、忘れ物、提出物の期日等準備物等によりシラバス内容(進行)に若干の変更がある場合もあります。またオンライン(遠隔授業)もあります 製作にあたり準備物等を各自準備する場合があります。授業内で説明します。																													
実務経験の有無	<input type="checkbox"/> あり ・ なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無																												
		<input type="checkbox"/> あり ・ なし																												

科目区分	教養科目	科目名	情報処理 II	担当者	中村 紘也	開講時期	1 年後期	授業形態・単位数	演習 1 単位
卒業要件	選択必修	ナンバリング	CL10105	資格等取得との関連	幼稚園:必修・保育士:選択必修				
テーマ・授業の到達目標(学修成果)	<p>テーマ:情報の取扱い等に加え、Excel を用いた情報処理方法を身につける。</p> <p>到達目標(学修成果)①:Excel により効率的なデータ処理方法を身につける。</p> <p>到達目標(学修成果)②:PowerPoint を用いた実践的なプレゼンテーションを身につける。</p> <p>到達目標(学修成果)③:Word、Excel 及び PowerPoint の連携操作を身につける。</p>								
授業概要	<p>情報処理 I を踏まえ、より広汎な情報処理方法を学んでいく。具体的には効率的なデータ処理等を行うことにより、作業時間の短縮を目指すとともに、簡単なプレゼンテーションスキルについても身につけるようにする。その過程において、課題解決に向け、必要な情報や知識をインターネット上で調査・収集するなど、PBL(課題解決型学習)を意識した授業を行っていく。</p> <p>また、必要に応じて適宜情報処理 I で学んだ内容を確認し、知識及び技術の定着を図っていくこととする。</p>								
ディプロマポリシー(DP)と到達目標(学修成果)との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
		② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目									
	授業計画					時間外学習			
1 回	オリエンテーション					事前:テキスト 6 頁から 21 頁を概観する。(0.5h) 事後:操作方法を確認し、再度入力等を行う。(0.5h)			
2 回	Excel の基本操作					事前:テキスト 1 章を熟読する。(0.5h) 事後:操作方法を確認し、再度入力等を行う。(0.5h)			
3 回	表の作成					事前:テキスト 2 章を熟読する。(0.5h) 事後:操作方法を確認し、再度入力等を行う。(0.5h)			
4 回	数式を使つての計算					事前:テキスト 3 章を熟読する。(0.5h) 事後:操作方法を確認し、再度入力等を行う。(0.5h)			
5 回	関数を使つての計算					事前:テキスト 4 章を熟読する。(0.5h) 事後:操作方法を確認し、再度入力等を行う。(0.5h)			
6 回	表の形式					事前:テキスト 5 章を熟読する。(0.5h) 事後:操作方法を確認し、再度入力等を行う。(0.5h)			
7 回	表の印刷					事前:テキスト 10 章を熟読する。(0.5h) 事後:操作方法を確認し、再度入力等を行う。(0.5h)			
8 回	関数の確認及び練習問題					事前:今まで学習した内容を確認する。(0.5h) 事後:できなかった点について確認する。(0.5h)			
9 回	PowerPoint を用いて手遊び動画を作成する					事前:PowerPoint についてネットで調査する。(0.5h) 事後:操作方法を確認し、再度入力等を行う。(0.5h)			
10 回	グラフの作成					事前:テキスト 6 章を熟読する。(0.5h) 事後:操作方法を確認し、再度入力等を行う。(0.5h)			
11 回	条件付き書式の設定					事前:テキスト 7 章を熟読する。(0.5h) 事後:操作方法を確認し、再度入力等を行う。(0.5h)			
12 回	データの整理、抽出					事前:テキスト 8 章を熟読する。(0.5h) 事後:技術不足と感じた点を確認する。(0.5h)			
13 回	シート、ブック					事前:テキスト 9 章を熟読する。(0.5h) 事後:操作方法を確認し、再度入力等を行う。(0.5h)			

14回	その他の機能	事前:テキスト11章を熟読する。(0.5h) 事後:操作方法を確認し、再度入力等を行う。(0.5h)																												
15回	計算(関数を含む)方法の確認及び印刷設定	事前:今まで学習した内容を確認する。(0.5h) 事後:できなかった点について確認する。(0.5h)																												
16回	実技試験																													
テキスト	AYURA『今すぐ使えるかんたん Excel2024』技術評論社 2025年																													
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 随時紹介する。																													
到達目標(学修成果)及び観点	<p>【到達目標(学修成果)及び観点】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標(学修成果)及び観点</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>技能・表現</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○			○		到達目標②				○		到達目標③				○					
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○			○																										
到達目標②				○																										
到達目標③				○																										
評価方法・基準	<p>【評価方法・基準】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標(学修成果)</th> <th>期末試験 (筆記試験・実技試験)</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物・レポート</th> <th>発表・実技</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>20%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>15%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>20%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>15%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>20%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価: 取り入れている・<input type="checkbox"/>取り入れていない</p>		評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()	到達目標①	20%				15%		到達目標②	20%				15%		到達目標③	20%				10%	
評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①	20%				15%																									
到達目標②	20%				15%																									
到達目標③	20%				10%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談:授業終了前後に教室(もしくは非常勤講師室)で質問を受け付ける。</p> <p>学習成果のフィードバック:課題、提出物は授業の中で返却する。試験の返却方法は授業の中で指示する。</p>																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	<p>幼稚園:情報機器の操作</p> <p>保育士:教養科目/外国語、体育以外の科目</p>																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	<p>例年そうなのですが、Word に比べて Excel は計算や関数を扱うせいか、数学とリンクし、苦手意識を持っている学生が多いので、説明と練習問題を繰り返して苦手意識を払拭していきたいと思います。また、Excel は印刷した場合にうまく処理できない場合があるので、時間的に余裕があればその点なども含めて講義を進めていきたいと思います。</p>																													
受講生へのメッセージ・その他	<p>保育現場においては Excel を使用する機会も皆無ではありません。Excel の使用により効率的かつ間違いのない計算等を行うことができるようになります。また、PowerPoint で1年間の思い出のスライドを作成しますので、写真も撮りためておいてください。</p>																													
実務経験の有無	あり・ <input type="checkbox"/> なし	<p>双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無</p> <p>あり・<input type="checkbox"/>なし</p>																												

科目区分	教養科目	科目名	日本国憲法	担当者	中村紘也	開講時期	1年 後期	授業形態・ 単位数	講義 2単位
卒業要件	選択必修	ナンバリング	CL10106	資格等取得との関連	幼稚園：必修・保育士：選択必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	<p>テーマ：国家の基礎法である日本国憲法について学び、人権及び統治機構の理解を深める。</p> <p>到達目標(学修成果)①：基本的人権について、条文及び判例を学び、人権問題に対する解決能力を身につける。</p> <p>到達目標(学修成果)②：三権分立を中心に、統治機構における相互の果たす役割を理解し、統治機構に関する問題を処理できる。</p> <p>到達目標(学修成果)③：人権相互の矛盾・衝突が生じた場合の利益衡量を身につける。</p>								
授業概要	<p>弁護士として多くの権利関係の紛争処理に関与した経験を踏まえ、子どもの人権の特殊性や憲法上の人権について実際の事例を交えて説明、検討する。また、憲法の三原則である「国民主権」、「基本的人権の尊重」、「平和主義」を念頭に、自由権や社会権を中心に、判例等を交えながら知識とバランス感覚を修得する。憲法の知識のインプットだけでなく、適宜問題を解くといったアウトプットの機会を設け、憲法の知識の修得を確実なものにし、判例を用いてディスカッションを行うなど、多方向性にも配慮した授業を行う。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と到達目 標(学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
		② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目									
	授業計画					時間外学習			
1回	オリエンテーション 日本国憲法制定の経緯等					事前：憲法全文を概観する。(2h) 事後：講義の内容を復習する。(2h)			
2回	信教の自由					事前：テキストテーマ7を概観する。(2h) 事後：配布したレジュメを熟読する。(2h)			
3回	表現の自由(名誉毀損等)					事前：テキストテーマ8を概観する。(2h) 事後：配布したレジュメを熟読する。(2h)			
4回	表現の自由(集会の自由等)					事前：テキストテーマ9を概観する。(2h) 事後：配布したレジュメを熟読する。(2h)			
5回	職業選択・営業の自由					事前：テキストテーマ10を概観する。(2h) 事後：配布したレジュメを熟読する。(2h)			
6回	財産権・死刑制度					事前：テキストテーマ13を概観する。(2h) 事後：配布したレジュメを熟読する。(2h)			
7回	新しい人権(プライバシー権、自己決定権等)					事前：テキストテーマ3、4を概観する。(2h) 事後：配布したレジュメを熟読する。(2h)			
8回	法の下での平等					事前：テキストテーマ5、6を概観する。(2H) 事後：配布したレジュメを熟読する。(2h)			
9回	子どもの人権、外国人の権利					事前：テキストテーマ1、2を概観する。(2h) 事後：配布したレジュメを熟読する。(2h)			
10回	生存権、教育権					事前：テキストテーマ11、12を概観する。(2h) 事後：配布したレジュメを熟読する。(2h)			
11回	生存権、教育権以外の社会権等					事前：テキストテーマ14、15を概観する。(2h) 事後：配布したレジュメを熟読する。(2h)			
12回	国会					事前：テキストテーマ16、17を概観する。(2h) 事後：配布したレジュメを熟読する。(2h)			
13回	内閣、地方自治					事前：テキストテーマ18、21を概観する。(2h) 事後：配布したレジュメを熟読する。(2h)			

14回	裁判所	事前:テキストテーマ19、20を概観する(2h) 事後:配布したレジュメを熟読する。(2h)																												
15回	憲法改正・人権及び統治機構の確認	事前:テキストテーマ22を概観する(2h) 事後:配布したレジュメを熟読する。(2h)																												
16回	筆記試験																													
テキスト	初宿正典・高橋正俊・米沢広一・棟居快行『いちばんやさしい憲法入門(第7版)』株式会社有斐閣 2025年																													
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 高乗正臣『保育者のための法学・憲法入門(第2版)』株式会社成文堂 2023年																													
到達目標(学修成果)及び観点	<p>【到達目標(学修成果)及び観点】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標(学修成果)及び観点</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>技能・表現</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①		○				到達目標②	○					到達目標③		○							
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①		○																												
到達目標②	○																													
到達目標③		○																												
評価方法・基準	<p>【評価方法・基準】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標(学修成果)</th> <th>期末試験 (筆記試験・実技試験)</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物・レポート</th> <th>発表・実技</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>20%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>15%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>20%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>20%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>15%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価: 取り入れている・<input type="checkbox"/>取り入っていない</p>		評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()	到達目標①	20%				15%		到達目標②	20%				10%		到達目標③	20%				15%	
評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①	20%				15%																									
到達目標②	20%				10%																									
到達目標③	20%				15%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談:授業終了前後に教室(もしくは非常勤講師室)で質問を受け付ける。</p> <p>学習成果のフィードバック:課題、提出物は授業の中で返却する。試験の返却方法は授業の中で指示する。</p>																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	<p>幼稚園:日本国憲法</p> <p>保育士:教養科目/外国語、体育以外の科目</p>																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	<p>憲法は、専門用語や普段使わない独特な言い回しも多く、その点で苦手意識を持っている学生が多いように思います。そのため、毎回作成するレジュメでテキストを補充し、理解しやすいように努めていきたいと思っています。また、問題を解き、インプットとアウトプットを繰り返すことに加えて、みなさん自身で考え、議論する時間も増やしていきたいと考えています。</p>																													
受講生へのメッセージ・その他	<p>特別な制約はあるものの、子どももみなさんと同じ人権享有主体です。人権が制約されれば誰でも嫌なもので、その点は子どもも大人も異なりません。この点を意識していれば、不適切保育を行うことはないので、憲法の講義を通じて人権について学んでいきましょう。</p>																													
実務経験の有無	<input checked="" type="checkbox"/> あり ・ なし	<p>双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無</p> <p>あり ・ <input type="checkbox"/>なし</p>																												

科目区分	教養科目	科目名	あそび探究	担当者	浦中こういち	開講時期	2 後期	授業形態・ 単位数	講義 2単位
卒業要件	選択必修	ナンバリング	CL10201	資格等取得との関連	保育士：選択必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	<p>テーマ：より深くあそびについて学ぶ。保育現場の実践を想定し、すぐ活用できる知識や技術、子どものあそびについて理解し探究する</p> <p>到達目標(学修成果)①：子どもの発達を理解し、シアター等を意欲的に取り組み表現することができる</p> <p>到達目標(学修成果)②：子どもを取り巻く環境について理解し、あそび環境等、保育現場を意識し準備できるようになる</p> <p>到達目標(学修成果)③：5領域を通し、あそびに関する知識・技術を学び、表現することができる</p>								
授業概要	<p>保育士としての現場での経験、現在活動している絵本作家・あそび作家の経験を活かし、「今」の保育現場や子どもたちの現状「あそび」についてグループ活動や製作などを通して理解を深める。〇〇シアターなどを作り、ただ作るだけでなく保育現場ではどのように行なっていくのか、導入についてなど「あそび入門」での学びをより深く学び、保育所保育指針等を使用しながら、実践し探究していく。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と到達目標 (学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
		② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目									
授業計画					時間外学習				
1回	オリエンテーション 授業の説明／子どもの発達と言葉あそびの特性				事前：シラバスを読み、概要の把握に務める(2h) 事後：講義内容を振り返り次回の授業に繋げる(2h)				
2回	子どもの発達と造形遊びについての特性と理解① 造形あそびの特性と理解／水性ペンを使った表現方法① 造形あそびについて学び・保育現場での利用方法について				事前：造形あそびについて準備(2h) 事後：次回の授業に向けて準備(2h)				
3回	子どもの発達と造形遊びについての特性と理解② 造形あそびの特性と理解／水性ペンを使った表現方法② ・自然物を使ったものなど保育現場を意識したものを制作予定 ・ドキュメンテーションとは？ドキュメンテーションの理解 ・実際に作ったものを発表。保育現場での応用等も説明する。				事前：造形遊びの理解／ドキュメンテーションの理解(2h) 事後：次回の授業に向けて準備(2h)				
4回	子どもの発達と造形遊びについての特性と理解③ 「楽しい」のきっかけ作りからの保育現場での利用について学ぶ ・ドキュメンテーション作り(子ども理解・グループ製作)				事前：シアターの特性・理解(2h) 事後：ドキュメンテーションの振り返り(2h)				
5回	子どもの発達と造形遊びについての特性と理解④ ・製作物発表 ・ドキュメンテーション発表(理解と探究) <スケッチブックシアター製作説明>				事前：シアターの特性・理解(2h) 事後：次回の授業に向けて準備(2h)				
6回	身近な素材を使ったシアター製作 1-① 子どもの発達と特性・理解 シアターをどのように子どもたちと楽しむか？導入／環境構成／準備について学ぶ<ストーリーを使ったペーパーサート製作／グループ製作>				事前：製作の準備(2h) 事後：製作の振り返り／グループ別プレゼンテーションの準備(2h)				
7回	身近な素材を使ったシアター製作 1-② 子どもの発達と特性・理解 シアターをどのように子どもたちと楽しむか？導入／環境構成／準備について学ぶ<ストーリーを使ったペーパーサート製作／グループ製作>				製作の準備(2h) 事後：製作の振り返り／グループ別プレゼンテーションの準備(2h)				
8回	身近な素材を使ったシアター製作 1-③ 子どもの発達と特性・理解 ・ドキュメンテーション作り(子ども理解) <ストーリーを使ったペーパーサートグループ発表>				事前：グループ製作ドキュメンテーションの準備(2h) 事後：グループ別プレゼンテーションの振り返り(2h)				
9回	身近な素材を使ったシアター製作 1-④ 子どもの発達と特性・理解 グループ発表を通し、導入／環境構成／準備を学ぶ ・ドキュメンテーションの発表(理解と探究) <ストーリーを使ったペーパーサートグループ発表>				事前：グループ別プレゼンテーションの準備(2h) 事後：グループ別プレゼンテーションの振り返り(2h)				
10回	季節に合わせた製作物を利用した、子どもの発達と特性・理解 1年次使用したテキストからあそびの応用・展開を考える。				事前：製作の準備(2h) 事後：製作の振り返り(2h)				

	使用テキスト: 保育園・幼稚園で2歳からの「楽しい忍者あそびがいっぱい」・あそび探究シートの理解・製作							
11回	子どもの発達・シアター1-①の特性と理解:<製作> 「楽しい」のきっかけ作りからの保育現場での利用について学ぶ。 <スケッチブックシアター製作予定>	事前:シアターの特性・理解(2h) 事後:次回の授業に向けて準備(2h)						
12回	子どもの発達とシアター1-②の特性と理解<製作・発表について> 教材を作り、シアターの作り方、特性、理解について学ぶ。 <スケッチブックシアター製作予定>	事前:シアターの特性・理解(2h) 事後:次回の授業準備,グループ発表について(2h)						
13回	子どもの発達とシアター1-③の特性と理解<製作・発表について> シアターを通しての子ども理解 ・子ども探究シート製作(探究)	事前:シアターの特性・理解(2h) 事後:探究シートの理解(2h)						
14回	子どもの発達とシアター1-④の特性と理解<製作・発表について> グループでの発表演習。保育現場の理解を深める。 <スケッチブックシアター発表(グループ発表)予定>	事前:導入についての理解(2h) 事後:発表後の振り返り(2h)						
15回	楽しいから始まる探究についての理解と振り返り 製作発表 授業のまとめ	事前:ドキュメンテーションについての理解(2h) 事後:授業の振り返り(2h)						
16回	定期試験							
テキスト	保育所保育指針解説(フレーベル館) 1年中つくれる!0~5歳児の制作・造形あそび 著:浦中こういち/ナツメ社							
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 スケッチブックシアター(かがわ出版)							
到達目標(学修成果)及び観点	【到達目標(学修成果)及び観点】							
	到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()		
	到達目標①	○	○		○			
	到達目標②	○	○					
	到達目標③	○	○	○				
評価方法・基準	【評価方法・基準】							
	評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()	
	到達目標①	5%		30%	10%	10%		
	到達目標②	10%				5%		
	到達目標③	30%						
ルーブリック評価	ルーブリック評価: 取り入れている・ <input type="checkbox"/> 取り入っていない <input type="checkbox"/>							
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談: オフィスアワー(掲示板にて確認)、授業日対応できる場合は随時行う。 学習成果のフィードバック: 授業時、対面にて行う							
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士: 教養科目/外国語、体育以外の科目							
授業評価アンケート結果を受けての改善点	授業課題については保育士を目指すため必要な内容となっています。 引き続き丁寧な説明等も踏まえながら進めていきます。							
受講生へのメッセージ・その他	授業では私語、許可以外の携帯電話等の使用、操作はしないこと。授業の積極的参加、姿勢を重視します。実践向けのアそびへの積極的参加、忘れ物、提出物の期日等や準備物等により、シラバス内容(進行)に若干の変更がある場合もあります。またオンライン(遠隔授業)もあります。製作にあたり準備物等を各自準備する場合があります。授業内で説明します。							
実務経験の有無	<input type="checkbox"/> あり	・	なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無		<input type="checkbox"/> あり	・	なし

科目区分	教養科目	科目名	外国語コミュニケーション I (英語)	担当者	佐々木美紀	開講時期	I 年 前期	授業形態・ 単位数	演習 I 単位
卒業要件	選択必修	ナンバリング	CL20101	資格等取得との関連	幼稚園:選択必修・保育士:選択必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	<p>テーマ:非母国語を楽しみながら習得するプロセスを理解し、あそびを取り入れた語学を提案できる。</p> <p>到達目標(学修成果)①:グループワーク、ペアワークを通して、非母国語での会話活動を楽しみ、自己表現ができる。</p> <p>到達目標(学修成果)②:歌の背景や歌詞の意味を把握した上で、英語の歌を歌えるようになる。</p> <p>到達目標(学修成果)③:保育に関する英単語や英語表現を学び、実践で使えるようになる。</p>								
授業概要	各回のテーマに沿って、英語での会話活動やアクティビティを実践形式で行い、コミュニケーション能力を高めます。 英語の歌を通して、英語特有の音・リズムを習得していきます。保育現場で使える英語表現等を習得していきます。								
ディプロマポリシー (DP)と到達目 標(学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	○	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
	△	③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目									
授業計画						時間外学習			
1 回	オリエンテーション(講義概要の説明) ペアワーク(自己紹介)					事前: 事後:講義内容の復習(0.5h)			
2 回	ペアワーク(好きなもの、好きなことを聞き合う) ♪英語の歌					事前:前回の内容を回想(0.5h) 事後:講義内容の復習(0.5h)			
3 回	『Easter』について+アクティビティ ♪英語の歌					事前:前回の内容を回想(0.5h) 事後:講義内容の復習(0.5h)			
4 回	“This is Me!” スピーチ作成 ♪英語の歌 ・保育英語					事前:スピーチ内容を考える(0.5h) 事後:講義内容の復習、スピーチ発表の練習(0.5h)			
5 回	“This is Me!” スピーチ発表 ♪英語の歌 ・保育英語					事前:スピーチ発表の練習(0.5h) 事後:講義内容の復習(0.5h)			
6 回	『colors』+グループワーク ♪英語の歌 ・保育英語					事前:前回の内容を回想(0.5h) 事後:講義内容の復習(0.5h)			
7 回	『shapes』+グループワーク ♪英語の歌 ・保育英語					事前:前回の内容を回想(0.5h) 事後:講義内容の復習(0.5h)			
8 回	『numbers』+グループワーク ♪英語の歌 ・保育英語					事前:前回の内容を回想(0.5h) 事後:講義内容の復習(0.5h)			
9 回	『fruits/vegetables』+アクティビティ ♪英語の歌 ・保育英語					事前:前回の内容を回想(0.5h) 事後:講義内容の復習(0.5h)			
10 回	『fruits/vegetables』+グループワーク ♪英語の歌 ・保育英語					事前:前回の内容を回想(0.5h) 事後:講義内容の復習(0.5h)			
11 回	『countries』+アクティビティ ♪英語の歌 ・保育英語					事前:前回の内容を回想(0.5h) 事後:講義内容の復習(0.5h)			
12 回	ペアワーク(行きたい国を聞き合う) ♪英語の歌 ・保育英語					事前:前回の内容を回想(0.5h) 事後:講義内容の復習(0.5h)			
13 回	ペアワーク(したいことを聞き合う) ♪英語の歌 ・保育英語					事前:前回の内容を回想(0.5h) 事後:講義内容の復習(0.5h)			
14 回	“My Wish” スピーチ作成 ♪英語の歌 ・保育英語					事前:スピーチ内容を考える(0.5h) 事後:講義内容の復習、スピーチ発表の練習(0.5h)			

15回	“My Wish”スピーチ発表 前期内容の復習	事前:スピーチ発表の練習(0.5h) 事後:講義内容の復習(1h)																												
16回	定期試験(筆記試験)																													
テキスト	随時プリントを配布																													
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】																													
到達目標(学修成果)及び観点	<p>【到達目標(学修成果)及び観点】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標(学修成果)及び観点</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>技能・表現</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①		○	○	○		到達目標②			○	○		到達目標③	○		○						
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①		○	○	○																										
到達目標②			○	○																										
到達目標③	○		○																											
評価方法・基準	<p>【評価方法・基準】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標(学修成果)</th> <th>期末試験 (筆記試験・実技試験)</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物 レポート</th> <th>発表・実技</th> <th>取り組み 姿勢</th> <th>その他 ()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>20%</td> <td></td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td>20%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()	到達目標①	20%		10%	10%	20%		到達目標②	10%				10%		到達目標③	10%				10%	
評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()																								
到達目標①	20%		10%	10%	20%																									
到達目標②	10%				10%																									
到達目標③	10%				10%																									
ルーブリック評価	ルーブリック評価: 取り入れている・ <u>取り入れていない</u>																													
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談: 授業終了前後に教室で質問を受け付けます。</p> <p>学習成果のフィードバック: 提出物は授業の中で後日返却します。</p>																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園:外国語コミュニケーション 保育士:教養科目/外国語																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	時間外学習の内容を具体的に提示する。 授業に集中できる環境作りへの配慮をする。																													
受講生へのメッセージ・その他	英語学習を楽しみましょう。																													
実務経験の有無	あり・ <u>なし</u>	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無 <u>あり</u> ・なし																												

科目区分	教養科目	科目名	外国語コミュニケーション I (中国語)	担当者	施昶妃	開講時期	1年 前期	授業形態・ 単位数	講義 1単位
卒業要件	選択必修	ナンバリング	CL20102	資格等取得との関連	幼稚園:選択必修・保育士:選択必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	<p>テーマ: 中国語を学習することで、中国語圏の文化や慣習を理解する。</p> <p>到達目標(学修成果)①: 学生が中国語を話す外国人と接する際に、積極的に会話ができる。</p> <p>到達目標(学修成果)②: 学生が日常会話で頻出する単語について、中国語の漢字が書ける。</p> <p>到達目標(学修成果)③: 学生が簡単な日常会話に関する中国語の聞き取りができる。</p>								
授業概要	<p>本講義では、主に中国で通用している北京語について、基本的な日常生活会話を教授する。また、言語学習の他、北京語を使うそれぞれの地域の文化と慣習も紹介する。</p> <p>本講義のゴールは、反転授業を用いて、学生に対して北京語への興味を喚起し、国際的マインドを育てることであり、学生が北京語を話す外国人と接する際に、積極的に会話ができることを目指す。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と到達目 標(学修成果) との対応	○	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
	○	③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1回	講義概要の説明、中国語の紹介					事前: 事後:授業のノートをまとめる。(1h)			
2回	中国語の基本表現(あいさつ)					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる。(0.5h)			
3回	中国語の基本表現(お礼の表現)					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる。(0.5h)			
4回	中国語の基本表現(質問の方法)					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる。(0.5h)			
5回	中国語の基本表現(数字、日付、曜日などの言い方)					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる。(0.5h)			
6回	中国語ビデオ鑑賞					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる。(0.5h)			
7回	中国語会話(家族について)					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる。(0.5h)			
8回	中国語会話(趣味の尋ね方)					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる。(0.5h)			
9回	中国語会話(習い事などの表現)					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる。(0.5h)			
10回	中国語会話(学校についての各表現)					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる。(0.5h)			
11回	中国語会話(自己紹介)					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる。(0.5h)			
12回	中国語会話(買い物などの日常生活)					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる。(0.5h)			
13回	中国語会話(褒め言葉などの表現)					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる。(0.5h)			

14回	まとめと復習	事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる。(0.5h)																												
15回	中国語ビデオ鑑賞	事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる。(0.5h)																												
16回	実技試験(中国語での自己紹介プレゼンテーション)																													
テキスト	なし																													
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 『新版実用視聴華語I』国立台湾師範大学主編著 正中書局																													
到達目標(学修成果)及び観点	<p>【到達目標(学修成果)及び観点】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標(学修成果)及び観点</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>技能・表現</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①			○	○		到達目標②	○					到達目標③		○							
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①			○	○																										
到達目標②	○																													
到達目標③		○																												
評価方法・基準	<p>【評価方法・基準】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標(学修成果)</th> <th>(定期)期末試験 (筆記試験・実技試験)</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物・レポート</th> <th>発表・実技</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>40%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td></td> <td>30%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>30%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		評価方法・到達目標(学修成果)	(定期)期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()	到達目標①	40%						到達目標②			30%				到達目標③					30%	
評価方法・到達目標(学修成果)	(定期)期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①	40%																													
到達目標②			30%																											
到達目標③					30%																									
ルーブリック評価	ルーブリック評価:取り入れている・取り入っていない																													
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談:随時、電子メールで質問を受け付ける(changfei_shih@hotmail.com)</p> <p>学習成果のフィードバック:テストは講師のところに保管していますので事前に連絡のうえ内容を確認することができます。</p>																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	<p>幼稚園:外国語コミュニケーション</p> <p>保育士:教養科目/外国語</p>																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	授業中は、教室の前列と後列の生徒の学習状況の両方に注意を払います。																													
受講生へのメッセージ・その他	中国語の勉強を楽しんで下さい。																													
実務経験の有無	無	<p>双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無</p> <p>あり ・ <input type="checkbox"/> なし</p>																												

科目区分	教養科目	科目名	外国語コミュニケーション II(英語)	担当者	佐々木美紀	開講時期	I年 後期	授業形態・ 単位数	演習 I単位
卒業要件	選択必修	ナンバリング	CL20103	資格等取得との関連	幼稚園:選択必修・保育士:選択必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	<p>テーマ:非母国語を楽しみながら習得するプロセスを理解し、あそびを取り入れた語学を提案できる。</p> <p>到達目標(学修成果)①:グループワーク、ペアワークを通して、非母国語での会話活動を楽しみ、自己表現ができる。</p> <p>到達目標(学修成果)②:歌の背景や歌詞の意味を把握した上で、英語の歌を歌えるようになる。</p> <p>到達目標(学修成果)③:保育に関する英単語や英語表現を学び、実践で使えるようになる。</p>								
授業概要	<p>各回のテーマに沿って、英語での会話活動やアクティビティを実践形式で行い、コミュニケーション能力を高めます。</p> <p>英語の歌を通して、英語特有の音・リズムを習得していきます。保育現場で使える英語表現等を習得していきます。</p> <p>英語圏における季節の行事について理解を深めます。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と到達目標 (学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	○	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
	△	③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目									
授業計画					時間外学習				
1回	前期の復習 ♪英語の歌 ・保育英語				事前: 事後:講義内容の復習(0.5h)				
2回	ペアワーク(夏休みについて聞き合う) ♪英語の歌 ・保育英語				事前:前回の内容を回想(0.5h) 事後:講義内容の復習(0.5h)				
3回	“My Summer Break”スピーチ作成 ♪英語の歌 ・保育英語				事前:スピーチ内容を考える(0.5h) 事後:講義内容の復習、スピーチ発表の練習(0.5h)				
4回	“My Summer Break”スピーチ発表 ♪英語の歌 ・保育英語				事前:スピーチ発表の練習(0.5h) 事後:講義内容の復習(0.5h)				
5回	『Halloween』について+アクティビティ				事前:前回の内容を回想(0.5h) 事後:講義内容の復習(0.5h)				
6回	『animals』+アクティビティ ♪英語の歌 ・保育英語				事前:前回の内容を回想(0.5h) 事後:講義内容の復習(0.5h)				
7回	『animals』+リスニング ♪英語の歌 ・保育英語				事前:前回の内容を回想(0.5h) 事後:講義内容の復習(0.5h)				
8回	『sports』+リスニング ♪英語の歌 ・保育英語				事前:前回の内容を回想(0.5h) 事後:講義内容の復習(0.5h)				
9回	『Thanksgiving Day』について+アクティビティ				事前:前回の内容を回想(0.5h) 事後:講義内容の復習(0.5h)				
10回	『food and drinks』+ペアワーク ♪英語の歌 ・保育英語				事前:前回の内容を回想(0.5h) 事後:講義内容の復習(0.5h)				
11回	『festivals』+アクティビティ ♪英語の歌 ・保育英語				事前:前回の内容を回想(0.5h) 事後:講義内容の復習(0.5h)				
12回	『careers』+アクティビティ ♪英語の歌 ・保育英語				事前:前回の内容を回想(0.5h) 事後:講義内容の復習(0.5h)				
13回	『Christmas』について+アクティビティ ♪英語の歌				事前:前回の内容を回想(0.5h) 事後:講義内容の復習(0.5h)				
14回	“My Winter Break”スピーチ作成 ♪英語の歌 ・保育英語				事前:スピーチ内容を考える(0.5h) 事後:講義内容の復習、スピーチ発表の練習(0.5h)				

15回	“My Winter Break”スピーチをクラスの前で発表 後期内容の復習	事前:スピーチ発表の練習(0.5h) 事後:試験勉強(1h)																												
16回	定期試験(筆記試験)																													
テキスト	随時プリントを配布																													
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】																													
到達目標(学修成果)及び観点	<p>【到達目標(学修成果)及び観点】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標(学修成果)及び観点</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>技能・表現</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①		○	○	○		到達目標②			○	○		到達目標③	○		○						
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①		○	○	○																										
到達目標②			○	○																										
到達目標③	○		○																											
評価方法・基準	<p>【評価方法・基準】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標(学修成果)</th> <th>期末試験 (筆記試験・実技試験)</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物・レポート</th> <th>発表・実技</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>20%</td> <td></td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td>20%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()	到達目標①	20%		10%	10%	20%		到達目標②	10%				10%		到達目標③	10%				10%	
評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①	20%		10%	10%	20%																									
到達目標②	10%				10%																									
到達目標③	10%				10%																									
ルーブリック評価	ルーブリック評価: 取り入れている・ <u>取り入っていない</u>																													
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談: 授業終了前後に教室で質問を受け付けます。</p> <p>学習成果のフィードバック: 提出物は授業の中で後日返却します。</p>																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園:外国語コミュニケーション 保育士:教養科目/外国語																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	時間外学習の内容を具体的に提示する。 授業に集中できる環境作りへの配慮をする。																													
受講生へのメッセージ・その他	季節の行事も楽しみましょう。																													
実務経験の有無	あり・ <u>なし</u>	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無 <u>あり</u> ・なし																												

科目区分	教養科目	科目名	外国語コミュニケーション II(中国語)	担当者	施昶妃	開講時期	I年 後期	授業形態・ 単位数	講義 I単位
卒業要件	選択必修	ナンバリング	CL20104	資格等取得との関連	幼稚園:選択必修・保育士:選択必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	<p>テーマ: 中国語を学習することで、中国語圏の文化や慣習を理解する。</p> <p>到達目標(学修成果)①: 学生が中国語を話す外国人と接する際に、積極的に会話ができる。</p> <p>到達目標(学修成果)②: 学生が日常会話で頻出する単語について、中国語の漢字が書ける。</p> <p>到達目標(学修成果)③: 学生が簡単な日常会話に関する中国語の聞き取りができる。</p>								
授業概要	<p>本講義では、外国語コミュニケーション I の内容を基礎として、より発展した内容を取扱う。講義では、主に北京語の中級日常生活会話を教授する。また、講義においては、反転授業を用いて、学生が北京語で発言することを奨励する。本講義では、学生が外国人と接する際に自信を持って自らの意見を述べることを目指す。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と到達目 標(学修成果) との対応	○	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
	○	③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目									
	授業計画					時間外学習			
1回	中国語会話(自国の紹介)					事前: 事後:授業のノートをまとめる。(1h)			
2回	中国語会話(病気・病院に関する表現)					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる。(0.5h)			
3回	中国語会話(外出時における会話表現)					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる。(0.5h)			
4回	音読テストI(自国の紹介)					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる。(0.5h)			
5回	中国語ビデオ鑑賞					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる。(0.5h)			
6回	中国語会話(電話での会話表現)					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる。(0.5h)			
7回	中国語会話(食事に関する表現)					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる。(0.5h)			
8回	中国語会話(引越し等に関する表現)					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる。(0.5h)			
9回	音読テストII(病気に関する表現)					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる。(0.5h)			
10回	中国語会話(比較表現)					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる。(0.5h)			
11回	中国語会話(希望・願望に関する表現)					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる。(0.5h)			
12回	中国語会話(歓談に関する表現)					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる。(0.5h)			
13回	中国語会話(旅行に関する表現)					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる。(0.5h)			
14回	まとめと復習					事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる。(0.5h)			

15回	中国語ビデオ鑑賞	事前:事前にノートを熟読する。(0.5h) 事後:授業のノートをまとめる。(0.5h)				
16回	筆記試験(翻訳テスト)					
テキスト	なし					
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 『新版実用視聴華語2』国立台湾師範大学主編著 正中書局					
到達目標(学修成果)及び観点	【到達目標(学修成果)及び観点】					
	到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()
	到達目標①	○		○		
	到達目標②		○		○	
	到達目標③				○	
評価方法・基準	【評価方法・基準】					
	評価方法・到達目標(学修成果)	(定期)期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢 その他()
ルーブリック評価	到達目標①				15%	
	到達目標②	40%				
	到達目標③				15%	30%
	ルーブリック評価:取り入れている・ <input type="checkbox"/> 取り入っていない					
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:随時、電子メールで質問を受け付ける(changfei_shih@hotmail.com) 学習成果のフィードバック:テストは講師のところに保管していますので事前に連絡のうえ内容を確認することができます					
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園:外国語コミュニケーション 保育士:教養科目/外国語					
授業評価アンケート結果を受けての改善点	授業中は、教室の前列と後列の生徒の学習状況の両方に注意を払います。					
受講生へのメッセージ・その他	中国語の勉強を楽しんで下さい。					
実務経験の有無	無	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無			あり	<input type="checkbox"/> なし

科目区分	教養科目	科目名	国語表現法	担当者	箕浦龍一	開講時期	1年 前期	授業形態・ 単位数	講義 2単位
卒業要件	選択必修	ナンバリング	CL20105	資格等取得との関連	保育士:選択必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	<p>テーマ: 子どもや保護者、同僚との円滑な意思疎通を図るためのコミュニケーション力を高める。</p> <p>到達目標(学修成果)①: 保育や教育に携わる者として、基礎的教養と倫理観を備え、保育の専門的知識と技術を活用できる力を身につける。</p> <p>到達目標(学修成果)②: 保育や教育に関する課題を発見し、最善の解決方法を思考・判断し、他者に的確に伝えるコミュニケーション能力を養う。</p> <p>到達目標(学修成果)③: 子どもや家庭、地域社会の多様性を尊重し、協働しながら地域社会に貢献する意志と行動力を育む。</p>								
授業概要	<p>「国語」といっても、難しい漢字や文法の勉強ではありません。この授業では、保育士に必要な「聞く・話す・読む・書く」の実践練習をします。子どもたちに絵本を読んであげたり、保護者の方とお話ししたり、お便りを書いたり…。色々な場面で「うまく伝えたい!」と思えるような自分を磨きます。講師は小学校教諭としての経験を持ち、学校教育にファシリテーションの理念・技術を導入することを目的にした研修活動を続けてきました。ペアやグループで楽しくおしゃべりしながら、自分の想いを言葉にする練習をたくさんしましょう!</p>								
ディプロマポリシー (DP)と到達目標 (学修成果) との対応		①	保育者として必要な知識や技術、そして「子どもたちのために何が大切か」を考えるための、優しく誠実な心構えをしっかりと学び、身につける。						
	◎	②	日々の活動の中で「どうしたらいいのかな?」という疑問や課題を見つけたとき、一番良い方法を自分で考え、判断し、周りの人に分かりやすく伝えて協力し合う力を養う。						
		③	いろいろな人との出会いや体験を通じて、一人ひとりの違いを大切にする心を育て、子どもたちや家族、地域の人たちと手を取り合いながら、より良い社会を一緒につくっていかうとする強い気持ちを育む。						
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1回	講義内容・評価等のガイダンス 聞く・話す①: ペア・グループトーク(好きなお菓子など) 絵本の読み聞かせ、コミュニケーションゲーム					事前: シラバスを読んで、授業の全体像を捉える(2h) 事後: 情報を整理し、学習した内容を振り返る(2h)			
2回	聞く・話す②: ペア・グループトーク(自己紹介など) 会話・文章表現(基礎)、絵本の読み聞かせ、コミュニケーションゲーム					事前: 自己紹介などの話題を整理しておく(2h) 事後: 情報を整理し、学習した内容を振り返る(2h)			
3回	聞く・話す③: ペア・グループトーク(すごろくトークなど) 会話・文章表現(基礎)、絵本の読み聞かせ、コミュニケーションゲーム					事前: 自己紹介などの話題を整理しておく(2h) 事後: 情報を整理し、学習した内容を振り返る(2h)			
4回	聞く・話す④: ペア・グループトーク(私の子ども観など) 会話・文章表現(基礎)、絵本の読み聞かせ、コミュニケーションゲーム					事前: 自分の子ども観について整理しておく(2h) 事後: 情報を整理し、学習した内容を振り返る(2h)			
5回	聞く・話す⑤: ペア・グループトーク(私の保育観など) 会話・文章表現(基礎)、絵本の読み聞かせ、コミュニケーションゲーム					事前: 自分の保育観について整理しておく(2h) 事後: 情報を整理し、学習した内容を振り返る(2h)			
6回	聞く・書く①: ペア・グループトーク(絵本の感想) 会話・文章表現(基礎)、絵本の読み聞かせ、コミュニケーションゲーム					事前: 今まで読み聞かせてきた絵本の感想を書く(2h) 事後: 情報を整理し、学習した内容を振り返る(2h)			
7回	聞く・書く②: ペア・グループトーク(聞きながら書く) 絵本の読み聞かせ、コミュニケーションゲーム					事前: 動画を見て内容を記録する練習をする(2h) 事後: 情報を整理し、学習した内容を振り返る(2h)			
8回	聞く・書く③: ペア・グループトーク(子どもの行動を記録する) 絵本の読み聞かせ、コミュニケーションゲーム					事前: 動画を見て内容を記録する練習をする(2h) 事後: 情報を整理し、学習した内容を振り返る(2h)			
9回	聞く・書く④: ペア・グループトーク(子どもの発言を記録する) 絵本の読み聞かせ、コミュニケーションゲーム					事前: 動画を見て内容を記録する練習をする(2h) 事後: 情報を整理し、学習した内容を振り返る(2h)			
10回	聞く・話す・読む・書く①: ペア・グループ(対話型絵本の読み聞かせ) 絵本の読み聞かせ、コミュニケーションゲーム					事前: 絵本を選び、読み聞かせの練習をする(2h) 事後: 情報を整理し、学習した内容を振り返る(2h)			
11回	聞く・話す・読む・書く②: ペア・グループ(子ども対応) 絵本の読み聞かせ、コミュニケーションゲーム					事前: 子ども対応について、予備知識をもっておく(2h) 事後: 情報を整理し、学習した内容を振り返る(2h)			
12回	聞く・話す・読む・書く③: ペア・グループ(子ども対応) 絵本の読み聞かせ、コミュニケーションゲーム					事前: 子ども対応について、知識を深める(2h) 事後: 情報を整理し、学習した内容を振り返る(2h)			

13回	聞く・話す・読む・書く④:ペア・グループ(保護者対応) 絵本の読み聞かせ、コミュニケーションゲーム	事前:保護者対応について、予備知識をもっておく(2h) 事後:情報を整理し、学習した内容を振り返る(2h)																												
14回	定期試験・評価等のガイダンス 聞く・話す・読む・書く⑤:ペア・グループ(保護者対応) 絵本の読み聞かせ、コミュニケーションゲーム	事前:保護者対応について、知識を深める(2h) 事後:情報を整理し、学習した内容を振り返る(2h)																												
15回	定期試験・評価等のガイダンス 聞く・話す・読む・書く⑥:ペア・グループ(保育ドキュメンテーション) 絵本の読み聞かせ、コミュニケーションゲーム	事前:保育ドキュメンテーションについて、予備知識をもっておく(2h) 事後:情報を整理し、学習した内容を振り返る(2h)																												
16回	定期試験																													
テキスト	特に指定しない。																													
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	参考資料:講義やで配布する。 保育者として、知っておきたい情報:講義で紹介する。 スマホ・PC・タブレット等の使用:オンライン掲示板・ホワイトボード、グラフィックデザインツールなど																													
到達目標(学修成果)及び観点	<p>【到達目標(学修成果)及び観点】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標(学修成果)及び観点</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>技能・表現</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○	○	○			到達目標②		○	○			到達目標③			○	○					
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○	○	○																											
到達目標②		○	○																											
到達目標③			○	○																										
評価方法・基準	<p>【評価方法・基準】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標(学修成果)</th> <th>定期試験 (筆記試験・実技試験)</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物・レポート</th> <th>発表・実技</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>10%</td> <td></td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>20%</td> <td></td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>10%</td> <td></td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価: 取り入れている・取り入っていない</p>		評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()	到達目標①	10%		10%	10%			到達目標②	20%		10%	10%			到達目標③	10%		10%	10%		
評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①	10%		10%	10%																										
到達目標②	20%		10%	10%																										
到達目標③	10%		10%	10%																										
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:講義中・講義前後、講義の振り返り、教室で、または、Teams・メールで質問を受け付けます。 学習成果のフィードバック:提出物の返却を通して実施します。																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:教養科目/外国語、体育以外の科目																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	保育士として必要になる活動などを更に取り入れ、授業が単なる知識の伝達に留まらず、学生の将来的な学問的・職業的関心を喚起するように努める。																													
受講生へのメッセージ・その他	毎回の講義で、ペア・グループでの活動(対面、web上)を行います。それを通して、主体的に学び合ひましょう。																													
実務経験の有無	<input checked="" type="checkbox"/> あり ・ なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無																												
		<input checked="" type="checkbox"/> あり ・ なし																												

科目区分	教養科目	科目名	キャリアデザイン I	担当者	田中浩之・北畠香世子	開講時期	1年 (2年課程のみ) 通年	授業形態・ 単位数	講義 1単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CL30101	資格等取得との関連	保育士：選択必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	テーマ：自らの1年後、1年半後の目標を設定し、行動計画をたてる 到達目標(学修成果)①：自己分析により自己理解を深めることができる 到達目標(学修成果)②：職業観を育むことができる 到達目標(学修成果)③：社会人としてのマナーを習得することができる								
授業概要	この講義では、キャリアデザインを形成し、自らの1年後、1年半後の目標の設定を行い、行動計画を立てることを目的とする。 キャリアデザインの形成には、自己分析が重要であり、自己理解を進めることで明確な目標設定や進路選択ができる。他にも社会人としてのマナーや知識を習得することで社会へ踏み出す力をつける。グループワークなども取り入れながら、お互いの価値観の共有や客観的な視点で職業観やマナーを修得する。 ※なお、外部講師の都合等で授業の順番が入れ替わることがある。								
ディプロマポリシー (DP)と到達目標 (学修成果) との対応	①	保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	②	日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
	③	様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP達成のために特に重要な項目 ○=DP達成のために重要な項目 △=DP達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1回	四日市市の私立保育園について(外部講師による授業) Ex) 四日市私立保育園連盟等の四日市市内民間保育団体					事前：自己の課題、目標の確認をしておく(2h) 事後：リフレクションシートで確認(2h)			
2回	名古屋市の保育園の状況について(外部講師による授業) Ex) 株式会社設立の保育園、NPO法人等					事前：自己の課題、目標の確認をしておく(2h) 事後：リフレクションシートで確認(2h)			
3回	障がい児施設について(外部講師による授業) Ex) 県内の障がい児施設職員等					事前：自己の課題、目標の確認をしておく(2h) 事後：リフレクションシートで確認(2h)			
4回	公立保育園について(外部講師による授業) Ex) 四日市・鈴鹿市等					事前：自己の課題、目標の確認をしておく(2h) 事後：リフレクションシートで確認(2h)			
5回	ボランティアとキャリアデザイン(外部講師による授業) Ex) NPO法人等					事前：自己の課題、目標の確認をしておく(2h) 事後：リフレクションシートで確認(2h)			
6回	キャリアデザイン実践◎(実践実習) ※学外イベント等へのボランティア活動参加					事前：自己の課題、目標の確認をしておく(2h) 事後：リフレクションシートで確認(2h)			
7回	社会とのつながり(外部講師による授業) Ex) 市町村関連団体、市民団体等					事前：自己の課題、目標の確認をしておく(2h) 事後：リフレクションシートで確認(2h)			
8回	学童保育について(外部講師による授業) Ex) 四日市市役所 こども未来課等					事前：自己の課題、目標の確認をしておく(2h) 事後：リフレクションシートで確認(2h)			
9回	障がい児施設について(外部講師による授業) Ex) 県内の障がい児施設等					事前：自己の課題、目標の確認をしておく(2h) 事後：リフレクションシートで確認(2h)			
10回	病児保育について(外部講師による授業) Ex) 看護師、病棟保育士等					事前：自己の課題、目標の確認をしておく(2h) 事後：リフレクションシートで確認(2h)			
11回	本学における就職活動の基本について					事前：自己の課題、目標の確認をしておく(2h) 事後：リフレクションシートで確認(2h)			
12回	キャリアデザイン実践②(実践実習) ※保育フェアに参加					事前：自己の課題、目標の確認をしておく(2h) 事後：リフレクションシートで確認(2h)			
13回						事前： 事後：			

14回		事前: 事後:																												
15回		事前: 事後:																												
16回	定期試験																													
テキスト	特に指定しない。資料を授業内で適宜配布する																													
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 随時紹介する																													
到達目標(学修成果)及び観点	<p>【到達目標(学修成果)及び観点】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標(学修成果)及び観点</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>技能・表現</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○	○				到達目標②		○	○			到達目標③				○					
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○	○																												
到達目標②		○	○																											
到達目標③				○																										
評価方法・基準	<p>【評価方法・基準】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標(学修成果)</th> <th>期末試験 (筆記試験・実技試験)</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物 レポート</th> <th>発表・実技</th> <th>取り組み 姿勢</th> <th>その他 ()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>10%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>15%</td> <td></td> <td>15%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>15%</td> <td></td> <td>15%</td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価: 取り入れている・<input type="checkbox"/>取り入っていない</p>		評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()	到達目標①	10%		10%				到達目標②	15%		15%				到達目標③	15%		15%		20%	
評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()																								
到達目標①	10%		10%																											
到達目標②	15%		15%																											
到達目標③	15%		15%		20%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談:授業前後、対応できる時は随時</p> <p>学習成果のフィードバック:提出物の返却を通して実施する</p>																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:教養科目/外国語、体育以外の科目																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	昨年度の評価を受け、引き続き学生にとって職業理解を深められるような外部講師を招聘し、貴重な学びの機会としていきたいと考えています。ボランティア活動と就職フェアの参加は社会状況を知る上で大事な観点です。必ず参加をしてください。なお、イベントは土日になりますので、予定を事前にチェックし日程を確保するようにしてください。																													
受講生へのメッセージ・その他	「社会で必要な力」を学び、二年後のキャリアだけでなく、生涯にわたるキャリアデザインをしていきます。本授業は 8 回開催であるため、欠席に関してはシビアな状況が求められます。積極的な授業参加を求めます。																													
実務経験の有無	<input checked="" type="checkbox"/> あり ・ なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無 <input checked="" type="checkbox"/> あり ・ なし																												

科目区分	教養科目	科目名	キャリアデザインⅡ	担当者	仲森みどり・小椋佐奈衣 ・河村浩世	開講時期	2年 通年	授業形態・ 単位数	講義 1単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CL30201	資格等取得との関連	保育士：選択必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	テーマ：社会へ踏み出す力を養う。 到達目標(学修成果)①：就職活動において行動する力をつける。 到達目標(学修成果)②：自己アピールができる。 到達目標(学修成果)③：社会のルールを理解できる。								
授業概要	この講義では、キャリアデザインⅠで立てた目標の再確認を行い、行動計画を実行していく。自己分析をもとに履歴書や面接での自己 アピールなど就職活動にあたって基本的なことができるようになる。また、施設長や現場で活躍する社会人の経験談から職業理解を 深め、職業観を育み職業選択に活かせるような機会とする。他にも社会人としてのルールや知識を習得することで社会へ踏み出す力 をつける。グループワークなどを通して、仲間と共に学ぶ協働性を身につけていく。 ※なお、外部講師への依頼状況により授業の順番が入れ替わったりすることがある。								
ディプロマポ リシ (DP)と到達目 標(学修成果) との対応	①	保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	②	日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他 者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
	③	様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢 献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1回	本学の就職状況について、保育職の就職状況や求人動向について					事前：自己の課題、目標の確認をしておく(2h) 事後：リフレクションシートで確認(2h)			
2回	児童養護施設の状況について(外部講師による授業) Ex) 三重県児童養護施設協議会					事前：自己の課題、目標の確認をしておく(2h) 事後：リフレクションシートで確認(2h)			
3回	就活のしかた、履歴書作成、面接試験などの基本的な考え方					事前：自己の課題、目標の確認をしておく(2h) 事後：リフレクションシートで確認(2h)			
4回	名古屋の保育事情について(外部講師による授業) Ex) 保育業務運営の株式会社、社会福祉法人等					事前：自己の課題、目標の確認をしておく(2h) 事後：リフレクションシートで確認(2h)			
5回	障がい福祉について(外部講師による授業) Ex) 全国介護事業者連盟					事前：自己の課題、目標の確認をしておく(2h) 事後：リフレクションシートで確認(2h)			
6回	子育てを巡る「社会で支える仕組み」について(外部講師による授業) Ex) 市町村関連団体、市民団体等					事前：自己の課題、目標の確認をしておく(2h) 事後：リフレクションシートで確認(2h)			
7回	公務員の保育士・幼稚園教諭について(外部講師による授業) Ex) 四日市市等					事前：自己の課題、目標の確認をしておく(2h) 事後：リフレクションシートで確認(2h)			
8回	公務員の保育士・幼稚園教諭について(外部講師による授業) Ex) 鈴鹿市等					事前：自己の課題、目標の確認をしておく(2h) 事後：リフレクションシートで確認(2h)			
9回	保育と福祉のつながりについて(外部講師による授業) Ex) 社会福祉協議会、NPO 法人等					事前：自己の課題、目標の確認をしておく(2h) 事後：リフレクションシートで確認(2h)			
10回	キャリアデザイン実践(就職相談会への参加)					事前：自己の課題、目標の確認をしておく(2h) 事後：リフレクションシートで確認(2h)			
11回						事前： 事後：			
12回						事前： 事後：			
13回						事前： 事後：			

14回		事前: 事後:																												
15回		事前: 事後:																												
16回	定期試験																													
テキスト	特に指定しない。資料を授業内で適宜配布する。																													
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 随時紹介する。																													
到達目標(学修成果)及び観点	<p>【到達目標(学修成果)及び観点】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標(学修成果)及び観点</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>技能・表現</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○	○				到達目標②			○			到達目標③				○					
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○	○																												
到達目標②			○																											
到達目標③				○																										
評価方法・基準	<p>【評価方法・基準】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標(学修成果)</th> <th>期末試験 (筆記試験・実技試験)</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物 レポート</th> <th>発表・実技</th> <th>取り組み 姿勢</th> <th>その他 ()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>10%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>10%</td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>20%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価: 取り入れている・<input type="checkbox"/>取り入っていない</p>		評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()	到達目標①	10%		10%				到達目標②	10%		20%				到達目標③	20%		10%		20%	
評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()																								
到達目標①	10%		10%																											
到達目標②	10%		20%																											
到達目標③	20%		10%		20%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談: 授業前後、対応できる時は随時</p> <p>学習成果のフィードバック: 提出物の返却を通して実施する</p>																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士: 教養科目/外国語、体育以外の科目																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	就職に関しては、当事者である学生たちが、納得した形で自己実現することに意味があると考えます。学生と教員が二人三脚で将来の展望が持てるような授業運営を心がけます。外部講師を効果的に呼び出して、学生が価値観を広げられるように配慮していきます。																													
受講生へのメッセージ・その他	職業理解を深め、職業観を育みます。実務家の方からの体験発表も聞く機会をなるべく多く設定します。本授業は8回開催であるため、欠席に関してはシビアな状況が求められます。積極的な授業参加を求めます。																													
実務経験の有無	<input checked="" type="checkbox"/> あり ・ なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無 <input checked="" type="checkbox"/> あり ・ なし																												

科目区分	教養科目	科目名	保健体育(実技)	担当者	加藤大門	開講時期	1年 前期	授業形態・ 単位数	演習 1単位
卒業要件	選択必修	ナンバリング	CL40101	資格等 取得と の関連	幼稚園:必修・保育士:必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	<p>テーマ: 運動の必要性を理解し、運動指導の在り方を考える</p> <p>到達目標(学修成果)①: 運動の必要性を理解し、健康の保持増進に努めることができるようになる。</p> <p>到達目標(学修成果)②: 対象に合わせた運動指導の在り方について考え、わかりやすく伝えることができる。</p> <p>到達目標(学修成果)③: 乳幼児期の運動あそびの意義を理解し、実践・指導に携わることができるようになる。</p>								
授業概要	<p>運動への苦手意識を無くすために、本授業を通して体を動かすことが楽しいことだと知ってもらう。また、運動の必要性を理解し、専門的知識と技術を習得し、自ら動ける体を作る。対象に合わせたプログラムの立案をし、プレゼンテーションができるようにする。</p>								
ディプロマ (DP)と到達目 標(学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画				時間外学習				
1回	オリエンテーション 授業の進め方と自己紹介				事前: シラバスを確認しておく。(0.5h) 事後: シラバスの再確認と運動あそびについて調べる。(0.5h)				
2回	柔軟性とバランス感覚を学ぶ ストレッチや体幹を意識した運動				事前: ストレッチについて調べる。(0.5h) 事後: 体幹トレーニングについて調べる。(0.5h)				
3回	支える力と引きつける力を学ぶ 上半身、腕、背中を使った運動				事前: 幼稚園教育要領の第2章「健康」を熟読する。(0.5h) 事後: 自重トレーニングについて調べる。(0.5h)				
4回	走ると跳ぶを学ぶ 下半身を使った運動				事前: 幼稚園教育要領の第1章「総則」に目を通しておく。(0.5h) 事後: ジャンプトレーニングについて調べる。(0.5h)				
5回	跳躍力と支持力、懸垂力を学ぶ 動きの基本を意識した運動				事前: 保育所保育指針の第2章1、2、3の基本的事項を熟読する。(0.5h) 事後: カリステニクスについて調べる。(0.5h)				
6回	全身運動とマット運動 マットを使った運動				事前: 保育所保育指針の第2章の各ねらいや内容に目を通す。(0.5h) 事後: 授業内容を参考に復習する。(0.5h)				
7回	なわ跳び運動と跳び箱運動 なわ跳びや跳び箱を使った運動				事前: こども園教育・保育要領の基本的事項を熟読する。(0.5h) 事後: 授業内容を参考に復習する。(0.5h)				
8回	鉄棒運動とボール運動 鉄棒やボールを使った運動				事前: こども園教育・保育要領の第2章の各ねらいや内容に目を通す。(0.5h) 事後: 授業内容を参考に復習する。(0.5h)				
9回	フープ運動と平均台運動 フープや平均台を使った運動				事前: 運動あそびについて考える。(0.5h) 事後: 授業内容を参考に復習する。(0.5h)				
10回	リズム運動と集団遊び 集団でできる運動				事前: プログラムについて考える。(0.5h) 事後: 授業内容を参考に復習する。(0.5h)				
11回	オススメスポーツ① ガッツ				事前: ガッツのルールを確認しておく。(0.5h) 事後: ディスクスポーツについて調べる。(0.5h)				
12回	プログラムの実践と相互評価 運動あそびをグループ毎で実施して評価する				事前: プログラムの最終確認をしておく。(0.5h) 事後: 相互評価をまとめる。(0.5h)				
13回	プログラムの振り返りとフィードバック グループ毎で良かった点や改善点を話し合う				事前: 他の人のプログラムの改善点をまとめておく。(0.5h) 事後: プログラムの改善をまとめる。(0.5h)				

14回	性教育 【外部講師】	事前:事前資料を確認しておく。(0.5h) 事後:授業内容を参考に復習する。(0.5h)																												
15回	振り返りとまとめ 優秀案の発表とまとめ	事前:授業を通して感じたことをまとめる。(0.5h) 事後:優秀案を参考にプログラムの改善と今後の展望を考える。(0.5h)																												
16回	定期試験(筆記試験)																													
テキスト	特に指定しない																													
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 発達に合わせた0・1・2歳児の運動あそび(ナツメ社) 発達に合わせた3・4・5歳児の運動あそび(ナツメ社) 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領																													
到達目標(学修成果)及び観点	<p>【到達目標(学修成果)及び観点】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標(学修成果)及び観点</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>技能・表現</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○	○	○	○		到達目標②	○	○	○	○		到達目標③	○	○	○	○					
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○	○	○	○																										
到達目標②	○	○	○	○																										
到達目標③	○	○	○	○																										
評価方法・基準	<p>【評価方法・基準】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標(学修成果)</th> <th>期末試験(筆記試験・実技試験)</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物・レポート</th> <th>発表・実技</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>30%</td> <td></td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価: <input checked="" type="checkbox"/> 取り入れている <input type="checkbox"/> 取り入っていない</p>		評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験(筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()	到達目標①					20%		到達目標②	30%			20%			到達目標③	10%				20%	
評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験(筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①					20%																									
到達目標②	30%			20%																										
到達目標③	10%				20%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談: 研究室、Teams、メールなどで受け付けます。</p> <p>学習成果のフィードバック: 提出物は後日授業内にて返却します。</p>																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園:体育 保育士:教養科目/体育																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	新規担当のため評価なし みなさんが運動を楽しいものだと思えるよう工夫をしていきたいので、随時忌憚のないご意見をお聞かせください。																													
受講生へのメッセージ・その他	「保健体育(講義)」や「幼児の健康」と関連しています。動きやすい服装、シューズが必要です。積極的に発言し、コミュニケーション能力を磨いてください。毎回授業に参加できるように、健康管理を怠らないようにしてください。																													
実務経験の有無	あり <input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/>	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無 <input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし																												

科目区分	教養科目	科目名	保健体育(講義)	担当者	加藤大門	開講時期	1年後期	授業形態・単位数	講義1単位
卒業要件	選択必修	ナンバリング	CL40102	資格等取得との関連	幼稚園:必修・保育士:必修				
テーマ・授業の到達目標(学修成果)	<p>テーマ: 運動あそびの必要性を理解し、乳幼児への運動指導の在り方を考える</p> <p>到達目標(学修成果)①: 発達に合わせた運動あそびの内容やねらいを理解し、説明できる。</p> <p>到達目標(学修成果)②: 言葉かけや苦手な子への配慮について考え、わかりやすく伝えることができる。</p> <p>到達目標(学修成果)③: 対象者に合わせた運動あそびを立案し実践することができる。</p>								
授業概要	<p>外遊びの機会が減っている現代、運動不足や運動能力の低下が指摘され続けている。しかし、保育の現場で運動あそびを取り入れることで、幼児期の子どもが楽しみながら「できた!」という達成感と満足感を味わえるようにし、あそびを通して心と体を育てることができる。そこで本講義では、対象に合わせた適切な動きのポイントやねらい、言葉かけ、配慮など、知識と技能を習得し、プログラムの立案・プレゼンテーションができるようにする。</p>								
ディプロマポリシー(DP)と到達目標(学修成果)との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目									
	授業計画				時間外学習				
1回	オリエンテーション 授業の進め方と自己紹介				事前: シラバスを確認しておく。(0.5h) 事後: シラバスの再確認と伝承あそびについて調べる。(0.5h)				
2回	体の使い方を学ぶ 自分の体を動かしてみる				事前: 体を使った運動を調べる。(0.5h) 事後: 授業内容を参考に復習する。(0.5h)				
3回	発育発達や育みたい資質・能力について 一生のうちで心身ともに最も発達する時期について学ぶ				事前: 幼稚園教育要領の第2章「健康」を熟読する。(0.5h) 事後: 授業内容を参考に復習する。(0.5h)				
4回	道具の使い方を学ぶ 安全管理も兼ねて道具の使い方を学ぶ				事前: 幼稚園教育要領の第1章「第2」に目を通しておく。(0.5h) 事後: 授業内容を参考に復習する。(0.5h)				
5回	0・1歳児の運動あそび ふれあいを重視した遊びを学ぶ				事前: 保育所保育指針の第2章の1に目を通しておく。(0.5h) 事後: 授業内容を参考に復習する。(0.5h)				
6回	運動あそび体験① 運動あそびを実践してみる				事前: 保育所保育指針の第2章の2に目を通しておく。(0.5h) 事後: 授業内容を参考に復習する。(0.5h)				
7回	2歳児の運動あそび 「道具」を操作する力を学ぶ				事前: 保育所保育指針の第2章の3に目を通しておく。(0.5h) 事後: 授業内容を参考に復習する。(0.5h)				
8回	運動あそび体験② 道具を使った運動あそびを実践してみる				事前: こども園教育・保育要領の第2章の第1に目を通しておく。(0.5h) 事後: 授業内容を参考に復習する。(0.5h)				
9回	3歳児以上の運動あそび 全身を使っているような動きを集団で行う方法を学ぶ				事前: こども園教育・保育要領の第2章の第2に目を通しておく。(0.5h) 事後: 授業内容を参考に復習する。(0.5h)				
10回	運動あそび体験③ 集団のできる運動あそびを実践してみる				事前: こども園教育・保育要領の第2章の第3に目を通しておく。(0.5h) 事後: 授業内容を参考に復習する。(0.5h)				
11回	プログラムの実践と相互評価① 運動あそびをグループ毎で実施して評価する				事前: プログラムの確認をしておく。(0.5h) 事後: プログラムの見直しをする。(0.5h)				
12回	プログラムの実践と相互評価② 改善又は別の運動あそびを実施して評価する				事前: プログラムの確認をしておく。(0.5h) 事後: 相互評価をまとめる。(0.5h)				
13回	プログラムの振り返りとフィードバック グループ毎で良かった点や改善点を話し合う				事前: 他の人のプログラムの改善点をまとめておく。(0.5h) 事後: プログラムの改善をまとめる。(0.5h)				

14回	オスメスポーツ ポッチャ	事前:ポッチャのルールを確認しておく。(0.5h) 事後:授業内容を参考に復習する。(0.5h)																												
15回	振り返りとまとめ 優秀案の発表とまとめ	事前:授業を通して感じたことをまとめる。(0.5h) 事後:優秀案を参考にプログラムの改善と今後の展望を考える。(0.5h)																												
16回	定期試験(筆記試験)																													
テキスト	特に指定しない																													
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 発達に合わせた0・1・2歳児の運動あそび(ナツメ社) 発達に合わせた3・4・5歳児の運動あそび(ナツメ社) 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領																													
到達目標(学修成果)及び観点	<p>【到達目標(学修成果)及び観点】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標(学修成果)及び観点</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>技能・表現</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○	○	○	○		到達目標②	○	○	○	○		到達目標③	○	○	○	○					
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○	○	○	○																										
到達目標②	○	○	○	○																										
到達目標③	○	○	○	○																										
評価方法・基準	<p>【評価方法・基準】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標(学修成果)</th> <th>期末試験(筆記試験・実技試験)</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物・レポート</th> <th>発表・実技</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>20%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>20%</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>20%</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価: <input checked="" type="checkbox"/> 取り入れている <input type="checkbox"/> 取り入っていない</p>		評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験(筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()	到達目標①	20%				10%		到達目標②	20%			10%			到達目標③	20%			10%	10%	
評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験(筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①	20%				10%																									
到達目標②	20%			10%																										
到達目標③	20%			10%	10%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談: 研究室、Teams、メールなどで受け付けます。</p> <p>学習成果のフィードバック: 提出物は後日授業内にて返却します。</p>																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	<p>幼稚園:体育 保育士:教養科目/体育</p>																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	<p>新規担当のため評価なし 授業に飽きないよう工夫をしていきたいので、随時忌憚のないご意見をお聞かせください。</p>																													
受講生へのメッセージ・その他	<p>「保健体育(実技)」や「幼児の健康」と関連しています。運動あそびの実践があるので、動きやすい服装、シューズが必要です。積極的に発言しコミュニケーション能力を磨いてください。毎回授業に参加できるよう健康管理を怠らないようにしてください。</p>																													
実務経験の有無	あり <input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/>	<p>双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし</p>																												

科目区分	教養科目	科目名	心理学	担当者	小椋佐奈衣	開講時期	1年 後期	授業形態・ 単位数	講義 2単位
卒業要件	選択必修	ナンバリング	CL40103	資格等取得との関連	保育士:選択必修・社会福祉主事任用資格:選択必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	<p>テーマ:心理学の知見に基づき、保育実践で生かす理論的な知識と技術を身に付ける。</p> <p>到達目標(学修成果)①:心理学の基本的な知識を習得し、日常的な事象に対する心理学的な見方を身につける。</p> <p>到達目標(学修成果)②:発達に関する諸理論と諸学説について理解し、説明できる。</p> <p>到達目標(学修成果)③:乳幼児期からの身体的・心理的特性の変化と過程を説明できる。</p>								
授業概要	<p>公認心理師としてスクールカウンセラーや児童福祉の分野で心理療法の他、乳幼児保育の経験の持つ教員が担当する。カウンセラーとセラピスト、保育の実践者としての経験を活かし、理論と実践を織成す講義を行う。心理学は人の心と行動を研究する学問である。本授業では、発達心理学を軸として、その諸理論と諸学説に基づき保育実践における子どもの心身の発達過程と特徴について概説する。また、子どもの環境、身体・運動、情動や認知、社会性などの要因とその影響を学び、科学的な発達観・子ども観・保育観を育成する。それらの知見から保育の事例を読み解き、ディスカッションやディベートを通して思考を深め、保育実践の構想力を獲得する。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と到達目標 (学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目									
授業計画					時間外学習				
1回	オリエンテーション:心理学とは何か				事前:シラバスを読み、必要テキストの準備をする。(2h) 事後:心理学の概要をまとめる。(2h)				
2回	子どもの発達の理解とその意義				事前:テキスト【第1講】を読む。(2h) 事後:子どもの発達の概要をまとめる。(2h)				
3回	子どもの発達と環境				事前:テキスト【第2講】を読む。(2h) 事後:授業内容をまとめる。(2h)				
4回	発達観と子ども観と保育観				事前:テキスト【第3講】を読む。(2h) 事後:授業内容をまとめる。(2h)				
5回	保育実践の評価 小テスト①				事前:テキスト【第4講】を読む。小テストの勉強をする【範囲:講義1-4】(2h) 事後:小テストの振り返りをする。(2h)				
6回	社会情動的発達:自己と感情				事前:テキスト【第5講】を読む。(2h) 事後:授業内容をまとめる。(2h)				
7回	社会情動的発達:他者理解				事前:テキスト【第6講】を読む。(2h) 事後:授業内容をまとめる。(2h)				
8回	社会情動的発達:他者とのかわり 小テスト②				事前:テキスト【第7講】を読む。小テストの勉強をする【範囲:講義5-7】(2h) 事後:小テストの振り返りをする。授業内容をまとめる。(2h)				
9回	身体的機能と運動機能の発達				事前:テキスト【第8講】を読む。(2h) 事後:授業内容をまとめる。(2h)				
10回	認知の発達:「認知の基礎」と「数と形」				事前:テキスト【第9・10講】を読む。(2h) 事後:授業内容をまとめる。(2h)				
11回	認知の発達:「言葉と文字」 小テスト③				事前:事前:テキスト【第11講】を読む。小テストの勉強をする【範囲:講義9-11】(2h) 事後:小テストの振り返りをする。授業内容をまとめる。(2h)				
12回	乳幼児期の学びにかかわる理論				事前:テキスト【第12講】を読む。(2h) 事後:授業内容をまとめる。(2h)				

13回	乳幼児期の学びの過程と特性:認知的学び	事前:テキスト【第13講】を読む。(2h) 事後:授業内容をまとめる。																												
14回	乳幼児期の学びの過程と特性:社会情動的学び 小テスト④	事前:テキスト【第14講】を読む。小テストの勉強をする【範囲:講義12-14】(2h) 事後:小テストの振り返りをする。授業内容をまとめる。(2h)																												
15回	乳幼児期の遊びを支える保育	事前:テキスト【第15講】を読む。(2h) 事後:試験勉強をする。全授業内容を振り返る。(2h)																												
16回	定期試験																													
テキスト	杉村伸一郎 他 編 『保育の心理学』 新・基本保育シリーズ 8 中央法規 2024年																													
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 長谷川比呂美 他 著 『保育の心理学』 ななみ書房 2021年 開一夫 他 編 『ベーシック発達心理学』 東京大学出版会 2018年 無藤隆 他 編 『よくわかる発達心理学』 ミネルヴァ書房 2009年																													
到達目標(学修成果)及び観点	<p>【到達目標(学修成果)及び観点】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標(学修成果)及び観点</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>技能・表現</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○	○				到達目標②	○	○				到達目標③	○	○	○						
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○	○																												
到達目標②	○	○																												
到達目標③	○	○	○																											
評価方法・基準	<p>【評価方法・基準】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標(学修成果)</th> <th>期末試験 (筆記試験・実技試験)</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物・レポート</th> <th>発表・実技</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>20%</td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>20%</td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>20%</td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価: 取り入れている・<input type="checkbox"/>取り入っていない</p>		評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()	到達目標①	20%	10%					到達目標②	20%	10%					到達目標③	20%	10%	10%			
評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①	20%	10%																												
到達目標②	20%	10%																												
到達目標③	20%	10%	10%																											
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談: オフィスアワー、あるいは教員が研究室に在籍時、対応できる場合は随時行う。</p> <p>学習成果のフィードバック: 授業の中で振り返りを行い教示し、リアクションペーパーの提出と小テストや課題・提出物・レポートに関して回答と意見や感想の共有を行う。</p>																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士: 教養科目/外国語、体育以外の科目																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	<p>新規担当のため評価なし</p> <p>授業方針として、双方向授業を取り入れ、意見や発表を行う。</p> <p>授業進行方法等について、アクティブラーニングを導入して、グループワーク・ペアワーク・ディスカッション等を実施する。</p>																													
受講生へのメッセージ・その他	<p>人間の行動と心を研究する心理学を興味深く学ぶために、日常的な経験と関連付けて受講者自身の学びと育ちを振り返り学修に取り組ましよう。</p> <p>授業では、デジタル化等の活用としてスマートフォンやタブレットも使用します。</p>																													
実務経験の有無	あり	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無	なし																											

科目区分	教養科目	科目名	ユマニテク教育学	担当者	平松喜代江・徳増全矢 加藤大門・于丹	開講時期	1年 前期	授業形態・ 単位数	講義 2単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CL60101	資格等取得との関連	保育士：選択必修・社会福祉主事任用資格：選択必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	<p>テーマ：「豊かな人間性と確かな技術」という教育理念を体現する保育者としての精神的基盤を形成する。</p> <p>到達目標(学修成果)①：集団の一員として自覚を持った行動をとることができる。</p> <p>到達目標(学修成果)②：グループメンバーの意見を尊重しつつ積極的に意見を述べるなど、円滑なチームワークを構成できる。</p> <p>到達目標(学修成果)③：本授業で経験したことや学習したことについて簡潔に記録し、わかりやすく論理的に他者に説明できる。</p>								
授業概要	<p>ユマニテク教育学では、「人間を大切に作るヒューマニスト」を育成するべく、自己の価値観を言語化し、自分らしい人生の羅針盤を獲得する。そのためには、「思考力、表現力、判断力」の3つの力をつけるために学ぶ。授業は、運針にはじまり心を落ち着かせ集中力を高める。次にピアサポートを実施し仲間同士の支え合いの体験を重ねる。そして毎回のテーマを学修する。このように3つの柱で構成していく。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と到達目標 (学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
	◎	③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目									
授業計画						時間外学習			
1回	オリエンテーション ゲスト講師：学校法人大橋学園の歩み(沿革)				事前：シラバスを熟読する(2h) 事後：配布レジメを参考にまとめる。(2h)				
2回	ゲスト講師：講演 「人を大切にする、自分を大切にする」(グループワーク含む)				事前：入学前教育の課題本を読み返す。(2h) 事後：配布レジメを参考に復習する。(2h)				
3回	ゲスト講師：運針の方法について 入学前教育「できたことノート」(グループワーク含む)				事前：学習に使用する資料を熟読する。(2h) 事後：配布レジメを参考に復習する。(2h)				
4回	学外体験学習におけた準備(グループワーク含む)				事前：学習に使用する資料を熟読する。(2h) 事後：配布レジメを参考に復習する。(2h)				
5回	学外学習①：泊山市民公園(グループワーク含む) 体験「自然と向き合って遊ぶ」サポート教員あり				事前：学習に使用する資料を熟読する。(2h) 事後：配布レジメを参考に復習する。(2h)				
6回	学外学習②：泊山市民公園(グループワーク含む) 体験「自然遊びを通して仲間づくり」サポート教員あり				事前：学習に使用する資料を熟読する。(2h) 事後：配布レジメを参考に復習する。(2h)				
7回	学外体験学習の振り返り(グループワーク含む) PROGについて				事前：学習に使用する資料を熟読する。(2h) 事後：配布レジメを参考に復習する。(2h)				
8回	PROG テスト サポート職員あり				事前：学習に使用する資料を熟読する。(2h) 事後：配布レジメを参考に復習する。(2h)				
9回	ゲスト講師 ピアサポート①(グループワーク含む) 人間関係を円滑にするためのアクティビティ				事前：学習に使用する資料を熟読する。(2h) 事後：配布レジメを参考に復習する。(2h)				
10回	ゲスト講師 ピアサポート②(グループワーク含む) 相互理解を深めるためのアクティビティ				事前：学習に使用する資料を熟読する。(2h) 事後：配布レジメを参考に復習する。(2h)				
11回	スマホリテラシー①(グループワーク含む) スマホ依存症と学力の関係				事前：学習に使用する資料を熟読する。(2h) 事後：配布レジメを参考に復習する。(2h)				
12回	スマホリテラシー②(グループワーク含む) スマホが幼児の脳に与える影響				事前：学習に使用する資料を熟読する。(2h) 事後：配布レジメを参考に復習する。(2h)				
13回	スマホリテラシー③(グループワーク含む) デジタルデトックスと健康的なライフスタイル				事前：学習に使用する資料を熟読する。(2h) 事後：配布レジメを参考に復習する。(2h)				

14回	ゲスト講師 サポート職員あり PROG テスト解説	事前:学習に使用する資料を熟読する。(2h) 事後:配布レジュメを参考に復習する。(2h)																												
15回	振り返り:短大生活において自己を磨く心構えと目標を言語化する チームづくり(グループワーク含む)	事前:学習に使用する資料を熟読する。(2h) 事後:配布レジュメを参考に復習する。(2h)																												
16回	定期試験																													
テキスト	特に指定しない																													
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 授業で紹介する																													
到達目標(学修成果)及び観点	<p>【到達目標(学修成果)及び観点】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標(学修成果)及び観点</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>技能・表現</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○	○	○	○		到達目標②	○	○	○	○		到達目標③	○	○	○	○					
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○	○	○	○																										
到達目標②	○	○	○	○																										
到達目標③	○	○	○	○																										
評価方法・基準	<p>【評価方法・基準】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標(学修成果)</th> <th>期末試験 (筆記試験・実技試験)</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物 レポート</th> <th>発表・実技</th> <th>取り組み 姿勢</th> <th>その他 ()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>15%</td> <td></td> <td>5%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>15%</td> <td></td> <td>5%</td> <td>5%</td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>15%</td> <td></td> <td>5%</td> <td>5%</td> <td>10%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価: 取り入れている・<u>取り入っていない</u></p>		評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()	到達目標①	15%		5%		10%		到達目標②	15%		5%	5%	10%		到達目標③	15%		5%	5%	10%	
評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()																								
到達目標①	15%		5%		10%																									
到達目標②	15%		5%	5%	10%																									
到達目標③	15%		5%	5%	10%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談:希望する場合はリフレクションシートへ書き込むか、授業終了時に申し出てください。 学習成果のフィードバック:リフレクション集を作成し、適宜フィードバックします。</p>																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:教養科目/外国語、体育以外の科目																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	<p>本科目は、一般教養科目の建学の精神の位置付けとして設定しており、様々な観点から学生が教育理念を理解し、自らの保育観として形成していくことが重要と考えています。専門的な関心や興味もてるようになったという項目に対しての肯定回答が82.9%と低くなっていることから、今後の発展的な学習の方法を提示するなど、学生の興味・関心や学修を深める工夫をしてきたいと思います。</p>																													
受講生へのメッセージ・その他	<p>この授業では、集団の中で保育職に必要な力を育てていきます。ペアワークやグループワークを多く取り入れ、コミュニケーションに関する技能を少しずつ積み重ねていきます。また、授業のはじめには運針の時間を設けています。針と糸を扱う細やかな作業には、呼吸を整え、心の雑念を静かに落ち着かせる効果があります。心が穏やかになることで、その後の講義や対話にも集中しやすくなります。さらに、学外での体験学習も予定しています。自然の中で心を開放し、仲間と体験を重ねることで、より深い学びにつながる時間にしていきたいです。</p>																													
実務経験の有無	あり・ <u>なし</u>	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無																												
		<u>あり</u> ・なし																												

科目区分	専門教育 科目	科 目 名	教育原理	担当者	徳増全矢	開講時期	1(2年課 程のみ) 前期	授業形態・ 単位数	講義 2単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS10101	資格等取得との関連	幼稚園:必修・保育士:必修・社会福祉主事任用資格:選択必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	<p>テーマ: 教育学の基本的概念、教育の歴史および代表的な教育思想について理解する。</p> <p>到達目標(学修成果)①: 教育の基本的概念を用い、教育を成り立たせるさまざまな要因とそれらの相互関係を理解し、説明できる。</p> <p>到達目標(学修成果)②: 教育の歴史に関する基礎的な知識を踏まえ、教育思想や教育活動の歴史の変遷について理解し、「教育」そのものについて説明することができる。</p> <p>到達目標(学修成果)③: 教育にかかわる現代的な課題について理解し、それらの抱える問題点について考察できる。</p>								
授業概要	<p>本科目は、小学校での実務経験を有する教員(徳増)により、教育現場の実態をふまえながら理解を深める。</p> <p>「教育とは何か」という問いについて、西洋と日本の教育の歴史や思想を学ぶことによって、自らの考えを醸成する。教育課程・教育方法や教育制度などについて学び、教育のしくみに対する理解を深めるとともに、現代の教育が抱える課題についても考える。適宜、ディスカッションやグループワークを取り入れ、学生同士で共有できるように工夫をする。</p>								
ディプロマポリシー(DP)と到達目標(学修成果)との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
		② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1回	オリエンテーション - 学校の役割を考える「世界果ての通学路」から					事前:シラバスを読み、学習内容の概要を知る。(2h) 事後:学習した内容を振り返り、まとめる。(2h)			
2回	教育とは何か					事前:教科書1章を読む。(2h) 事後:学習内容を復習し、まとめる。(2h)			
3回	教育と保育の意味と可能性 ※入学前教育で学んだ保育内容「5領域」などに関して再確認を行う。					事前:教科書2章を読む。(2h) 事後:学習内容を復習し、まとめる。(2h)			
4回	西洋の教育の歴史(1) ギリシャ、古代ローマ、中世ヨーロッパの教育思想					事前:教科書3章を読む。(2h) 事後:学習内容を復習し、まとめる。(2h)			
5回	西洋の教育の歴史(2) 西洋における近代教育のはじまり 西洋の学校教育のはじまり					事前:教科書4章を読む。(2h) 事後:学習内容を復習し、まとめる。(2h)			
6回	西洋の教育の歴史(3) 新教育運動の起こりとその背景					事前:教科書5章を読む。(2h) 事後:学習内容を復習し、まとめる。(2h)			
7回	西洋の教育の歴史(4) 第二次世界大戦後の教育改革 オルタナティブ教育					事前:教科書6章を読む。(2h) 事後:学習内容を復習し、まとめる。(2h)			
8回	日本の教育の歴史(1) 古代と中世の時代的背景					事前:教科書7章を読む。(2h) 事後:学習内容を復習し、まとめる。(2h)			
9回	日本の教育の歴史(2) 近世の学校と教育 武士の教育と文化 庶民の教育と文化					事前:教科書8章を読む。(2h) 事後:学習内容を復習し、まとめる。(2h)			
10回	日本の教育の歴史(3) 明治期 大正期 戦時体制下の教育					事前:教科書9章を読む。(2h) 事後:学習内容を復習し、まとめる。(2h)			
11回	日本の教育の歴史(4) 現代(昭和 平成 令和)					事前:教科書10章、11章を読む。(2h) 事後:学習内容を復習し、まとめる。(2h)			
12回	教育課程とは 教育課程 学習指導要領の変遷 新しい教育課程					事前:教科書12章を読む。(2h) 事後:学習内容を復習し、まとめる。(2h)			
13回	「生徒指導」「生活指導」の教育実践について学ぶ 戦前・戦後の「生活指導」「生活指導提要」					事前:教科書13章を読む。(2h) 事後:学習内容を復習し、まとめる。(2h)			

14回	教育制度と学校・学級経営 教育法令等から見る日本の教育制度	事前:教科書14章を読む。(2h) 事後:学習内容を復習し、まとめる。(2h)																												
15回	教師の専門性とは 教師に求められる専門性 教師に必要な研修 人間性と知識・技術	事前:教科書16章を読む。(2h) 事後:学習内容を復習し、まとめる。(2h)																												
16回	期末試験	事前: 事後:																												
テキスト	佐藤環監修『資料とアクティブラーニングで学ぶ 初等・幼児教育の原理』萌文書林																													
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 広岡義之、津田徹編著『はじめて学ぶ教育の制度と歴史』ミネルヴァ書房 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、2018年 厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018年 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館、2018年																													
到達目標(学修成果)及び観点	<p>【到達目標(学修成果)及び観点】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標(学修成果)及び観点</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>技能・表現</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○	○		○		到達目標②	○	○	○			到達目標③	○		○	○					
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○	○		○																										
到達目標②	○	○	○																											
到達目標③	○		○	○																										
評価方法・基準	<p>【評価方法・基準】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標(学修成果)</th> <th>期末試験 (筆記試験・実技試験)</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物・レポート</th> <th>発表・実技</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>30%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>20%</td> <td></td> <td>5%</td> <td></td> <td>5%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>20%</td> <td></td> <td>5%</td> <td></td> <td>5%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価: <input checked="" type="checkbox"/> 取り入れている ・ <input type="checkbox"/> 取り入っていない</p>		評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()	到達目標①	30%		10%				到達目標②	20%		5%		5%		到達目標③	20%		5%		5%	
評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①	30%		10%																											
到達目標②	20%		5%		5%																									
到達目標③	20%		5%		5%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	学学習相談:毎回の授業の際に提出する、カードに記入された質問や疑問を通して相談を受ける。また、オフィスアワーを活用して対応する。 学習成果のフィードバック:課題・提出物の返却を通して実施する。																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園:教育の基礎的理解に関する科目/教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 保育士:保育の本質・目的に関する科目/保育者論																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	出席確認は必ず、呼名および指差確認を行い、抜けのないように管理を行う。歴史に拒否反応を持つ学生もいるため、興味がわくように生活へ密接に関わらせながら、授業を展開する。また、板書を多用するため、板書はきれいに書くことを心がけます。Teams の活用に関しては、一回目の授業で細かく説明を行う。																													
受講生へのメッセージ・その他	日常的に教育の抱える問題に関心を持ち、課題意識を持って子どもへのまなざしをもって欲しい。																													
実務経験の有無	<input checked="" type="checkbox"/> あり ・ なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無																												

科目区分	専門教育科目	科目名	教育課程論	担当者	柴田智世	開講時期	1年 前期	授業形態・ 単位数	講義 2単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS10102	資格等取得との関連	幼稚園:必修・保育士:必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	<p>テーマ: 保育におけるカリキュラムとは何かを学ぶ</p> <p>到達目標(学修成果)①: 教育課程、全体的な計画及び様々な指導計画の意義や特徴を説明できる。</p> <p>到達目標(学修成果)②: 子ども理解に基づいた指導計画について、保育実践との関連を考察できる。</p> <p>到達目標(学修成果)③: 省察、評価、改善による評価の意義を、自分の実践に適用することができる。</p>								
授業概要	<p>教育課程、全体的な計画、指導計画には、私たちが子どもをどのような存在として捉え、どのような保育を目指しているのかという根本的な問いが描き出されるものである。それらを実現する方法はどのようなものかを考え、教育課程、全体的な計画、指導計画の意義と目的や具体的な立て方について学ぶ。</p> <p>本科目担当教員は幼稚園・幼保連携型認定こども園での実務経験を活かして、幼児期から学童期を視野に入れた理論的な学びと共に、具体的な事例を取り上げ、保育における子どもの姿を想定した実践的な学びのできる授業を目指す。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と到達目 標(学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	○	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
	△	③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1回	オリエンテーション、保育の基本とカリキュラム					事前: 事前にテキスト(p. 1~10)を熟読する。(2h) 事後: 教科書を復習し、疑問点を挙げる。(2h)			
2回	カリキュラムの意義と子ども理解のための視点とは					事前: 事前にテキスト(p. 11~20)を熟読する。(2h) 事後: 教科書を復習し、疑問点を挙げる。(2h)			
3回	保育所保育指針における「全体的な計画」「指導計画」					事前: 事前にテキスト(p. 21~34)を熟読する。(2h) 事後: 教科書を復習し、疑問点を挙げる。(2h)			
4回	幼稚園教育要領における「教育課程」「指導計画」					事前: 事前にテキスト(p. 35~45)を熟読する。(2h) 事後: 教科書を復習し、疑問点を挙げる。(2h)			
5回	0・1・2歳児を中心にした指導計画(1)長期指導計画					事前: 事前にテキスト(p. 61~74)を熟読する。(2h) 事後: 身近な園の指導計画について調べる。(2h)			
6回	0・1・2歳児を中心にした指導計画(2)短期指導計画					事前: 事前にテキスト(p. 61~74)を熟読する。(2h) 事後: 身近な園の指導計画について調べる。(2h)			
7回	3・4・5歳児を中心にした指導計画(1)長期指導計画					事前: 事前にテキスト(p. 79~98)を熟読する。(2h) 事後: 身近な園の指導計画について調べる。(2h)			
8回	3・4・5歳児を中心にした指導計画(2)短期指導計画					事前: 事前にテキスト(p. 79~98)を熟読する。(2h) 事後: 身近な園の指導計画について調べる。(2h)			
9回	子どもの観察の方法と視点(1)身近な子どもの姿に着目して、観察記録をとる					事前: 事前にテキスト(p. 111~119)を熟読する。(2h) 事後: 地域で出会った子どもについて考察する。(2h)			
10回	子どもの観察の方法と視点(2)観察記録の発表と考察					事前: 事前にテキスト(p. 111~119)を熟読する。(2h) 事後: 身近な子どもについての考察を深める。(2h)			
11回	家庭・地域との連携					事前: 事前にテキスト(p. 75~78)を熟読する。(2h) 事後: 教科書と配布資料を参考に自分の考えをまとめる。(2h)			
12回	長時間・延長保育の指導計画の工夫					事前: 事前にテキスト(p. 75~78)を熟読する。(2h) 事後: 教科書と配布資料を参考に自分の考えをまとめる。(2h)			

13回	保幼小連携を目指す指導計画の工夫	事前:事前にテキスト(p.99~110)を熟読する。(2h) 事後:教科書と配布資料を参考に自分の考えをまとめる。(2h)																												
14回	指導計画の実践とPDCAサイクルとは	事前:事前にテキスト(p.111~123)を熟読する。(2h) 事後:教科書と配布資料を参考に自分の考えをまとめる。(2h)																												
15回	まとめ	事前:事前にテキスト(p.111~123)を熟読する。(2h) 事後:教科書と配布資料を参考に自分の考えをまとめる。(2h)																												
16回	定期試験																													
テキスト	豊田和子・新井美保子 編著『保育カリキュラム論—計画と評価—』建帛社、2018年 文部科学省『幼稚園教育要領』、厚生労働省『保育所保育指針』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』																													
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 授業内で紹介し、資料について適宜配布する。																													
到達目標(学修成果)及び観点	<p>【到達目標(学修成果)及び観点】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標(学修成果)及び観点</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>技能・表現</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○		○			到達目標②		○		○		到達目標③	○		○						
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○		○																											
到達目標②		○		○																										
到達目標③	○		○																											
評価方法・基準	<p>【評価方法・基準】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標(学修成果)</th> <th>期末試験 (筆記試験・実技試験)</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物・レポート</th> <th>発表・実技</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>20%</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>20%</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()	到達目標①	20%			10%	10%		到達目標②			20%		10%		到達目標③	20%			10%		
評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①	20%			10%	10%																									
到達目標②			20%		10%																									
到達目標③	20%			10%																										
ルーブリック評価	ルーブリック評価:取り入れている・ <input type="checkbox"/> 取り入っていない																													
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:授業終了前後に教室もしくは非常勤講師室で質問を受け付ける。 学習成果のフィードバック:授業内で提出されたレポートや課題は、学生の個人情報に十分に配慮した上で授業内において共有し、内容によっては個別対応を行う。																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園:教育の基礎的理解に関する科目/教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。) 保育士:保育の内容・方法に関する科目/保育の計画と評価																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	・講義科目ではあるが、子どもの気持ちを想像し、保育者としての技量を身に付けるために、保育実技(主に手遊び)の学びとグループワークを取り入れる。その際の目的と趣旨を授業内で丁寧に説明を行う。 ・期末試験については持ち込み不可とする。																													
受講生へのメッセージ・その他	保育者への夢や希望、理想像を描きつつ、自覚をもって受講すること。また、自分自身の子ども時代と向き合う姿勢をもってほしい。 提出物は期限を厳守すること。																													
実務経験の有無	<input type="checkbox"/> あり ・ なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無																												

科目区分	専門教育科目	科目名	保育原理	担当者	田中浩之	開講時期	1年 前期	授業形態・ 単位数	講義 2単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS10103	資格等取得との関連	保育士:必修・社会福祉主事任用資格:選択必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	<p>テーマ: 子どもの最善の利益を支える保育の理念と実践—子どもが自然と集まる保育へ—</p> <p>到達目標(学修成果)①: 保育の基本理念や法的根拠を理解し、自分の言葉で説明できる。</p> <p>到達目標(学修成果)②: 子どもの発達や生活の姿を踏まえ、保育者の援助の在り方を具体的に考えられる。</p> <p>到達目標(学修成果)③: 現代社会における保育の役割を理解し、自らの保育観を形成することができる。</p>								
授業概要	<p>本講義では、現代の子どもを取り巻く社会的・家庭的環境の現状を概観しながら、保育に関わる制度・歴史・思想の基礎について学ぶ。少子高齢化や家庭環境の多様化など、今日的課題を踏まえ、保育の社会的役割や意義について理解を深めることを目的とする。また、日本における保育制度の成立過程や発展の歴史、代表的な保育思想を通して、保育の本質とは何かを多角的に考察する。理論的理解にとどまらず、保育実践との関連を意識しながら、基礎的知識を体系的に身につける。授業ではアクティブラーニングを取り入れ、受講者の主体的な参加や発言を重視する。ディスカッションや事例検討を通して、保育観を深め、他者との対話を通じて学びを広げる双方向型の講義を展開する。なお、担当教員は幼稚園および保育所での実務経験を有しており、現場で得られた具体的な事例や実践的知見を紹介しながら、理論と実践を結びつけた授業を行う。</p>								
ディプロマ (DP)と到達目 標(学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
		② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目									
	授業計画					時間外学習			
1回	オリエンテーション 日本の教育・保育の方向性と発達観					事前: テキストU1を読み要点をノートにまとめる。(2h) 事後: 振り返りシートを作成する。(2h)			
2回	諸法令から見る保育の原理					事前: テキストU2を読み要点をノートにまとめる。(2h) 事後: 振り返りシートを作成する。(2h)			
3回	幼稚園教育要領、保育所保育指針、教育・保育要領からみる保育の原理					事前: テキストU3を読み要点をノートにまとめる。(2h) 事後: 振り返りシートを作成する。(2h)			
4回	養護と教育の一体化					事前: テキストU4を読み要点をノートにまとめる。(2h) 事後: 振り返りシートを作成する。(2h)			
5回	保育実践の基本構造(1) ・乳児保育における3つの視点と1歳以上3歳未満児の5領域 ・3歳以上児の5領域					事前: テキストU5(pp37-41)を読み要点をノートにまとめる。(2h) 事後: 振り返りシートを作成する。(2h)			
6回	保育実践の基本構造(2) ・保育内容の特質(共同性)					事前: テキストU5(pp41-46)を読み要点をノートにまとめる。(2h) 事後: 振り返りシートを作成する。(2h)			
7回	保育実践の基本構造(3) ・保育内容の特質(総合性・計画性)					事前: テキストU5(pp47-54)を読み要点をノートにまとめる。(2h) 事後: 振り返りシートを作成する。(2h)			
8回	多様な保育内容とその方法					事前: テキストU6を読み要点をノートにまとめる。(2h) 事後: 振り返りシートを作成する。(2h)			
9回	子育て支援					事前: テキストU7を読み要点をノートにまとめる。(2h) 事後: 振り返りシートを作成する。(2h)			
10回	保育の歴史(1) ・西洋と日本の保育の創成期					事前: テキストU8を読み要点をノートにまとめる。(2h) 事後: 振り返りシートを作成する。(2h)			
11回	保育の歴史(2) ・西洋の保育実践の発達過程					事前: テキストU9を読み要点をノートにまとめる。(2h) 事後: 振り返りシートを作成する。(2h)			
12回	保育の歴史(3) ・日本の保育実践の発達過程					事前: テキストU10を読み要点をノートにまとめる。(2h) 事後: 振り返りシートを作成する。(2h)			

13回	倉橋惣三の保育理念と保育方法論	事前:テキストU11を読み要点をノートにまとめる。(2h) 事後:振り返りシートを作成する。(2h)																												
14回	保育者の役割と責務	事前:テキストU12を読み要点をノートにまとめる。(2h) 事後:振り返りシートを作成する。(2h)																												
15回	保育を取り巻く現状と課題	事前:テキストU13を読み要点をノートにまとめる。(2h) 事後:振り返りシートを作成する。(2h)																												
16回	定期試験																													
テキスト	佐伯一弥・金瑛珠・鈴木彬子・高橋優子「改訂2版 Work で学ぶ保育原理」(2023)わかば社																													
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 ・厚生労働省「保育所保育指針(2017)」フレーベル館 ・文部科学省「幼稚園教育要領(2017)」フレーベル館 ・内閣府、文部科学省、厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017)」フレーベル館																													
到達目標(学修成果)及び観点	<p>【到達目標(学修成果)及び観点】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標(学修成果)及び観点</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>技能・表現</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○					到達目標②	○	○	○			到達目標③	○		○						
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○																													
到達目標②	○	○	○																											
到達目標③	○		○																											
評価方法・基準	<p>【評価方法・基準】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標(学修成果)</th> <th>期末試験 (筆記試験・実技試験)</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物 レポート</th> <th>発表・実技</th> <th>取り組み 姿勢</th> <th>その他 ()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>20%</td> <td>5%</td> <td>5%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>20%</td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>20%</td> <td>5%</td> <td>5%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価: 取り入れている・<input type="checkbox"/>取り入っていない</p>		評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()	到達目標①	20%	5%	5%				到達目標②	20%		20%				到達目標③	20%	5%	5%			
評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()																								
到達目標①	20%	5%	5%																											
到達目標②	20%		20%																											
到達目標③	20%	5%	5%																											
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談:「コメントフォーム」にて対応する。</p> <p>学習成果のフィードバック:課題・提出物の返却を通して実施する。(ノートの点検・回収)</p>																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:保育の本質・目的に関する科目/保育原理																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	新規担当のため評価なし																													
受講生へのメッセージ・その他	<p>保育は、子どもの成長を支える専門的な営みであり、同時に一人ひとりの人生に深く関わる大切な仕事です。本講義では、保育の制度や歴史、思想を学ぶことを通して、「なぜ保育が必要なのか」「保育者とはどのような存在なのか」を自分自身の言葉で考えられるようになることを目指します。授業では、積極的な発言や意見交換を歓迎します。正解を探すのではなく、多様な考え方に触れながら、自分の保育観を少しずつ育てていきましょう。疑問に思ったことや気づいたことを大切に、主体的に学ぶ姿勢を期待しています。将来保育の現場に立つことを意識しながら、日頃から子どもや社会の動きに関心を持つことも大切です。ニュースや身近な出来事を保育の視点で考える習慣を身につけてください。本講義が、皆さんにとって保育の基礎を築く第一歩となることを願っています。</p>																													
実務経験の有無	<input checked="" type="checkbox"/> あり ・ なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無																												
		あり ・ <input checked="" type="checkbox"/> なし																												

科目区分	専門教育 科目	科 目 名	子ども家庭福祉	担当者	河村浩世	開講時期	1年 前期	授業形態・ 単位数	講義 2単位
卒業要件		ナンバリング	CS10104	資格等取得との関連	保育士：必修・社会福祉主事任用資格：選択必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	<p>テーマ：子ども家族福祉の歴史の変遷と最前線を理解し、実践について体系的に学ぶ</p> <p>到達目標(学修成果)①：現代社会における子ども家庭福祉の意義や、歴史の変遷について理解し、説明することができる。</p> <p>到達目標(学修成果)②：子どもを取り巻く家庭の現状と課題について理解し、制度や福祉サービスを踏まえて、支援を示すことができる。</p> <p>到達目標(学修成果)③：子どもの権利について理解し、子ども家庭福祉の展望について具体的に述べるができる。</p>								
授業概要	<p>幼稚園教諭・保育士・社会福祉士としての現場経験を活かし、臨場感のある授業を行っていききたいと思います。</p> <p>子ども家庭福祉の意義、制度や実施体系、歴史の変遷について学修する。児童虐待や子どもの貧困問題等、今日の子ども家庭福祉を取り巻く現状を捉え、子育て家庭が直面する多様な生活課題と社会的ニーズについて理解する。またそれらに対応する関係機関の役割や連携など支援方法を探る。子ども家庭福祉の展望をふまえ、保育士の児童虐待を予防する役割と家庭支援について実践力を養う。授業の中では適宜ディスカッション、ディベートを取り入れるので積極的に参加し、理解を深めること。</p>								
ディプロマ (DP)と到達目 標(学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
		② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1回	授業オリエンテーションー子ども家庭福祉を学ぶ意義ー					事前：シラバスを熟読し、テキストプロローグを熟読する。(2h) 事後：コメントシートに、気づきと要点を書くとともに、復習すること。(2h)			
2回	現代社会と子ども家庭福祉					事前：テキスト第1章を熟読する。(2h) 事後：コメントシートに、気づきと要点を書くとともに、復習すること。(2h)			
3回	児童・家庭福祉の歴史的展開					事前：テキスト第2章を熟読する。(2h) 事後：コメントシートに、気づきと要点を書くとともに、復習すること。(2h)			
4回	児童の人権擁護					事前：テキスト第3章を熟読する。(2h) 事後：コメントシートに、気づきと要点を書くとともに、復習すること。(2h)			
5回	児童の貧困問題の改善と対策					事前：第17章を熟読する。(2h) 事後：コメントシートに、気づきと要点を書くとともに、復習すること。(2h)			
6回	女性・多様性への支援と対策					事前：第10章を熟読する。(2h) 事後：コメントシートに、気づきと要点を書くとともに、復習すること。(2h)			
7回	ひとり親家庭への支援と対策					事前：第11章を熟読する。(2h) 事後：コメントシートに、気づきと要点を書くとともに、復習すること。(2h)			
8回	児童虐待の防止と対策					事前：第13章を熟読する。(2h) 事後：コメントシートに、気づきと要点を書くとともに、復習すること。(2h)			
9回	DVの防止と対策					事前：第14章を熟読する。(2h) 事後：コメントシートに、気づきと要点を書くとともに、復習すること(2h)			
10回	社会的養護の課題と対応					事前：第12章を熟読する。(2h) 事後：コメントシートに、気づきと要点を書くとともに、復習すること。(2h)			
11回	母子保健に関する支援と対策					事前：第9章を熟読する。(2h) 事後：コメントシートに、気づきと要点を書くとともに、復習すること。(2h)			
12回	子育て支援サービスの現状と課題					事前：第8章を熟読する。(2h) 事後：コメントシートに、気づきと要点を書くとともに、復習すること。(2h)			

13回	児童・家庭福祉の施設と専門職と専門機関	事前:第5章/第6章を熟読する。(2h) 事後:コメントシートに、気づきと要点を書くとともに、復習すること。(2h)																												
14回	児童・家庭福祉の法体系と行財政	事前:第4章を熟読する。(2h) 事後:コメントシートに、気づきと要点を書くとともに、復習すること。(2h)																												
15回	子ども・若者の健全育成といじめ防止対策 エピローグ今後の児童・家庭福祉の展望	事前:第12章/エピローグを熟読する。(2h) 事後:コメントシートに、気づきと要点を書くとともに、復習すること。(2h)																												
16回	定期試験																													
テキスト	立花直樹 他編著「児童・家庭福祉<第2版>子どもと家庭の最善の利益」ミネルヴァ書房、2025年																													
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】																													
到達目標(学修成果)及び観点	【到達目標(学修成果)及び観点】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標(学修成果)及び観点</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>技能・表現</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○	○				到達目標②	○		○			到達目標③	○	○	○						
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○	○																												
到達目標②	○		○																											
到達目標③	○	○	○																											
評価方法・基準	【評価方法・基準】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法:到達目標(学修成果)</th> <th>期末試験 (筆記試験・実技試験)</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物 レポート</th> <th>発表・実技</th> <th>取り組み 姿勢</th> <th>その他 ()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>15%</td> <td>10%</td> <td>5%</td> <td></td> <td>5%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>15%</td> <td>10%</td> <td></td> <td>5%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>15%</td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		評価方法:到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()	到達目標①	15%	10%	5%		5%		到達目標②	15%	10%		5%			到達目標③	15%	10%			10%	
評価方法:到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()																								
到達目標①	15%	10%	5%		5%																									
到達目標②	15%	10%		5%																										
到達目標③	15%	10%			10%																									
ルーブリック評価	ルーブリック評価: 取り入れていない																													
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:オフィスアワーの時間に対応する。 学習成果のフィードバック:授業の中で指示する。																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:保育の本質・目的に関する科目/子ども家庭福祉																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	新規担当のため評価なし																													
受講生へのメッセージ・その他	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教諭・保育士・社会福祉士としての現場経験を活かし、臨場感のある授業を行っていききたいと思います。 ・授業後に毎回コメントを記入提出し、質問等には次回授業時に全体にフィードバックを行います。 ・教科書を活用し、事前・事後学習を計画的に進めていきます。毎回必ず持参してください。 ・授業は、意見を求めることがありますので積極的に発言する姿勢で臨んでください。 ・グループワークやディスカッションを取り入れますので、積極的に発言する姿勢で臨んでください。また他者の意見を聞き、知見を広げてください。 																													
実務経験の有無	あり	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無	あり																											

科目区分	専門教育 科目	科 目 名	社会福祉	担当者	河村浩世	開講時期	1年 後期	授業形態・ 単位数	講義 2単位
卒業要件		ナンバリング	CS10105	資格等取得との関連	保育士:必修・社会福祉主事任用資格:選択必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	<p>テーマ: 社会福祉の本質を理解し、専門職として社会課題を発見し解決する力を身につける。</p> <p>到達目標(学修成果)①: 社会福祉の理念や意義、歴史的変遷を理解し、説明できる。</p> <p>到達目標(学修成果)②: 現代社会における社会福祉の法制度や福祉サービスについて理解し、わかりやすく説明することができる。</p> <p>到達目標(学修成果)③: 自身の周りの生活課題を捉え、制度等と関連した解決方法を考えることができる。</p>								
授業概要	<p>幼稚園教諭・保育士・社会福祉士としての現場経験を活かし、臨場感のある授業を行っていきたいと思います。現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷について学修する。また、社会福祉におけることも家庭支援の視点を理解する。社会福祉の制度や実施体系等について学び、それらを活用した福祉サービスや、社会福祉援助の知識を身につけ、保育現場における相談援助の基本的な姿勢および技術を学ぶ。授業の中では適宜ディスカッション、ディベートを取り入れるので積極的に参加し理解を深めること。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と到達目 標(学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
		② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目									
	授業計画					時間外学習			
1回	授業オリエンテーションー社会福祉の構造と理念ー					事前: シラバス等を確認すること。第1章を熟読すること(2h) 事後: コメントシートにその都度、気づきと要点をまとめて書くとともに、毎回の内容について復習すること。(2h)			
2回	社会福祉の歴史的変遷					事前: 第2章を熟読すること(2h) 事後: コメントシートにその都度、気づきと要点をまとめて書くとともに、毎回の内容について復習すること。(2h)			
3回	社会問題と福祉利用過程の課題					事前: 第6章を熟読すること(2h) 事後: コメントシートにその都度、気づきと要点をまとめて書くとともに、毎回の内容について復習すること。(2h)			
4回	貧困・差別や孤立に対応する地域ネットワークの構築					事前: 第14章を熟読すること(2h) 事後: コメントシートにその都度、気づきと要点をまとめて書くとともに、毎回の内容について復習すること。(2h)			
5回	人口減少社会と子ども・子育て支援の総合施策					事前: 第15章を熟読すること(2h) 事後: コメントシートにその都度、気づきと要点をまとめて書くとともに、毎回の内容について復習すること。(2h)			
6回	地域包括ケアから地域共生社会の構築へ					事前: 第16章を熟読すること(2h) 事後: コメントシートにその都度、気づきと要点をまとめて書くとともに、毎回の内容について復習すること。(2h)			
7回	国際化と多様性支援の現状と諸課題					事前: 第18章を熟読すること(2h) 事後: コメントシートにその都度、気づきと要点をまとめて書くとともに、毎回の内容について復習すること。(2h)			
8回	福祉政策の国際比較と視点					事前: 第19章を熟読すること(2h) 事後: コメントシートにその都度、気づきと要点をまとめて書くとともに、毎回の内容について復習すること。(2h)			
9回	ノーマライゼーションとインクルーシブ社会の実現					事前: 第17章を熟読すること(2h) 事後: コメントシートにその都度、気づきと要点をまとめて書くとともに、毎回の内容について復習すること。(2h)			
10回	社会福祉の各種事業と施設 社会福祉の専門職と実務者					事前: 第10章/第11章を熟読すること(2h) 事後: コメントシートにその都度、気づきと要点をまとめて書くとともに、毎回の内容について復習すること。(2h)			

11回	社会福祉の法体系と法制度	事前:第5章を熟読すること(2h) 事後:コメントシートにその都度、気づきと要点をまとめて書くとともに、毎回の内容について復習すること。(2h)					
12回	社会福祉におけるソーシャルワーク	事前:第12章を熟読すること(2h) 事後:コメントシートにその都度、気づきと要点をまとめて書くとともに、毎回の内容について復習すること。(2h)					
13回	評価制度・権利擁護制度と苦情解決	事前:第13章を熟読すること(2h) 事後:コメントシートにその都度、気づきと要点をまとめて書くとともに、毎回の内容について復習すること。(2h)					
14回	社会福祉の動向と課題	事前:エピローグを熟読すること(2h) 事後:コメントシートにその都度、気づきと要点をまとめて書くとともに、毎回の内容について復習すること。(2h)					
15回	学びのまとめと発表	事前:今までの授業の振り返りを行い、まとめること(2h) 事後:コメントシートにその都度、気づきと要点をまとめて書くとともに、毎回の内容について復習すること。(2h)					
16回	定期試験						
テキスト	立花直樹 編著「社会福祉 第2版 原理と政策」ミネルヴァ書房、2025年						
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】						
到達目標(学修成果)及び観点	【到達目標(学修成果)及び観点】						
	到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	
	到達目標①	○		○			
	到達目標②	○					
	到達目標③	○	○				
評価方法・基準	【評価方法・基準】						
ルーブリック評価	評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験(筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()
	到達目標①	15%	10%				
	到達目標②	20%	10%	10%		10%	
	到達目標③	15%			10%		
	ルーブリック評価: 取り入れていない						
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談: オフィスアワーの時間に対応する。 学習成果のフィードバック: 授業の中で指示する。						
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士: 保育の本質・目的に関する科目/社会福祉						
授業評価アンケート結果を受けての改善点	新規担当のため評価なし						
受講生へのメッセージ・その他	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教諭・保育士・社会福祉士としての現場経験を活かし、臨場感のある授業を行っていきたいと思います。 ・授業後に毎回コメントを記入提出し、質問等には次回授業時に全体にフィードバックを行います。 ・教科書を活用し、事前・事後学習を計画的に進めていきます。毎回必ず持参してください。 ・授業は、意見を求めることがありますので積極的に発言する姿勢で臨んでください。またグループワークやディスカッションを取り入れますので、積極的に発言する姿勢で臨んでください。そして他者の意見を聞き、知見を広げてください。 						
実務経験の有無	あり	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無			あり		

科目区分	専門教育 科目	科 目 名	教職概論	担当者	田中浩之	開講時期	1年 後期	授業形態・ 単位数	講義 2単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS10107	資格等取得との関連	幼稚園：必修・保育士：必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	<p>テーマ：日本の教育制度の歴史的展開と現代的課題を踏まえ、教育専門職としての基礎的資質・能力を養う。</p> <p>到達目標(学修成果)①：日本の教育制度の成り立ちと発展について、歴史的背景および法制度の枠組みを踏まえて説明することができる。とくに、戦後教育改革以降の制度変遷や、教育行政の仕組みを理解し、教育の理念と制度との関係を論理的に整理できる。</p> <p>到達目標(学修成果)②：現代社会における教育課題(少子化、教育格差、多様性への対応、ICT活用など)について、自らの考えを形成し、他者との討議を通して多面的に考察することができる。教育を取り巻く社会的・文化的背景を踏まえ、広い視野から課題を捉える姿勢を身につける。</p> <p>到達目標(学修成果)③：教育・保育の専門職として求められる基本的態度(倫理観、使命感、協働性、自己省察力)を理解し、将来の実践に向けた自己の課題を明確にすることができる。理論と実践の往還を意識しながら、主体的に学び続ける姿勢を形成する。</p>								
授業概要	<p>本授業では、高等学校等での豊富な実務経験を有する教員の指導のもと、日本の教育制度の成り立ちとその変遷を、歴史的・法制的・社会的視点から総合的に学ぶ。とくに、戦後教育改革や現代の教育課題を踏まえながら、今日の教育の意義と使命について多角的に考察する。教育制度の理解にあたっては、我が国の法制度の基盤となる 日本国憲法 や、教育行政を担う 文部科学省 の役割にも触れ、日本の教育がどのような理念のもとに形成・発展してきたのかを体系的に捉える。また、日本社会の歴史的背景や文化的特質にも目を向け、教育と社会との相互関係について理解を深める。授業はテキストおよび配布プリントを中心とした講義形式を基本とするが、テーマに応じて討議や発表、事例検討を取り入れ、主体的・対話的な学びを重視する。理論の理解にとどまらず、教育・保育の現場で求められる基礎的態度(倫理観・責任感・協働性)や実践的思考力の形成を目指す。本授業を通して、広い視野と確かな知識を備えた専門職としての自覚を養い、変化の激しい現代社会において子どもと真摯に向き合うことのできる保育者・教員としての基盤を築くことを目的とする。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と到達目標 (学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
		② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画				時間外学習				
1回	教育・保育の意味 入学前教育「できたことノート」と保育者を志望する理由について考え、 今まで受けてきた教育・保育を振り返る。 コメントフォームへの記載				事前：保育・幼児教育に関する直近の話題のレポート(2h) 事後：リフレクションシートによる振り返り(2h)				
2回	教職者の意味 個人思考・グループワーク・発表				事前：資料を熟読し、質問事項を3点以上まとめる(2h) 事後：リフレクションシートによる振り返り(2h)				
3回	教職者の役割 個人思考・グループワーク・発表、コメントフォームへの記載				事前：資料を熟読し、質問事項を3点以上まとめる(2h) 事後：リフレクションシートによる振り返り(2h)				
4回	教職観の変遷 個人思考・グループワーク・発表				事前：資料を熟読し、質問事項を3点以上まとめる(2h) 事後：リフレクションシートによる振り返り(2h)				
5回	教職の職業的特徴 個人思考・グループワーク・発表、コメントフォームへの記載				事前：資料を熟読し、質問事項を3点以上まとめる(2h) 事後：リフレクションシートによる振り返り(2h)				
6回	保育思想の歴史 教授・資料の読み取り・個人思考				事前：資料を熟読し、質問事項を3点以上まとめる(2h) 事後：リフレクションシートによる振り返り(2h)				
7回	教職者の地位(教職者の身分の保障) 教授・資料の読み取り・個人思考、保育思想の歴史の小テスト①、コメントフォームへの記載				事前：資料を熟読し、質問事項を3点以上まとめる(2h) 事後：リフレクションシートによる振り返り(2h)				
8回	教育者・保育者と法(服務と研修) 教授・資料の読み取り・個人思考				事前：資料を熟読し、質問事項を3点以上まとめる(2h) 事後：リフレクションシートによる振り返り(2h)				
9回	教育者・保育者の要件 個人思考・グループワーク・発表、服務と研修の小テスト②、コメントフォームへの記載				事前：資料を熟読し、質問事項を3点以上まとめる(2h) 事後：リフレクションシートによる振り返り(2h)				
10回	教育・保育の基本姿勢 個人思考・グループワーク・発表				事前：資料を熟読し、質問事項を3点以上まとめる(2h) 事後：リフレクションシートによる振り返り(2h)				
11回	教職者の資質・能力・要件と養成 個人思考・グループワーク・発表、コメントフォームへの記載				事前：資料を熟読し、質問事項を3点以上まとめる(2h) 事後：リフレクションシートによる振り返り(2h)				

12回	教職者の生涯学習 教授・資料の読み取り・個人思考・グループワーク・発表	事前:資料を熟読し、質問事項を3点以上まとめる(2h) 事後:リフレクションシートによる振り返り(2h)																												
13回	専門性の発達とキャリア形成 教授・資料の読み取り・個人思考、コメントフォームへの記載	事前:資料を熟読し、質問事項を3点以上まとめる(2h) 事後:リフレクションシートによる振り返り(2h)																												
14回	保育ニーズの多様化 教授・資料の読み取り・個人思考・グループワーク	事前:資料を熟読し、質問事項を3点以上まとめる(2h) 事後:リフレクションシートによる振り返り(2h)																												
15回	諸課題への対応と幼・保・小の連携 乳幼児を取り巻く環境と現代的課題 個人思考・グループワーク・発表	事前:資料を熟読し、質問事項を3点以上まとめる(2h) 事後:リフレクションシートによる振り返り(2h)																												
16回	定期試験																													
テキスト	・文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 2018 ・厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 2018 ・内閣府、文部科学省、厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017)」フレーベル館 ＊その他、適宜、資料・ワークシートを配布する																													
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 特にありません。																													
到達目標(学修成果)及び観点	【到達目標(学修成果)及び観点】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標(学修成果)及び観点</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>技能・表現</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○	○	○	○		到達目標②	○	○	○	○		到達目標③	○	○	○	○					
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○	○	○	○																										
到達目標②	○	○	○	○																										
到達目標③	○	○	○	○																										
評価方法・基準	【評価方法・基準】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標(学修成果)</th> <th>期末試験 (筆記試験・実技試験)</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物 レポート</th> <th>発表・実技</th> <th>取り組み 姿勢</th> <th>その他 ()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>10%</td> <td>5%</td> <td>5%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>10%</td> <td>5%</td> <td>5%</td> <td>5%</td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>10%</td> <td>5%</td> <td>5%</td> <td>5%</td> <td>10%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ルーブリック評価: 取り入れている ・ <input type="checkbox"/> 取り入っていない		評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()	到達目標①	10%	5%	5%		10%		到達目標②	10%	5%	5%	5%	10%		到達目標③	10%	5%	5%	5%	10%	
評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()																								
到達目標①	10%	5%	5%		10%																									
到達目標②	10%	5%	5%	5%	10%																									
到達目標③	10%	5%	5%	5%	10%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:「コメントフォーム」にて対応する。 学習成果のフィードバック:コメントフォームの記述をもとに振り返り集を次回に資料提供し、適宜、学修成果をフィードバックする。																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園:教育の基礎的理解に関する科目/教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。) 保育士:保育の本質・目的に関する科目/教育原理																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	新規担当のため評価なし																													
受講生へのメッセージ・その他	教職概論は、教員・保育者としての学びの出発点となる科目です。本授業では、教育制度や歴史、現代的課題について理解を深めるとともに、「なぜ自分は教育に関わろうとしているのか」という原点を見つめ直す機会にしてほしいと考えています。教育は社会の縮図であり、時代の変化とともに常に問い直される営みです。知識を身につけることはもちろん大切ですが、それ以上に重要なのは、自ら考え、他者と対話し、誠実に学び続ける姿勢です。本授業では、講義内容を受け身で理解するだけでなく、討議や発表を通して主体的に学ぶことを期待します。将来、子どもたちの前に立つ専門職として求められる責任と使命を意識しながら、一回一回の授業を大切にしてください。ここでの学びが、皆さん自身の教育観・保育観を形づくる礎となることを願っています。																													
実務経験の有無	<input checked="" type="checkbox"/> あり ・ なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無																												
		<input checked="" type="checkbox"/> あり ・ なし																												

科目区分	専門教育 科目	科 目 名	教育と社会	担当者	田中浩之	開講時期	I 後期	授業形態・ 単位数	講義 2単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS10109	資格等取得との関連	幼稚園：必修・保育士：選択必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	<p>テーマ：幼稚園を中心とした学校をめぐる制度・社会・経営の理解と、現代的課題への対応力の育成</p> <p>到達目標(学修成果)①：日本の学校制度の構造を理解し、特に幼稚園制度の成立・発展の過程や関連する教育思想の変遷について、社会的背景と関連づけて説明できる。</p> <p>到達目標(学修成果)②：コンプライアンス、守秘義務、個人情報保護、危機管理、説明責任など、学校経営に求められる基礎的事項を理解し、教育現場における実践上の意義を具体的に説明できる。</p> <p>到達目標(学修成果)③：少子化、教育格差、インクルーシブ教育、保護者対応、地域との連携など、わが国における教育をめぐる諸問題を整理し、その解決に向けた基礎的方策について論理的に考察できる。</p>								
授業概要	<p>本授業では、日本における学校制度、とりわけ幼稚園を中心とした教育制度の成立と発展を社会的背景と関連づけて学ぶ。制度の歴史の変遷や教育思想の流れを踏まえながら、現代社会における幼児教育の役割と意義を考察する。さらに、コンプライアンス、守秘義務、危機管理、保護者対応など、学校経営に求められる基礎的事項を取り上げ、教育現場を取り巻く法制度や社会的責任について理解を深める。加えて、少子化、子どもの貧困、特別支援、地域連携など、日本の教育をめぐる諸課題を多角的に捉え、その解決の方向性について主体的に考察する力を養う。</p>								
ディプロマ (DP)と到達目 標(学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
		② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1回	オリエンテーション 教育と社会の関係について					事前：新聞などを読み、社会の事象に興味を持つ(2h) 事後：学習内容を復習し、まとめる。(2h)			
2回	学校制度の変容 ～ これからの学校教育					事前：教科書1章を読む。(2h) 事後：学習内容を復習し、まとめる。(2h)			
3回	社会の動向とカリキュラム - 教育内容と教育方法					事前：教科書2章を読む。(2h) 事後：学習内容を復習し、まとめる。(2h)			
4回	情報化の進展と学校教育					事前：教科書3章を読む。(2h) 事後：学習内容を復習し、まとめる。(2h)			
5回	学力問題に関する世界的な動向					事前：教科書4章を読む。(2h) 事後：学習内容を復習し、まとめる。(2h)			
6回	教師教育改革の動向					事前：教科書5章を読む。(2h) 事後：学習内容を復習し、まとめる。(2h)			
7回	社会の変化と幼児教育					事前：教科書6章を読む。(2h) 事後：学習内容を復習し、まとめる。(2h)			
8回	学校の危機管理と学校安全 保育所・幼稚園・こども園における視点を含む					事前：教科書7章を読む。(2h) 事後：学習内容を復習し、まとめる。(2h)			
9回	地域と学校の連携——学校評価とコミュニティ・スクール					事前：教科書8章を読む。(2h) 事後：学習内容を復習し、まとめる。(2h)			
10回	子どもの生活をふまえた学校と家庭の連携					事前：教科書9章を読む。(2h) 事後：学習内容を復習し、まとめる。(2h)			
11回	子どもの貧困と虐待 — 福祉と教育の連携					事前：教科書10章を読む。(2h) 事後：学習内容を復習し、まとめる。(2h)			
12回	義務教育と不登校					事前：教科書11章を読む。(2h) 事後：学習内容を復習し、まとめる。(2h)			

13回	マイノリティと学校教育	事前:教科書12章を読む。(2h) 事後:学習内容を復習し、まとめる。(2h)																												
14回	ジェンダーと教育	事前:教科書13章を読む。(2h) 事後:学習内容を復習し、まとめる。(2h)																												
15回	共生のための教育	事前:教科書14章を読む。(2h) 事後:学習内容を復習し、まとめる。(2h)																												
16回	定期試験																													
テキスト	酒井朗編著『現代社会と教育』ミネルヴァ書房、2021年																													
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 日本社会教育学会編『子ども・若者支援と社会教育』東洋館出版、2017年 日本社会教育学会編『「学習の自由」と社会教育』東洋館出版、2020年																													
到達目標(学修成果)及び観点	<p>【到達目標(学修成果)及び観点】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標(学修成果)及び観点</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>技能・表現</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○					到達目標②	○	○	○	○		到達目標③	○	○	○						
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○																													
到達目標②	○	○	○	○																										
到達目標③	○	○	○																											
評価方法・基準	<p>【評価方法・基準】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標(学修成果)</th> <th>期末試験 (筆記試験・実技試験)</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物・レポート</th> <th>発表・実技</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>30%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>20%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>10%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()	到達目標①	30%						到達目標②	20%		10%		20%		到達目標③	10%		10%			
評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①	30%																													
到達目標②	20%		10%		20%																									
到達目標③	10%		10%																											
ルーブリック評価	ルーブリック評価: 取り入れている <input checked="" type="radio"/> 取り入っていない <input type="radio"/>																													
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:毎回の授業の際に提出する質問や疑問を通して相談を受ける。(コメントフォーム) 学習成果のフィードバック:課題・提出物の返却を通して実施する。(ノート提出)																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園:教育の基礎的理解に関する科目/教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。) 保育士:保育の本質・目的に関する科目/各指定保育士養成施設において設定																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	新規担当のため評価なし																													
受講生へのメッセージ・その他	<p>幼稚園は、子どもが初めて出会う「社会」です。そして同時に、社会の価値観や制度が最も色濃く反映される場でもあります。本授業では、教育を単なる実践技術としてではなく、社会制度の一部として、また公共的責任を担う営みとして捉えます。制度や法規、経営、コンプライアンスと聞くと難しく感じるかもしれませんが。しかしそれらはすべて、子どもの最善の利益を守るための土台です。保育者・教育者は、教室の中だけで完結する存在ではありません。社会の動きとつながり、保護者や地域と関わり、制度の枠組みの中で専門性を発揮する職業です。この授業を通して、「社会の中の教育」を広い視野で捉えられる専門職としての基礎を築いてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業では、制度や法規に関する資料を扱います。専門用語にも慣れていきましょう。 ・教育に関するニュースや社会問題に日頃から関心を持つことを期待します。 ・ディスカッションやレポートでは、自分の意見を根拠に基づいて述べる姿勢を重視します。 ・教育現場に立つ専門職としての倫理観を常に意識してください。 																													
実務経験の有無	<input checked="" type="radio"/> あり ・ なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無																												

科目区分	専門教育 科目	科目 名	児童館・放課後児童クラブ の機能と運営	担当者	堀本浩史	開講時期	2年 前期	授業形態・ 単位数	講義 2単位
卒業要件		ナンバリング	CS10201	資格等取得との関連	保育士：選択必修・児童厚生員2級：必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	<p>テーマ：児童福祉施設である児童館・放課後児童クラブの機能と運営方法について理解する。</p> <p>到達目標(学修成果)①：児童館・放課後児童クラブの社会的な役割について理解し、それを実践することができる。</p> <p>到達目標(学修成果)②：児童館・放課後児童クラブのこども支援について理解し、遊びのプログラムを企画できる。</p> <p>到達目標(学修成果)③：児童館・放課後児童クラブの地域の健全育成環境づくりについて、児童厚生員の役割を説明できる。</p>								
授業概要	<p>児童館職員として31年勤務。様々な子どもや保護者、地域の方々との関わりを生かした講義を行う。0歳から18歳未満の子どもの支援についての方法や実践例について学ぶことができる。児童館と放課後児童クラブについて社会での役割や機能について理解し、児童厚生員や児童福祉にかかわる職員として基礎的・基本的な知識や技能を学び、習得できる。遊びのプログラムについての実践例についてグループワークを通じて企画できる。地域の健全育成環境づくりについての実践例について学び、地域に求められる児童館・放課後児童クラブの役割を見通すことができる。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と到達目標 (学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
		② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
◎=DP達成のために特に重要な項目 ○=DP達成のために重要な項目 △=DP達成のために望ましい項目									
授業計画					時間外学習				
1回	オリエンテーション 児童館とは何か、放課後児童クラブとは何か 児童館の概要、最新の児童福祉の動向				事前：児童館・放課後児童クラブについて調べる(2h) 事後：資料の読み直し授業の振り返りをする(2h)				
2回	児童館の機能と役割 児童館の種別、機能、特徴				事前：様々な児童館について調べる(2h) 事後：授業の振り返りをする(2h)				
3回	児童館の特性、児童館の現状と課題				事前：児童館の特性について理解したうえで再度調べる(2h) 事後：児童館の課題について把握する(2h)				
4回	遊びによる子どもの育成				事前：小学生の頃の遊びについて振り返る(2h) 事後：授業の振り返りをする(2h)				
5回	子どもの居場所としての提供 子どもが意見を述べる場の提供(子どもの権利)				事前：子どもの居場所と思える場所について調べる(2h) 事後：子どもの意見を取り入れる方法について振り返る(2h)				
6回	配慮を必要とする子どもの対応				事前：子どもの発達障害について調べる(2h) 事後：授業の振り返りをする(2h)				
7回	子育て支援の実施				事前：実際に行われている子育て支援について調べる(2h) 事後：授業の振り返りをする(2h)				
8回	地域の健全育成環境づくり ボランティアの育成				前：地域で行われている子どもにかかわる活動について調べる(2h) 事後：地域活動に参加する(2h)				
9回	放課後児童クラブの実施と連携(放課後児童クラブガイドライン)				事前：放課後児童クラブについて調べる(2h) 事後：授業の振り返りをする(2h)				
10回	子育て支援事業の実施 グループワーク(乳幼児保護者の希望と子どもの成長)				事前：親子で参加できる子育て支援事業について調べる(2h) 事後：子育て支援の課題についてまとめる(2h)				
11回	子育て支援事業の実施 グループワーク(乳幼児親子対象の企画書の作成)				事前：乳幼児に対するレクリエーションについて調べる(2h) 事後：授業の振り返りをする(2h)				
12回	遊びによる育成支援の実践				事前：対象を考えた遊びについて調べる(2h) 事後：授業の振り返りをする(2h)				

13回	遊びによる育成支援の実施 グループワーク(現代の子どもの課題について)	事前:現代社会の子どもに関する課題について調べる(2h) 事後:現代社会の子どもの課題について整理する(2h)																												
14回	遊びによる育成支援の実施	事前:子どもが遊ぶレクリエーションについて調べる(2h) 事後:発表できる内容と似ついて整理する(2h)																												
15回	遊びによる育成支援の実施 グループワーク(企画書の発表)	事前:企画書について調べる(2h) 事後:授業の振り返りをする(2h)																												
16回	定期試験	筆記試験																												
テキスト	テキスト「児童館」〈児童館ガイドライン(令和6年改正)準拠〉 児童健全育成推進財団																													
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】																													
到達目標(学修成果)及び観点	<p>【到達目標(学修成果)及び観点】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標(学修成果)及び観点</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>技能・表現</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○		○	○		到達目標②		○		○		到達目標③		○	○						
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○		○	○																										
到達目標②		○		○																										
到達目標③		○	○																											
評価方法・基準	<p>【評価方法・基準】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標(学修成果)</th> <th>期末試験 (筆記試験・実技試験)</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物・レポート</th> <th>発表・実技</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>20%</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td>5%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>20%</td> <td></td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td>5%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価: 取り入れていない</p>		評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()	到達目標①	20%			10%	5%		到達目標②	20%		10%	10%	5%		到達目標③	10%				10%	
評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①	20%			10%	5%																									
到達目標②	20%		10%	10%	5%																									
到達目標③	10%				10%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談:授業終了後に教室もしくは非常勤講師室にて受け付ける。 学習成果のフィードバック:グループワークでの発表の時間に内容にかかわる評価や解説を行います。</p>																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:保育の内容・方法に関する科目/各指定保育士養成施設において設定																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	全体としては高評価をいただけたようですが、学生が授業に積極的に参加できなかった部分があるようです。授業の中で発言・参加しやすい環境を整え、楽しみながら学べることができるよう、さらに工夫をしていきたいと考えています。																													
受講生へのメッセージ・その他	子どもにとって大切な様々な「遊び」についてできるだけ実践を通じて学んでいただきたいと思います。共に学び共に成長しましょう。																													
実務経験の有無	あり	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無																												
		なし																												

科目区分	専門教育 科目	科 目 名	教育方法と技術	担当者	田中浩之	開講時期	1年 (2年課程のみ) 前期	授業形態・ 単位数	講義 2単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS20101	資格等取得との関連	幼稚園:必修・保育士:選択必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	<p>テーマ:理解しやすい教授技術を習得する — 子ども主体の学びを支える実践力の育成 —</p> <p>到達目標①: 子どもたちに求められる資質・能力(知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度)を理解し、それらを育成するために必要な教育方法について具体的に説明できる。</p> <p>到達目標②: 教育の目的や学習内容に応じた指導技術(発問、板書、説明、話し方、教材提示、協働活動の設計など)を理解し、授業場面を想定して適切に活用できる。</p> <p>到達目標③: ICT 機器やデジタル教材を活用した効果的な授業設計ができるとともに、情報活用能力の育成を視野に入れた教材作成および活用に関する基礎的能力を身につけ、実践に応用できる。</p>								
授業概要	<p>本授業では、現代の日本の教育制度と学校教育の実態を踏まえながら、子どもたちの資質・能力を育成するために必要な教育方法および指導技術について理論と実践の両面から学ぶ。</p> <p>アクティブ・ラーニング、協働学習、ICT 活用、評価方法の工夫などを扱い、「わかる授業」を構想・実践できる基礎的力量的の形成を目指す。</p> <p>また、情報機器を活用した授業設計や教材作成を通して、教育の目的に即した教授技術を主体的に活用できる力を養う。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と到達目標 (学修成果) との対応	◎	<p>① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。</p> <p>② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。</p> <p>③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。</p>							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1回	オリエンテーション(授業の進め方、取り組み方) 資質・能力を基盤とした学力論と教育の方法・技術 個人思考・グループワーク・コメントフォーム					事前:シラバスを熟読し、必要に応じてテキストを熟読する。(2h) 事後:各自でこの科目の学習計画を立てる。(2h)			
2回	幼児教育方法の理解 学習理論から見た主体的・対話的な深い学びの実現 個人思考・グループワーク・コメントフォーム					事前:学習に使用するテキストを熟読する。(2h) 事後:当日学習した内容の復習を行う。(2h)			
3回	様々な活動と指導方法・援助 子どもの学びをよりよく支えるための教育 個人思考・グループワーク・コメントフォーム					事前:学習に使用するテキストを熟読する。(2h) 事後:当日学習した内容の復習を行う。(2h)			
4回	課題活動と指導方法・援助 個人思考・グループワーク・コメントフォーム					事前:学習に使用するテキストを熟読する。(2h) 事後:当日学習した内容の復習を行う。(2h)			
5回	行事活動と指導方法・援助① 個人思考・グループワーク・コメントフォーム					事前:学習に使用するテキストを熟読する。(2h) 事後:当日学習した内容の復習を行う。(2h)			
6回	行事活動と指導方法・援助② 個人思考・グループワーク・コメントフォーム					事前:学習に使用するテキストを熟読する。(2h) 事後:当日学習した内容の復習を行う。(2h)			
7回	異文化理解と地域連携 個人思考・グループワーク・コメントフォーム					事前:学習に使用するテキストを熟読する。(2h) 事後:当日学習した内容の復習を行う。(2h)			
8回	評価の方法(PDCA サイクル) 個人思考・グループワーク・コメントフォーム					事前:学習に使用するテキストを熟読する。(2h) 事後:当日学習した内容の復習を行う。(2h)			
9回	評価方法の実践(相互評価法) 個人思考・グループワーク・コメントフォーム					事前:事前に配布するプリントを熟読する。(2h) 事後:当日学習した内容の復習を行う。(2h)			
10回	公教育を担う教師の創造性 個人思考・グループワーク・コメントフォーム					事前:事前に配布するプリントを熟読する。(2h) 事後:当日学習した内容の復習を行う。(2h)			
11回	評価方法の実践(PDCA サイクル、KJ法) 個人思考・グループワーク・コメントフォーム					事前:事前に配布するプリントを熟読する。(2h) 事後:当日学習した内容の復習を行う。(2h)			

12回	教育教材の理解と実践 個人思考・グループワーク・コメントフォーム	事前:学習に使用するテキストを熟読する。(2h) 事後:当日学習した内容の復習を行う。(2h)					
13回	評価方法の実践(Web 評価法) 情報教育機器を活用した教材の作成 個人思考・グループワーク・コメントフォーム	事前:事前に配布するプリントを熟読する。(2h) 事後:当日学習した内容の復習を行う。(2h)					
14回	Web 評価に基づく振り返り活動 個人思考・グループワーク・コメントフォーム	事前:事前に配布するプリントを熟読する。(2h) 事後:当日学習した内容の復習を行う。(2h)					
15回	教育方法と技術に関するまとめ 個人思考・グループワーク・発表・コメントフォーム	事前:これまでの学習した内容を整理する。(2h) 事後:これまでの学習した内容を総括する。(2h)					
16回	定期試験	事前:期末筆記試験の準備を行う。(2h) 事後:出来なかった内容についてリフレクションを行う。(2h)					
テキスト	「12 教育の方法と技術」ミネルバ書房 2023 年						
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 『この一冊で分かるアクティブラーニング』PHP出版						
到達目標(学修成果)及び観点	【到達目標(学修成果)及び観点】						
	到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	
	到達目標①	○	○	○	○		
	到達目標②	○	○	○	○		
	到達目標③	○	○	○	○		
評価方法・基準	【評価方法・基準】						
	評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()
	到達目標①	15%		5%		10%	
	到達目標②	15%		5%	5%	10%	
	到達目標③	15%		5%	5%	10%	
ルーブリック評価	ルーブリック評価: 取り入れている ・ <input checked="" type="checkbox"/> 取り入っていない						
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:希望する場合はコメントフォームへ書き込むか、授業終了時に申し出てください。 学習成果のフィードバック:コメントフォームで適宜フィードバックします。						
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園:道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目/教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。) 保育士:保育の本質・目的に関する科目/各指定保育士養成施設において設定						
授業評価アンケート結果を受けての改善点	新規担当のため評価なし						
受講生へのメッセージ・その他	本授業では、「どう教えるか」という技術だけでなく、「なぜその方法を選ぶのか」「どんな学びを生み出したいのか」を問い続けます。 わかりやすい授業とは、単に説明が上手な授業ではありません。子どもが考え、迷い、気づき、自ら学びたい授業です。 そのために必要なのが、教育方法の理解と、目的に応じた教授技術の選択、そして振り返りと改善の力です。 最初から完璧である必要はありません。むしろ、試し、失敗し、考え直すこそが教師としての成長につながります。 この授業を通して、自分なりの「わかる授業」のかたちを見つけてください。そして、子どもたちの未来を支える専門職としての第一歩を踏み出しましょう。						
実務経験の有無	<input checked="" type="checkbox"/> あり ・ なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無			<input checked="" type="checkbox"/> あり ・ なし		

科目区分	専門教育 科目	科 目 名	幼児の音楽表現 I	担当者	渡辺ユリナ・村木清子・北川 由紀・宮田美佐・奥村優・新 谷麻衣・松井奈都子	開講時期	1年 前期	授業形態・ 単位数	演習 1単位	
卒業要件	必修	ナンバリング	CS20102	資格等取得との関連	幼稚園:必修・保育士:選択必修					
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	テーマ:子どもの音楽表現を読み取る保育者としての視点と価値観に着目し、音楽・音楽表現の知識と技能を習得する 到達目標(学修成果)①:子どもの発達を理解し、生活の中の音楽・音楽表現を読み取る視点を持つことができる 到達目標(学修成果)②:自身の思いや考えを固定観念にとらわれず、また臆することなく表現できる 到達目標(学修成果)③:保育・教育現場で用いる鍵盤楽器の基礎技術を身につけることができる									
授業概要	幼稚園教諭や保育士を目指す学生に必要な音楽・音楽表現の知識と技能を習得することを目的とした授業である。乳幼児の発達や 学びの過程を理解し、また表現活動に影響を与える保育者の多様な視点や価値観を認識した上で、音楽・音楽表現およびその指導 方法について学ぶ。グループワークを行い、他者と関わりの中で音楽表現に必要な柔軟かつ受容的な姿勢を身につける。									
ディプロマポ リシ (DP)と到達目 標(学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。								
	○	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他 者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。								
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢 献する強い意志を身につけている。								
		◎=DP 達成のために特に重要な項目							○=DP 達成のために重要な項目	
		△=DP 達成のために望ましい項目								
授業計画					時間外学習					
1回	オリエンテーション、自己表現、音楽表現について ピアノ個人指導				事前:入学前教育での課題取り組み(1h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(1h)					
2回	幼児期の音楽・音楽表現(1)領域「表現」と子どもの音楽的発達 ピアノ個人指導				事前:子どもの声域や発達について調べる(1h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(1h)					
3回	楽典(1)読譜の方法(譜表と音名、記号、音の長さ、リズム、拍子) ピアノ個人指導				事前:音の長さについて調べる(1h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(1h)					
4回	聴く(1)生活の中の音楽(園庭) ピアノ個人指導				事前:音の日記を書く(1h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(1h)					
5回	聴く(2)生活の中の音楽(保育室) ピアノ個人指導				事前:音の日記を書く(1h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(1h)					
6回	楽典(2)読譜の練習(譜表と音名、変化記号、音の長さ、リズム、拍子) ピアノ個人指導				事前:課題曲の読譜をする(1h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(1h)					
7回	表現(1)音楽表現の多様性(グループワーク) ピアノ個人指導				事前:サウンドアートについて調べる(1h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(1h)					
8回	表現(2)音楽表現と言葉(グループワーク) ピアノ個人指導				事前:絵本を選び持参する(1h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(1h)					
9回	表現(3)音楽表現と物語(グループワーク) ピアノ個人指導				事前:音の工夫をした読み聞かせの練習をする(1h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(1h)					
10回	表現(4)音楽表現と色、形 (5)音楽表現と動き(グループワーク) ピアノ個人指導				事前:色・形の写真を撮り、動きと音の融合を探る(1h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(1h)					
11回	模擬保育(1)弾き歌いについて(グループワーク) ピアノ個人指導				事前:保育の弾き歌いについて調べる(1h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(1h)					
12回	模擬保育(2)弾き歌いの導入・歌唱(グループワーク) ピアノ個人指導				事前:課題曲の導入を考える(1h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(1h)					
13回	模擬保育(3)弾き歌い 試行(グループワーク) ピアノ個人指導				事前:課題曲の練習をする(1h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(1h)					
14回	模擬保育(4)弾き歌い 実践(プレゼンテーション) ピアノ個人指導				事前:課題曲の練習をする(1h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(1h)					

15回	こどもの歌(5)弾き歌い 実践(プレゼンテーション) ピアノ個人指導	事前:課題曲の練習をする(1h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(1h)																												
16回	定期試験																													
テキスト	大海由香 古谷和子 肝付文子/編曲 保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第1巻 第2巻 Gakken (2016)(2017) 保育のうた 155 ひかりのくに(2022)																													
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】																													
到達目標(学修成果)及び観点	<p>【到達目標(学修成果)及び観点】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標(学修成果)及び観点</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>技能・表現</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○		○			到達目標②		○	○			到達目標③			○	○					
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○		○																											
到達目標②		○	○																											
到達目標③			○	○																										
評価方法・基準	<p>【評価方法・基準】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標(学修成果)</th> <th>期末試験 (筆記試験・実技試験)</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物 レポート</th> <th>発表・実技</th> <th>取り組み 姿勢</th> <th>その他 ()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>10%</td> <td></td> <td>15%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td></td> <td>5%</td> <td></td> <td>35%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>30%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>5%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価: 取り入れている ・ <input type="checkbox"/> 取り入っていない</p>		評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()	到達目標①	10%		15%				到達目標②			5%		35%		到達目標③	30%				5%	
評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()																								
到達目標①	10%		15%																											
到達目標②			5%		35%																									
到達目標③	30%				5%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談: オフィスアワー</p> <p>学習成果のフィードバック: 課題学習の振り返りは授業の中で講評します。</p>																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	<p>幼稚園: 領域及び保育内容の指導法に関する科目/領域に関する専門的事項/表現</p> <p>保育士: 保育の内容・方法に関する科目/各指定保育士養成施設において設定</p>																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	<p>ピアノ個人レッスンについては、公平性、授業の質を保証するために、担当教員を固定せず複数の教員が順番に指導する形態をとり、授業内での自主練習時間・個人レッスン時間の制限を設けています。授業の目的、授業形態の意味をふまえた上で、個人のニーズに合わせた解決方法(履修の選択、自宅練習時間の確保の計画支援など多岐にわたる)を提案したいと思います。</p>																													
受講生へのメッセージ・その他	<p>授業を通して、「音楽とは何か」「豊かな音楽表現とは何か」を自分なりに考えていきましょう。</p> <p>技術を習得する場面が多いため、予習・復習にかかる時間をしっかりともち、毎回出席しましょう。</p>																													
実務経験の有無	あり ・ <input type="checkbox"/> なし	<p>双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無</p> <p>あり ・ <input type="checkbox"/> なし</p>																												

科目区分	専門教育 科目	科 目 名	幼児の造形表現 I	担当者	西脇義照	開講時期	I 前期	授業形態・ 単位数	演習 I 単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS20103	資格等取得との関連	幼稚園：必修・保育士：選択必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	<p>テーマ： 幼児の造形表現活動を豊かにするために、製作等を通して知識や技術を体得し、感性を磨く。</p> <p>到達目標(学修成果)①： 画材や道具などの基礎基本に関する技術を習得する。</p> <p>到達目標(学修成果)②： 幼児の造形表現の特徴の概要を知り、幼児と一緒に楽しみながら製作する内容の学習過程の実技を通して学ぶ。</p> <p>到達目標(学修成果)③： 幼児が楽しく安全に遊べるおもちゃや季節感のある作品づくりを試みる。</p>								
授業概要	<p>本科目は美術教育を専門に学んだ小・中学校教員として、さらに岐阜県教育センターでの指導(幼～高校)の実務経験を有する教員(西脇義照)により、色と形に関わる基礎基本的内容と、将来の保育者としての造形に関わる内容を鑑みて体系的に習得する。</p> <p>とりわけ、クレヨンやパス、絵具などの画材を幼児に習得させやすい内容で実技を通し、グループワークなどを取り入れて学ぶ。</p> <p>身近な材料などを使って、形や色、組み合わせの工夫をして、活動する幼児の姿を思い浮かべながら製作する。その際、はさみや用途に応じた接着剤の使用方法を体得する。</p> <p>季節感を大切にしたい題材や作って遊ぶことのできる題材を設定し、つくり出す喜びと充実感を持つ。</p> <p>「計画→材料準備→製作→鑑賞→片付け→振り返り」のサイクルを実施する。作品や資料はオリジナルファイルに収め累積する。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と到達目 標(学修成果) との対応	◎	<p>① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。</p> <p>② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。</p> <p>③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。</p>							
◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目									
授業計画					時間外学習				
1 回	オリエンテーション ファイルの作成法、テキストの活用法				事前：テキストP19～21 (0.5H) 事後：振り返りシートの記入 (0.5H)				
2 回	乳幼児期の造形表現に関わる発達 乳幼児期及び児童期の絵画表現の特徴とすばらしさ				事前：テキストP218～221 (0.5H) 事後：振り返りシートの記入 (0.5H)				
3 回	丸が描ければあなたもアーティスト				事前：○から思いつくものを考えておく。(0.5H) 事後：振り返りシートの記入 (0.5H)				
4 回	クレヨンやパス、色コンテ、カラーペン、色鉛筆の扱い方				事前：テキストP54～63 (0.5H) 事後：振り返りシートの記入 (0.5H)				
5 回	食べ物に例えて学ぶ水彩絵の具の扱い方				事前：テキストP50～53 (0.5H) 事後：振り返りシートの記入 (0.5H)：				
6 回	切る、貼るの基礎基本				事前：テキストP82～85 (0.5H) 事後：振り返りシートの記入 (0.5H)				
7 回	切って貼ってこいのぼり①				事前：テキストP82～85 (0.5H) 事後：振り返りシートの記入 (0.5H)				
8 回	切って貼ってこいのぼり②				事前：テキストP82～85 (0.5H) 事後：振り返りシートの記入 (0.5H)				
9 回	ピッカピカ!元気の出る魔法のマイク①(身近な材料の活用—ラップの芯棒等)				事前：テキストP186 (0.5H) 事後：振り返りシートの記入 (0.5H)：				
10 回	ピッカピカ!元気の出る魔法のマイク②(身近な材料の活用—ラップの芯棒等)				事前：テキストP186 (0.5H) 事後：振り返りシートの記入 (0.5H)				
11 回	見て描く絵(水彩画)				事前：描く対象の選択 (0.5H) 事後：振り返りシートの記入 (0.5H)				
12 回	幼児に人気のアニメのキャラクターにチャレンジ				事前：カレンダーのアニメ等鑑賞 (0.5H) 事後：振り返りシートの記入 (0.5H)：				

13回	モダンテクニックアラカルトI (マーブリング・デカルコマニー折り染め)	事前:テキストP112~119(0.5H) 事後:振り返りシートの記入(0.5H)																												
14回	パフェ食べたい(カラースプレーと色鉛筆のミックス描法)	事前:テキストP62~63(0.5H) 事後:振り返りシートの記入(0.5H)																												
15回	オリジナルファイルの作品等の整理・表紙絵の一部作成 前期のまとめレポート(作品製作の工夫、知識理解、学習態度)	事前:テキスト全体(0.5H) 事後:オリジナルファイルの保存(0.5H)																												
16回	定期試験																													
テキスト	幼児造形の基礎(萌文書林)																													
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 美術教育(教育美術振興会) MOE(白泉社) 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領																													
到達目標(学修成果)及び観点	<p>【到達目標(学修成果)及び観点】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標(学修成果)及び観点</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>技能・表現</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○			○		到達目標②	○		○			到達目標③		○	○						
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○			○																										
到達目標②	○		○																											
到達目標③		○	○																											
評価方法・基準	<p>【評価方法・基準】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標(学修成果)</th> <th>期末試験(筆記試験・実技試験)</th> <th>小テスト</th> <th>課題提出物・レポート</th> <th>発表・実技</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>10%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>20%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>10%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価: 取り入れている・<u>取り入っていない</u></p>		評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験(筆記試験・実技試験)	小テスト	課題提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()	到達目標①	10%		10%		10%		到達目標②	20%		10%		10%		到達目標③	10%		10%		10%	
評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験(筆記試験・実技試験)	小テスト	課題提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①	10%		10%		10%																									
到達目標②	20%		10%		10%																									
到達目標③	10%		10%		10%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談:授業後や昼休みに受け付ける。授業に関連した作品作りについて追及したい場合や幼児の造形表現の関わり方をさらに相談したい場合は、図工室や準備室を開放して、相談にのる。</p> <p>学習成果のフィードバック:オリジナルファイルを基に、整理しながら今後の自身の課題を色、形、態度の視点から見つめ直し、よりよい学習ができるように振り返りシートに明確に記述し変化を確認するようにする。</p>																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	<p>幼稚園:領域及び保育内容の指導法に関する科目/領域に関する専門的事項/表現 保育士:保育の内容・方法に関する科目/各指定保育士養成施設において設定</p>																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	一人一人が、線描、彩色、切る、貼るといった基本的な技術力が十分に授業の中で身に付き、力が向上するように、授業の構造化を工夫して行い、磨き合いの場をより充実させる。																													
受講生へのメッセージ・その他	オリジナルファイルに毎時間、努力し工夫した作品や資料などを収め、やがて様々な現場で役立ててください。																													
実務経験の有無	<u>あり</u> ・なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無																												

科目区分	専門教育 科目	科 目 名	保育内容総論	担当者	田中裕子	開講時期	1年(2年 課程のみ) 後期	授業形態・ 単位数	演習 1単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS20104	資格等取得との関連	幼稚園:必修・保育士:必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	<p>テーマ:保育内容に対する総合的な理解を深める。</p> <p>到達目標(学修成果)①:幼稚園教育要領における保育内容の「領域」別の「ねらい」や「内容」について理解し、保育教材に反映できる。</p> <p>到達目標(学修成果)②:遊びの意義、環境との主体的なかわり、生活経験と保育内容との関係について理解し、言語的に説明できる。</p> <p>到達目標(学修成果)③:情報機器及び教材の活用の視点を含め、保育教材に対する理解と基礎的な保育技術を修得する。</p>								
授業概要	<p>本授業では、幼稚園教諭または園長として長年の実務経験を有する教員が、保育活動の基盤となる「幼稚園教育要領」を中心に、幼稚園における保育内容の基礎的理解と構造的把握を図る。特に、保育内容の中核を成す「領域」**の概念を整理し、保育を総合的にとらえる視点および子ども理解に資する知識・技術の習得を目的とする。</p> <p>授業では、複数の保育教材を取り上げ、学生自身が実践的に操作・検討する機会を設ける。また、グループワークを通して教材の活用方法や指導の在り方を協議し、協働的な学びを通じて実践的な保育技術の向上を図る。これらの学修活動を通して、幼児教育における保育内容の理解を深化させ、現場で求められる専門的力の育成をめざす。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と到達目 標(学修成果) との対応	◎	<p>① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。</p> <p>② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。</p> <p>③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。</p>							
◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目									
授業計画					時間外学習				
1回	第1章 子どもを取り巻く社会環境の変化と保育内容 乳幼児にとっての環境とは 事前:テキスト第1章を読んでおく(0.5h)				事前:テキスト第1章を読んでおく(0.5h) 事後:事後:手遊びの確認と課題シートを利用したの振り返り(0.5h)				
2回	第2章 保育所の役割と保育内容 幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園等にはそれぞれ異なる役割があるが、保育内容は共通であることを確認する。				事前:テキスト第2章を読んでおく(0.5h) 事後:手遊びの確認と課題シートを利用したの振り返り(0.5h)				
3回	第3章 幼稚園の役割と保育内容				事前:テキスト第3章を読んでおく(0.5h) 事後:手遊びの確認と課題シートを利用したの振り返り(0.5h)				
4回	第4章 保育内容を展開するプロセス				事前:テキスト第4章を読んでおく(0.5h) 事後:手遊びの確認と課題シートを利用したの振り返り(1.5h)				
5回	第5章 0~2歳児の保育内容とその展開				事前:テキスト第5章を読んでおく(0.5h) 事後:手遊びの確認と課題シートを利用したの振り返り(1.5h)				
6回	第6章 3歳児の保育内容とその展開				事前:テキスト第6章を読んでおく(0.5h) 事後:手遊びの確認と課題シートを利用したの振り返り(1.5h)				
7回	第7章 4・5歳児の保育内容とその展開				事前:テキスト第7章を読んでおく(0.5h) 事後:手遊びの確認と課題シートを利用したの振り返り(1.5h)				
8回	第8章 異年齢児の保育内容とその展開 年齢ごとの発達に応じた保育を踏まえつつ、異年齢で交流する保育の意義や教育的効果、実施時の課題を、事例を通して考える。				事前:テキスト第8章を読んでおく(0.5h) 事後:手遊びの確認と課題シートを利用したの振り返り(1.5h)				
9回	第9章 保幼小連携を創造する保育内容 幼児期に育てたい資質・能力や「就学までに育てほしい姿」を理解し、保育と小学校教育をなめらかにつなぐための取り組みを考える。保育園・幼稚園と小学校の交流や接続の事例を通して、保幼小連携のあり方を検討する。				事前:テキスト第9章を読んでおく(0.5h) 事後:手遊びの確認と課題シートを利用したの振り返り(1.5h)				
10回	第10章 子育て支援を創造する保育内容 地域の子育て支援や地域資源を活かした保育のあり方を考える。自分の住む地域で行われている子育て支援や、幼児が地域の人・場所からどんな学びを得ているかを、具体事例を通して検討する。				事前:テキスト第10章を読んでおく(0.5h) 事後:手遊びの確認と課題シートを利用したの振り返り(1.5h)				

11回	第11章 地域に開かれた保育所・幼稚園を創造する保育内容 乳幼児の発達と地域社会のかかわりを学ぶ。	事前:テキスト第11章を読んでおく(0.5h) 事後:手遊びの確認と課題シートを利用した振り返り(1.5h)					
12回	第12章 わが国における保育内容の変遷 戦前の保育内容、戦後の保育内容を学ぶ。	事前:テキスト第12章を読んでおく(0.5h) 事後:手遊びの確認と課題シートを利用した振り返り(1.5h)					
13回	第13章 諸外国の保育所・幼稚園の保育内容 諸外国の保育所・幼稚園の保育内容を学び、日本の幼児教育・保育との違いを知る。	事前:テキスト第13章を読んでおく(0.5h) 事後:手遊びの確認と課題シートを利用した振り返り(1.5h)					
14回	第14章 これからの保育内容の課題として特別支援保育、多文化共生保育、安全に配慮した保育などについて考える。	事前:テキスト第14章を読んでおく(0.5h) 事後:手遊びの確認と課題シートを利用した振り返り(1.5h)					
15回	まとめ これまでの学びを総合して、すべての子どもが安心して園で過ごすことができる保育を保育者が協働して作っていくことが必要性であることを確認する。	事前:15回の授業を振り返り、レポートを作成する(0.5h) 事後:15回の課題シート④を利用した振り返り(1.5h)					
16回	定期試験						
テキスト	豊田和子編著、田口他共著「保育内容総論(第2版)」みらい、2018年						
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 文部科学省2018『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、 厚生労働省2018『保育所保育指針解説』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省2018『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館						
到達目標(学修成果)及び観点	【到達目標(学修成果)及び観点】						
	到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	
	到達目標①	○	○		○		
	到達目標②		○	○			
	到達目標③	○		○	○		
評価方法・基準	【評価方法・基準】						
	評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()
	到達目標①	25%		10%	10%	20%	
	到達目標②	25%					
	到達目標③				10%		
ルーブリック評価	ルーブリック評価: 取り入れている ・ 取り入っていない						
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:毎回の授業時に提出する課題シートに記入された質問や疑問を通して相談にのる他、オフィスアワーを活用して対応する。 学習成果のフィードバック:課題・提出物の返却を通して実施する。						
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園:領域及び保育内容の指導法に関する科目/保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。) 保育士:保育の内容・方法に関する科目/保育内容総論						
授業評価アンケート結果を受けての改善点	Bは肯定回答率100%、A95.7%と高い評価を得られた。 今後も学修の方法を分かりやすく、学生の興味・関心を引き出し、よりよい学修を目指したい。						
受講生へのメッセージ・その他	授業後は課題シートを必ず提出すること。(評価あり) 実践に役立つ内容が多いため、できるだけ欠席しないようにしましょう。						
実務経験の有無	あり ・ なし		双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無		あり ・ なし		

科目区分	専門教育 科目	科目 名	幼児の音楽表現Ⅱ	担当者	渡辺ユリナ・村木清子 北川由紀・宮田美佐 奥村優・新谷麻衣 松井奈都子	開講時期	1年 後期	授業形態・ 単位数	演習 1単位	
卒業要件	必修	ナンバリング	CS20105	資格等取得との関連	幼稚園：必修・保育士：選択必修					
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	テーマ：音楽・音楽表現の知識と技能を習得し、保育者としての音楽表現や子どもの音楽表現の育成に活かす 到達目標(学修成果)①：表現の本質を理解し、他者に向けた表現力を高めると共に多様な表現を認め受け止めることができる 到達目標(学修成果)②：遊びの中での音楽表現活動を展開するために、試行錯誤し工夫して課題解決に向かうことができる 到達目標(学修成果)③：保育・教育現場で用いる鍵盤楽器の基礎技術を身につけることができる									
授業概要	幼児の音楽表現Ⅰにおける学びを基盤とし、幼稚園教諭や保育士を目指す学生に必要な音楽・音楽表現の知識と技能を習得することを目的とした授業である。得た知識と技能を活かして、保育者の子どもに対する、または子ども自身の豊かな音楽表現を育成する方法を学ぶ。グループワークを行い、他者と関わりの中で音楽表現に必要な柔軟かつ受容的な姿勢を身につける。									
ディプロマポリシー (DP)と到達目 標(学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。 ② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。 ③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。								
		◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
授業計画					時間外学習					
1回	オリエンテーション、前期試験課題曲の確認(プレゼンテーション) ピアノ個人指導				事前：「幼児の音楽表現Ⅰ」の学習内容の復習(1h) 事後：その都度、指示した課題を習得する(1h)					
2回	模擬保育(1)弾き歌いの導入・歌唱(グループワーク) ピアノ個人指導				事前：課題曲の導入を考える(1h) 事後：その都度、指示した課題を習得する(1h)					
3回	模擬保育(2)弾き歌い 試行(グループワーク) ピアノ個人指導				事前：課題曲の練習をする(1h) 事後：その都度、指示した課題を習得する(1h)					
4回	模擬保育(3)弾き歌い 実践(プレゼンテーション) ピアノ個人指導				事前：課題曲の練習をする(1h) 事後：その都度、指示した課題を習得する(1h)					
5回	模擬保育(4)弾き歌い 実践(プレゼンテーション) ピアノ個人指導				事前：課題曲の練習をする(1h) 事後：その都度、指示した課題を習得する(1h)					
6回	ピアノの奏法、練習法 ピアノ個人指導				事前：コードについて調べる(1h) 事後：その都度、指示した課題を習得する(1h)					
7回	音・音楽あそびノートの作成(1)調査・構想(グループワーク) ピアノ個人指導				事前：音・音楽のあそびを考える(1h) 事後：その都度、指示した課題を習得する(1h)					
8回	音・音楽あそびノートの作成(2)試行(グループワーク) ピアノ個人指導				事前：音・音楽あそびノートを作成する(1h) 事後：その都度、指示した課題を習得する(1h)					
9回	音・音楽あそびノートの作成(3)改善(グループワーク) ピアノ個人指導				事前：音・音楽あそびノートを修正する(1h) 事後：その都度、指示した課題を習得する(1h)					
10回	音・音楽あそびノートの作成(4)完成(グループワーク) ピアノ個人指導				事前：音・音楽あそびノートを修正する(1h) 事後：その都度、指示した課題を習得する(1h)					
11回	季節の音楽 ベル(1)奏法・読譜(グループワーク) ピアノ個人指導				事前：ハンドベルについて調べる(1h) 事後：その都度、指示した課題を習得する(1h)					
12回	季節の音楽 ベル(2)試行、模擬保育(1)弾き歌いの導入・歌唱 ピアノ個人指導				事前：ハンドベルの練習をする(1h) 事後：その都度、指示した課題を習得する(1h)					
13回	季節の音楽 ベル(3)実践、模擬保育(2)弾き歌い 試行 ピアノ個人指導				事前：ハンドベルの練習をする(1h) 事後：その都度、指示した課題を習得する(1h)					

14回	模擬保育(3) 弾き歌い 実践(プレゼンテーション) ピアノ個人指導	事前:課題曲の練習をする(1h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(1h)																												
15回	模擬保育(4) 弾き歌い 実践(プレゼンテーション) ピアノ個人指導	事前:課題曲の練習をする(1h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(1h)																												
16回	定期試験																													
テキスト	適宜、資料集を使用する。																													
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】																													
到達目標(学修成果)及び観点	<p>【到達目標(学修成果)及び観点】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標(学修成果)及び観点</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>技能・表現</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○		○			到達目標②		○	○			到達目標③			○	○					
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○		○																											
到達目標②		○	○																											
到達目標③			○	○																										
評価方法・基準	<p>【評価方法・基準】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標(学修成果)</th> <th>期末試験 (筆記試験・実技試験)</th> <th>小テスト</th> <th>課題提出物 レポート</th> <th>発表・実技</th> <th>取り組み 姿勢</th> <th>その他 ()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>10%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td>15%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td></td> <td>15%</td> <td></td> <td>15%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>30%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>5%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価: 取り入れている ・ <input type="checkbox"/> 取り入っていない</p>		評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()	到達目標①	10%		10%		15%		到達目標②			15%		15%		到達目標③	30%				5%	
評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()																								
到達目標①	10%		10%		15%																									
到達目標②			15%		15%																									
到達目標③	30%				5%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談: オフィスアワー</p> <p>学習成果のフィードバック: 課題学習の振り返りは授業の中で講評します。</p>																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	<p>幼稚園: 領域及び保育内容の指導法に関する科目/領域に関する専門的事項/表現</p> <p>保育士: 保育の内容・方法に関する科目/各指定保育士養成施設において設定</p>																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	<p>ピアノ個人レッスンについては、公平性、授業の質を保証するために、担当教員を固定せず複数の教員が順番に指導する形態をとり、授業内での自主練習時間・個人レッスン時間の制限を設けています。授業内におけるピアノ練習時間延長の要望に対しては、個人のニーズに合わせた解決方法(履修の選択、自宅練習時間の確保の計画支援など多岐にわたる)を提案したいと思います。</p>																													
受講生へのメッセージ・その他	<p>授業では常に、子どもの表現を読み取り、育てる保育者であることを意識において表現しましょう。</p> <p>技術を習得する場面が多いため、予習・復習にかかる時間をしっかりともち、毎回出席しましょう。</p>																													
実務経験の有無	あり ・ <input type="checkbox"/> なし	<p>双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無</p> <p>あり ・ <input type="checkbox"/> なし</p>																												

科目区分	専門教育 科目	科 目 名	幼児の造形表現Ⅱ	担当者	西脇義照	開講時期	I 後期	授業形態・ 単位数	演習 I 単位	
卒業要件	必修	ナンバリング	CS20106	資格等取得との関連	幼稚園：必修・保育士：選択必修					
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	<p>テーマ：幼児の造形表現活動を豊かにするために、製作等を通して知識や技術を体得し、感性を磨く。</p> <p>到達目標(学修成果)①：画材や道具などの基礎基本に関する技術を習得する。</p> <p>到達目標(学修成果)②：幼児の造形表現の特徴を知り、幼児と一緒に楽しみながら製作する内容の学習過程の実技を通して学ぶ。</p> <p>到達目標(学修成果)③：幼児が楽しく安全に遊ぶおもちゃや季節感のある作品づくりを試みる。</p>									
授業概要	<p>本科目は美術教育を専門に学んだ小学校教員として、さらに岐阜県教育センターでの指導(幼～高校)の実務経験を有する教員(西脇義照)により、色と形に関わる基礎基本的な内容と、将来の保育者としての造形に関わる内容を鑑みて体系的に習得する。とりわけ、クレヨンやパス、絵具などの画材を幼児に習得させ易い内容で実技を通し、グループワークなどを取り入れて学ぶ。</p> <p>身近な材料などを使って、形や色、組み合わせの工夫をして、活動する幼児の姿を思い浮かべながら製作する。その際、はさみや用途に応じた接着剤の使用方法を体得する。</p> <p>季節感を大切にしたい題材や作って遊ぶことのできる題材を設定し、共同で作る体験をしながらつくり出す喜びと充実感を持つ。「計画→材料準備→製作→鑑賞→片付け→振り返り」のサイクルを実施する。作品はオリジナルファイルに収め累積する。</p>									
ディプロマ (DP)と到達目 標(学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。								
	○	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。								
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。								
		◎=DP 達成のために特に重要な項目				○=DP 達成のために重要な項目				△=DP 達成のために望ましい項目
		授業計画				時間外学習				
1回		モダンテクニック・アラカルトⅡ (スクラッチング、スタンピング、吹き流し)				事前：テキストP120～131(0.5H) 事後：振り返りシートの記入(0.5H)				
2回		共同製作・グループごとに畳一枚分の大きな紙にローラー走らせたり 手足のスタンピング等を施す。				事前：テキストP200～201(0.5H) 事後：振り返りシートの記入(0.5H)				
3回		共同製作・前回の色や形から想像して人や動物などを描きこむ。○○ がいっぱい!!				事前：テキストP207～223(0.5H) 事後：振り返りシートの記入(0.5H)				
4回		何色がすき?カラフルペットさん①(水あり) (身近な人工材料工作)				事前：テキストP182(0.5H) 事後：振り返りシートの記入(0.5H)				
5回		何色がすき?カラフルペットさん②(水無し)				事前：テキストP182(0.5H) 事後：振り返りシートの記入(0.5H)				
6回		何色がすき?カラフルペットさん (発表とイラスト、表紙絵の一部)				事前：テキストP182(0.5H) 事後：振り返りシートの記入(0.5H)				
7回		和紙で作るミニタペストリー(スプレーと文字)				事前：タペストリーに書く文字決め(0.5H) 事後：振り返りシートの記入(0.5H)				
8回		落ち葉を集めて葉っぱマン①(顔づくり)(自然物徹底工作)				事前：テキストP92～93(0.5H) 事後：振り返りシートの記入(0.5H)				
9回		落ち葉を集めて葉っぱマン②(胴体づくり)				事前：胴体を筒型か顔と同じ素材か選択しておく。(0.5H) 事後：振り返りシートの記入(0.5H)：				
10回		落ち葉を集めて葉っぱマンの発表とイラスト画				事前：葉っぱマンの発表準備(0.5H) 事後：振り返りシートの記入				
11回		どんな色が好き? 歌に合わせて描いた絵の発表				事前：好きな色決めと描くものを決める(0.5H) 事後：振り返りシートの記入				
12回		モデル人形を描く(ポーズを決め、見ることに徹底)				事前：テーマに合ったモデル人形のフォーム作り。(0.5H) 事後：振り返りシートの記入(0.5H)				

13回	紙粘土でつくる雪だるま	事前:テキストP72~75(0.5H) 事後:振り返りシートの記入(0.5H)																												
14回	石ころの大変身(身近な自然素材とアクリル絵の具)	事前:テキストP72~73(0.5H) 事後:振り返りシートの記入(0.5H)																												
15回	子どもの絵のすばらしさ(絵には魔法がかけられる!!)・全体のまとめレポート	事前:展示された作品を鑑賞しておく(0.5H) 事後:振り返りシートの記入(0.5H)																												
16回	定期試験																													
テキスト	幼児造形の基礎(萌文書林)(安藤恭子・共著)																													
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 美術教育(教育美術振興会)MOE(白泉社) 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領																													
到達目標(学修成果)及び観点	<p>【到達目標(学修成果)及び観点】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標(学修成果)及び観点</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>技能・表現</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○			○		到達目標②	○		○			到達目標③		○	○						
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○			○																										
到達目標②	○		○																											
到達目標③		○	○																											
評価方法・基準	<p>【評価方法・基準】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標(学修成果)</th> <th>期末試験 (筆記試験・実技試験)</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物 レポート</th> <th>発表・実技</th> <th>取り組み 姿勢</th> <th>その他 ()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>10%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>20%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>10%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価: 取り入れている・<u>取り入っていない</u></p>		評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()	到達目標①	10%		10%		10%		到達目標②	20%		10%		10%		到達目標③	10%		10%		10%	
評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()																								
到達目標①	10%		10%		10%																									
到達目標②	20%		10%		10%																									
到達目標③	10%		10%		10%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談:授業後や昼休みに受け付ける。授業に関連した作品作りについて追及したい場合や幼児の造形表現の関わり方をさらに相談したい場合は、図工室や準備室を開放して、相談にのる。</p> <p>学習成果のフィードバック:オリジナルファイルを基に、整理しながら今後の自身の課題を色、形、態度の視点から見つめ直し、よりよい学習ができるように振り返りシートに明確に記述し変化を確認するようにする。</p>																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	<p>幼稚園:領域及び保育内容の指導法に関する科目/領域に関する専門的事項/表現</p> <p>保育士:保育の内容・方法に関する科目/各指定保育士養成施設において設定</p>																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	一人一人が、線描、彩色、切る、貼るといった基本的な技術力が十分に授業の中で身に付き、力が向上するように、授業の構造化を工夫して行い、磨き合いの場をより充実させる。																													
受講生へのメッセージ・その他	オリジナルファイルに毎時間、努力し工夫した作品や資料などを収め、やがて様々な現場で役立ててください。																													
実務経験の有無	<u>あり</u> ・なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無																												

科目区分	専門教育 科目	科 目 名	健康指導法	担当者	北畠香世子	開講時期	2 前期	授業形態・ 単位数	演習 1単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS20201	資格等取得との関連	幼稚園:必修・保育士:必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	<p>テーマ: 乳幼児期の健康を支える。</p> <p>到達目標(学修成果)①: 領域「健康」のねらいと内容及びその取扱いについて理解し、情報機器及び教材を保育構想に活用することができる。</p> <p>到達目標(学修成果)②: 指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。</p> <p>到達目標(学修成果)③: 模擬保育とグループディスカッションを通して、保育を改善する視点を持つことができる。</p>								
授業概要	<p>本科目は公立幼稚園において教諭、教頭、園長としての長年の実務経験を生かして、幼稚園教育要領等に示されている幼児教育の基本を踏まえ、保育内容「健康」領域のねらい及び内容を理解する。また、幼児期の健康な心身の発育・発達の基本理論を基に、現代の幼児の心身に現れている健康上の諸問題の実態を把握し、その対策・指導・今後の課題などについて保育者の果たす役割を考えていく。さらに、健康指導案・手作り教材を作成・プレゼンテーションし、模擬保育及び事後のグループワークを通して適切な指導方法を身に付ける。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と到達目標 (学修成果) との対応	◎	<p>① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。</p> <p>② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。</p> <p>③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。</p>							
◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目									
授業計画					時間外学習				
1回	ガイダンス 健康とは何か			事前: テキスト第1章を読む。健康について考える。(0.5h) 事後: 「健康とは何か」のプリントの記入とノート整理。(0.5h)					
2回	領域「健康」の理解と指導法			事前: テキスト第8章を読む。健康な心と体を育むために必要な環境について考える。(0.5h) 事後: 「領域「健康」の理解と指導法」のプリントの記入とノート整理。(0.5h)					
3回	乳幼児期の安全教育とけがの予防			事前: テキスト第2章、第4章を読む。子どもの安全のための大人(保育者)の役割について考える。(0.5h) 事後: 「乳幼児期の安全教育とけがの予防」のプリントの記入とノート整理。(0.5h)					
4回	子どもの身体の発育・発達 乳幼児期の運動			事前: テキスト第3章を読む。子どもにとっての運動の意味について考える。(0.5h) 事後: 「子どもの身体の発育・発達、乳幼児期の運動」のプリントの記入とノート整理。(0.5h)					
5回	乳幼児期の遊びと運動			事前: テキスト第6章を読む。子どもの遊びと大人の遊びの違いについて考える。(0.5h) 事後: 「乳幼児期の遊びと運動」のプリントの記入とノート整理。(0.5h)					
6回	乳幼児期の生活習慣の形成			事前: テキスト第5章を読む。自己の生活習慣について振り返る。(0.5h) 事後: 「乳幼児期の生活習慣の形成」のプリントの記入とノート整理。(0.5h)					
7回	乳幼児期の生活と食			事前: テキスト第7章を読む。子どもの食育について考える。(0.5h) 事後: 「乳幼児期の生活と食」のプリントの記入とノート整理。(0.5h)					
8回	領域「健康」をめぐる現代的問題			事前: テキスト第9章を読む。子どもの健康を維持に対する大人(保育者)の役割について考える。(0.5h) 事後: 「領域「健康」をめぐる現代的問題」のプリントの記入とノート整理。(0.5h)					
9回	指導案作成から保育へ			事前: テキスト第10章を読む。計画の必要性について考える。(0.5h) 事後: 「健康」の指導案作成用プリントの記入とノートの作成。(0.5h)					
10回	領域「健康」の理解と保育実践の総括 演習のガイダンス			事前: 自己のテーマを決め、健康指導案の作成と資料収集。(1h) 事後: 指導案及び教材の作成。(1h)					
11回	健康指導案の演習(1) テーマ選択と資料収集			事前: 自己のテーマを決め、健康指導案の作成と資料収集。(1h) 事後: テーマに沿って、指導案及び教材の作成。(1h)					

12回	健康指導案の演習(2)グループワーク 教材作成と発表練習	事前:自己のテーマに関する参考資料の収集及び教材の作成。(1h) 事後:指導案及び教材の作成、完成。(1h)																												
13回	健康指導案の発表(1)ディスカッション 自己発表と振り返り	事前:自己の健康指導案・教材の見直し・検討。(1h) 事後:発表事案を基に、自己の健康指導案の検討、修正。(1h)																												
14回	健康指導案の発表(2)ディスカッション 他者の発表の講評	事前:自己の健康指導案・教材の見直し、検討。(1h) 事後:発表事案を基に、自己の健康指導案の検討、修正。(1h)																												
15回	領域「健康」まとめ	事前:今までの学びの復習をする。(1h) 事後:授業全体のまとめと、配布プリント及びノートの整理。(0.5h)																												
16回	定期試験																													
テキスト	川邊貴子編著『演習 保育内容 健康』建帛社、2019																													
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、2018 厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』フレーベル館、2018 清水将之・相樂真樹子編著『実践例から学びを深める 健康指導法』わかば社、2022 日本発育発達学会編『幼児期運動指針実践ガイド』杏林書院、2019 小泉英明ほか『齋藤公子 さくら・さくらんぼ リズム遊び』K・フリーダム、2022																													
到達目標(学修成果)及び観点	【到達目標(学修成果)及び観点】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標(学修成果)及び観点</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>技能・表現</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○	○				到達目標②	○	○				到達目標③			○	○					
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○	○																												
到達目標②	○	○																												
到達目標③			○	○																										
評価方法・基準	【評価方法・基準】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標(学修成果)</th> <th>期末試験 (筆記試験・実技試験)</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物 レポート</th> <th>発表・実技</th> <th>取り組み 姿勢</th> <th>その他 ()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>40%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>20%</td> <td>10%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()	到達目標①	40%		10%				到達目標②			10%		10%		到達目標③				20%	10%	
評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()																								
到達目標①	40%		10%																											
到達目標②			10%		10%																									
到達目標③				20%	10%																									
ルーブリック評価	ルーブリック評価: 取り入れている ・ <input type="checkbox"/> 取り入っていない																													
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:授業後やオフィスアワーの日時に対応します。 学習成果のフィードバック:授業の中で指示をします。																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園:領域及び保育内容の指導法に関する科目/保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。) 保育士:保育の内容・方法に関する科目/保育内容演習																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	新規担当のため評価なし。 適宜 DVD 視聴や模擬保育発表等を通して、保育をイメージしながら指導案立案や教材研究等に子どもの視点から考えていける場を設けていきたいと思っています。																													
受講生へのメッセージ・その他	子どもの基本的な生活習慣・運動・食育等の大切さを理解し、模擬保育等を通して子どもの心と身体の健康と安全について学びましょう。保育者をめざす自分自身の基本的な生活習慣や心と体の健康について考えていきましょう。																													
実務経験の有無	<input checked="" type="checkbox"/> あり ・ なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無																												

科目区分	専門教育 科目	科 目 名	幼児の音楽 I	担当者	渡辺ユリナ・村木清子 北川由紀・宮田美佐	開講時期	2年 前期	授業形態・ 単位数	演習 I 単位
卒業要件		ナンバリング	CS20202	資格等取得との関連	保育士：選択必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	テーマ:保育者として必要なピアノの演奏、歌唱の技術を身につける 到達目標(学修成果)①:様々なこどもの歌を知り、各曲の良さや意味を伝える導入をすることができる 到達目標(学修成果)②:保育・教育現場での実践を見通して鍵盤楽器の技術を向上することができる 到達目標(学修成果)③:子どもの豊かな表現や歌を楽しむ気持ちを支える保育者として、思いや意図をもって弾き歌いできる								
授業概要	ピアノ実技を中心に、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定しながら、保育現場に寄り添った音楽表現活動およびその指導方法について学ぶことを目的とした授業である。グループワークを取り入れ、他者と関わりの中で音楽表現に必要な柔軟かつ受容的な姿勢を身に着ける。								
ディプロマポリシー (DP)と到達目標 (学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	○	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
	△	③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目									
授業計画						時間外学習			
1回	オリエンテーション、幼児の音楽表現の確認 ピアノ個人指導				事前:ピアノの基礎練習と課題曲練習(1h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(1h)				
2回	模擬保育(1) 導入・歌唱(グループワーク) ピアノ個人指導				事前:ピアノの基礎練習と課題曲練習(1h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(1h)				
3回	模擬保育(2) 試行 (グループワーク) ピアノ個人指導				事前:ピアノの基礎練習と課題曲練習(1h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(1h)				
4回	模擬保育(3) 実践 (プレゼンテーション) ピアノ個人指導				事前:ピアノの基礎練習と課題曲練習(1h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(1h)				
5回	模擬保育(4) 実践 (プレゼンテーション) ピアノ個人指導				事前:ピアノの基礎練習と課題曲練習(1h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(1h)				
6回	模擬保育(1) 導入・歌唱(グループワーク)、ピアノの奏法・練習法 ピアノ個人指導				事前:コード奏について調べる (1h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(1h)				
7回	模擬保育(2) 試行 (グループワーク) ピアノ個人指導				事前:ピアノの基礎練習と課題曲練習(1h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(1h)				
8回	模擬保育(3) 試行 (グループワーク) ピアノ個人指導				事前:ピアノの基礎練習と課題曲練習(1h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(1h)				
9回	模擬保育(4) 実践 (プレゼンテーション) ピアノ個人指導				事前:ピアノの基礎練習と課題曲練習(1h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(1h)				
10回	模擬保育(5) 実践 (プレゼンテーション) ピアノ個人指導				事前:ピアノの基礎練習と課題曲練習(1h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(1h)				
11回	ピアノの奏法 応用(1) ピアノ個人指導				事前:ピアノの基礎練習と課題曲練習(1h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(1h)				
12回	模擬保育(1) 導入・歌唱(グループワーク) ピアノ個人指導				事前:ピアノの基礎練習と課題曲練習(1h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(1h)				
13回	模擬保育(2) 試行 (グループワーク) ピアノ個人指導				事前:ピアノの基礎練習と課題曲練習(1h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(1h)				
14回	模擬保育(3) 実践 (プレゼンテーション) ピアノ個人指導				事前:ピアノの基礎練習と課題曲練習(1h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(1h)				

15回	模擬保育(4)実践(プレゼンテーション) ピアノ個人指導	事前:ピアノの基礎練習と課題曲練習(1h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(1h)																												
16回	定期試験																													
テキスト	適宜、資料集を使用する。																													
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 コードで弾けるピアノ伴奏法 峯晋/藤井菜摘 著(2023)教育芸術社																													
到達目標(学修成果)及び観点	<p>【到達目標(学修成果)及び観点】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標(学修成果)及び観点</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>技能・表現</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○		○			到達目標②			○	○		到達目標③		○	○						
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○		○																											
到達目標②			○	○																										
到達目標③		○	○																											
評価方法・基準	<p>【評価方法・基準】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標(学修成果)</th> <th>期末試験 (筆記試験・実技試験)</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物 レポート</th> <th>発表・実技</th> <th>取り組み 姿勢</th> <th>その他 ()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>5%</td> <td></td> <td>5%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>30%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>5%</td> <td></td> <td></td> <td>30%</td> <td>5%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()	到達目標①	5%		5%		10%		到達目標②	30%				10%		到達目標③	5%			30%	5%	
評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()																								
到達目標①	5%		5%		10%																									
到達目標②	30%				10%																									
到達目標③	5%			30%	5%																									
ルーブリック評価	ルーブリック評価: 取り入れている 取り入っていない																													
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談: オフィスアワー 学習成果のフィードバック: 課題学習の振り返りは授業の中で講評します。																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士: 保育の内容・方法に関する科目/各指定保育士養成施設において設定																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	ピアノ個人レッスンについては、公平性、授業の質を保証するために、担当教員を固定せず複数の教員が順番に指導する形態をとり、授業内での自主練習時間・個人レッスン時間の制限を設けています。授業の目的、授業形態の意味をふまえた上で、個人のニーズに合わせた解決方法(履修の選択、自宅練習時間の確保の計画支援など多岐にわたる)を提案したいと思います。																													
受講生へのメッセージ・その他	技術を習得する場面が多いため、予習・復習にかかる時間をしっかりともち、毎回出席しましょう。 ピアノ技術の向上を目指しますが、その目的が演奏披露ではなく、子どもの豊かな表現や歌を楽しむ気持ちを支えるためであることを忘れずに取り組みましょう。																													
実務経験の有無	あり ・ なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無																												
		あり ・ なし																												

科目区分	専門教育科目	科目名	保育指導法	担当者	寺西恵子	開講時期	2年前期	授業形態・単位数	講義 2単位
卒業要件	プログラム必修 (乳幼児プロ) (地域連携プロ)	ナンバリング	CS20203	資格等取得との関連					
テーマ・授業の到達目標(学修成果)	<p>テーマ:乳幼児期の子どもの理解を深めると共に現場で生きる実践を理論も含め学ぶ。</p> <p>到達目標(学修成果)①:乳幼児期の子どもの発達について理解を深め説明できるようになる。</p> <p>到達目標(学修成果)②:子どもを取り巻く様々な環境について学理解し具体的に学ぶ。</p> <p>到達目標(学修成果)③:保育材料を用いて手作り教材を作ったり、実践に活かせる実技を学ぶ。</p>								
授業概要	<p>三重県内保育所での実務経験をふまえ、0歳から就学前の子どもたちや保護者と関わった経験を活かして実践や事例を交えた講義を主軸においてすすめていく。また保育・教育現場で活用や応用ができるように教材やあそびをとりいれていく。保育教育現場には様々な仕事があり、その仕事の内容は、多岐にわたっている。事例を通して仕事内容や実践の中での疑問など保育について考える機会がグループワークの中で提供できるようにする。実技においては簡単な手作り教材を作り、保育現場で実践に取り入れやすい遊びを行い披露する経験を楽しみながら技術向上となるようにする。</p>								
ディプロマポリシー(DP)と到達目標(学修成果)との対応		① 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者として確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。							
	◎	② 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。							
		③ 子どもや家族・地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画				時間外学習				
1回	オリエンテーション〈授業の概要と学習方法、評価について〉 保育者の仕事と子ども理解 ～エピソードから考えグループワーク～ 絵本の読み聞かせワークや「絵本だより」作成について説明する				事前:シラバスに目を通し内容を把握する テキストp.3～13を読んでおく 事後:授業内容を振り返る(2h)				
2回	養護及び教育の一体的展開(保育所保育指針より) 実践あそび「ふれあいあそび」「手遊び」				事前:保育所保育指針第1章総則を読んでおく 事後:授業内容を振り返る(2h)				
3回	保育の出発点としての子どもの理解 ～子どもの内面を知る～ 実践あそび「ことば遊び」				事前:テキストp.23～43を読んでおく(2h) 事後:配布資料について調べ学習を行う(2h)				
4回	生活の場面における保育者の援助～グループワーク～「子どもの誕生にまつわる行事について」 実践あそび「つながり遊び」				事前:配布資料について調べ学習を行う(2h) 事後:授業内容を振り返る(2h)				
5回	遊びを通じた保育の方法～遊びに関してのグループワーク～ 実践あそび「エプロンシアター」				事前:テキストp.99～110を読んでおく(2h) 事後:授業内容を振り返る(2h)				
6回	環境を通じた保育の方法～事例をもとにグループワーク～ ～子どもをとりまく環境～ 実践あそび「パネルシアター」				事前:テキストp.83～89を読んでおく(2h) 事後:授業内容を振り返る(2h)				
7回	配慮を要する子どもへの保育～統合保育の中で育つか～ 手作り絵本紹介				事前:テキストp.211～217を読んでおく(2h) 事後:授業内容を振り返る(2h)				
8回	幼稚園実習を学びの場にするために ～絵本の読み聞かせについて～ 実践あそび「新聞紙で演じよう」				事前:持ち物～ハサミ・のり・黒マジック(2h) 事後:授業内容を振り返る(2h)				
9回	保護者支援について ～子育ての現状～ DVD 視聴覚教材後にグループワーク				事前:テキストp.177～180を読んでおく(2h) 事後:配布資料を提出するためにまとめる(2h)				
10回	保護者との連携のために ～保育の発信ツール～ 実践あそび「ペープサート」				事前:テキストp.181～186をよんでおく(2h) 事後:授業内容を振り返る(2h)				
11回	保育の計画・実践・評価について グループワーク(0,1歳児と読みたい絵本)				事前:テキストp.163～174、絵本を選書、読み聞かせ(2h) 事後:授業内容を振り返る(2h)				
12回	子どもの健康と安全 ～保育現場でのヒヤリハットについて～ グループワーク(2,3歳児と読みたい絵本)				事前:テキストp.139、絵本を選書、読み聞かせ練習(2h) 事後:授業内容を振り返る(2h)・絵本を選書				

13回	小学校との連携 グループワーク(4,5歳児と読みたい絵本)	事前:テキストp.193~207、読み聞かせ練習(2h) 事後:授業内容を振り返る(2h)																												
14回	手作り製作 ~カード作り(バースデーカード他)~ 「絵本だより」提出する	事前:絵本だよりの作成(2h) 事後:授業内容を振り返る(2h)																												
15回	前期授業の振り返り DVD視聴覚教材後にグループワーク	事前:前期全資料の確認(2h) 事後:定期試験のための準備(2h)																												
16回	定期試験(筆記試験)																													
テキスト	大豆生田啓友・渡邊英則 編著「保育方法・指導法」 ミネルヴァ書房(2020)																													
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 ・厚生労働省「保育所保育指針(2017)」フレーベル館 ・文部科学省「幼稚園教育要領(2017)」フレーベル館 ・内閣府、文部科学省、厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017)」フレーベル館																													
到達目標(学修成果)及び観点	<p>【到達目標(学修成果)及び観点】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標(学修成果)及び観点</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>技能・表現</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○					到達目標②	○	○	○			到達目標③		○	○	○					
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○																													
到達目標②	○	○	○																											
到達目標③		○	○	○																										
評価方法・基準	<p>【評価方法・基準】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標(学修成果)</th> <th>定期試験 (筆記試験・実技試験)</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物・レポート</th> <th>発表・実技</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>20%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>5%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td></td> <td>5%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>10%</td> <td></td> <td>10%</td> <td>15%</td> <td>5%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価: 取り入れている ・ 取り入っていない</p>		評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()	到達目標①	20%				5%		到達目標②	10%	10%	10%		5%		到達目標③	10%		10%	15%	5%	
評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①	20%				5%																									
到達目標②	10%	10%	10%		5%																									
到達目標③	10%		10%	15%	5%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談:授業終了前後に教室(または非常勤講師室)で応じます。 学習成果のフィードバック:課題や提出物は授業時間内に後日返却します</p>																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:保育士の資格取得ではないが、学校独自の科目として開設されている教科目																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	<p>実務経験の中での事例紹介やそれに伴ってのグループワークが多く、他者の意見を聞く機会を増やし新しい学びにつながればと意識した。経験談では、リアルに想像できて集中できたという意見をいただいたので、今後も具体的な子どもの姿のイメージがわくような事例検討をしていきたい。しかし、中にはそれに対して苦手意識をもっていることも考えグループ人数、発表の仕方など無理のないように取り組めたらと考えている。</p>																													
受講生へのメッセージ・その他	<p>・講義での学びと実習時での学びが結び付けられるように関心を持って努めましょう。 ・講義内における学び合いの機会を大切に、様々なメンバーとのコミュニケーションや傾聴することを意識して、のぞみましょう。 ・実践遊びや教材研究などは、積極的に参加し、実習や現場で活かせるように取り組みましょう。</p>																													
実務経験の有無	あり ・ なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無																												

科目区分	専門教育 科目	科 目 名	環境指導法	担当者	田中裕子	開講時期	2年 前期	授業形態・ 単位数	演習 1単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS20204	資格等取得との関連	幼稚園：必修・保育士：必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	<p>テーマ：乳幼児が身近な環境を取り入れ、知識・技術を身に付ける方法を学ぶ。</p> <p>到達目標(学修成果)①：乳幼児が身近な環境に好奇心や探求心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養うために、幼児を指導する方法、指導内容を具体的に学ぶことができる。</p> <p>到達目標(学修成果)②：乳幼児と一緒に遊びながら環境を取り入れる力を養う具体的な方法を身に付けることができる。</p> <p>到達目標(学修成果)③：乳幼児の環境を取り入れる力を養う教材について、具体的に用い方を身に付けることができる。</p>								
授業概要	<p>幼稚園、保育所、認定こども園の教育・保育における領域「環境」を中心に、その意義、ねらい、内容、指導計画の考え方などを解説するとともに、学生同士ディスカッションを行い、具体的な教育・保育の指導計画や実践記録・考察の事例をあげる。また、保育のための指導技術においては実際の保育に役立つ教材や内容を解説する。これらの内容は幼稚園教諭また園長としての長年の実務経験をもつ教員により、領域「環境」を理論的、実践的に理解することを目指す。</p>								
ディプロマ (DP)と到達目 標(学修成果) との対応	◎	<p>① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身に付けている。</p> <p>② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身に付けている。</p> <p>③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身に付けている。</p>							
◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目									
	授業計画					時間外学習			
1回	子どもと環境について学ぶ 「環境」とは					事前：教科書 P8～P11 まで読んでおく(0.5h) 事後：コラムを読んだ感想を書く(1h)			
2回	保育内容・領域「環境」について学ぶ 保育・幼児教育の基本					事前：教科書 P12～P23まで読んでおく(0.5h) 事後：コラム「愛着関係とは」を読んでまとめる(1h)			
3回	保育内容・領域「環境」の展開について学ぶ 「ねらい」及び「内容」の展開					事前：教科書 P24～P37まで読んでおく(0.5h) 事後：事例(年齢別)に対する感想を書く(1h)			
4回	保育の課程について学ぶ カリキュラムマネジメントの実際					事前：P38～P46まで読んでおく(0.5h) 事後：「カリキュラム・マネジメント」についてまとめる(1h)			
5回	物とのかかわりについて学ぶ					事前：教科書 P48～P59まで読んでおく(0.5h) 事後：保育の場にあるものを課題シートに書きだす(1h)			
6回	自然とのかかわりについて学ぶ 「草花あそび」					事前：教科書 P60～P81まで読んでおく(0.5h) 事後：授業を振り返りポイントをまとめる。(1.5h)			
7回	演習 「ネイチャーゲーム・フィールドビンゴ」					事前：ネイチャーゲームについて調べてくる(0.5h) 事後：授業を振り返りポイントをまとめる。(1.5h)			
8回	数量・図形とのかかわりの実践について学ぶ					事前：教科書 P82～P93まで読んでおく(0.5h) 事後：授業を振り返りポイントをまとめる。(1.5h)			
9回	標識・文字とのかかわりについて学ぶ					事前：教科書 P94～P103まで読んでおく(0.5h) 事後：授業を振り返りポイントをまとめる。(1.5h)			
10回	身近な情報とのかかわりの実践について学ぶ					事前：教科書 P104～P111まで読んでおく(0.5h) 事後：授業を振り返りポイントをまとめる。(1.5h)			
11回	身近な施設・地域、さまざまなぶんかとのかかわりの実践について学ぶ					事前：教科書 P112～P121まで読んでおく(0.5h) 事後：課題 コマ回しの練習(1.5h)			
12回	行事とのかかわりの実践について学ぶ					事前：教科書 P122～P132まで読んでおく(0.5h) 事後：授業を振り返りポイントをまとめる。(1.5h)			
13回	遊びを通した総合的な指導の展開について学ぶ					事前：教科書 P134～P143まで読んでおく(0.5h) 事後：授業を振り返りポイントをまとめる。(1.5h)			

14回	小学校との連携・接続の実践について学ぶ	事前:教科書 P144~P149 まで読んでおく 事後:授業を振り返りポイントをまとめる。(1.5h)																												
15回	領域「環境」に関わる現代的な課題について学ぶ	事前教科書 P150~P155まで読んでおく: 事後:授業を振り返りポイントをまとめる。(1.5h)																												
16回	定期試験																													
テキスト	実践例から学びを深める 保育内容・領域 環境指導法 わかば社 2021年 ISBN978-4-907270-33-9																													
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 文部科学省 2018『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、厚生労働省 2018『保育所保育指針解説』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省 2018『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館																													
到達目標(学修成果)及び観点	<p>【到達目標(学修成果)及び観点】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標(学修成果)及び観点</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>技能・表現</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○	○	○	○		到達目標②		○	○			到達目標③		○	○	○					
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○	○	○	○																										
到達目標②		○	○																											
到達目標③		○	○	○																										
評価方法・基準	<p>【評価方法・基準】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標(学修成果)</th> <th>定期試験 (筆記試験・実技試験)</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物 レポート</th> <th>発表・実技</th> <th>取り組み 姿勢</th> <th>その他 ()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>25%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td></td> <td>15%</td> <td>15%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>25%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価: 取り入れている・<input type="checkbox"/>取り入れていない</p>		評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()	到達目標①	25%				10%		到達目標②			15%	15%			到達目標③	25%				10%	
評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()																								
到達目標①	25%				10%																									
到達目標②			15%	15%																										
到達目標③	25%				10%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談:毎回の授業時に提出する課題シートに記入された質問や疑問を通して相談にのる他、オフィスパワーを活用して対応する。</p> <p>学習成果のフィードバック:毎回の課題シート・提出物の返却を通して実施する。</p>																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	<p>幼稚園:領域及び保育内容の指導法に関する科目/保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)</p> <p>保育士:保育の内容・方法に関する科目/保育内容演習</p>																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	<p>学校平均を上回っていました。「専門的な関心や興味が持てるようになった」と肯定的回答は A95.7%、B100%であり、具体的に草花あそび、押し花、ネイチャーゲーム、コマ回し、等自然を使った遊びを取り入れ、保育へのイメージに繋がられる授業内容となったと考えられる。「全体としてこの授業に満足できた」に対する肯定的回答は A95.7%、B100%であった。</p> <p>4月~7月の季節に対応した課題を考えて授業を組み立てます。予習をしっかりできるように、課題の出し方を工夫をします。</p>																													
受講生へのメッセージ・その他	<p>日頃から、自分の周囲をよく観察し、「自然の変化」や「季節に関して敏感に感じ取れるように意識すること。</p> <p>子どもが「好奇心や「探求心」をもって関わりたくなる環境をどのように作るのか、共に学びましょう。</p>																													
実務経験の有無	<input type="checkbox"/> あり ・ なし	<p>双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無</p> <input type="checkbox"/> あり ・ なし																												

科目区分	専門教育 科目	科 目 名	教育相談	担当者	小椋佐奈衣	開講時期	2年 後期	授業形態・ 単位数	講義 2単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS20205	資格等取得との関連	幼稚園：必修・保育士：選択必修・准学校心理士：必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	<p>テーマ：教育相談の基礎的理論を理解するとともに実践的な相談方法を身に付ける。</p> <p>到達目標(学修成果)①：教育相談について基礎的な理論と方法を理解し説明できる。</p> <p>到達目標(学修成果)②：教育心理学の基礎的知識をもとに専門家として保育・教育実践に応用できる。</p> <p>到達目標(学修成果)③：教育相談における学校と関係機関との連携・協働の必要性について事例に基づいて説明できる。</p>								
授業概要	<p>公認心理師と学校心理士の資格を持ち、大学学生相談室と小学校のスクールカウンセラー、教育委員会の機関で相談経験のある教員が担当する。教育相談の実践者としての経験を活かし、理論と実践を織成す講義を行う。昨今、教育現場では、子どもの発達やいじめ・不登校の問題に対して教師は適切な対処と解決が求められている。課題解決のために教育相談は、重要な役割の一つである。本授業では、保育・教育実践においてカウンセリングマインドの必要性、カウンセリングの基本的姿勢と技術、関係者との連携など教育相談の基礎的知識と理論と技術を学び、事例検討やグループワークやディスカッション等を通して子どもの課題解決の方法を習得する。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と到達目標 (学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	○	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
	△	③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目									
授業計画					時間外学習				
1回	オリエンテーション：授業の進め方について・教育相談の意義とあり方				事前：事前：シラバス、教科書第1章を読む(2h) 事後：授業内容を振り返りまとめる(2h)				
2回	カウンセリング技法①：カウンセラーの基本的姿勢と技法				事前：傾聴・共感・受容の基本姿勢を考える(2h) 事後：授業内容を振り返りまとめる(2h)				
3回	カウンセリング技法②：カウンセリングの進め方とアセスメント				事前：カウンセリングの対話の方法を考える。(2h) 事後：授業内容を振り返りまとめる(2h)				
4回	カウンセリングのマナー：個人情報、プライバシーの問題、自己開示				事前：相談者のマナーとルールを考える(2h) 事後：授業内容を振り返りまとめる(2h)				
5回	特別支援教育と発達障害について：特別支援学級の取り組み				事前：教科書第1・2章を読む(2h) 事後：授業内容を振り返りまとめる(2h)				
6回	特別な支援ニーズのある子どもの支援：支援を要する子どもと周囲の子どもの困り感				事前：教科書第1・2章を読む(2h) 事後：授業内容を振り返りまとめる(2h)				
7回	保護者とのコミュニケーション：保護者への基本的姿勢と対応				事前：教科書第3章を読む(2h) 事後：授業内容を振り返りまとめる(2h)				
8回	教育相談の組織と連携：連携の意義と必要性				事前：教科書第4章を読む(2h) 事後：授業内容を振り返りまとめる(2h)				
9回	カウンセリングの理論と実践①：不登校の対応				事前：教科書第11章を読む(2h) 事後：授業内容を振り返りまとめる(2h)				
10回	カウンセリングの理論と実践②：いじめの対策				事前：教科書第12章を読む(2h) 事後：授業内容を振り返りまとめる(2h)				
11回	カウンセリングの理論と実践③：児童虐待の早期発見				事前：教科書第14章を読む(2h) 事後：授業内容を振り返りまとめる(2h)				
12回	カウンセリングの理論と実践④：学習障害の理解と支援				事前：教科書第16章を読む(2h) 事後：授業内容を振り返りまとめる(2h)				
13回	カウンセリングの理論と実践⑤：ADHDの理解と支援				事前：教科書第17章を読む(2h) 事後：授業内容を振り返りまとめる(2h)				

14回	カウンセリングの理論と実践⑥:自閉スペクトラム症の理解と支援	事前:教科書第18章を読む。(2h) 事後:授業内容を振り返りまとめる(2h)																												
15回	教育相談のまとめ:事例検討	事前:教育相談の理論と方法と連携についてまとめる(2h) 事後:授業内容を振り返りまとめる(2h)																												
16回	定期試験																													
テキスト	小林正幸 他 編 『教師のための 学校カウンセリング』 有斐閣 2021年																													
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 日本家族心理学会 編 『学校臨床における家族への支援』 金子書房 2001年 竹松志乃 他 編 『はじめての臨床心理学』 北樹出版 1996年 坂野雄二 他 編 『ベーシック現代心理学 臨床心理学』 有斐閣 1996年																													
到達目標(学修成果)及び観点	<p>【到達目標(学修成果)及び観点】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標(学修成果)及び観点</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>技能・表現</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○	○				到達目標②	○		○	○		到達目標③	○	○		○					
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○	○																												
到達目標②	○		○	○																										
到達目標③	○	○		○																										
評価方法・基準	<p>【評価方法・基準】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標(学修成果)</th> <th>期末試験 (筆記試験・実技試験)</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物 レポート</th> <th>発表・実技</th> <th>取り組み 姿勢</th> <th>その他 ()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>20%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>20%</td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>20%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価: 取り入れている ・ 取り入っていない</p>		評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()	到達目標①	20%		10%				到達目標②	20%		20%				到達目標③	20%		10%			
評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()																								
到達目標①	20%		10%																											
到達目標②	20%		20%																											
到達目標③	20%		10%																											
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談: オフィスアワー、あるいは教員が研究室に在籍時、対応できる場合は随時行う。</p> <p>学習成果のフィードバック: 授業の中で振り返りを行い教示し、リアクションペーパーの提出と事例に関して意見や感想の共有を行う。</p>																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	<p>幼稚園: 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目/教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法</p> <p>保育士: 保育の対象の理解に関する科目/各指定保育士養成施設において設定</p>																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	<p>新規担当のため評価なし</p> <p>授業方針として、双方向授業を取り入れ、意見や発表を行う。</p> <p>授業進行方法等について、アクティブラーニングを導入して、ロールプレイング・グループワーク・ペアワーク・ディスカッション等を実施する。</p>																													
受講生へのメッセージ・その他	<p>教育・保育現場で生じる課題に対して考察し、子どもや保護者に寄り添う姿勢で相談者としての資質を高められるように、学修に取り組みましょう。</p>																													
実務経験の有無	あり	<p>双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無</p> <p>あり</p>																												

科目区分	専門教育 科目	科 目 名	幼児の音楽Ⅱ	担当者	渡辺ユリナ・村木清子 北川由紀・宮田美佐	開講時期	2年 後期	授業形態・ 単位数	演習 1単位
卒業要件		ナンバリング	CS20206	資格等取得との関連	保育士：選択必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	テーマ:保育者として必要な楽器の演奏、歌唱の技術を向上させる 到達目標(学修成果)①:様々なこどもの歌を知り、各曲の良さや意味を伝える導入をすることができる 到達目標(学修成果)②:保育・教育現場での実践を見通して楽器の技術を向上することができる 到達目標(学修成果)③:子どもの豊かな表現や歌を楽しむ気持ちを支える保育者として、思いや意図をもって演奏、弾き歌いできる								
授業概要	幼児の音楽Ⅰにおける学びを基盤とし、ピアノ実技を中心に、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定しながら、保育現場に寄り添った音楽表現活動およびその指導方法について学ぶことを目的とした授業である。グループワークを取り入れ、他者と関わりの中で音楽表現に必要な柔軟かつ受容的な姿勢を身に着ける。								
ディプロマポリシー (DP)と到達目標 (学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	○	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
	△	③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目									
授業計画					時間外学習				
1回	オリエンテーション、ピアノの奏法(1)応用 ピアノ個人指導				事前:ピアノの基礎練習と課題曲練習(1h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(1h)				
2回	ピアノの奏法(2)応用 ピアノ個人指導				事前:ピアノの基礎練習と課題曲練習(1h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(1h)				
3回	模擬保育(1)導入・歌唱(グループワーク) ピアノ個人指導				事前:ピアノの基礎練習と課題曲練習(1h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(1h)				
4回	模擬保育(2)試行(グループワーク) ピアノ個人指導				事前:ピアノの基礎練習と課題曲練習(1h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(1h)				
5回	模擬保育(3)実践(プレゼンテーション) ピアノ個人指導				事前:ピアノの基礎練習と課題曲練習(1h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(1h)				
6回	模擬保育(4)実践(プレゼンテーション) ピアノ個人指導				事前:ピアノの基礎練習と課題曲練習(1h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(1h)				
7回	季節の音・音楽あそび(1)役割・構想(グループワーク) ピアノ個人指導				事前:ピアノの基礎練習と課題曲練習(1h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(1h)				
8回	季節の音・音楽あそび(2)試行(グループワーク) ピアノ個人指導				事前:ピアノの基礎練習と課題曲練習(1h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(1h)				
9回	季節の音・音楽あそび(3)試行(グループワーク) ピアノ個人指導				事前:ピアノの基礎練習と課題曲練習(1h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(1h)				
10回	季節の音・音楽あそび(4)試行(グループワーク) ピアノ個人指導				事前:ピアノの基礎練習と課題曲練習(1h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(1h)				
11回	季節の音・音楽あそび(5)改善(グループワーク) ピアノ個人指導				事前:ピアノの基礎練習と課題曲練習(1h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(1h)				
12回	季節の音・音楽あそび(6)実践(プレゼンテーション) ピアノ個人指導				事前:ピアノの基礎練習と課題曲練習(1h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(1h)				
13回	模擬保育(1)導入・歌唱・試行(グループワーク) ピアノ個人指導				事前:ピアノの基礎練習と課題曲練習(1h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(1h)				
14回	模擬保育(2)実践(プレゼンテーション) ピアノ個人指導				事前:ピアノの基礎練習と課題曲練習(1h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(1h)				

15回	模擬保育(3)実践(プレゼンテーション) ピアノ個人指導	事前:ピアノの基礎練習と課題曲練習(1h) 事後:その都度、指示した課題を習得する(1h)																												
16回	定期試験																													
テキスト	適宜、資料集を使用する。																													
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】																													
到達目標(学修成果)及び観点	<p>【到達目標(学修成果)及び観点】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標(学修成果)及び観点</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>技能・表現</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○		○			到達目標②			○	○		到達目標③		○	○						
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○		○																											
到達目標②			○	○																										
到達目標③		○	○																											
評価方法・基準	<p>【評価方法・基準】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標(学修成果)</th> <th>期末試験 (筆記試験・実技試験)</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物 レポート</th> <th>発表・実技</th> <th>取り組み 姿勢</th> <th>その他 ()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>5%</td> <td></td> <td>5%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>30%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>5%</td> <td></td> <td></td> <td>30%</td> <td>5%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価: 取り入れている 取り入れていない</p>		評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()	到達目標①	5%		5%		10%		到達目標②	30%				10%		到達目標③	5%			30%	5%	
評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()																								
到達目標①	5%		5%		10%																									
到達目標②	30%				10%																									
到達目標③	5%			30%	5%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談: オフィスアワー</p> <p>学習成果のフィードバック: 課題学習の振り返りは授業の中で講評します。</p>																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士: 保育の内容・方法に関する科目/各指定保育士養成施設において設定																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	ピアノ個人レッスンについては、公平性、授業の質を保証するために、担当教員を固定せず複数の教員が順番に指導する形態をとり、授業内での自主練習時間・個人レッスン時間の制限を設けています。授業の目的、授業形態の意味をふまえた上で、個人のニーズに合わせた解決方法(履修の選択、自宅練習時間の確保の計画支援など多岐にわたる)を提案したいと思います。																													
受講生へのメッセージ・その他	<p>技術を習得する場面が多いため、予習・復習にかかる時間をしっかりともち、毎回出席しましょう。</p> <p>ピアノ技術の向上を目指しますが、その目的が演奏披露ではなく、子どもの豊かな表現や歌を楽しむ気持ちを支えるためであることを忘れずに取り組みましょう。</p>																													
実務経験の有無	あり ・ なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無																												

科目区分	専門教育 科目	科 目 名	障がい児の支援	担当者	仲森みどり	開講時期	2年 前期	授業形態・ 単位数	講義 2単位
卒業要件	プログラム 必修(障がい児プロ)	ナンバリング	CS20207	資格等取得との関連					
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	<p>テーマ:特別な支援を必要とする子どもへの理解と支援について学ぶ。</p> <p>到達目標(学修成果)①:様々な障がいについて、その特性や援助の方法を学ぶとともに自ら調べ学習に取り組み、グループでまとめ、発表することができる。</p> <p>到達目標(学修成果)②:障がいの有無に関わらず、子ども同士の関わりを育み、共に育ち合うインクルーシブ保育・教育について事例を通して学び、考え合うことができる。</p> <p>到達目標(学修成果)③:保護者・家族への支援や関係機関との連携について、具体的な支援や連携のあり方についてまとめることができる。</p>								
授業概要	<p>保育園、児童相談所、母子生活支援施設での実務経験がある教員が、障がいのある子どもへの保育や支援の現場経験から、多様な視点から子どもの成長や関係性について学び、考える場を提供する。グループワークやプレゼンテーションの機会を通して学び合う。本授業では、「障害児保育」「特別支援教育」の基本的な理論や現状を学び、特別な支援を必要とする子どもへの理解と支援、保護者支援、関係機関との連携等についての知識を修得する。また、「インクルーシブ保育・教育」の理念や歴史を理解し、保育の場で気づく子どもの発達上のつまずきや課題に対し、保育者としての視点から支援のあり方を考える。</p>								
ディプロマ (DP)と到達目 標(学修成果) との対応	◎	<p>① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。</p> <p>② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。</p> <p>③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。</p>							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画				時間外学習				
1回	オリエンテーション(授業の進め方等) ・「なぜ障害児保育・特別支援教育を学ぶのか」について考える				事前:シラバスに目を通し、内容を把握する。テキスト第1章を熟読する(2h) 事後:テキストを参考に授業内容をノートにまとめる(2h)				
2回	「障がい」とは何か・「障がいがある」とは ・「国際生活機能分類」を基に「日常生活の困難さ」について考える				事前:テキスト(事前連絡した指定範囲)を熟読する(2h) 事後:テキストを参考に授業内容をノートにまとめる(2h)				
3回	「障害児保育」・「特別支援教育」の基本 ・障がいのある子どもの保育・教育の場について考える				事前:テキスト(事前連絡した指定範囲)を熟読する(2h) 事後:テキストを参考に授業内容をノートにまとめる(2h)				
4回	「障害児保育」「特別支援教育」の制度と歴史的変遷 ・制度や歴史的変遷を通して、現状や課題について考える				事前:テキスト(事前連絡した指定範囲)を熟読する(2h) 事後:テキストを参考に授業内容をノートにまとめる(2h)				
5回	障がいの理解と保育 ① グループワーク、プレゼンテーション ・身体障がいについて学ぶ(肢体不自由、聴覚障がい、視覚障がい) 外部講師				事前:障がいの特性や支援について調べ学習を行う(2h) 事後:グループワークを通して発表内容をまとめ、発表する(2h)				
6回	障がいの理解と保育 ② グループワーク、プレゼンテーション ・知的障がいについて学ぶ(ダウン症など)				事前:障がいの特性や支援について調べ学習を行う(2h) 事後:グループワークを通して発表内容をまとめ、発表する(2h)				
7回	障がいの理解と保育 ③ グループワーク、プレゼンテーション ・発達障がいについて学ぶ(自閉スペクトラム症)				事前:障がいの特性や支援について調べ学習を行う(2h) 事後:グループワークを通して発表内容をまとめ、発表する(2h)				
8回	障がいの理解と保育 ④ グループワーク、プレゼンテーション ・発達障がいについて学ぶ(ADHD・LD)				事前:障がいの特性や支援について調べ学習を行う(2h) 事後:グループワークを通して発表内容をまとめ、発表する(2h)				
9回	多様な支援を必要とする子どもの理解と保育 ・外国につながる子ども・子どもの貧困について学ぶ				事前:テキスト(事前連絡した指定範囲)を熟読する(2h) 事後:テキストを参考に授業内容をノートにまとめる(2h)				
10回	インクルーシブ保育・教育 グループワーク(調べ学習の共有) ・合理的配慮や子ども同士の育ち合いを育む関わりについて学ぶ				事前:「合理的配慮」について調べ学習を行う(2h) 事後:話し合った内容を整理し、まとめる(2h)				

11回	障がいのある子どもに学ぶ保育実践 ・発達をうながす生活や遊びの環境について事例検討をする ・小テストを通して学習内容の理解度を確認する	事前:小テストに取り組めるよう学習内容を復習する(2h) 事後:事例検討の学びを振り返り、ノートにまとめる。小テストの結果を振り返り、自己評価をする(2h)																												
12回	子どもの理解に基づく計画の作成と記録・評価 ・個別の支援計画の作成について学ぶ	事前:テキスト(事前連絡した指定範囲)を熟読する(2h) 事後:授業内容を参考に個別の支援計画を作成する(2h)																												
13回	保護者・家庭への支援 ・親や家族を理解することの大切さと支援のあり方を考える	事前:テキスト(事前連絡した指定範囲)を熟読する(2h) 事後:テキストと資料を参考にノートにまとめる。(2h)																												
14回	家庭・専門機関との連携 グループワーク(調べ学習の共有) ・保護者や関係機関との連携による支援について考える	事前:県内の子どもの支援に関わる機関について調べる(2h) 事後:話し合った内容を整理し、まとめる(2h)																												
15回	職員間の連携および振り返りとまとめ ・事例を通して連携と協働の重要性について考える ・現状と課題を踏まえ、学習した内容を振り返り、まとめる	事前:テキスト(事前連絡した指定範囲)を熟読する(2h) 事後:授業内容を総合的に振り返り、復習する(2h)																												
16回	定期試験																													
テキスト	前田泰弘 編著 『実践に生かす障害児保育・特別支援教育』 萌文書林 (2024)																													
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 授業で紹介します。																													
到達目標(学修成果)及び観点	【到達目標(学修成果)及び観点】																													
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標(学修成果)及び観点</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>技能・表現</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○	○	○	○		到達目標②		○	○			到達目標③	○	○		○					
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○	○	○	○																										
到達目標②		○	○																											
到達目標③	○	○		○																										
到達目標(学修成果)及び観点	【評価方法・基準】																													
評価方法・基準	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標(学修成果)</th> <th>期末試験 (筆記試験・実技試験)</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物・レポート</th> <th>発表・実技</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>25%</td> <td></td> <td>5%</td> <td>20%</td> <td>5%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td>10%</td> <td>5%</td> <td></td> <td>5%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>25%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()	到達目標①	25%		5%	20%	5%		到達目標②		10%	5%		5%		到達目標③	25%					
評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①	25%		5%	20%	5%																									
到達目標②		10%	5%		5%																									
到達目標③	25%																													
ルーブリック評価	<p>・提出物等については、記述内容の質・量ともに評価します。</p> <p>・発表や取り組み姿勢については、主体性や積極性を重視します。</p> <p>ルーブリック評価: 取り入れている ・ <input type="checkbox"/> 取り入っていない</p>																													
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談: 事前に予約の上、個別に応じます。尚、学習内容のささやかな質問は、授業の前中後応じます。</p> <p>学習成果のフィードバック: ワークシート等の提出物は授業の中で後日返却します。</p>																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:保育士の資格取得ではないが、学校独自の科目として開設されている教科目																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	新規担当のため評価なし																													
受講生へのメッセージ・その他	保育・教育の現場で保育者に求められるのは、子どもの個性や特性に応じた多様な援助を考えることです。子ども一人一人が自分らしい豊かな生活が送れるためには、どのような援助が必要かについて一緒に考え合しましょう。																													
実務経験の有無	<input type="checkbox"/> あり ・ なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無																												
		<input type="checkbox"/> あり ・ なし																												

科目区分	専門教育 科目	科目名	児童館・放課後児童クラブ の活動内容と指導法	担当者	堀本浩史	開講時期	2年 後期	授業形態・ 単位数	講義 2単位
卒業要件		ナンバリング	CS20208	資格等取得との関連	児童厚生員2級:必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	テーマ: 児童福祉施設である児童館・児童クラブの活動内容と指導方法について理解する。 到達目標(学修成果)①: 児童館の健全育成事業について理解し、活動の企画ができる 到達目標(学修成果)②: 児童の健全育成について理解し、子どもの発達と遊び・安全対策について理解する。 到達目標(学修成果)③: 児童厚生員として必要な倫理感を身につける。								
授業概要	児童館職員として31年勤務。様々な子どもや保護者、地域の方々との関わりを生かした講義を行う。児童館における子どもの健全育成について理解し、児童館の運営に必要な知識や技能を学ぶことができる。児童厚生員として必要な遊びの価値と子どもの育成支援にかかわる内容についてグループワークにより、企画運営ができる。地域福祉の視点で子どもの環境づくりや安全指導にかかわることができる。児童館など児童福祉施設の防災活動について学ぶことができる。								
ディプロマポリシー (DP)と到達目 標(学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。 ② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。 ③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画				時間外学習				
1回	児童館の社会的立場と健全育成の理念				事前: 健全育成について調べる(2h) 事後: 教科書を読み振り返りをする(2h)				
2回	子どもと育成環境 現代社会と子どもが抱える環境				事前: 配布した資料を熟読する(2h) 事後: 授業で配布した資料を用いた復習(2h)				
3回	児童福祉の理念と健全育成				事前: 健全育成に貢献する資源について調べる(2h) 事後: 資料の読み返しをして振り返りをする(2h)				
4回	健全育成に貢献する社会的資源				事前: 健全育成に貢献する資源について調べる(2h) 事後: 資料の読み返しをして振り返りをする(2h)				
5回	健全育成と児童館 ・児童館ガイドライン				事前: 児童館論 P119~135児童館ガイドラインを熟読する(2h) 事後: 児童館ガイドラインについて読み返す(2h)				
6回	子どもの遊びと発達 ・遊びの価値・遊びの定義と分類				事前: 配布した資料を熟読する(2h) 事後: 遊びの種類の分類をする(2h)				
7回	遊び支援の実際 レクリエーションの支援方法				事前: 集団で利用できるレクリエーションを調べる(2h) 事後: 授業で行ったレクリエーションをやってみる(2h)				
8回	遊び支援の方法 (グループワーク)				事前: 子どもの発達に有効な遊びについて調べる(2h) 事後: 授業の振り返りをする(2h)				
9回	遊び支援の方法 (グループワーク)				事前: 子どもの発達に有効な遊びについて調べる(2h) 事後: 授業の振り返りをする(2h)				
10回	健全育成と放課後児童クラブ ・放課後児童クラブガイドライン、運営指針 ・放課後児童クラブの実際を調べる				事前: 放課後児童クラブについて調べる(2h) 事後: 授業の振り返りをする(2h)				
11回	放課後児童クラブなどの運営と子どもの支援				事前: 放課後児童クラブガイドラインを読む(2h) 事後: 放課後児童クラブの運営について調べる(2h)				
12回	地域の健全育成環境づくり 地域の課題の発見と環境づくり				事前: 地域で起きている子どもにかかわる課題について調べる(2h) 事後: 地域に出向き実際に参加する(2h)				

13回	児童館・児童クラブの安全指導・安全管理 児童館における防災活動	事前:子どもにかかわる事故について調べる(2h) 事後:子どもにかかわる事故防止について調べる(2h) 子どもに関わる防災について調べる(1h)																												
14回	児童館におけるソーシャルワーク①	事前:ソーシャルワークについて調べる(2h) 事後:授業の振り返りをする(2h)																												
15回	児童館におけるソーシャルワーク② (グループワーク)	事前:ソーシャルワークの原則について調べる(2h) 事後:傾聴の大切さについての話し合い(2h)																												
16回	定期試験	筆記試験																												
テキスト	テキスト「児童館」〈児童館ガイドライン(令和6年改正)準拠〉 児童健全育成推進財団																													
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 ソーシャルワーク - 児童館・放課後児童クラブテキストシリーズ(4) 児童健全育成推進財団 安全指導・安全管理 - 児童館・放課後児童クラブテキストシリーズ(3)【改訂版】 児童健全育成推進財団																													
到達目標(学修成果)及び観点	<p>【到達目標(学修成果)及び観点】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標(学修成果)及び観点</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>技能・表現</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○		○	○		到達目標②		○		○		到達目標③		○	○						
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○		○	○																										
到達目標②		○		○																										
到達目標③		○	○																											
評価方法・基準	<p>【評価方法・基準】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標(学修成果)</th> <th>期末試験 (筆記試験・実技試験)</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物・レポート</th> <th>発表・実技</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>20%</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td>5%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>20%</td> <td></td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td>5%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価: 取り入れていない</p>		評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()	到達目標①	20%			10%	5%		到達目標②	20%		10%	10%	5%		到達目標③	10%				10%	
評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①	20%			10%	5%																									
到達目標②	20%		10%	10%	5%																									
到達目標③	10%				10%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談: 授業終了後に教室もしくは非常勤講師室にて受け付ける。 学習成果のフィードバック: グループワークでの発表の時間に内容にかかわる評価や解説を行う。</p>																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士: 保育士の資格取得ではないが、学校独自の科目として開設されている教科目																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	全体としては高評価をいただいたようですが、学生が授業に積極的に参加できなかった部分があるようです。授業の中で発言・参加しやすい環境を整え、楽しみながら学べることができるよう、さらに工夫をしていきたいと考えています。																													
受講生へのメッセージ・その他	子どもにとって大切な様々な「遊び」についてできるだけ実践を通じて学んでいただきたいと考えています。共に学び共に成長しましょう。																													
実務経験の有無	あり	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無																												
		なし																												

科目区分	専門教育 科目	科 目 名	基礎ゼミナールⅠ	担当者	仲森みどり・小椋佐奈衣 北畠香世子・河村浩世 加藤大門・于丹・渡辺ユリナ	開講時期	Ⅰ年 前期	授業形態・ 単位数	演習 Ⅰ単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS30101	資格等取得との関連	保育士：必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	<p>テーマ：自ら主体的に学び、自己研鑽する保育者となるための基礎を身につける。</p> <p>到達目標(学習成果)①：少人数での活動を通し、様々な授業で学んだ知識・技能を応用的に活用できる。</p> <p>到達目標(学習成果)②：主体的に学んでいくための土台を形成し修得する。</p> <p>到達目標(学習成果)③：専門職として必要とされるコミュニケーション能力の基礎を修得する。</p>								
授業概要	<p>教育現場や福祉現場等での実務経験のある教員が担当する本ゼミナールは、保育専門職を目指す大学生として、一方ではさまざまな授業で学んだ知識・技能を応用的・実践的に活用するための基礎となる能力を身につけることを目指す。ゼミナールごとでグループワークを行い、製作活動や、あそびの追究をしていく。他方で、ファイリングや対人コミュニケーション、そしてアカデミック・ライティングの基礎を学ぶ。これらの実践をとおして、自ら主体的に学び、自己研鑽する保育者となるための基礎となる力を身につける。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と到達目 標(学修成果) との対応		<p>① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。</p> <p>② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。</p> <p>③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。</p>							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画				時間外学習				
1回	オリエンテーション 保育者養成の学習の特徴(入学前課題をふまえて) ICTについて				事前:担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後:本時の取り組みを振り返り、まとめる(1h)				
2回	学生生活と学び 図書館・受講姿勢と生活マナー				事前:担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後:本時の取り組みを振り返り、まとめる(1h)				
3回	こどものあそびについて① 実践の目的				事前:担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後:本時の取り組みを振り返り、まとめる(1h)				
4回	こどものあそびについて② 実践の検討(グループワーク)				事前:担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後:本時の取り組みを振り返り、まとめる(1h)				
5回	こどものあそびについて③ 実践の検討(グループワーク)				事前:担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後:本時の取り組みを振り返り、まとめる(1h)				
6回	こどものあそびについて④ あそびの発表(グループワーク)				事前:担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後:本時の取り組みを振り返り、まとめる(1h)				
7回	教材研究① 計画(グループワーク)				事前:担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後:本時の取り組みを振り返り、まとめる(1h)				
8回	教材研究② 製作(グループワーク)				事前:担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後:本時の取り組みを振り返り、まとめる(1h)				
9回	教材研究③ 製作(グループワーク)				事前:担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後:本時の取り組みを振り返り、まとめる(1h)				
10回	教材研究④ 製作(グループワーク)				事前:担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後:本時の取り組みを振り返り、まとめる(1h)				
11回	教材研究⑤ 発表(グループワーク) 漢字テスト(施設版)				事前:担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後:本時の取り組みを振り返り、まとめる(1h)				
12回	裁縫技術① ◇外部講師				事前:担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後:本時の取り組みを振り返り、まとめる(1h)				
13回	裁縫技術② ◇外部講師				事前:担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後:本時の取り組みを振り返り、まとめる(1h)				

14回	裁縫技術③ ◇外部講師	事前:担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後:本時の取り組みを振り返り、まとめる(1h)																												
15回	裁縫技術④ ◇外部講師 振り返りとまとめ	事前:担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後:本時の取り組みを振り返り、まとめる(1h)																												
テキスト	長島和代ほか「これだけは知っておきたい わかる・書ける・使える 保育の基本用語」わかば社																													
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 授業内で適宜配布する。																													
到達目標(学修成果)及び観点	<p>【到達目標(学修成果)及び観点】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標(学修成果)及び観点</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>技能・表現</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○			○		到達目標②		○		○		到達目標③				○					
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○			○																										
到達目標②		○		○																										
到達目標③				○																										
評価方法・基準 ルーブリック評価	<p>【評価方法・基準】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標(学修成果)</th> <th>期末試験 (筆記試験・実技試験)</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物 レポート</th> <th>発表・実技</th> <th>取り組み 姿勢</th> <th>その他 ()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td></td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価: 取り入れている・ <input type="checkbox"/> 取り入っていない</p>		評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()	到達目標①			20%		20%		到達目標②			10%		10%		到達目標③			20%		20%	
評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()																								
到達目標①			20%		20%																									
到達目標②			10%		10%																									
到達目標③			20%		20%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談:各担当教員のオフィスアワーにて対応する。</p> <p>学習成果のフィードバック:授業内で指示する。</p>																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:保育士の資格取得ではないが、学校独自の科目として開設されている教科目																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	引き続き、実践を多く組み込み、協働して作り上げる達成感を感じてもらえたらと計画しました。																													
受講生へのメッセージ・その他	グループワークが多いため、ひとり一人の積極的な参加、取り組みを求めます。また、協働・連携する力(気持ち)が必要となりますので、様々な視点を持ち相手の気持ちをよく考える心でご参加ください。																													
実務経験の有無	<input checked="" type="checkbox"/> あり ・ なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無																												

科目区分	専門教育科目	科目名	基礎ゼミナールⅡ	担当者	仲森みどり・小椋佐奈衣 北島香世子・河村浩世 加藤大門・于丹・渡辺ユリナ	開講時期	Ⅰ年後期	授業形態・単位数	演習Ⅰ単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS30102	資格等取得との関連	保育士：必修				
テーマ・授業の到達目標(学修成果)	<p>テーマ：実践をととして、自ら主体的に学び、自己研鑽する保育者となるための基礎をさらに身につける。</p> <p>到達目標(学修成果)①：少人数での活動および模擬保育によって、これまで学んだ知識・技能を応用的に活用できる。</p> <p>到達目標(学修成果)②：複数回の実践をととし、主体的に学んでいくための土台をさらに形成し修得する。</p> <p>到達目標(学修成果)③：専門職として必要とされるコミュニケーション能力の基礎を修得できる。</p>								
授業概要	<p>本ゼミナールでは、様々な授業での学びや体験を参考に、模擬保育およびより実践的な教材研究を各ゼミ又はグループでディスカッションをしながら行う。これらの活動については、少人数での計画・準備、受講者全体を対象とした実践、そしてその振り返りによって行われる。これまでに体得した知識・技能の応用的・実践的活用の機会、また自身の省察の機会としながら、同時に同僚性やチーム保育のための基盤となるコミュニケーション力のさらなる育成を図る。また、これらの実践をととして、自ら主体的に学び、自己研鑽する保育者となるための基礎となる力をさらに身につける。</p>								
ディプロマポリシー(DP)と到達目標(学修成果)との対応	<p>① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。</p> <p>② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。</p> <p>③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。</p> <p>◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目</p>								
	授業計画				時間外学習				
1回	オリエンテーションと後期の学習計画について 遊び研究の説明				事前：担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後：本時の取り組みを振り返り、まとめる(1h)				
2回	遊び研究①計画と説明、役割分担決め(グループワーク) 漢字テスト(幼稚園版)				事前：担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後：本時の取り組みを振り返り、まとめる(1h)				
3回	遊び研究②制作目標(グループワーク)				事前：担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後：本時の取り組みを振り返り、まとめる(1h)				
4回	遊び研究③制作(グループワーク)				事前：担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後：本時の取り組みを振り返り、まとめる(1h)				
5回	遊び研究④制作(グループワーク)				事前：担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後：本時の取り組みを振り返り、まとめる(1h)				
6回	遊び研究⑤制作 外部講師(グループワーク)				事前：担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後：本時の取り組みを振り返り、まとめる(1h)				
7回	遊び研究⑥発表(グループワーク)				事前：担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後：本時の取り組みを振り返り、まとめる(1h)				
8回	遊び研究 振り返り(グループワーク)				事前：担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後：本時の取り組みを振り返り、まとめる(1h)				
9回	自己理解と他者理解				事前：担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後：本時の取り組みを振り返り、まとめる(1h)				
10回	チームの合意形成(グループワーク)				事前：担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後：本時の取り組みを振り返り、まとめる(1h)				
11回	粗大運動遊び① 実践				事前：担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後：本時の取り組みを振り返り、まとめる(1h)				
12回	粗大運動遊び② 応用				事前：担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後：本時の取り組みを振り返り、まとめる(1h)				
13回	児童福祉について① 実践				事前：担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後：本時の取り組みを振り返り、まとめる(1h)				

14回	児童福祉について② 応用	事前:担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後:本時の取り組みを振り返り、まとめる(1h)																												
15回	漢字テスト(保育園版) 振り返りとまとめ 専門ゼミに向けて	事前:担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後:本時の取り組みを振り返り、まとめる(1h)																												
テキスト	長島和代ほか「これだけは知っておきたい わかる・書ける・使える 保育の基本用語」わかば社(前期同様)																													
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 授業内で適宜配布する。																													
到達目標(学修成果)及び観点	<p>【到達目標(学修成果)及び観点】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標(学修成果)及び観点</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>技能・表現</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①			○	○		到達目標②	○	○	○	○		到達目標③			○	○					
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①			○	○																										
到達目標②	○	○	○	○																										
到達目標③			○	○																										
評価方法・基準	<p>【評価方法・基準】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標(学修成果)</th> <th>定期試験 (筆記試験・実技試験)</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物・レポート</th> <th>発表・実技</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td></td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価: 取り入れている・<input type="checkbox"/>取り入っていない</p>		評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()	到達目標①			20%		20%		到達目標②			10%		10%		到達目標③			20%		20%	
評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①			20%		20%																									
到達目標②			10%		10%																									
到達目標③			20%		20%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談:各担当教員のオフィスアワーにて対応する。</p> <p>学習成果のフィードバック:授業内で指示する。</p>																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:保育士の資格取得ではないが、学校独自の科目として開設されている教科目																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	制作や企画発表についての振り返りがなかったとの指摘を受けたため、今回は自身の振り返り、共有と課題について整理できる時間を確保した。																													
受講生へのメッセージ・その他	グループワークや制作が多いため、一人一人の積極的な参加、取り組みを求めます。																													
実務経験の有無	<input checked="" type="checkbox"/> あり	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無																												

科目区分	専門教育科目	科目名	専門ゼミナール I (障がい児プログラム)	担当者	仲森みどり・加藤大門	開講時期	2年 前期	授業形態・ 単位数	演習 I 単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS30201	資格等取得との関連	保育士:必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	<p>テーマ:保育専門職(幼稚園教諭・保育士・施設職員等)に必要とされる専門性について実践的に理解する。</p> <p>到達目標(学修成果)①:障がいについての理解を深め、現代社会における課題を認識し向き合うことができる。</p> <p>到達目標(学修成果)②:専門職として必要とされるコミュニケーション能力を身につけ実践できる。</p> <p>到達目標(学修成果)③:障がい支援の専門職として必要な専門的知識・技術を習得・研鑽できる。</p>								
授業概要	<p>保育園、児童相談所、母子生活支援施設での実務経験を持つ教員により、本ゼミナールは、保育者として必要とされる、障がいに関する専門的知識及び支援技術のさらなる理解を図ることを目的とする。ゼミナールごとにテーマを設定し、保育・支援に対する課題設定、教材の開発、支援計画立案とその実践、実践後の振り返りを繰り返すことにより、さらなる実践力を身につける。適宜、グループワーク等を行い学習の進度を深める。</p>								
ディプロマ (DP)と到達目 標(学修成果) との対応	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。								
	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。								
	◎ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。								
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1 回	オリエンテーション					事前:自分の研究テーマについて考える(0.5h) 事後:自分の研究テーマについて考える(1h)			
2 回	障がいの理解について グループワーク①					事前:障がいの種類や特徴について調べる(0.5h) 事後:事後の振り返りをする(1h)			
3 回	障がいの理解について グループワーク②					事前:グループで障がいへの理解を深める(0.5h) 事後:事後の振り返りをする(1h)			
4 回	障がいの理解について グループワーク③ 発表					事前:プレゼンの仕方についてイメージを共有(0.5h) 事後:事後の振り返りをする(1h)			
5 回	おもちゃ図書館見学①					事前:おもちゃ図書館について調べる(0.5h) 事後:見学の際に聞きたいことなどをまとめる(1h)			
6 回	おもちゃ図書館見学②・まとめ					事前:グループでの質問事項をまとめておく(0.5h) 事後:見学で得たものをまとめる(1h)			
7 回	さまざまな障がいの理解 「自閉スペクトラム症」①					事前:各障がいの特徴などを予習する(0.5h) 事後:授業で学んだ知識などをまとめる(1h)			
8 回	さまざまな障がいの理解 「自閉スペクトラム症」②					事前:各障がいの特徴などを予習する(0.5h) 事後:授業で学んだ知識などをまとめる(1h)			
9 回	さまざまな障がいの理解 「聴覚障がい」①					事前:各障がいの特徴などを予習する(0.5h) 事後:授業で学んだ知識などをまとめる(1h)			
10 回	さまざまな障がいの理解 「聴覚障がい」②					事前:各障がいの特徴などを予習する(0.5h) 事後:授業で学んだ知識などをまとめる(1h)			
11 回	さまざまな障がいの理解 「視覚障がい」① 外部講師					事前:各障がいの特徴などを予習する(0.5h) 事後:授業で学んだ知識などをまとめる(1h)			
12 回	さまざまな障がいの理解 「視覚障がい」② 外部講師					事前:各障がいの特徴などを予習する(0.5h) 事後:授業で学んだ知識などをまとめる(1h)			
13 回	さまざまな障がいの理解 「知的障がい(知的発達症)」①					事前:各障がいの特徴などを予習する(0.5h) 事後:授業で学んだ知識などをまとめる(1h)			

14回	さまざまな障がいの理解「知的障がい(知的発達症)」②	事前:各障がいの特徴などを予習する(0.5h) 事後:授業で学んだ知識などをまとめる(1h)																												
15回	まとめ	事前:総合的に自分の考えをまとめる(0.5h) 事後:具体的な支援方法について考える(0.5h)																												
16回																														
テキスト	無し																													
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 必要に応じて担当教員から指示、資料等を配布する。																													
到達目標(学修成果)及び観点	<p>【到達目標(学修成果)及び観点】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標(学修成果)及び観点</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>技能・表現</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○	○		○		到達目標②	○	○	○			到達目標③	○	○		○					
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○	○		○																										
到達目標②	○	○	○																											
到達目標③	○	○		○																										
評価方法・基準	<p>【評価方法・基準】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標(学修成果)</th> <th>定期試験 (筆記試験・実技試験)</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物・レポート</th> <th>発表・実技</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td>20%</td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td>20%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価: 取り入れている・<input type="checkbox"/>取り入れていない</p>		評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()	到達目標①			10%	20%	10%		到達目標②			10%		10%		到達目標③			10%	10%	20%	
評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①			10%	20%	10%																									
到達目標②			10%		10%																									
到達目標③			10%	10%	20%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談: オフィスアワーの時間に対応する。</p> <p>学習成果のフィードバック: 授業の中で指示をする。</p>																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士: 保育士の資格取得ではないが、学校独自の科目として開設されている教科目																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	専門性の高い外部講師の講義やフィールドワーク等から学びが深められたとの回答が多かったため、実践的な学びや取り組みを設けていく。																													
受講生へのメッセージ・その他	<p>・障がいについての学びや理解を深めていきましょう。</p> <p>・受講姿勢は、授業への参加態度や提出物の提出状況で評価を行います。</p> <p>・提出物は、分量や授業内容の理解度をもとに評価します。</p>																													
実務経験の有無	<input type="checkbox"/> あり・なし	<p>双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無</p> <input type="checkbox"/> あり・なし																												

科目区分	専門教育 科目	科 目 名	専門ゼミナールⅠ（地域連 携プログラム）	担当者	田中浩之・河村浩世	開講時期	2年 前期	授業形態・ 単位数	演習 1単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS30201	資格等取得との関連	保育士：必修				
テーマ・授業の 到達目標（学修 成果）	<p>テーマ：保育専門職（幼稚園教諭・保育士等）に必要とされる専門性について実践的に理解する。</p> <p>到達目標（学修成果）①：テーマに沿った形での実践を計画・立案・実践・省察を繰り返し実践できる</p> <p>到達目標（学修成果）②：専門職として必要とされるコミュニケーション能力を身につけ実践できる</p> <p>到達目標（学修成果）③：保育専門職として必要な専門的知識を修得できる</p>								
授業概要	<p>保育職としての勤務経験のある教員が担当する本ゼミナールは、幼児教育、あるいは保育の場面で必要とされる専門的知識及び技術のさらなる理解を図ることを目的とする。ゼミナールごとにテーマを設定し、保育に際する課題設定、保育教材の開発、保育の計画立案とその実践、実践後の振り返りを繰り返すことにより、さらなる実践力を身につける。グループワーク等による活動を多く取り入れて活動を行う。</p>								
ディプロマポリシー （DP）と到達目 標（学修成果） との対応	◎	<p>① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。</p> <p>② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。</p> <p>③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。</p>							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画				時間外学習				
1回	全体オリエンテーション				事前：担当教員からの指示に従い準備をする（0.5h） 事後：事後の振り返りと自戒の活動の準備をする（1h）				
2回	担当教員によるオリエンテーション				事前：担当教員からの指示に従い準備をする（0.5h） 事後：事後の振り返りと自戒の活動の準備をする（1h）				
3回	実践1：計画（グループワーク）				事前：担当教員からの指示に従い準備をする（0.5h） 事後：事後の振り返りと自戒の活動の準備をする（1h）				
4回	実践1：準備・教材作成（グループワーク）				事前：担当教員からの指示に従い準備をする（0.5h） 事後：事後の振り返りと自戒の活動の準備をする（1h）				
5回	実践1；準備・教材作成（グループワーク）				事前：担当教員からの指示に従い準備をする（0.5h） 事後：事後の振り返りと自戒の活動の準備をする（1h）				
6回	実践1：準備・教材作成（グループワーク）				事前：担当教員からの指示に従い準備をする（0.5h） 事後：事後の振り返りと自戒の活動の準備をする（1h）				
7回	実践1：発表（グループワーク）				事前：担当教員からの指示に従い準備をする（0.5h） 事後：事後の振り返りと自戒の活動の準備をする（1h）				
8回	実践1：振り返り（グループワーク） 実践2：計画（グループワーク）				事前：担当教員からの指示に従い準備をする（0.5h） 事後：事後の振り返りと自戒の活動の準備をする（1h）				
9回	実践2：準備・教材作成（グループワーク）				事前：担当教員からの指示に従い準備をする（0.5h） 事後：事後の振り返りと自戒の活動の準備をする（1h）				
10回	実践2：準備・教材作成（グループワーク）				事前：担当教員からの指示に従い準備をする（0.5h） 事後：事後の振り返りと自戒の活動の準備をする（1h）				
11回	実践2：準備・教材作成（グループワーク）				事前：担当教員からの指示に従い準備をする（0.5h） 事後：事後の振り返りと自戒の活動の準備をする（1h）				
12回	実践2：発表（グループワーク）				事前：担当教員からの指示に従い準備をする（0.5h） 事後：事後の振り返りと自戒の活動の準備をする（1h）				
13回	実践2：教材発表（プレゼンテーション）				事前：担当教員からの指示に従い準備をする（0.5h） 事後：事後の振り返りと自戒の活動の準備をする（1h）				

14回	実践2:振り返り(グループワーク) ○外部講師 地域連携に関わる人材	事前:担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後:事後の振り返りと自戒の活動の準備をする(1h)																												
15回	まとめ	事前:担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後:事後の振り返りと自戒の活動の準備をする(1h)																												
16回	定期試験																													
テキスト	特になし																													
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 厚生労働省編『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018 文部科学省編『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、2018 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館、2018 必要に応じて担当教員から指示、資料等を配布する。																													
到達目標(学修成果)及び観点	【到達目標(学修成果)及び観点】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標(学修成果)及び観点</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>技能・表現</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td>○¹</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○	○				到達目標②			○	○		到達目標③			○ ¹	○					
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○	○																												
到達目標②			○	○																										
到達目標③			○ ¹	○																										
評価方法・基準	【評価方法・基準】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標(学修成果)</th> <th>期末試験 (筆記試験・実技試験)</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物 レポート</th> <th>発表・実技</th> <th>取り組み 姿勢</th> <th>その他 ()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td>20%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ルーブリック評価: 取り入れている・ <input type="checkbox"/> 取り入れていない		評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()	到達目標①			10%	10%	20%		到達目標②			10%	10%	10%		到達目標③			20%		10%	
評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()																								
到達目標①			10%	10%	20%																									
到達目標②			10%	10%	10%																									
到達目標③			20%		10%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談: オフィスアワーの時間に対応する。 学習成果のフィードバック: 授業の中で指示する。																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士: 保育士の資格取得ではないが、学校独自の科目として開設されている教科目																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	昨年はグループごとに分断されてしまうような状況がありました。今年度は一体感を持って指導に当たりたいと思います。 学生自身が主体的に学ぶことが出来る環境づくりを目指し、引き続き授業内容を検討していきます。																													
受講生へのメッセージ・その他	受講姿勢は、実践を含む授業への参加態度をもとに評価をします。 また、提出物は分量や授業内容の理解度をもとに評価します。																													
実務経験の有無	<input checked="" type="checkbox"/> あり ・ なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無																												

科目区分	専門教育 科目	科目 名	専門ゼミナールⅠ(乳幼児 プログラム)	担当者	田中裕子・北畠香世子	開講時期	2年 前期	授業形態・ 単位数	演習 1単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS30201	資格等取得との関連	保育士:必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	<p>テーマ:保育専門職(幼稚園教諭・保育士等)に必要とされる専門性について実践的に理解する</p> <p>到達目標(学習成果)①:テーマに沿った形での実践を計画・立案・実践・省察を繰り返し実践できる。</p> <p>到達目標(学習成果)②:専門職として必要とされるコミュニケーション能力を身につけ実践できる。</p> <p>到達目標(学習成果)③:保育専門職として必要な専門的知識を修得できる。</p>								
授業概要	<p>本ゼミナールは、幼児教育および保育の現場で求められる専門的知識と実践的技術の深化を目的とする。担当者が幼稚園園長として園運営に携わってきた経験、ならびに三重県教育アドバイザーとして地域の教育支援に従事してきた知見を基盤とし、理論と実践を往還しながら学修を進める。</p> <p>各回のゼミナールではテーマを設定し、保育における課題の発見と設定、保育教材の開発、保育計画の立案と実践、実践後の振り返りと改善を継続的に行う。これらのプロセスを繰り返すことで、学生が保育者として現場で活かせる実践力と専門的判断力を身に付けることを目指す。また、園長経験に基づく組織運営の視点や、教育アドバイザーとしての地域連携の視点も取り入れ、保育者としての総合的な視野を育成する。</p>								
ディプロマ (DP)と到達目 標(学修成果) との対応	<p>① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。</p> <p>② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。</p> <p>③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。</p> <p>◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目</p>								
	授業計画				時間外学習				
1回	オリエンテーション 読み聞かせの絵本を選ぶ 面談①				事前:自分の研究テーマについて考える(0.5h) 事後:自分の研究テーマについて考える(1h)				
2回	実践Ⅰ 読み聞かせの模擬保育①(グループワーク)実践				事前:読み聞かせの読み方について調べる(0.5h) 事後:事後の振り返りをする。(1h)				
3回	実践Ⅰ 読み聞かせの模擬保育②(グループワーク)実践				事前:読み聞かせの読み方について調べる(0.5h) 事後:事後の振り返りをする(1h)				
4回	実践Ⅰ 読み聞かせの模擬保育③(グループワーク)実践				事前:読み聞かせの読み方について調べる(0.5h) 事後:事後の振り返りをする(1h)				
5回	実践Ⅱ 6月の模擬保育④指導案(グループワーク)実践				事前:幼稚園教育実習Ⅱの部分指導案作成(0.5h) 事後:事後の振り返りをする。(1h)				
6回	実践Ⅱ 6月の模擬保育⑤指導案(グループワーク)実践				事前:幼稚園教育実習Ⅱの部分指導案作成(0.5h) 事後:事後の振り返りをする(1h)				
7回	実践Ⅱ 6月の模擬保育⑥指導案(グループワーク)実践				事前:幼稚園教育実習Ⅱの部分指導案作成(0.5h) 事後:事後の振り返りをする(1h)				
8回	実践Ⅲ 教材準備(製作)①				事前:製作準備を進める(0.5h) 事後:事後の振り返りをする(1h)				
9回	実践Ⅲ 教材準備(製作)②				事前:製作を進める(0.5h) 事後:事後の振り返りをする(1h)				
10回	実践Ⅲ 教材準備(製作)③				事前:製作を進める(0.5h) 事後:事後の振り返りをする(1h)				
11回	実践Ⅲ 教材発表①(プレゼンテーション)				事前:製作教材のプレゼン練習をする(0.5h) 事後:事後の振り返りをする(1h)				
12回	実践Ⅲ 教材発表②(プレゼンテーション)				事前:製作教材のプレゼン練習をする(0.5h) 事後:事後の振り返りをする(1h)				

13回	実践 3 教材発表③(プレゼンテーション)	事前:製作教材のプレゼン練習をする(0.5h) 事後:事後の振り返りをする(1h)																												
14回	成果レポートの作成準備①	事前:先行研究を調べる(0.5h) 事後:先行研究を調べる(1h)																												
15回	まとめ 成果レポートの作成準備②	事前:中間報告に向けて調べたことをまとめる (研究テーマを決める)(0.5h) 事後:総合的に自分の考えをまとめる 保育方法について考える(1h)																												
16回	定期試験																													
テキスト	なし																													
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 厚生労働省編『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、2018 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館、2018 必要に応じて担当教員から指示、資料等を配布する																													
到達目標(学修成果)及び観点	【到達目標(学修成果)及び観点】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標(学修成果)及び観点</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>技能・表現</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○	○		○		到達目標②	○	○	○	○		到達目標③	○	○		○					
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○	○		○																										
到達目標②	○	○	○	○																										
到達目標③	○	○		○																										
評価方法・基準	【評価方法・基準】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標(学修成果)</th> <th>定期試験 (筆記試験・実技試験)</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物・レポート</th> <th>発表・実技</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td>20%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()	到達目標①			10%	10%	20%		到達目標②			10%	10%	10%		到達目標③			20%		10%	
評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①			10%	10%	20%																									
到達目標②			10%	10%	10%																									
到達目標③			20%		10%																									
ルーブリック評価	ルーブリック評価: 取り入れている ・ <input type="checkbox"/> 取り入っていない																													
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談: オフィスアワーの時間に対応する。 学習成果のフィードバック: 授業の中で指示する。																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士: 保育士の資格取得ではないが、学校独自の科目として開設されている教科目																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	高い評価を受けました。 学生が自分たちの課題を見つけて主体的に取り組む姿が見られました。「専門的な関心や興味が持てるようになった」と肯定的回答は100%であり具体的な現場でのイメージに繋がられた授業内容となったと考えられる。今後は、意欲や能力を高められるような全体と個別の関りの両面を意識し教授していく。																													
受講生へのメッセージ・その他	・受講姿勢は、実践を含む授業への参加態度をもとに評価します。 ・提出物は、分量や授業内容の理解度をもとに評価します。 ・学生が主体的に取り組むようにしてください。																													
実務経験の有無	<input checked="" type="checkbox"/> あり ・ なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無																												
		<input checked="" type="checkbox"/> あり ・ なし																												

科目区分	専門教育科目	科目名	専門ゼミナールⅡ(障がい児プログラム)	担当者	仲森みどり・加藤大門	開講時期	2年後期	授業形態・単位数	演習Ⅰ単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS30202	資格等取得との関連	保育士:必修				
テーマ・授業の到達目標(学修成果)	<p>テーマ:保育専門職(幼稚園教諭・保育士・施設職員等)に必要とされる専門性についてさらに理解を深める。</p> <p>到達目標(学修成果)①:専門職として必要とされるコミュニケーション能力、特に「書く力」についての理解を深める。</p> <p>到達目標(学修成果)②:専門職として必要とされる「研究力」について、実践発表・ディスカッション等を通じて実践的にできる。</p> <p>到達目標(学修成果)③:修得した専門的知識を包括的に研究につなげることができる。</p>								
授業概要	<p>保育園、児童相談所、母子生活支援施設での実務経験を持つ教員が、専門ゼミナールⅠでの実践を継承しつつ、本ゼミナールではゼミ内でのディスカッション、実践や学習成果に対する発表を通じて、保育専門職・障がい支援職のとしてのさらなる向上を図ることをねらいとする。本プログラムでは「障がい児の支援」、「障がい児の理解」の2科目がゼミナール必修科目となっている。これらの科目の単位が認められてこの科目の単位が認定される。</p>								
ディプロマポリシー(DP)と到達目標(学修成果)との対応	<p>① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。</p> <p>② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。</p> <p>③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。</p> <p>◎=DP達成のために特に重要な項目 ○=DP達成のために重要な項目 △=DP達成のために望ましい項目</p>								
	授業計画					時間外学習			
1回	オリエンテーション					事前:専門ゼミナールⅠの内容を復習する(0.5h) 事後:研究テーマについて調査を進める(1h)			
2回	障がいを考慮したおもちゃの作成①(グループワーク)					事前:授業で学んだことをふまえ計画を立てる(0.5h) 事後:事後の振り返りをする(1h)			
3回	障がいを考慮したおもちゃの作成②(グループワーク)					事前:前回の内容をふまえ準備・修正を行う(0.5h) 事後:事後の振り返りをする(1h)			
4回	障がいを考慮したおもちゃの作成③(グループワーク)					事前:前回の内容をふまえ準備・修正を行う(0.5h) 事後:事後の振り返りをする(1h)			
5回	障がいを考慮したおもちゃの作成④(グループワーク・ディスカッション) 製作物の発表					事前:製作物を通してプレゼン方法を計画(0.5h) 事後:事後の振り返りをする(1h)			
6回	製作物の発表と実践					事前:製作物のプレゼンテーション(0.5h) 事後:事後の振り返りをする(1h)			
7回	成果レポートの作成準備					事前:自らの研究動機をまとめ、深める(0.5h) 事後:事後の振り返りをする(1h)			
8回	障がいと歯科衛生①(グループワーク・ディスカッション) 外部講師(ユマニテク医療福祉大学 歯科衛生学科)					事前:歯科衛生に関する情報を調べる(0.5h) 事後:事後の振り返りをする(1h)			
9回	障がいと歯科衛生②(グループワーク・ディスカッション) 外部講師(ユマニテク医療福祉大学 歯科衛生学科)					事前:歯科衛生と障がいの関係性を調べる(0.5h) 事後:事後の振り返りをする(1h)			
10回	成果レポートの執筆①					事前:成果レポート作成の準備をする(0.5h) 事後:成果レポートをまとめる(1h)			
11回	成果レポートの執筆②					事前:成果レポート作成の準備をする(0.5h) 事後:成果レポートをまとめる(1h)			
12回	成果レポートの執筆③					事前:成果レポート作成の準備をする(0.5h) 事後:成果レポートをまとめる(1h)			
13回	成果レポートの執筆④					事前:成果レポート作成の準備をする(0.5h) 事後:成果レポートをまとめる(1h)			

14回	成果レポートの発表(ディスカッション)	事前:成果レポート発表の準備をする(0.5h) 事後:成果レポートをまとめる(1h)																												
15回	成果レポートの発表とまとめ(ディスカッション)	事前:成果レポート発表の準備をする(0.5h) 事後:成果レポートをまとめる(1h)																												
16回																														
テキスト	無し																													
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 必要に応じて担当教員から指示、資料等を配布する。																													
到達目標(学修成果)及び観点	<p>【到達目標(学修成果)及び観点】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標(学修成果)及び観点</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>技能・表現</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○					到達目標②		○		○		到達目標③		○	○						
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○																													
到達目標②		○		○																										
到達目標③		○	○																											
評価方法・基準	<p>【評価方法・基準】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標(学修成果)</th> <th>定期試験 (筆記試験・実技試験)</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物・レポート</th> <th>発表・実技</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td></td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td></td> <td>20%</td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td>20%</td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価: <input checked="" type="checkbox"/> 取り入れている ・ <input type="checkbox"/> 取り入っていない</p>		評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()	到達目標①			20%		10%		到達目標②			20%	10%	10%		到達目標③			20%	10%		
評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①			20%		10%																									
到達目標②			20%	10%	10%																									
到達目標③			20%	10%																										
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談: オフィスアワーの時間に対応する。</p> <p>学習成果のフィードバック: 授業の中で指示する。</p>																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士: 保育士の資格取得ではないが、学校独自の科目として開設されている教科目																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	専門性の高い外部講師の講義やフィールドワーク等から学びが深められたとの回答が多かったため、実践的な学びや取り組みを設けていく。																													
受講生へのメッセージ・その他	問題意識を持ち成果報告書に向けてコツコツと進めていきましょう。																													
実務経験の有無	<input checked="" type="checkbox"/> あり ・ なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無																												
		<input checked="" type="checkbox"/> あり ・ なし																												

科目区分	専門教育 科目	科 目 名	専門ゼミナールⅡ (地域連携プログラム)	担当者	田中浩之・河村浩世	開講時期	2年 後期	授業形態・ 単位数	演習 1単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS30202	資格等取得との関連	保育士：必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	<p>テーマ：保育専門職(幼稚園教諭・保育士等)に必要とされる専門性についてさらに理解を深める</p> <p>到達目標(学修成果)①：専門職として必要とされるコミュニケーション能力。特に「書く力」についての理解を深める。</p> <p>到達目標(学修成果)②：専門職として必要とされる「研究力」について、発表・ディスカッション等を通じて実践的にできる。</p> <p>到達目標(学修成果)③：修得した専門的知識を包括的に研究につなげることができる。</p>								
授業概要	<p>教員として勤務経験の教員が担当する本ゼミナールは、専門ゼミナールⅠでの実践を継承しつつ、ゼミ内でのディスカッション、保育現場でのさらなる実践、実践や学習成果に対する発表を通じて、保育専門職としてのさらなる向上を図ることをねらいとする。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と到達目 標(学修成果) との対応	◎	<p>① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。</p> <p>② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。</p> <p>③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。</p>							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1回	全体オリエンテーション					事前：担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後：事後の振り返りと成果レポートの準備をする(1h)			
2回	担当教員によるオリエンテーション 実践に向けての準備①(グループワーク)					事前：担当教員からの指示に従い準備をする(0.5h) 事後：事後の振り返りと成果レポートの準備をする(1h)			
3回	成果レポートの作成準備① ゼミ内ディスカッション、方向性の確認 実践に向けての準備②(グループワーク)					事前：成果レポートと実践の準備をする(0.5h) 事後：成果レポートをまとめる(1h)			
4回	成果レポートの作成準備② ゼミ内ディスカッション、序論下書き作成 実践に向けての準備③(グループワーク)					事前：成果レポートと実践の準備をする(0.5h) 事後：成果レポートをまとめる(1h)			
5回	成果レポートの作成準備③ ゼミ内ディスカッション、本文下書き作成 実践に向けての準備④(グループワーク)					事前：成果レポートと実践の準備をする(0.5h) 事後：成果レポートをまとめる(1h)			
6回	成果レポートの作成準備④ ゼミ内ディスカッション、結論下書き作成 実践に向けての準備⑤(グループワーク)					事前：成果レポートと実践の準備をする(0.5h) 事後：成果レポートをまとめる(1h)			
7回	成果レポート中間報告(プレゼンテーション)					事前：発表に向けての準備をする(0.5h) 事後：発表の振り返りをする(1h)			
8回	成果レポートの執筆① 序論 実践に向けての準備⑥					事前：成果レポートと実践の準備をする(0.5h) 事後：成果レポートをまとめる(1h)			
9回	成果レポートの執筆② 本論 実践に向けての準備⑦					事前：成果レポートと実践の準備をする(0.5h) 事後：成果レポートをまとめる(1h)			
10回	学外活動(地域連携活動)					事前：成果レポートと実践の準備をする(0.5h) 事後：成果レポートをまとめる(1h)			
11回	成果レポートの執筆③ 結論					事前：成果レポートの準備をする(0.5h) 事後：成果レポートをまとめる(1h)			
12回	成果レポートの執筆④ 推敲 プレゼンテーションに向けての準備					事前：成果発表における準備をする(0.5h) 事後：指導をもとに成果発表の準備をする(1h)			
13回	プレゼンテーション					事前：成果発表に向けての準備をする(0.5h) 事後：指導をもとに成果発表の振り返りをする(1h)			
14回	プレゼンテーションの振り返り					事前：成果発表の振り返りをする(0.5h) 事後：指導をもとに成果発表の振り返りをする(1h)			

15回	ゼミナール一年間のまとめと振り返り	事前:1年間のまとめを振り返る(0.5h) 事後:1年間のまとめをする(1h)																												
16回																														
テキスト	特になし																													
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 厚生労働省編『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、2018 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館、2018 必要に応じて担当教員から指示、資料等を配布する。																													
到達目標(学修成果)及び観点	【到達目標(学修成果)及び観点】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標(学修成果)及び観点</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>技能・表現</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○	○				到達目標②			○	○		到達目標③			○	○					
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○	○																												
到達目標②			○	○																										
到達目標③			○	○																										
評価方法・基準	【評価方法・基準】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標(学修成果)</th> <th>期末試験 (筆記試験・実技試験)</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物・レポート</th> <th>発表・実技</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td></td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()	到達目標①			20%		20%		到達目標②			20%		20%		到達目標③			20%			
評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①			20%		20%																									
到達目標②			20%		20%																									
到達目標③			20%																											
ルーブリック評価	ルーブリック評価: 取り入れている ・ <input type="checkbox"/> 取り入っていない																													
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談: オフィスアワーの時間に対応する。 学習成果のフィードバック: 授業の中で指示する。																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士: 保育士の資格取得ではないが、学校独自の科目として開設されている教科目																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	昨年はグループごとに分断されてしまうような状況がありました。今年度は一体感を持って指導に当たりたいと思います。 学生自身が主体的に学ぶことが出来る環境づくりを目指し、引き続き授業内容を検討していきます。																													
受講生へのメッセージ・その他	受講姿勢は、成果レポートの作成を含む授業への参加態度をもとに評価をします。 また、成果レポートは分量やレポート内容の理解度をもとに評価します。																													
実務経験の有無	<input checked="" type="checkbox"/> あり ・ なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無																												
		<input checked="" type="checkbox"/> あり ・ なし																												

科目区分	専門教育 科目	科 目 名	保育・教職実践演習	担当者	平松喜代江・徳増全矢 田中浩之・北島香世子	開講時期	2年 後期	授業形態・ 単位数	演習 2単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS30203	資格等取得との関連	幼稚園：必修・保育士：必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	<p>テーマ：幼児教育者あるいは保育者として、保育内容にかかわる理解を深めるとともに受講者の指導力向上を図る。</p> <p>到達目標(学修成果)①：ひとりの社会人及び教育・保育の専門職としての使命感、常に学び続ける意欲を持つことができる。</p> <p>到達目標(学修成果)②：組織の一員としての自覚を持ち、職責・職務の遂行に向けた適切な発言と良好な人間関係を形成できる。</p> <p>到達目標(学修成果)③：子どもの心身の発達、安全に配慮した実践をすることができる。</p> <p>到達目標(学修成果)④：これまでの学びや学外実習等の経験をもとに、一人ひとりの子どもの特性や状況に配慮した指導法の工夫及び自己の実践に対する評価・改善に取り組むことができる。</p>								
授業概要	2年間の学び、あるいは学外実習で得られた専門的な知識及び技術について、学内でのディスカッション、あるいは保育現場での実践を通じて再確認するとともに、保育者として必要とされる使命感、社会性、責任感、子どもに対する理解などを深めることを目的とする。また、外部講師からの講話や各現場でのフィールドワーク、実践を通じて理解を深め、受講生の幼児教育者あるいは保育者としての指導力向上に資することをねらいとする。								
ディプロマポリシー (DP)と到達目 標(学修成果) との対応	①	保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	②	日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
	③	様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1回	イントロダクション 履修カルテを用いた、今までの学修の振り返り・自己評価					事前：履修カルテを利用してこれまでの振り返り(1h) 事後：学習内容の振り返りとまとめ(1h)			
2回	保育者として求められる資質①「使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項」(グループワーク・ディスカッション)					事前：自らの課題を発表用にまとめる(1h) 事後：グループでの内容をまとめ、振り返る(1h)			
3回	保育者として求められる資質②「社会性や対人関係能力に関する事項」(グループワーク・ディスカッション)					事前：これまでの指導実習を振り返る(1h) 事後：特別講演を拝聴してのまとめと振り返り(1h)			
4回	保育者として求められる資質③「幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項」(グループワーク・ディスカッション)					事前：保育者の資質に関する事前調査をする(1h) 事後：成果内容についてまとめ、振り返る(1h)			
5回	保育者として求められる資質④「保育内容等の指導力に関する事項」(グループワーク・ディスカッション)					事前：保育者の資質に関する事前調査をする(1h) 事後：成果内容についてまとめ、振り返る(1h)			
6回	効果的な指導案の作成について					事前：保育者の資質に関する事前調査をする(1h) 事後：成果内容についてまとめ、振り返る(1h)			
7回	模擬保育検討のための指導案作成①					事前：保育者の資質に関する事前調査をする(1h) 事後：成果内容についてまとめ、振り返る(1h)			
8回	模擬保育検討のための指導案作成②					事前：指導案に関しての振り返りをする(1h) 事後：特別講義を受けてのまとめと振り返り(1h)			
9回	模擬保育に向けての準備① 実際の環境を整備					事前：指導案作成等の下準備をする(1h) 事後：指導案に関する再検討を行う(1h)			
10回	模擬保育に向けての準備② リハーサル等					事前：指導案に基づき準備をする(1h) 事後：不足分について学習する(1h)			
11回	模擬保育の実施① 2グループによる模擬保育+6グループは観察・検証					事前：指導案に基づき準備をする(1h) 事後：不足分について学習する(1h)			
12回	模擬保育の実施② 2グループによる模擬保育+6グループは観察・検証					事前：指導案に基づき準備をする(1h) 事後：不足分について学習する(1h)			

13回	模擬保育の実施③ 2グループによる模擬保育+6グループは観察・検証	事前:指導案に基づき準備をする(1h) 事後:実施後の自己評価と振り返りをする(1h)																																			
14回	模擬保育の実施④ 2グループによる模擬保育+6グループは観察・検証	事前:指導案に基づき準備をする(1h) 事後:実施後の自己評価と振り返りをする(1h)																																			
15回	総括:学びの振り返りと学修成果の再構成・最終的な自己評価	事前:半期分の学習について振り返りをする(1h) 事後:自己評価を振り返る(1h)																																			
テキスト	資料については必要に応じて授業時に配布する。																																				
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 厚生労働省編『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、2018 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館、2018																																				
到達目標(学修成果)及び観点	<p>【到達目標(学修成果)及び観点】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標(学修成果)及び観点</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>技能・表現</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標④</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①		○	○			到達目標②		○	○			到達目標③		○	○	○		到達目標④		○	○	○						
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																																
到達目標①		○	○																																		
到達目標②		○	○																																		
到達目標③		○	○	○																																	
到達目標④		○	○	○																																	
評価方法・基準	<p>【評価方法・基準】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標(学修成果)</th> <th>期末試験(筆記試験・実技試験)</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物・レポート</th> <th>発表・実技</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標④</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価: 取り入れている・<input type="checkbox"/>取り入っていない</p>		評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験(筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()	到達目標①			10%		10%		到達目標②			10%		10%		到達目標③			10%	10%	10%		到達目標④			10%	10%	10%	
評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験(筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()																															
到達目標①			10%		10%																																
到達目標②			10%		10%																																
到達目標③			10%	10%	10%																																
到達目標④			10%	10%	10%																																
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談: オフィスアワー(掲示板にて確認)、もしくは各教員が研究室に在籍し、対応できる場合は随時行います。</p> <p>学習成果のフィードバック: 試験結果、各種課題の返却については授業時間にて指示します。</p>																																				
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	<p>幼稚園:教育実践に関する科目/教職実践演習 保育士:総合演習/保育実践演習</p>																																				
授業評価アンケート結果を受けての改善点	<p>教員間の連携を密に行い、グループごとの個体差が出ないように工夫をする。模擬保育がより充実したものとなるよう、綿密な計画を立てて臨む。</p>																																				
受講生へのメッセージ・その他	<p>・受講姿勢は、指導案等成果物の作成を含む授業への参加態度をもとに評価します。 ・成果物は、分量やレポート内容の理解度をもとに評価します。</p>																																				
実務経験の有無	<input checked="" type="checkbox"/> あり ・ なし	<p>双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無</p> <input checked="" type="checkbox"/> あり ・ なし																																			

科目区分	専門教育 科目	科 目 名	教育心理学	担当者	小椋佐奈衣	開講時期	1年(2年課 程のみ) 前期	授業形態・ 単位数	講義 2単位	
卒業要件	必修	ナンバリング	CS40101	資格等取得との関連	幼稚園:必修・保育士:必修・准学校心理士:必修					
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	<p>テーマ: 幼児・児童・生徒の心身の発達と学習の過程を学ぶ。</p> <p>到達目標(学修成果)①: 学習・記憶・認知・行動の発達理論など教育心理学の基礎的知識を説明できる。</p> <p>到達目標(学修成果)②: 子どもの教育環境と学びの意欲・自立と社会性の発達について心理学的に説明できる。</p> <p>到達目標(学修成果)③: 子どもの心身の発達及び学習の過程の基礎的知識をもとに専門家として保育・教育実践に応用できる。</p>									
授業概要	<p>公認心理師と学校心理士の資格を持ち、小学校のスクールアシスタント及びスクールカウンセラー、教育委員会など教育機関の相談員として支援の経験のある教員が担当する。教育現場の実践者としての経験を生かし、理論と実践を織成す講義を行う。本授業は、教育心理学と発達心理学の知見を軸として、子どもの心身の発達の過程と特徴、及び「学び」に関する諸学説について概説する。また、子どもの学習・記憶・認知・行動・社会性などの発達や学びのプロセスを理解するため、認知科学や学習科学、行動主義の理論を学ぶ。それらの知見を子どもの発達段階に応じた保育・教育の実践に役立てるために、PBL(課題解決型学習)を目的として考究する。</p>									
ディプロマポリシー (DP)と到達目 標(学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。								
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。								
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。								
		◎=DP 達成のために特に重要な項目							○=DP 達成のために重要な項目	
		△=DP 達成のために望ましい項目								
授業計画					時間外学習					
1回	オリエンテーション:教育心理学の考え方・発達とは何か				事前:シラバスを読み、必要テキストの準備をする。(2h) 事後:教科書の内容を把握する。(2h)					
2回	子どもの心身の発達:胎児・新生児・乳児・幼児・児童・生徒				事前:Web 資料等で子どもの発達を調べる(2h) 事後:配布資料の内容を把握する。(2h)					
3回	発達の理論:環境と遺伝・ピアジェの理論・ヴィゴツキーの発達論				事前:Web 資料等で発達理論を調べる(2h) 事後:配布資料の内容を把握する。(2h)					
4回	学習の理論:行動主義・認知的学習理論				事前:テキスト【チャプターI】を読む。(2h) 事後:授業内容をまとめる。(2h)					
5回	学びの環境:学習の場所とその移行				事前:テキスト【チャプターII】を読む。(2h) 事後:授業内容をまとめる。(2h)					
6回	学びの理解①:学びの意欲と動機付け				事前:テキスト【チャプターIII】を読む。(2h) 事後:授業内容をまとめる。(2h)					
7回	学びの理解②:記憶・知識・認知・学習の理論				事前:テキスト【チャプターIV】を読む。(2h) 事後:授業内容をまとめる。(2h)					
8回	学びの理解③:文字・文章・数量の理解				事前:テキスト【チャプターV】を読む。(2h) 事後:授業内容をまとめる。(2h)					
9回	学びの支援:個に応じた学習の理論と援助方法				事前:テキスト【チャプターVIII】を読む。(2h) 事後:授業内容をまとめる。(2h)					
10回	子どもの自立と社会性①:仲間関係・人間関係・自我の確立				事前:テキスト【チャプターIX】を読む。(2h) 事後:授業内容をまとめる。(2h)					
11回	子どもの自立と社会性②:学級集団と学級風土				事前:テキスト【チャプターIX】を読む。(2h) 事後:授業内容をまとめる。(2h)					
12回	子どもの支援①:虐待・いじめ・不登校				事前:テキスト【チャプターX】を読む。(2h) 事後:授業内容をまとめる。(2h)					
13回	子どもの支援②:発達障害と精神疾患				事前:テキスト【チャプターX】を読む。(2h) 事後:授業内容をまとめる。(2h)					

14回	子どもの支援③:特別支援教育について	事前:テキスト【チャプターX】を読む。(2h) 事後:授業内容をまとめる。(2h)																												
15回	子どもの学びと適応の評価:学力観と評価の方法	事前:テキスト【チャプターXI】を読む。(2h) 事後:授業内容をまとめる。(2h)																												
16回	定期試験																													
テキスト	中澤 潤 編 『よくわかる 教育心理学』 ミネルヴァ書房 2022年																													
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 無藤隆 他 編 『よくわかる発達心理学』 ミネルヴァ書房 2009年 開一夫 他 編 『ベーシック発達心理学』 東京大学出版会 2018年 長谷川比呂美 他 著 『保育の心理学』 ななみ書房 2021年																													
到達目標(学修成果)及び観点	<p>【到達目標(学修成果)及び観点】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標(学修成果)及び観点</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>技能・表現</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○	○				到達目標②	○	○				到達目標③	○	○	○						
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○	○																												
到達目標②	○	○																												
到達目標③	○	○	○																											
評価方法・基準	<p>【評価方法・基準】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標(学修成果)</th> <th>期末試験 (筆記試験・実技試験)</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物・レポート</th> <th>発表・実技</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>20%</td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>20%</td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>20%</td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価: 取り入れている ・ <input type="checkbox"/> 取り入っていない</p>		評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()	到達目標①	20%	10%					到達目標②	20%	10%	10%				到達目標③	20%	10%				
評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①	20%	10%																												
到達目標②	20%	10%	10%																											
到達目標③	20%	10%																												
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談: オフィスアワー、あるいは教員が研究室に在籍時、対応できる場合は随時行う。</p> <p>学習成果のフィードバック: 授業の中で振り返りを行い教示し、リアクションペーパーの提出と小テストや課題・提出物・レポートに関して回答と意見や感想の共有を行う。</p>																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	<p>幼稚園: 教育の基礎的理解に関する科目/幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の課程</p> <p>保育士: 保育の対象の理解に関する科目/保育の心理学</p>																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	<p>新規担当のため評価なし</p> <p>授業方針として、双方向授業を取り入れ、意見や発表を行う。</p> <p>授業進行方法等について、アクティブラーニングを導入して、グループワーク・ペアワーク・ディスカッション等を実施する。</p>																													
受講生へのメッセージ・その他	<p>子どもの学習・記憶・認知・行動・社会性の発達と過程を研究する心理学を興味深く学ぶために、自身の幼児期と児童期の教育歴と関連付けて受講者自身の学びと育ちを振り返り学修に取り組みましょう。</p> <p>授業では、デジタル化等の活用としてスマートフォンやタブレットも使用します。</p>																													
実務経験の有無	あり	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無																												

科目区分	専門教育 科目	科 目 名	幼児の言葉	担当者	田中浩之	開講時期	1年(2年 課程のみ) 後期	授業形態・ 単位数	演習 1単位	
卒業要件	必修	ナンバリング	CS40102	資格等取得との関連	幼稚園:必修・保育士:必修					
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	<p>テーマ:乳幼児期の言葉の発達過程を科学的・実践的に理解し、幼児教育者・保育者として言葉の育ちを豊かに支える保育内容を創造する</p> <p>到達目標(学修成果)①:乳幼児期における言葉獲得の発達過程(音声の発達、語彙の獲得、文構造の形成、対話能力の発達など)を体系的に理解し、言葉の発達を支える保育内容および保育者の関わりについて具体的に説明できる。</p> <p>到達目標(学修成果)②:保育所保育指針および幼稚園教育要領に示される領域「言葉」のねらいと内容を理解し、その背景にある教育的意義を踏まえて保育実践に結びつけて説明できる。</p> <p>到達目標(学修成果)③:絵本、紙芝居、わらべうた、素話などの児童文化財の特性と言葉の発達との関連を理解し、発達段階に応じた適切な活用方法を考察・提案できる。</p>									
授業概要	<p>本授業では、乳児期から就学前までの言葉の発達過程を理論的・実証的視点から学び、子どもの言葉の育ちを支える保育のあり方について探究する。喃語から語彙の拡大、文の形成、対話的コミュニケーションの発達までの道筋を理解するとともに、言葉が認知・情緒・社会性の発達とどのように関連しているかをグループワークを通して考える。さらに、保育所保育指針および幼稚園教育要領における領域「言葉」の内容とねらいを踏まえ、また、「絵本専門士」として児童文化財(絵本・紙芝居・わらべうた等)の活用について、言葉の育ちを促す具体的な保育実践を構想する力を学生に養う。</p>									
ディプロマ (DP)と到達目 標(学修成果) との対応	◎	保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。								
	◎	日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。								
		様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。								
		◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
		授業計画				時間外学習				
1回	オリエンテーション 自分の言葉を分析し、保育者・教育者としての言葉を考える。				事前:自分の使う言葉を分析する。(0.5h) 事後:今後の自分の言葉を考える。(0.5h)					
2回	言葉獲得の前提となるコミュニケーションの基礎は何であるのか考え、言葉の獲得と人間の育ちとの関係を考察する。テキスト「保育内容・言葉」第1章「こどものことばと育ち」に従って「ことばの育ちを支えるもの」について考える。				事前:テキストP1~4頁を読んでおく。(0.5h) 事後:授業を振り返りポイントをまとめる。(0.5h)					
3回	言葉にはどのような機能があるのか考える。テキスト「保育内容・言葉」第1章「ことばはどのような機能をもっているか」で考える。ビゴツキーの「内言・外言」について予備知識をもって臨む。				事前:テキストP5を読み、ビゴツキーの「内言・外言」について予備知識をもって臨む。(0.5h) 事後:授業を振り返りポイントをまとめる。(0.5h)					
4回	保育内容「領域」とは何かを理解し、領域「言葉」のねらいと内容について考える。テキスト「保育内容・言葉」第2章「領域「言葉」とは何か」及び「幼稚園教育要領」などを参考にして“ねらい”“内容”“内容の取り扱い”を理解する。				事前:テキスト P11~25 頁を読んでおく。(0.5h) 事後:学習した内容を振り返り、ポイントをまとめる。(0.5h)					
5回	乳児期(3歳未満児)における言葉獲得の過程と特質について理解する。テキスト「保育内容・言葉」第3章乳児期~幼児期前半の説明を中心に考える。「一語文」について予備知識を得ておく。0・1歳児向け。				事前:テキストP27~35頁を読んでおく。(0.5h) 事後:授業を振り返りポイントをまとめる。(0.5h)					
6回	幼児期後期における語彙の増加と会話の育ち及び文字の獲得について検討・理解する。テキスト「保育内容・言葉」第3章の幼児期後半の説明を中心に考える。「文字の獲得」のプロセスについて自らの考えをまとめておく。				事前:テキストP35~42 頁を読んでおく。(0.5h) 事後:授業を振り返りポイントをまとめる。(0.5h)					
7回	事例を通して、子どもの言葉を培う保育について考える。テキスト第4章の事例を確認しながら「保育の中でことば獲得への配慮はどうあったらよいか」検討する。				事前:テキストP43~59頁の事例を読んでおく。(0.5h) 事後:授業を振り返りポイントをまとめる。(0.5h)					
8回	子どもの観察を実施し、言葉と発達、言葉と心、言葉と生活等を考察し、発表・討論する。観察対象を定め、子どもと言葉について観察を実施し、記録としてまとめ、考察を加えて発表する。				事前:子どもと言葉について観察をし、記録としてまとめる。(0.5h) 事後:授業を振り返りポイントをまとめる。(0.5h)					
9回	言葉獲得において特に配慮を必要とする幼児の実態についてテキスト第5章に沿って考える。特別な配慮が必要な子どもとして、例えば発達障害(自閉症スペクトラム)の言葉獲得の特徴について予備学習をして臨む。				事前:テキストP61~75 頁を読んでおく。(0.5h) 事後:授業を振り返りポイントをまとめる。(0.5h)					
10回	テキスト第6章「うたや触れあいを楽しむ遊び」の内容に沿って「言葉を使った遊び」の実践を学習する。				事前:知っているわらべ歌を調べて歌ってみる。(0.5h) 事後:授業を振り返りポイントをまとめる。(0.5h)					
11回	言葉文化としての絵本・紙芝居・お話の教育的意義について考える。テキスト第7章「絵とことばの豊かな世界を楽しむ」を参考に、絵本やお話・紙芝居の教育的意義について討論する。声を出して絵本を読む練習をする。				事前:絵本を1冊読む練習をして持参する。(0.5h) 事後:授業を振り返りポイントをまとめる。 声を出しておすすめ絵本を読む練習をする。(0.5h)					

12回	言葉文化としてのペープサート・パネルシアター・エプロンシアターなどの教育的意義について考える。ペープサート・パネルシアター・エプロンシアターなどを製作する。(SDGs)	事前:ペープサート・パネルシアター・エプロンシアターなどの題材を考えてくる。(0.5h) 事後:ペープサート・パネルシアター・エプロンシアターなどの製作をする。(0.5h)																												
13回	ペープサート・パネルシアター・エプロンシアターなどを製作する。(SDGs)	事前:ペープサート・パネルシアター・エプロンシアターなどの製作をする。(0.5h) 事後:ペープサート・パネルシアター・エプロンシアターなどの製作をする。(0.5h)																												
14回	ペープサート・パネルシアター・エプロンシアターの発表練習をとおして、保育者・教育者としての言葉を考える。幼児の言葉と発達を考える。	事前:ペープサート・パネルシアター・エプロンシアターなどの製作と発表練習をする。(0.5h) 事後:授業を振り返りポイントをまとめる。(0.5h)																												
15回	ペープサート・パネルシアター・エプロンシアターの発表:相互評価をして、さらに上演技術が向上するように発表の場を得る。(写真撮影) 振り返りとまとめ:確認シートにこれまでの学びを整理する。	事前:確認シートにこれまでの学びを整理する。(0.5h) 事後:授業を振り返り、今後のことばを考える。(0.5h)																												
16回	定期試験																													
テキスト	太田光洋(編)『保育内容・言葉』 同文書院 2018年																													
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 厚生労働省 『保育所保育指針』 フレーベル館 2017年 文部科学省 『幼稚園教育要領』 フレーベル館 2017年 内閣府、文部科学省、厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 2017年																													
到達目標(学修成果)及び観点	<p>【到達目標(学修成果)及び観点】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標(学修成果)及び観点</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>技能・表現</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○	○	○	○		到達目標②		○	○			到達目標③		○	○	○					
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○	○	○	○																										
到達目標②		○	○																											
到達目標③		○	○	○																										
評価方法・基準	<p>【評価方法・基準】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標(学修成果)</th> <th>期末試験 (筆記試験・実技試験)</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物・レポート</th> <th>発表・実技</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>25%</td> <td></td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td>20%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>25%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()	到達目標①	25%		10%	10%	20%		到達目標②	25%						到達目標③				10%		
評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①	25%		10%	10%	20%																									
到達目標②	25%																													
到達目標③				10%																										
ルーブリック評価	ルーブリック評価: 取り入れている・ <u>取り入れていない</u>																													
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:毎回の授業時に提出する課題シートに記入された質問や疑問を通して相談にのる。(コメントフォーム) 学習成果のフィードバック:課題・提出物の返却を通して実施する。(ノート提出)																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園:領域及び保育内容の指導法に関する科目/領域に関する専門的事項/言葉 保育士:保育の内容・方法に関する科目/保育内容の理解と方法																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	新規担当のため評価なし																													
受講生へのメッセージ・その他	幼児期の「ことば」は、単なる語彙や発音の習得ではありません。それは、子どもが世界と出会い、自分の思いを表現し、他者とつながるための大切な手段です。本授業では、幼児の言語発達の基礎理論を学ぶとともに、実際の保育・教育現場でどのように子どもの言葉を支え、育てていくのかを具体的に考えていきます。子どもの一言の背景にある「心の動き」や「発達のプロセス」に気づける視点を養うことを目標とします。子どもの言葉は未完成に見えて、実は驚くほど創造的で豊かなものです。その芽をどう受け止め、どう広げるのか。皆さん自身の経験や価値観とも照らし合わせながら、一緒に探究していきましょう。知識を覚えるだけでなく、「子どもの言葉をどう聴くか」という姿勢を大切にしてください。この授業が、皆さんの保育・教育観を深めるきっかけになることを願っています。																													
実務経験の有無	<u>あり</u> ・ なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無																												
		<u>あり</u> ・ なし																												

科目区分	専門教育 科目	科 目 名	幼児の健康	担当者	奥田さおり	開講時期	2年 前期	授業形態・ 単位数	演習 1単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS40103	資格等取得との関連	幼稚園:必修・保育士:必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	<p>テーマ: 幼児の発育発達の特徴を理解し、心身の相互作用(身体活動とこころの発達)に着目しながら、発達段階に応じた健康支援と運動あそびの指導方法を学ぶ。</p> <p>到達目標(学修成果)①:乳幼児期の健康・安全に関する知識と現代的課題を理解し、身体活動が情緒・意欲・自己肯定感に与える影響を踏まえて説明できる。</p> <p>到達目標(学修成果)②:発育発達の特徴や、基本的な生活習慣形成の意義を理解し、実践と結びつけながら考えることができる。</p> <p>到達目標(学修成果)③:幼児期の特徴を踏まえ、「楽しい・できた・またやりたい」を引き出す運動あそびの指導計画を立案・展開できる。</p>								
授業概要	<p>領域「健康」に関する幼児の心身の発育発達、基本的な生活習慣、運動発達について体系的に学ぶとともに、身体活動とこころの発達との関連を理解する。さらに、幼児が安心して挑戦できる環境構成や意欲を引き出す保育者の関わりについて考察し、運動あそびの指導内容と方法を立案する(グループワーク)。実践・体験を通して、安全管理および健康管理を含む総合的な支援力を養う。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と到達目標 (学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1回	オリエンテーション:領域「健康」について 健康の定義と乳幼児期の健康の意義について学ぶ					事前:シラバス、参考書の確認(0.5h) 事後:授業内容を振り返り、ノートにまとめる(0.5h)			
2回	子どもの発育発達について1 身体と心の発達を学ぶ					事前:発育発達について考える(0.5h) 事後:授業内容を振り返り、ノートにまとめる(0.5h)			
3回	子どもの発育発達について2 運動能力の発達や生活習慣の形成について学ぶ					事前:運動能力の発達について考える(0.5h) 事後:授業内容を振り返り、ノートにまとめる(0.5h)			
4回	子どものさまざまな遊びについて1 基本的な動作の習得や保育者の援助の在り方について学ぶ					事前:乳幼児期の遊びについて考える(0.5h) 事後:授業内容を振り返り、ノートにまとめる(0.5h)			
5回	子どものさまざまなあそびについて2 ルールのある遊びを考える(グループワーク)					事前:ルールのある遊びを考えておく(0.5h) 事後:グループで出たアイデアをまとめる(0.5h)			
6回	子どものさまざまなあそびについて3 ルールある遊びの立案と実技(グループワーク)					事前:グループ発表準備(0.5h) 事後:グループで実施した遊びの振り返りをまとめる(0.5h)			
7回	子どもの基本的な生活習慣の形成について 園生活における食事、睡眠、排泄等の生活習慣について学ぶ					事前:乳幼児期に必要な生活習慣について考えをまとめる(0.5h) 事後:授業内容を振り返り、ノートにまとめる(0.5h)			
8回	子どもの「健康」をめぐる現状と課題1 子どもの体力・運動能力について調べて課題を検討する(ディスカッション)					事前:子どもの健康についての課題を考える(0.5h) 事後:ディスカッションした内容から自分の考えをまとめる(0.5h)			
9回	子どもの「健康」をめぐる現状と課題2 子どもの心の成長を考える(ディスカッション)					事前:子どもの心の成長について課題を考える(0.5h) 事後:ディスカッションした内容から自分の考えをまとめる(0.5h)			
10回	子どもの健康と安全教育 園の安全管理と事故等が起きたときの対応					事前:園の安全管理について考える(0.5h) 事後:事故の対応についての復習(0.5h)			
11回	運動あそびの実技実践 多様な動きの獲得を促す教材を理解し、実際に身体を動かして学ぶ。声掛けの実践。 (グループワーク)					事前:やってみよう運動遊びを考える(0.5h) 事後:授業で行った運動遊び、声掛けをまとめる(0.5h)			

12回	運動あそびの実技実践(道具をつかって) 様々な道具を利用した運動遊びの特性を理解し、実際に身体を動かして学ぶ(グループワーク)	事前:自分が経験した道具を用いた遊びについてまとめる(0.5h) 事後:授業で行った運動あそび内容をまとめる(0.5h)																												
13回	運動あそび指導の立案 グループ毎に運動あそびのテーマを分担し、指導内容(ルール作り、楽しめる環境構成、安全配慮等を含む)を立案する	事前:運動プログラム作成の際に留意する点を調べる(0.5h) 事後:指導内容の立案を完成させる(0.5h)																												
14回	運動あそび指導の実践発表 指導者側と幼児側に分かれて、実際に運動あそび指導を行う(プレゼンテーション)	事前:指導内容について発表準備を行う(0.5h) 事後:発表を振り返り、自己評価を行う(0.5h)																												
15回	最終指導案の作成、講義のまとめ、ふりかえり 課題の対策を踏まえて指導案の作成を行う、講義全体のまとめを行う	事前:最終指導案の概要を作成する(0.5h) 事後:配布プリントの演習問題を解いておく(0.5h)																												
16回	定期試験(成績評価 50%相当)																													
テキスト	新・保健内容 健康 ―生き活きとした子どもの発育発達を求めて― ,教育情報出版 ,2022 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館, 2018 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館, 2018 文部科学省・厚生労働省・内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館, 2018																													
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】																													
到達目標(学修成果)及び観点	<p>【到達目標(学修成果)及び観点】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標(学修成果)及び観点</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>技能・表現</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○	○		○		到達目標②	○	○	○			到達目標③	○		○						
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○	○		○																										
到達目標②	○	○	○																											
到達目標③	○		○																											
評価方法・基準	<p>【評価方法・基準】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標(学修成果)</th> <th>期末試験(筆記試験・実技試験)</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物・レポート</th> <th>発表・実技</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>20%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>20%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>10%</td> <td></td> <td>10%</td> <td>20%</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価: 取り入れている ・ <input type="checkbox"/> 取り入れていない</p>		評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験(筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()	到達目標①	20%		10%				到達目標②	20%		10%				到達目標③	10%		10%	20%		
評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験(筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①	20%		10%																											
到達目標②	20%		10%																											
到達目標③	10%		10%	20%																										
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談: 随時、電子メールで質問を受け付ける。</p> <p>学習成果のフィードバック: レポートは授業の際に返却します。定期試験の結果は研究室保管をしていますので事前に連絡のうえ内容を確認することができます。</p>																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	<p>幼稚園:領域及び保育内容の指導法に関する科目/領域に関する専門的事項/健康 保育士:保育の内容・方法に関する科目/保育内容の理解と方法</p>																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	新規担当のため評価なし																													
受講生へのメッセージ・その他	乳幼児期の健康について理解を深めるとともに、運動することの楽しさを伝える側として、自身も積極的に身体を動かしながら考え、学んでいきましょう。																													
実務経験の有無	あり ・ <input type="checkbox"/> なし	<p>双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無</p> <p><input type="checkbox"/> あり ・ なし</p>																												

科目区分	専門教育 科目	科 目 名	幼児の健康	担当者	加藤大門	開講時期	1年(2年 課程のみ) 後期	授業形態・ 単位数	演習 1単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS40103	資格等取得との関連	幼稚園:必修・保育士:必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	<p>テーマ: 乳幼児の発育発達を理解し、健康と安全の管理ができるようにする</p> <p>到達目標(学修成果)①: 乳幼児の発育発達を理解し、運動・保健指導の意義について考え、説明できる。</p> <p>到達目標(学修成果)②: 乳幼児期の健康と安全の管理に携わることができるようになる。</p> <p>到達目標(学修成果)③: 対象に合わせた運動あそびを、安全に配慮して立案と実践ができる。</p>								
授業概要	乳幼児期の対象に合わせた健康のねらいや内容を理解し、疾病や食育などの健康及び安全に関する知識も身につける。また、対象に合わせた運動あそびを、安全に配慮した立案とプレゼンテーションができるようにする。								
ディプロマポリシー (DP)と到達目 標(学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画				時間外学習				
1回	オリエンテーション 授業の進め方と自己紹介				事前: シラバスを確認しておく。(0.5h) 事後: シラバスの再確認と戸外あそびについて調べる。(0.5h)				
2回	健康について 子どもの健康				事前: 子どもの健康について考える。(0.5h) 事後: 授業内容を参考にまとめる。(0.5h)				
3回	安全管理 安全指導や配慮				事前: 保育現場の安全について考える。(0.5h) 事後: 授業内容を参考にまとめる。(0.5h)				
4回	食について 食育やアレルギー対応				事前: 日頃の食生活について考える。(0.5h) 事後: 授業内容を参考にまとめる。(0.5h)				
5回	オススメスポーツ① カリステニクス				事前: カリステニクスについて調べる。(0.5h) 事後: 授業内容を参考に復習する。(0.5h)				
6回	疾病 予防及び適切な対応				事前: 疾病について考える。(0.5h) 事後: 授業内容を参考にまとめる。(0.5h)				
7回	けが 事故などの対処法				事前: 保育現場の事故について考える。(0.5h) 事後: 授業内容を参考にまとめる。(0.5h)				
8回	衛生管理 排泄や着脱衣など				事前: 日常の排泄や着脱衣について考える。(0.5h) 事後: 授業内容を参考にまとめる。(0.5h)				
9回	生活リズム 家庭や園での生活習慣				事前: 生活習慣について考える。(0.5h) 事後: 授業内容を参考にまとめる。(0.5h)				
10回	家庭や地域との連携 健康状態や生活習慣など密な情報交換				事前: 健康状態の把握について考える。(0.5h) 事後: 授業内容を参考にまとめる。(0.5h)				
11回	運動あそび 必要性和種類				事前: 運動あそびについて考える。(0.5h) 事後: 授業内容を参考にまとめる。(0.5h)				
12回	プログラムの実践と相互評価 運動あそびをグループ毎で実施して評価する				事前: プログラムの最終確認をしておく。(0.5h) 事後: 相互評価をまとめる。(0.5h)				
13回	プログラムの振り返りとフィードバック グループ毎で良かった点や改善点を話し合う				事前: 他の人のプログラムの改善点をまとめておく。(0.5h) 事後: プログラムの改善と今後の展望を考える。(0.5h)				
14回	オススメスポーツ② コーンホール				事前: コーンホールのルールを確認しておく。(0.5h) 事後: 授業内容を参考に復習する。(0.5h)				

15回	振り返りとまとめ 優秀案の発表とまとめ	事前:授業を通して感じたことをまとめる。(0.5h) 事後:優秀案を参考にまとめる。(0.5h)																															
16回	定期試験(筆記試験)																																
テキスト	特に指定しない																																
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 改訂1版 最新 保育士養成講座 第7巻 子どもの健康と安全 0~6歳児「健康な心と体を育てる」保育 よくあるギモン 30&運動あそび 20 新・保育内容 健康 -生き活きとした子どもの発育発達を求めて- 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領																																
到達目標(学修成果)及び観点	【到達目標(学修成果)及び観点】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標(学修成果)及び観点</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>技能・表現</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○	○	○	○		到達目標②	○	○	○	○		到達目標③	○	○	○	○					
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																												
到達目標①	○	○	○	○																													
到達目標②	○	○	○	○																													
到達目標③	○	○	○	○																													
評価方法・基準	【評価方法・基準】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標(学修成果)</th> <th>期末試験 (筆記試験・実技試験)</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物・レポート</th> <th>発表・実技</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>20%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>20%</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>20%</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()	到達目標①	20%						到達目標②	20%			10%	10%		到達目標③	20%			10%	10%	
評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()																											
到達目標①	20%																																
到達目標②	20%			10%	10%																												
到達目標③	20%			10%	10%																												
ルーブリック評価	ルーブリック評価: 取り入れている <input checked="" type="radio"/> 取り入れている <input type="radio"/> 取り入れていない																																
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談: 研究室、Teams、メールなどで受け付けます。 学習成果のフィードバック: 提出物は後日授業内にて返却します。																																
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園:領域及び保育内容の指導法に関する科目/領域に関する専門的事項/健康 保育士:保育の内容・方法に関する科目/保育内容の理解と方法																																
授業評価アンケート結果を受けての改善点	新規担当のため評価なし 授業に飽きないよう工夫をしていきたいので、随時忌憚のないご意見をお聞かせください。																																
受講生へのメッセージ・その他	「保健体育(実技)」や「保健体育(講義)」と関連しています。運動あそびの実践があるので、動きやすい服装、シューズが必要です。 積極的に発言し、コミュニケーション能力を磨いてください。毎回授業に参加できるよう、健康管理を怠らないようにしてください。																																
実務経験の有無	あり	<input checked="" type="radio"/> なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無		<input checked="" type="radio"/> あり	なし																											

科目区分	専門教育 科目	科 目 名	幼児の環境	担当者	徳増全矢	開講時期	1年(2年課程の み)後期	授業形態・ 単位数	演習 1単位	
卒業要件	必修	ナンバリング	CS40104	資格等取得との関連	幼稚園:必修・保育士:必修					
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	<p>テーマ:生活と自然や社会とのかかわり</p> <p>到達目標(学修成果)①:身近な自然に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつことができる。</p> <p>到達目標(学修成果)②:身近な自然に関わり、発見を楽しんだり、考えたり、それを生活に取り入れようとする大切さを述べる ことができる。</p> <p>到達目標(学修成果)③:日常経験の中で、物の性質や数量、図形などに対する感覚を豊かにする遊びや体験を工夫できる。</p>									
授業概要	<p>本科目は、小学校での実務経験を有し、ネイチャーゲーム指導員としての実践経験を有する教員(徳増)により、保育現場の実態に即して理解を深める。季節による自然の変化や身近な動植物について、観察や体験活動をグループワーク形式で行う。子どもが興味や関心をもつような自然環境・社会環境について学習する。ネイチャーゲームを代表とする自然体験学習や社会的な体験活動について理解し、遊びの計画を立案する。直接体験が難しいものについては、ICTを活用して間接的な理解が深まるようにする。</p>									
ディプロマポリシー (DP)と到達目 標(学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。								
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。								
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。								
		◎=DP達成のために特に重要な項目 ○=DP達成のために重要な項目 △=DP達成のために望ましい項目								
授業計画						時間外学習				
1回	オリエンテーション「環境」とは 子どもを取り巻く環境の変化について SDGsってなに?				事前:教科書1章、2章、3章を読む。(1h) 事後:学習内容を復習し、まとめる。(1h)					
2回	子どもの発達と周囲の環境 子どもの発達と環境 園の環境 環境の「ねらいと内容」				事前:教科書4章、5章、6章を読む。(1h) 事後:学習内容を復習し、まとめる。(1h)					
3回	自然とふれあい感動する(1) ネイチャーゲーム(アクティビティ:フィールドビンゴ、コウモリとガなど)				事前:自然と関わった経験を振り返る(1h) 事後:教科書・プリントを参考にノートにまとめる(1h)					
4回	自然とふれあい感動する(2) ネイチャーゲーム(アクティビティ:カモフラージュ・マイクロハイクなど)				事前:自然と関わった経験を振り返る(1h) 事後:教科書・プリントを参考にノートにまとめる(1h)					
5回	物事の法則性に気づく(1) 縮む 飛び出る 跳ねる 転がる				事前:物事の法則性について予習しておく(1h) 事後:教科書・プリントを参考にノートにまとめる(1h)					
6回	物事の法則性に気づく(2) 染み込む 染まる 溶ける 固まる				事前:物事の法則性について予習しておく(1h) 事後:教科書・プリントを参考にノートにまとめる(1h)					
7回	季節感を味わう 秋探しマップを作ってみよう				事前:季節の特徴を予習しておく(1h) 事後:教科書・プリントを参考にノートにまとめる(1h)					
8回	自然を取り入れて遊ぶ 季節の素材を用いた製作活動について				事前:自然で遊んだ経験を振り返る(1h) 事後:教科書・プリントを参考にノートにまとめる(1h)					
9回	生命の営みにふれる 飼育・栽培について ネイチャーループ				事前:自然で遊んだ経験を振り返る(1h) 事後:教科書・プリントを参考にノートにまとめる(1h)					
10回	身のまわりの物に愛着をもつ(1) 身のまわりの物を用いた製作活動の計画立案				事前:生きものと関わった経験を振り返る(1h) 事後:教科書・プリントを参考にノートにまとめる(1h)					
11回	身のまわりの物に愛着をもつ(2) 身のまわりの物を用いた製作遊びの計画立案・紹介・実践				事前:生きものと関わった経験を振り返る(1h) 事後:教科書・プリントを参考にノートにまとめる(1h)					
12回	科学を体感する 重力を用いた遊び 磁力を用いた遊び など				事前:身の回りにある物と自分の関わりを振り返る(1h) 事後:教科書・プリントを参考にノートにまとめる(1h)					
13回	数量・図形に親しむ 数量・図形を用いた遊びの立案・紹介・実践				事前:身の回りにある物と自分の関わりを振り返る(1h) 事後:教科書・プリントを参考にノートにまとめる(1h)					

14回	標識や文字の必要感を育む 標識や文字を用いた遊びの立案・紹介・実践	事前:科学と自分の関わりを振り返る(1h) 事後:教科書・プリントを参考にノートにまとめる(1h)																												
15回	身近な施設情報や施設を活かし、生活を豊かにする 身近な施設(社会教育施設など)を活用した活動	事前:科学と自分の関わりを振り返る(1h) 事後:教科書・プリントを参考にノートにまとめる(1h)																												
16回	期末試験	事前: 事後:																												
テキスト	田宮縁著『体験する 調べる 考える 領域「環境」(第三版)』萌文書林																													
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 レイチェル・カーソン著『センス・オブ・ワンダー』新潮社																													
到達目標(学修成果)及び観点	<p>【到達目標(学修成果)及び観点】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標(学修成果)及び観点</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>技能・表現</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○	○	○	○		到達目標②	○	○	○	○		到達目標③	○	○	○	○					
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○	○	○	○																										
到達目標②	○	○	○	○																										
到達目標③	○	○	○	○																										
評価方法・基準	<p>【評価方法・基準】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標(学修成果)</th> <th>期末試験 (筆記試験・実技試験)</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物・レポート</th> <th>発表・実技</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>10%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>10%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>20%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価: <input checked="" type="checkbox"/> 取り入れている ・ <input type="checkbox"/> 取り入っていない</p>		評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()	到達目標①	10%		10%		10%		到達目標②	10%		10%		10%		到達目標③	20%		10%		10%	
評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①	10%		10%		10%																									
到達目標②	10%		10%		10%																									
到達目標③	20%		10%		10%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:毎回の授業の際に提出する課題に記入された質問や疑問を通し、相談を受ける。また、オフィスアワーを活用して対応する。 学習成果のフィードバック:課題・提出物の返却を通して実施する。																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園:領域及び保育内容の指導法に関する科目/領域に関する専門的事項/環境 保育士:保育の内容・方法に関する科目/保育内容の理解と方法																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	今年度も引き続き演習を効果的に用いて活動を行う。ABで温度差が出ないように、心がけて授業を行います。																													
受講生へのメッセージ・その他	気象条件などによって、授業の順序が変わることがある。また、屋外での活動を行うため、服装などを指定することがある。活動への意欲的な参加を前提とするので、学生本人の関心意欲態度を評価する。																													
実務経験の有無	<input checked="" type="checkbox"/> あり ・ なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無																												
		<input checked="" type="checkbox"/> あり ・ なし																												

科目区分	専門教育科目	科目名	障がい児保育	担当者	仲森みどり	開講時期	1年後期	授業形態・単位数	演習 単位
卒業要件		ナンバリング	CS40106	資格等取得との関連	保育士：必修				
テーマ・授業の到達目標(学修成果)	<p>テーマ:障がい児保育についての概観を理解し、実践的能力の基礎を身につける。</p> <p>到達目標(学修成果)①:障がい児保育の歴史の変遷及び社会背景、現状について説明できる。</p> <p>到達目標(学修成果)②:障がいのある子どもたちの障がい特性に関して説明できる。</p> <p>到達目標(学修成果)③:障がいのある子どもたちと共に育ちあう保育についての実践的能力の基礎を身につける。</p>								
授業概要	<p>保育園、児童相談所、母子生活支援施設での実務経験を持つ教員が、障がいのある子どもへの保育や支援の現場経験から、障がい児保育の歴史の変遷や社会的背景を学び、障がい児保育の現状について正しい理解をする。特にインクルーシブ保育の概念や合理的配慮を理解し、今後求められる障がい児保育に関する実践的能力を熟成する。同時に障がい児や保護者との信頼関係を築き、保育園内外において障がい児保育を実践する能力を身に付ける。授業については「障がいとは何か」などの基本的な知識を得ることから始め、障がい児保育についての基本姿勢や心構え及び対応等について保育との関連性を図りながら学び取るとともに「障がい児保育観」の確立を目指して授業を進める。いくつかの障がい児保育の事例に触れ、共に考え、より実践的に学ぶようにする。適宜、グループワークやプレゼンテーション授業を用いて学習の進度を深める。</p>								
ディプロマリンク(DP)と到達目標(学修成果)との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目									
		授業計画				時間外学習			
1回	オリエンテーション (授業概要と授業のすすめ方) 障がい児保育とは				事前:教科書pp.2~pp.5 までを熟読する。(0.5h) 事後:プリント、ノートを使用し授業内容の確認をする。(0.5h)				
2回	乳幼児期における障がい特性				事前:教科書pp.6~pp.9 までを熟読する。(0.5h) 事後:プリント、ノートを使用し授業内容の確認をする。(0.5h)				
3回	乳幼児期における発達課題と障がい特性				事前:教科書pp.10~pp.19 までを熟読する。(0.5h) 事後:プリント、ノートを使用し授業内容の確認をする。(0.5h)				
4回	幼児期の障がいのある子どもの抱える「困り感」				事前:教科書 pp.20~pp.21 を熟読する。(0.5h) 事後:プリント、ノートを使用し授業内容の確認をする。(0.5h)				
5回	障がい児保育の仕組み				事前:教科書pp.22~pp.37 を熟読する。(0.5h) 事後:プリント、ノートを使用し授業内容の確認をする。(0.5h)				
6回	知的障害の特徴と保育での支援				事前:教科書pp.40~pp.55 を熟読する。(0.5h) 事後:プリント、ノートを使用し授業内容の確認をする。(0.5h)				
7回	自閉スペクトラム症の特徴と保育での支援				事前:教科書pp.56~pp.73 を熟読する。(0.5h) 事後:プリント、ノートを使用し授業内容の確認をする。(0.5h)				
8回	注意欠如・多動症の特徴と保育での支援				事前:教科書pp.74~pp.89 を熟読する。(0.5h) 事後:プリント、ノートを使用し授業内容の確認をする。(0.5h)				
9回	学習障害の特徴と保育での支援				事前:教科書pp.90~pp.107 を熟読する。(0.5h) 事後:プリント、ノートを使用し授業内容の確認をする。(0.5h)				

10回	視覚・聴覚・言語・肢体の特徴と保育での支援	事前:教科書pp.108~pp.127を熟読する。(0.5h) 事後:プリント、ノートを使用し授業内容の確認をする。(0.5h)				
11回	インクルーシブ保育とは	事前:教科書pp.130~pp.147を熟読する。(0.5h) 事後:プリント、ノートを使用し授業内容の確認をする。(0.5h)				
12回	保育所・幼稚園での支援体制	事前:教科書pp.148~pp.162を熟読する。(0.5h) 事後:プリント、ノートを使用し授業内容の確認をする。(0.5h)				
13回	家族への支援 保護者の障害受容と支援	事前:教科書pp.164~pp.179を熟読する。(0.5h) 事後:プリント、ノートを使用し授業内容の確認をする。(0.5h)				
14回	障害児のアセスメント 心理検査(知能検査・発達検査・言語発達検査)	事前:教科書pp.180~pp.201を熟読する。(0.5h) 事後:プリント、ノートを使用し授業内容の確認をする。(0.5h)				
15回	発達支援の技法・まとめ	事前:教科書pp.202~pp.231を熟読する。今まで学んだところを見直しておく。(0.5h) 事後:プリント、ノートを使用し授業内容の確認をする。(0.5h)				
16回	定期試験					
テキスト	尾崎康子ほか編『よくわかる障害児保育 第2版』ミネルヴァ書房 2020					
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 松本峰雄 監修 増南太志 編著『障害児保育演習ブック』ミネルヴァ書房 2021					
到達目標(学修成果)及び観点	【到達目標(学修成果)及び観点】					
	到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()
	到達目標①	○		○		
	到達目標②	○			○	
	到達目標③	○	○			
評価方法・基準	【評価方法・基準】					
ルーブリック評価	評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢 その他()
	到達目標①	25%		10%		
	到達目標②	25%			10%	
	到達目標③	20%			10%	
	ルーブリック評価: 取り入れている・取り入っていない					
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談: オフィスアワー(掲示板にて確認)、もしくは教員が研究室に在籍し、対応できる場合は随時行う。 学習成果のフィードバック: 授業内に指示する。					
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士: 保育の内容・方法に関する科目/障害児保育					
授業評価アンケート結果を受けての改善点	障害についての専門的な用語又は障害名が出てくるため、繰り返し伝え、理解度を確認していく。昨今、インターネット等で特に発達障害については、情報が沢山出ているが、障害についての学びはスタートとして捉え、詳細に丁寧に伝えていく。					
受講生へのメッセージ・その他	授業時間内で伝えられる内容には限りがあるため、事前に教科書を熟読し、予習をして下さい。また、自分の理解度の確認のため復習もしっかりと行って、定期試験に臨んで頂きたいです。					
実務経験の有無	あり・なし		双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無		あり・なし	

科目区分	専門教育 科目	科 目 名	幼児の人間関係	担当者	于丹	開講時期	1年(2年 課程のみ) 後期	授業形態・ 単位数	演習 1単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS40107	資格等取得との関連	幼稚園:必修・保育士:必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	<p>テーマ:</p> <p>到達目標(学修成果)①:幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解する。</p> <p>到達目標(学修成果)②:幼児期の人間関係の発達について理解する。</p> <p>到達目標(学修成果)③:保育現場において保育者に求められる人間関係を理解する。</p>								
授業概要	現代の幼児の人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、幼児教育で保障すべき教育内容に関する知識を身に付ける。特に領域「人間関係」の指導において、保育者に求められる人間関係を踏まえ、他者との関係や集団との関係の中で幼児期の人と関わる力が育つことを理解する。また、授業ではディスカッションやグループワークを通して、幼児の人間関係の育ちや指導の在り方について多角的に考察する。								
ディプロマポリシー (DP)と到達目 標(学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目									
	授業計画					時間外学習			
1回	現代社会と幼児の人間関係					事前:配布レジュメを熟読する。(0.5h) 事後:授業で扱った内容をふり返りまとめをする。(1h)			
2回	人との間で自分が育つ					事前:配布レジュメを熟読する。(0.5h) 事後:授業で扱った内容をふり返りまとめをする。(1h)			
3回	自分の気持ちと他者の気持ちの理解					事前:配布レジュメを熟読する。(0.5h) 事後:授業で扱った内容をふり返りまとめをする。(1h)			
4回	人と社会の間でよりよくあろうとする力を育む					事前:配布レジュメを熟読する。(0.5h) 事後:授業で扱った内容をふり返りまとめをする。(1h)			
5回	多様な人と共に育ち会う方法を考える					事前:配布レジュメを熟読する。(0.5h) 事後:授業で扱った内容をふり返りまとめをする。(1h)			
6回	人間関係の育ちを支える保育者の役割					事前:配布レジュメを熟読する。(0.5h) 事後:授業で扱った内容をふり返りまとめをする。(1h)			
7回	自立心の育ち					事前:配布レジュメを熟読する。(0.5h) 事後:授業で扱った内容をふり返りまとめをする。(1h)			
8回	保育者に求められる人間関係:乳児期の関わり					事前:配布レジュメを熟読する。(0.5h) 事後:授業で扱った内容をふり返りまとめをする。(1h)			
9回	保育者に求められる人間関係:幼児期の関わり					事前:配布レジュメを熟読する。(0.5h) 事後:授業で扱った内容をふり返りまとめをする。(1h)			
10回	保育者に求められる人間関係:保育者同士の関わり					事前:配布レジュメを熟読する。(0.5h) 事後:授業で扱った内容をふり返りまとめをする。(1h)			
11回	保育者に求められる人間関係:保護者との関わり					事前:配布レジュメを熟読する。(0.5h) 事後:授業で扱った内容をふり返りまとめをする。(1h)			
12回	多様な人間関係づくりと地域ネットワークづくり(1) 幼少の交流活動を考える					事前:配布レジュメを熟読する。(0.5h) 事後:授業で扱った内容をふり返りまとめをする。(1h)			

13回	多様な人間関係づくりと地域ネットワークづくり(2) 小学校以降の生活や学習で生かされ	事前:配布レジュメを熟読する。(0.5h) 事後:授業で扱った内容をふり返りまとめをする。(1h)																												
14回	「人間関係」の現代的課題と動向:多岐に特別な配慮と保育	事前:配布レジュメを熟読する。(0.5h) 事後:授業で扱った内容をふり返りまとめをする。(1h)																												
15回	「人間関係」と「主体」を再考する	事前:配布レジュメを熟読する。(0.5h) 事後:授業で扱った内容をふり返りまとめをする。(1h)																												
16回	定期試験																													
テキスト	『保育所保育指針』、厚生労働省、2017 『幼稚園教育要領』、文部科学省、2017 『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領』、内閣府・文部科学省・厚生労働省、2017																													
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】																													
到達目標(学修成果)及び観点	<p>【到達目標(学修成果)及び観点】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標(学修成果)及び観点</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>技能・表現</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○		○			到達目標②	○	○				到達目標③	○	○		○					
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○		○																											
到達目標②	○	○																												
到達目標③	○	○		○																										
評価方法・基準	<p>【評価方法・基準】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標(学修成果)</th> <th>期末試験 (筆記試験・実技試験)</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物 レポート</th> <th>発表・実技</th> <th>取り組み 姿勢</th> <th>その他 ()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>20%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>20%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>20%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価: 取り入れている <u>取り入っていない</u></p>		評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()	到達目標①	20%				10%		到達目標②	20%				10%		到達目標③	20%		10%		10%	
評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()																								
到達目標①	20%				10%																									
到達目標②	20%				10%																									
到達目標③	20%		10%		10%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:オフィスアワー時間に対応する 学習成果のフィードバック:授業の中で指示する																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園:領域及び保育内容の指導法に関する科目/領域に関する専門的事項/人間関係 保育士:保育の内容・方法に関する科目/保育内容の理解と方法																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	新規担当のため評価なし																													
受講生へのメッセージ・その他	状況によって内容を変更する可能性がある。 質問は随時、個別指導コレクションでも受け付ける。																													
実務経験の有無	あり ・ なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無																												
		あり ・ なし																												

科目区分	専門教育 科目	科 目 名	幼児の人間関係	担当者	于丹	開講時期	2年 前期	授業形態・ 単位数	演習 1単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS40201	資格等取得との関連	幼稚園：必修・保育士：必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	<p>テーマ： 到達目標(学修成果)①：幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解する。 到達目標(学修成果)②：幼児期の人間関係の発達について理解する。 到達目標(学修成果)③：保育現場において保育者に求められる人間関係を理解する。</p>								
授業概要	現代の幼児の人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、幼児教育で保障すべき教育内容に関する知識を身に付ける。特に領域「人間関係」の指導において、保育者に求められる人間関係を踏まえ、他者との関係や集団との関係の中で幼児期の人と関わる力が育つことを理解する。また、授業ではディスカッションやグループワークを通して、幼児の人間関係の育ちや指導の在り方について多角的に考察する。								
ディプロマポリシー (DP)と到達目 標(学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目									
	授業計画					時間外学習			
1回	現代社会と幼児の人間関係					事前：配布レジュメを熟読する。(0.5h) 事後：授業で扱った内容をふり返りまとめをする。(1h)			
2回	人との間で自分が育つ					事前：配布レジュメを熟読する。(0.5h) 事後：授業で扱った内容をふり返りまとめをする。(1h)			
3回	自分の気持ちと他者の気持ちの理解					事前：配布レジュメを熟読する。(0.5h) 事後：授業で扱った内容をふり返りまとめをする。(1h)			
4回	人と社会の間でよりよくあろうとする力を育む					事前：配布レジュメを熟読する。(0.5h) 事後：授業で扱った内容をふり返りまとめをする。(1h)			
5回	多様な人と共に育ち会う方法を考える					事前：配布レジュメを熟読する。(0.5h) 事後：授業で扱った内容をふり返りまとめをする。(1h)			
6回	人間関係の育ちを支える保育者の役割					事前：配布レジュメを熟読する。(0.5h) 事後：授業で扱った内容をふり返りまとめをする。(1h)			
7回	自立心の育ち					事前：配布レジュメを熟読する。(0.5h) 事後：授業で扱った内容をふり返りまとめをする。(1h)			
8回	保育者に求められる人間関係：乳児期の関わり					事前：配布レジュメを熟読する。(0.5h) 事後：授業で扱った内容をふり返りまとめをする。(1h)			
9回	保育者に求められる人間関係：幼児期の関わり					事前：配布レジュメを熟読する。(0.5h) 事後：授業で扱った内容をふり返りまとめをする。(1h)			
10回	保育者に求められる人間関係：保育者同士の関わり					事前：配布レジュメを熟読する。(0.5h) 事後：授業で扱った内容をふり返りまとめをする。(1h)			
11回	保育者に求められる人間関係：保護者との関わり					事前：配布レジュメを熟読する。(0.5h) 事後：授業で扱った内容をふり返りまとめをする。(1h)			
12回	多様な人間関係づくりと地域ネットワークづくり(1) 幼少の交流活動を考える					事前：配布レジュメを熟読する。(0.5h) 事後：授業で扱った内容をふり返りまとめをする。(1h)			

13回	多様な人間関係づくりと地域ネットワークづくり(2) 小学校以降の生活や学習で生かされ	事前:配布レジュメを熟読する。(0.5h) 事後:授業で扱った内容をふり返りまとめをする。(1h)																												
14回	「人間関係」の現代的課題と動向:多岐に特別な配慮と保育	事前:配布レジュメを熟読する。(0.5h) 事後:授業で扱った内容をふり返りまとめをする。(1h)																												
15回	「人間関係」と「主体」を再考する	事前:配布レジュメを熟読する。(0.5h) 事後:授業で扱った内容をふり返りまとめをする。(1h)																												
16回	定期試験																													
テキスト	『保育所保育指針』、厚生労働省、2017 『幼稚園教育要領』、文部科学省、2017 『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領』、内閣府・文部科学省・厚生労働省、2017																													
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】																													
到達目標(学修成果)及び観点	<p>【到達目標(学修成果)及び観点】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標(学修成果)及び観点</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>技能・表現</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○		○			到達目標②	○	○				到達目標③	○	○		○					
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○		○																											
到達目標②	○	○																												
到達目標③	○	○		○																										
評価方法・基準	<p>【評価方法・基準】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標(学修成果)</th> <th>期末試験 (筆記試験・実技試験)</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物 レポート</th> <th>発表・実技</th> <th>取り組み 姿勢</th> <th>その他 ()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>20%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>20%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>20%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価: 取り入れている ・ 取り入っていない</p>		評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()	到達目標①	20%				10%		到達目標②	20%				10%		到達目標③	20%		10%		10%	
評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()																								
到達目標①	20%				10%																									
到達目標②	20%				10%																									
到達目標③	20%		10%		10%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:オフィスアワー時間に対応する 学習成果のフィードバック:授業の中で指示する																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園:領域及び保育内容の指導法に関する科目/領域に関する専門的事項/人間関係 保育士:保育の内容・方法に関する科目/保育内容の理解と方法																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	新規担当のため評価なし																													
受講生へのメッセージ・その他	状況によって内容を変更する可能性がある。 質問は随時、個別指導コレクションでも受け付ける。																													
実務経験の有無	あり ・ なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無																												

科目区分	専門教育科目	科目名	特別支援教育論	担当者	仲森みどり	開講時期	2年 前期	授業形態・ 単位数	演習 1単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS40202	資格等取得との関連	幼稚園:必修・保育士:必修・准学校心理士:必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	<p>テーマ:特別の支援を要する子ども(幼児・児童)についての指導のあり方や支援の実際について理解する。</p> <p>到達目標(学修成果)①:特別の支援を要する子どもに合った対応に必要なとされる基礎的知識・技術を修得し、保育現場で実践できる。</p> <p>到達目標(学修成果)②:特別支援の具体的な支援方法や教育課程のあり方について基礎的な知識や技術を理解し、保育現場で実践できる。</p> <p>到達目標(学修成果)③:特別支援教育体制のしくみや各種機関等の連携のあり方について理解し、保育現場で実践できる。</p>								
授業概要	特別支援教育の歴史的変遷や特別支援教育の理念、「特別なニーズ教育」をめぐる動向、特別支援教育の制度と教育内容に関して基礎的な理解を得ることをめざす。さらに、特別の支援を要する子どもについて具体例を挙げて、個別の支援のあり方や指導計画の作成について理論と実際の両面から学んでいく。適宜、グループワークやプレゼンテーション授業を用いて学習の進捗を深める。								
ディプロマ (DP)と到達目 標(学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目									
	授業計画					時間外学習			
1回	オリエンテーション・特別支援教育の理念と意義					事前:教科書pp.2~pp.12までを熟読する。(0.5h) 事後:プリント、ノートを使用し授業内容の確認をする。(0.5h)			
2回	インクルーシブ教育とは					事前:教科書pp.2~pp.12までを熟読する。(0.5h) 事後:プリント、ノートを使用し授業内容の確認をする。(0.5h)			
3回	特別支援を要する子どもの特性と理解①(知的障害)					事前:教科書pp.22~pp.26までを熟読する。(0.5h) 事後:プリント、ノートを使用し授業内容の確認をする。(0.5h)			
4回	特別支援を要する子どもの特性と理解②(発達障害:ASD)					事前:教科書pp.36~pp.37, pp.48~51までを熟読する。(0.5h) 事後:プリント、ノートを使用し授業内容の確認をする。(0.5h)			
5回	特別支援を要する子どもの特性と理解③(発達障害:AD/HD)					事前:教科書pp.42~pp.47までを熟読する。(0.5h) 事後:プリント、ノートを使用し授業内容の確認をする。(0.5h)			
6回	特別支援を要する子どもの特性と理解④(発達障害:SLD)					事前:教科書pp.38~pp.41までを熟読する。(0.5h) 事後:プリント、ノートを使用し授業内容の確認をする。(0.5h)			
7回	特別支援を要する子どもの特性と理解⑤(視覚障害、聴覚障害) 外部講師					事前:教科書pp.14~pp.17までを熟読する。(0.5h) 事後:プリント、ノートを使用し授業内容の確認をする。(0.5h)			
8回	特別支援を要する子どもの特性と理解⑥(肢体不自由、病弱他)					事前:教科書pp.27~pp.34までを熟読する。(0.5h) 事後:プリント、ノートを使用し授業内容の確認をする。(0.5h)			
9回	特別支援を要する子どもの特性と理解⑦(発達障害:DCD)					事前:教科書pp.52~pp.56までを熟読する。(0.5h) 事後:プリント、ノートを使用し授業内容の確認をする。(0.5h)			
10回	多様な教育的ニーズの理解と支援(言語障害、情緒障害)					事前:教科書pp.58~pp.72までを熟読する。(0.5h) 事後:プリント、ノートを使用し授業内容の確認をする。(0.5h)			
11回	特別支援を要する子どもへの支援と教育課程とのかかわり					事前:教科書pp.74~pp.79までを熟読する。(0.5h) 事後:プリント、ノートを使用し授業内容の確認をする。(0.5h)			
12回	特別支援を要する子どもへの支援計画の意義と作成					事前:教科書pp.108~pp.118までを熟読する。(0.5h) 事後:プリント、ノートを使用し授業内容の確認をする。(0.5h)			
13回	関連機関・家庭・地域との連携と支援体制の構築					事前:教科書pp.120~pp.134までを熟読する。(0.5h) 事後:プリント、ノートを使用し授業内容の確認をする。(0.5h)			

14回	教育的ニーズを必要とする子どもの理解と支援 (外国籍児、生活困難児)	事前:教科書pp.64~pp.67までを熟読する。(0.5h) 事後:プリント、ノートを使用し授業内容の確認をする。(0.5h)																												
15回	障害が重い子どもの理解と支援 (重症心身障害児、医療的ケア児) まとめ	事前:教科書pp.68~pp.72までを熟読する。(0.5h) 事後:プリント、ノートを使用し授業内容の確認をする。(0.5h)																												
16回	定期試験																													
テキスト	編著 野内友規・綿引清勝 『気になる子のインクルーシブ教育・保育』 中央法規 2022																													
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 杉本敏夫監修『最新はじめて学ぶ社会福祉 23 特別支援教育と障害児の保育・福祉』ミネルヴァ書房、2023 湯浅恭正 『よくわかる特別支援教育』 第2版 ミネルヴァ書房 2018																													
到達目標(学修成果)及び観点	<p>【到達目標(学修成果)及び観点】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標(学修成果)及び観点</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>技能・表現</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○		○			到達目標②	○	○	○			到達目標③				○					
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○		○																											
到達目標②	○	○	○																											
到達目標③				○																										
評価方法・基準 ルーブリック評価	<p>【評価方法・基準】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標(学修成果)</th> <th>定期試験 (筆記試験・実技試験)</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物・レポート</th> <th>発表・実技</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>25%</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>25%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>20%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価: 取り入れている ・ <input type="checkbox"/> 取り入れていない</p>		評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()	到達目標①	25%			10%	10%		到達目標②	25%		10%				到達目標③	20%					
評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①	25%			10%	10%																									
到達目標②	25%		10%																											
到達目標③	20%																													
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談: 事前に予約の上、個別に応じる。なお、学習内容のささやかな質問は、授業の前中後いつでも応じる。</p> <p>学習成果のフィードバック: 試験結果に基づく。</p>																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	<p>幼稚園: 教育の基礎的理解に関する科目/特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解</p> <p>保育士: 保育の内容・方法に関する科目/障害児保育</p>																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	<p>障害についての専門的な用語又は障害名が出てくるため、繰り返し伝え、理解度を確認していく。昨今、インターネット等で特に発達障害については、情報が沢山出ているが、障害についての学びはスタートとして捉え、詳細に丁寧に伝えていく。</p>																													
受講生へのメッセージ・その他	<p>幼稚園、保育所、児童福祉施設等の保育現場では、必ず特別な支援を必要としている子どもと出会います。そうした子どもに対する実践での支援方法をぜひ学んで、特別な支援を必要としている子どもたちの保育に役立てて欲しいと思っています。</p>																													
実務経験の有無	あり ・ <input type="checkbox"/> なし	<p>双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無</p> <p>あり ・ <input type="checkbox"/> なし</p>																												

	専門教育 科目	科 目 名	子どもの理解と発達	担当者	小椋佐奈衣	開講時期	2年 前期	授業形態・ 単位数	演習 1単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS40203	資格等取得との関連	幼稚園:必修・保育士:必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	<p>テーマ: テーマ:子ども(乳幼児期)の理解に基づく発達援助の知識や技術を学ぶ。</p> <p>到達目標(学修成果)①:子ども理解について知識を学び、保育・教育者としての考え方や基礎的態度を身につける。</p> <p>到達目標(学修成果)②:子どもの理解を深めるための観察と記録の意義と方法を学び、保育・教育場面で実践ができる。</p> <p>到達目標(学修成果)③:子ども行為の意味や発達段階を理論的に理解し、その要因と対応方法を考える。</p>								
授業概要	<p>保育士資格と幼稚園教諭1種免許を持ち、乳幼児保育の経験を持つ教員が担当する。保育・幼児教育の実践者としての経験を活かし、理論と実践を織成す講義を行う。子どもの理解について、具体的な子どもの姿や保護者との関わり方の実践事例を通して、子ども理解の意義と重要性を学び、保育・教育実践と結びつけて考察する。また、子どもの発達過程で生じる行為の意味と、その要因を把握するための観察や記録の方法と、家庭との連携を含めて考える力を身につける。事例検討やグループワークやディスカッション等を通して、討議形式で理解を深めていく。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と到達目標 (学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目									
	授業計画					時間外学習			
1回	授業の進め方と内容:保育における子ども理解の意義					事前:シラバスに目を通し、内容を把握する(0.5h) 事後:テキスト第1章を熟読し、復習する(0.5h)			
2回	子どもに対するかかわりと共感的理解:傾聴・共感・受容					事前:テキスト第2章を熟読する(0.5h) 事後:学習内容を復習してまとめる(0.5h)			
3回	こどもの生活や遊び:子どもの発達に応じた集団生活と遊び					事前:テキスト第3章を熟読する(0.5h) 事後:学習内容を復習してまとめる(0.5h)			
4回	保育の人的環境としての保育者と子どもの発達:保育者が子どもの発達に及ぼす影響					事前:テキスト第4章を熟読する(0.5h) 事後:学習内容を復習してまとめる(0.5h)			
5回	子ども相互のかかわりと関係づくり:子ども同士の関わりと社会性の育ちを					事前:テキスト第5章を熟読する(0.5h) 事後:学習内容を復習してまとめる(0.5h)			
6回	集団における経験と育ち:集団や遊びを通して社会性の育ち					事前:テキスト第6章を熟読する(0.5h) 事後:学習内容を復習してまとめる(0.5h)			
7回	発達における葛藤やつまずき:発達過程の理解とつまずきの要因の把握					事前:テキスト第7章を熟読する(0.5h) 事後:学習内容を復習してまとめる(0.5h)			
8回	保育の環境の理解と構成:保育環境のデザイン					事前:テキスト第8章を熟読する(0.5h) 事後:学習内容を復習してまとめる(0.5h)			
9回	環境の変化や移行:子どもの成長に伴う環境の変化					事前:テキスト第9章を熟読する(0.5h) 事後:学習内容を復習してまとめる(0.5h)			
10回	子どもを理解するための方法:観察・記録と省察・評価					事前:テキスト第10章を熟読する(0.5h) 事後:学習内容を復習してまとめる(0.5h)			
11回	子どもの理解と援助①:職員間の対話と協働、保育カンファレンス					事前:テキスト第11章を熟読する(0.5h) 事後:学習内容を復習してまとめる(0.5h)			
12回	子どもの理解と援助②:保護者との情報共有とかかわり方					事前:テキスト第12章を熟読する(0.5h) 事後:学習内容を復習してまとめる(0.5h)			
13回	子どもの理解と援助③:発達の課題に応じた援助とかかわり方					事前:テキスト第13章を熟読する(0.5h) 事後:学習内容を復習してまとめる(0.5h)			

14回	子どもの理解と援助④:特別な配慮を要する子供の理解と援助、専門機関との連携	事前:テキスト14章を熟読する(0.5h) 事後:学習内容を復習してまとめる(0.5h)																												
15回	発達の連続性と就学への支援:就学に向けた支援方法	事前:テキスト第15章を熟読する(0.5h) 事後:学習内容を復習してまとめる(0.5h)																												
16回	定期試験																													
テキスト	清水益治 他 編 『子どもの理解と援助』新・基本保育シリーズ 10 中央法規 2025年																													
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】																													
到達目標(学修成果)及び観点	<p>【到達目標(学修成果)及び観点】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標(学修成果)及び観点</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>技能・表現</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○		○			到達目標②	○		○			到達目標③	○	○	○						
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○		○																											
到達目標②	○		○																											
到達目標③	○	○	○																											
評価方法・基準	<p>【評価方法・基準】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標(学修成果)</th> <th>期末試験 (筆記試験・実技試験)</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物・レポート</th> <th>発表・実技</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>20%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>20%</td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>20%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価: 取り入れている・<input type="checkbox"/>取り入っていない</p>		評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()	到達目標①	20%		10%				到達目標②	20%		20%				到達目標③	20%		10%			
評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①	20%		10%																											
到達目標②	20%		20%																											
到達目標③	20%		10%																											
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談: オフィスアワー、あるいは教員が研究室に在籍時、対応できる場合は随時行う。</p> <p>学習成果のフィードバック: 各講義終了時にリアクションペーパーの提出をする。授業の中で振り返りを行い教示し、意見や感想の共有を行う。</p>																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	<p>幼稚園: 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目/幼児理解の理論及び方法</p> <p>保育士: 保育の対象の理解に関する科目/子どもの理解と援助</p>																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	<p>新規担当のため評価なし</p> <p>授業方針として、双方向授業を取り入れ、意見や感想の共有をする。</p> <p>授業進行方法等について、アクティブラーニングを導入して、グループワーク・ペアワーク・ディスカッション・ロールプレイング等を実施する。</p>																													
受講生へのメッセージ・その他	<p>教科書を基盤に知識を習得するとともに、子どもの理解と関わり方・援助方法を実践的に学ぶために、保育・幼児教育者としての資質を磨き、関心・意欲をもって学修に取り組みましょう。</p>																													
実務経験の有無	あり	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無	あり																											

科目区分	専門教育 科目	科 目 名	子ども家庭支援の心理学	担当者	小椋佐奈衣	開講時期	2年 後期	授業形態・ 単位数	講義 2単位
卒業要件		ナンバリング	CS40204	資格等取得との関連	保育士：必修・准学校心理士：必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	<p>テーマ：生涯発達と子どもを取り巻く家庭の意義と機能を学ぶ。</p> <p>到達目標(学修成果)①：生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得して説明できる。</p> <p>到達目標(学修成果)②：家族・家庭の意義や機能を発達の観点から理解し、子どもと家庭を包括的に捉える視点から説明できる。</p> <p>到達目標(学修成果)③：子育て家庭をめぐる現代の社会状況と課題を理解し、課題解決について考えて説明できる。</p>								
授業概要	<p>公認心理師として児童相談所や児童心理治療施設の児童福祉の分野で支援の経験を持つ教員が担当する。親子の支援の実践者としての経験を活かし、理論と実践を織成す講義を行う。本授業では、発達心理学の知見を実践的に踏まえて習得する。近年、子育て家庭と地域社会は多様性と変化が伴っていることから、生涯発達に関する心理学の基礎的な知識・初期経験の重要性・発達課題等、家族・家庭の意義や機能、子育て家庭をめぐる現代の社会的状況とその課題について考究する。さらに、発達の観点から子育て家庭の支援と地域社会のあり方をグループワークおよびディスカッションを通して探求し、子どもと家庭を包括的に捉える視点を習得する。</p>								
ディプロマ (DP)と到達目 標(学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目									
	授業計画					時間外学習			
1回	生涯発達：乳児期の発達の特徴と課題					事前：教科書第1章を熟読し、講義内容のアウトラインをあらかじめ整理する。(2h) 事後：学習した内容を整理し、ノートにまとめる。(2h)			
2回	生涯発達：幼児期の発達の特徴と課題					事前：教科書第2章を熟読する。(2h) 事後：学習した内容を整理し、ノートにまとめる。(2h)			
3回	生涯発達：学童期の発達の特徴と課題					事前：教科書第3章を熟読する。(2h) 事後：学習した内容を整理し、ノートにまとめる。(2h)			
4回	生涯発達：青年期の発達の特徴と課題					事前：教科書第4章を熟読する。(2h) 事後：学習した内容を整理し、ノートにまとめる。(2h) 事後：			
5回	生涯発達：中年期の発達の特徴と課題					事前：教科書第5章を熟読する。(2h) 事後：学習した内容を整理し、ノートにまとめる。(2h)			
6回	生涯発達：老年期の発達の特徴と課題					事前：教科書第6章を熟読する。(2h) 事後：学習した内容を整理し、ノートにまとめる。(2h)			
7回	生涯発達：発達理論のまとめと振り返り					事前：教科書第1-6章を熟読する。(2h) 事後：学習した内容を整理し、ノートにまとめる。(2h)			
8回	家族・家庭の理解：家族・家庭の意義と機能					事前：教科書第7章を熟読する。(2h) 事後：学習した内容を整理し、ノートにまとめる。(2h)			
9回	家族・家庭の理解：家族関係・親子関係に理解					事前：教科書第8章を熟読する。(2h) 事後：学習した内容を整理し、ノートにまとめる。(2h)			
10回	家族・家庭の理解：子育て経験と親としての育ち					事前：教科書第9章を熟読する。(2h) 事後：学習した内容を整理し、ノートにまとめる。(2h)			
11回	家族・家庭の理解：子育てを取り巻く社会的状況					事前：教科書第10章を熟読する。(2h) 事後：学習した内容を整理し、ノートにまとめる。(2h)			
12回	子育てに関する現状と課題：ライフコースと仕事・子育て					事前：教科書第11章を熟読する。(2h) 事後：学習した内容を整理し、ノートにまとめる。(2h)			

13回	子育てに関する現状と課題:多様な家庭とその理解・特別な配慮を要する家庭	事前:教科書第12・13章を熟読する。(2h) 事後:学習した内容を整理し、ノートにまとめる。(2h)																												
14回	子どもの精神保健とその課題:子どもの生活・生育環境とその影響	事前:教科書第14章を熟読する。(2h) 事後:学習した内容を整理し、ノートにまとめる。(2h)																												
15回	子どもの精神保健とその課題:子どものこころの健康に関わる問題	事前:教科書第15章を熟読する。(2h) 事後:学習した内容を整理し、ノートにまとめる。(2h)																												
16回	定期試験																													
テキスト	白川桂子 他 編 『子ども家庭支援の心理学』 新・基本保育シリーズ9 中央法規 2025年																													
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 開一夫 他 編 『ベーシック 発達心理学』 東京大学出版会 2018年																													
到達目標(学修成果)及び観点	<p>【到達目標(学修成果)及び観点】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標(学修成果)及び観点</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>技能・表現</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○		○			到達目標②	○	○				到達目標③	○		○						
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○		○																											
到達目標②	○	○																												
到達目標③	○		○																											
評価方法・基準	<p>【評価方法・基準】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標(学修成果)</th> <th>期末試験 (筆記試験・実技試験)</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物 レポート</th> <th>発表・実技</th> <th>取り組み 姿勢</th> <th>その他 ()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>30%</td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価: 取り入れている ・ <input type="checkbox"/> 取り入っていない</p>		評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()	到達目標①	30%	10%					到達目標②	10%	10%	10%				到達目標③	10%	10%	10%			
評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()																								
到達目標①	30%	10%																												
到達目標②	10%	10%	10%																											
到達目標③	10%	10%	10%																											
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談:オフィスアワー、あるいは教員が研究室に在籍時、対応できる場合は随時行う。</p> <p>学習成果のフィードバック:授業の中で振り返りを行い教示し、リアクションペーパーの提出と、小テストや課題・提出物・レポートに関して回答と意見や感想の共有を行う。</p>																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:保育の本質・目的に関する科目/子ども家庭支援の心理学																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	<p>新規担当のため評価なし</p> <p>授業方針として、双方向授業を取り入れ、意見や感想の共有をする。</p> <p>授業進行方法等について、アクティブラーニングを導入して、グループワーク・ペアワーク・ディスカッション・プレゼンテーション等を実施する。</p>																													
受講生へのメッセージ・その他	<p>教科書を基盤に知識を習得するとともに、子どもと子育て家庭の支援を実践的に学ぶために、現代の社会的問題に関心を持ち、関連付けて学修に取り組みましょう。</p> <p>授業では、デジタル化等の活用としてスマートフォンやタブレットも使用します。</p>																													
実務経験の有無	あり	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無	あり																											

科目区分	専門教育 科目	科 目 名	子どもの健康と安全	担当者	松井雅子	開講時期	2年 前期	授業形態・ 単位数	演習 1単位
卒業要件		ナンバリング	CS40205	資格等取得との関連	保育士：必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	<p>テーマ：保育における保健的な観点から子どもの健康と安全を守るための知識や技術を修得する。</p> <p>到達目標(学修成果)①：保健的な観点から、子どもの健康・安全や保育の環境について考慮でき、実践できるようになる。</p> <p>到達目標(学修成果)②：衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理災害対策など知識を身につける。</p> <p>到達目標(学修成果)③：応急処置や救急処置・蘇生法を具体的に身につけ実践できるようになる。</p>								
授業概要	<p>病院、公立保育所での実務経験を有する教員が、子ども及び自身の健康および安全にかかわる知識技術について保育現場の実態も交え、授業を展開する。演習を通して日常的な健康支援のための技術や、子どものけが・体調不良時の対応方法、感染症の予防・発生時の対応、救急処置等を身につける。その他安全管理の実施体制や災害の備え、地域や家庭との連携等の知識を学び、理解を深め実践する。演習は役割分担してのグループワークや実習等を行う。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と到達目 標(学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画				時間外学習				
1回	授業内容や進め方についての説明 子どもの健康と安全を学ぶ意義				事前：テキストP1～P10を熟読する(0.5h) 事後：学習内容を復習し、まとめる(0.5h)				
2回	保育における健康と安全の管理 実習：手洗い				事前：テキストP11～P15、P121を熟読する(0.5h) 事後：学習内容を復習し、まとめる(0.5h)				
3回	保育における保健的対応 実習：身体測定				事前：テキストP149～P180を熟読する(0.5h) 事後：学習内容を復習し、まとめる(0.5h)				
4回	子どもの体調不良などへの対応① 熱、下痢、嘔吐、腹痛、脱水				事前：テキストP52～P59、P65～P68を熟読する(0.5h) 事後：学習内容を復習し、まとめる(0.5h)				
5回	子どもの体調不良などへの対応② 咳、鼻水、発疹、けいれん				事前：テキストP62～P64、P69～P74を熟読する(0.5h) 事後：学習内容を復習し、まとめる(0.5h)				
6回	子どもの体調不良などへの対応③ 熱中症、子どもと薬				事前：テキストP74～P82を熟読する(0.5h) 事後：学習内容を復習し、まとめる(0.5h)				
7回	子どもの体調不良などへの対応④ 一次救命処置(外部講師予定)				事前：テキストP109～P118を熟読する(0.5h) 事後：学習内容を復習し、まとめる(0.5h)				
8回	子どもの体調不良などへの対応⑤ 応急手当、傷、打撲、骨折、止血・包帯法				事前：テキストP83～P91、P100～P108を熟読する(0.5h) 事後：学習内容を復習し、まとめる(0.5h)				
9回	子どもの体調不良などへの対応⑥ 鼻血、口・目のケガ、かみ傷、虫さされ、ヤケド、誤飲・誤嚥				事前：テキストP92～P99を熟読する(0.5h) 事後：学習内容を復習し、まとめる(0.5h)				
10回	子どものかかりやすい感染症対策				事前：テキストP119～P148を熟読する(0.5h) 事後：学習内容を復習し、まとめる(0.5h)				
11回	3歳未満児への対応 生活に対する援助、生活習慣、SIDS				事前：テキストP180～P213を熟読する(0.5h) 事後：学習内容を復習し、まとめる(0.5h)				
12回	個別的配慮が必要な子どもへの対応① アレルギー疾患、実習：エピソードレナー				事前：テキストP214～P227を熟読する(0.5h) 事後：学習内容を復習し、まとめる(0.5h)				
13回	個別的配慮が必要な子どもへの対応② 疾患、様々な障害				事前：テキストP228～P245を熟読する(0.5h) 事後：学習内容を復習し、まとめる(0.5h)				

14回	事故防止と安全管理	事前:テキスト P27~P51を熟読する(0.5h) 事後:学習内容を復習し、まとめる(0.5h)																												
15回	健康及び安全の管理の実施体制	事前:テキスト P246~P259を熟読する(0.5h) 事後:学習内容を復習し、まとめる(0.5h)																												
16回	定期試験																													
テキスト	編著:鈴木美枝子 著:内山有子・田中和香菜・両角理恵 『これだけはおさえたい!保育者のための子どもの健康と安全』 創成社 [改訂二版] 2024年																													
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 その他は授業内で紹介する。																													
到達目標(学修成果)及び観点	<p>【到達目標(学修成果)及び観点】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標(学修成果)及び観点</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>技能・表現</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○	○		○		到達目標②	○		○			到達目標③	○	○		○					
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○	○		○																										
到達目標②	○		○																											
到達目標③	○	○		○																										
評価方法・基準	<p>【評価方法・基準】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標(学修成果)</th> <th>期末試験 (筆記試験・実技試験)</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物・レポート</th> <th>発表・実技</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>20%</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>15%</td> <td></td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td>5%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>15%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>5%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価: 取り入れている・取り入っていない</p>		評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()	到達目標①	20%			10%	10%		到達目標②	15%		10%	10%	5%		到達目標③	15%				5%	
評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①	20%			10%	10%																									
到達目標②	15%		10%	10%	5%																									
到達目標③	15%				5%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談:毎回の授業の際に提出するカードに記入された質問や疑問を通して相談を受ける。 授業終了前後に教室、もしくは非常勤講師室で質問を受け付ける。</p> <p>学習成果のフィードバック:課題や提出物は授業時間内に返却する。</p>																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:保育の内容・方法に関する科目/子どもの健康と安全																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	医療用語、疾患名等専門的な用語を丁寧に説明する。授業の構成・時間調整を工夫する。																													
受講生へのメッセージ・その他	保育の仕事をしていくうえで、まず、自らの生活態度や健康管理を行い、心身ともに健康に過ごすことができるように日々心がけることが重要です。そして、日頃から子どもに関するニュース(病気や事件・事故等)に注意して関心を持ち、常に自分がその場にいたらどう対応したらよいか考えるようにしましょう。																													
実務経験の有無	あり ・ なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無																												
		あり ・ なし																												

科目区分	専門教育 科目	科 目 名	乳児保育 I	担当者	寺西 恵子	開講時期	2 年 前期	授業形態・ 単位数	講義 2 単位
卒業要件		ナンバリング	CS40206	資格等取得との関連	保育士：必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	<p>テーマ：人間の人格形成の基礎を培う大切な乳児期の保育について理解し、知識と技術を修得する。</p> <p>到達目標(学修成果)①：乳児保育の意義や目的、歴史を知り、現代社会における乳児保育の役割と機能について説明できる。</p> <p>到達目標(学修成果)②：乳児期の心身の発達について知識を深め、発達の特性を説明できる。</p> <p>到達目標(学修成果)③：乳児保育における連携・協働(保護者・職員間・地域や他機関)の重要性について考えることができる。</p>								
授業概要	<p>三重県内保育所での実務経験をふまえ、保育現場の実態に即して、乳児保育の重要性や乳児期における心身の発達、さらに保育内容と記録の取り方など、乳児の保育について理解を深め、実習において、さらにフィールドワークできる科目である。</p> <p>乳児保育の歴史の変遷及び現代社会における現状や乳児保育の重要性を学ぶ。そして乳児期は、人間の人格形成を培う大切な時期であることがわかり、乳児の発達や特性について知識を習得し、その時期の子どもの生活や遊びの内容に興味や関心をもって基礎理論を学ぶ。また連携や協働の在り方についても学ぶ</p>								
ディプロマポリシー (DP)と到達目標 (学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画				時間外学習				
1 回	オリエンテーション(授業の進め方、評価の仕方等) 毎回順番に「手遊び」を紹介する方法の説明 視聴覚教材「赤ちゃんのこのすばらしき生命」				事前：シラバスを読む。自身の乳児期を知る。(2h) 事後：乳児保育の重要性「生命の誕生」についてまとめる (2h)				
2 回	乳児保育の目的・役割 養護と教育の一体性について				事前：教科書 p10~17 と指針の総則を読む(2h) 事後：授業内容を振り返りまとめる(2h)				
3 回	乳児保育の基本(歴史や制度、現状と課題) ディスカッション(資料課題について)				事前：p18~27を読む。現代のニーズや課題を調べる(2h) 事後：現代社会現状と課題をまとめる(2h)				
4 回	0・1・2歳児の発達の道筋(全身・手指) グループワーク 視聴覚教材 子どもの発達と支援「運動機能の発達」				事前：教科書 p28~32と指針を読み発達の道筋について調べる(2h)。 事後：授業内容を振り返り発達表をまとめる(2h)				
5 回	0・1・2歳児の発達の道筋(言葉・社会性) グループワーク 視聴覚教材 子どもの発達と支援「社会性の発達」				事前：教科書 p33~35と指針を読み発達の道筋について調べる。(2h) 事後：授業内容を振り返り発達表をまとめる(2h)				
6 回	乳児の発達の道筋まとめ プレゼンテーション				事前：調べた内容を発表に向けて準備する(2h) 事後：調べた内容を振り返りまとめる(2h)				
7 回	乳児(0歳児)の保育内容 グループワーク				事前：p36~47と指針の第2章保育の内容の1を読む(2h) 事後：授業内容を振り返りまとめる(2h)				
8 回	1歳以上から3歳未満児の保育内容 グループワーク				事前：p48~63と指針の第2章保育の内容の2を読む(2h) 事後：授業内容を振り返りまとめる(2h)				
9 回	乳児(0歳児)・1歳以上~3歳未満児の発達の道筋のまとめ (小テスト) 乳児の生活と遊びの基本的事項				事前：発達の道筋を確認する。また教科書 p64~81を読み復習する(2h) 事後：発達の習得度合いを再確認し、整理する(2h)				
10 回	乳児の生活と保育者の関わり グループワーク				事前：教科書 p82~101を読む(2h) 事後：授業内容を振り返りまとめる(2h)				
11 回	乳児の遊びと保育者の関わり グループワーク				事前：p102~115を読み、発達に即した遊びを調べる(2h) 事後：授業内容を振り返りまとめる(2h)				
12 回	乳児保育の環境構成 ディスカッション				事前：教科書 p116~123を読む(2h) 事後：授業内容を振り返りまとめる(2h)				

13回	乳児保育の計画・評価	事前:教科書 p124~133 を読む(2h) 事後:授業内容を振り返りまとめる(2h)																												
14回	子育て支援・連携と協働(保護者・職員同士・地域・関係機関) 視聴覚教材「保育所の地域子育て支援」第1巻 ディスカッション	事前:教科書 p134~143 を読む(2h) 事後:授業内容を振り返りまとめる(2h)																												
15回	乳児保育について習得内容を振り返りまとめる 手遊びの習得度の確認 手作り玩具の製作について説明する	事前:授業内容のまとめを整理する。また手作り玩具について考える 事後:玩具の完成を目指し配布プリントにまとめる																												
16回	定期試験(筆記試験)																													
テキスト	小山朝子 編著 亀崎美沙子 善本真弓 「講義で学ぶ乳児保育」わかば社(2019) 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」																													
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】																													
到達目標(学修成果)及び観点	<p>【到達目標(学修成果)及び観点】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標(学修成果)及び観点</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>技能・表現</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○	○	○			到達目標②	○		○			到達目標③	○		○	○					
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○	○	○																											
到達目標②	○		○																											
到達目標③	○		○	○																										
評価方法・基準	<p>【評価方法・基準】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標(学修成果)</th> <th>期末試験 (筆記試験・実技試験)</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物・レポート</th> <th>発表・実技</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>20%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> <td>5%</td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>10%</td> <td></td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td>5%</td> </tr> </tbody> </table>		評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()	到達目標①	20%						到達目標②	10%	10%	10%			5%	到達目標③	10%		10%	10%	10%	5%
評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①	20%																													
到達目標②	10%	10%	10%			5%																								
到達目標③	10%		10%	10%	10%	5%																								
ルーブリック評価	ルーブリック評価: 取り入れている・ <u>取り入っていない</u>																													
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:授業終了後に教室(非常勤講師室)で応じます 学習成果のフィードバック:課題や提出物は授業時間内に後日返却します																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:保育の内容・方法に関する科目/乳児保育 I																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	新規担当のため評価なし 後期における「乳児保育Ⅱ」にむけて基本事項を具体的に示していきたい																													
受講生へのメッセージ・その他	乳児用の手遊びは、授業のはじめに毎回紹介し合いますので、覚えて実践できるようにしましょう 授業内で調べたりまとめたりした資料は、ファイルに綴じて、実習や現場に行ったときの参考になるように丁寧に保管しましょう																													
実務経験の有無	<u>あり</u> ・ なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無																												

科目区分	専門教育科目	科目名	障がい児の理解	担当者	仲森みどり	開講時期	2年 前期	授業形態・ 単位数	講義 2単位
卒業要件	プログラム必修 (障がい児プロ) (地域連携プロ)	ナンバリング	CS40207	資格等取得との関連	保育士:選択必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	<p>テーマ:障がいのある子どもについて、知識を習得し理解を深め、保育の専門性を高める。</p> <p>到達目標(学修成果)①:様々な障がいの特性について学び、障がいのある子どもについて理解して実践に活かすことができる。</p> <p>到達目標(学修成果)②:特別な支援を必要とする子どもについて学び、多様な保育の在り方に気付くことができる。</p> <p>到達目標(学修成果)③:特別な支援を必要とする子どもへの対応について学び、事例について自分の考えや感じたことを記録する。</p>								
授業概要	<p>保育園、児童相談所、母子生活支援施設での実務経験を持つ教員が、障がいのある子どもへの保育や支援の現場経験から、障がいのある子ども・特別な支援を必要とする子どもとかかわる中で大切にしたいこと、また、保護者の思いについて考える。障がいのある子ども・特別な支援を必要とする子どもの特性について学び、子どもへの理解を深め、保育者として、その家族を含めた支援のあり方を知る。障がいのある子どもや特別な支援を必要とする子どもの事例、家庭に関する事例を紹介し、そこから生起する問題についての対応や支援の方法を考える。理論と事例を結び付けて考えることにより、実践で様々な課題と向き合える力を培う。適宜、グループワークやプレゼンテーション授業を用いて学習の進捗を深める。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と到達目標 (学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目									
授業計画						時間外学習			
1回	オリエンテーション 授業の概要・授業計画・評価方法などについて			事前:テキストP.2~13を熟読する(2h) 事後:テキストとノートを使用し授業内容の確認をする。(2h)					
2回	障がいの概念 障がいの捉え方と障がい児の保育の理念			事前:テキストP.2~13を熟読する(2h) 事後:テキストとノートを使用し授業内容の確認をする。(2h)					
3回	障がい児保育と保育者の専門性 障がい児保育の基本と保育者の役割			事前:保育所保育指針・幼稚園教育要領の第1章を熟読する(2h) 事後:テキストとノートを使用し授業内容の確認をする。(2h)					
4回	障がいのある子どもと気になる子ども 「気になる子ども」について調べ発表する グループワーク			事前:「気になる子ども」について調べる(2h) 事後:テキストとノートを使用し授業内容の確認をする。(2h)					
5回	身体障害の特性と理解 肢体不自由、視覚・聴覚障害について 外部講師			事前:テキストP.63~P.66までを読む(2h) 事後:テキストとノートを使用し授業内容の確認をする。(2h)					
6回	発達障害の特性と理解① 自閉スペクトラム症について			事前:テキストP.82~P.85までを読む(2h) 事後:テキストとノートを使用し授業内容の確認をする。(2h)					
7回	発達障害の特性と理解② 注意欠如・多動症と限局性学習症について			事前:テキストP.82~P.85までを読む(2h) 事後:テキストとノートを使用し授業内容の確認をする。(2h)					
8回	知的障害の特性と理解 知的障害児の特徴と支援について			事前:テキストP.70~P.75までを読む(2h) 事後:テキストとノートを使用し授業内容の確認をする。(2h)					
9回	気になる子どもの理解 落ち着きのない子どもや被虐待児等の理解と支援 外部講師			事前:テキストP.120~P.125までを読む(2h) 事後:テキストとノートを使用し授業内容の確認をする。(2h)					
10回	特別な支援を必要とする子どもの保育① 障がいのある子どもの事例検討			事前:テキストP.170~P.175までを読む(2h) 事後:テキストとノートを使用し授業内容の確認をする。(2h)					
11回	特別な支援を必要とする子どもの保育② グループワーク ・気になる子どもの事例検討 ・被虐待児の事例検討			事前:配布した資料を読む(2h) 事後:テキストとノートを使用し授業内容の確認をする。(2h)					

12回	子ども一人ひとりの発達を促す生活と遊びの環境 ・生活や遊びの環境を考える	事前:テキストP.130~P.138(2h) 事後:テキストとノートを使用し授業内容の確認をする。(2h)				
13回	障がいのある子ども等の保護者や家族への支援 保護者への支援事例検討	事前:テキストP.165~P.180までを読む(2h) 事後:テキストとノートを使用し授業内容の確認をする。(2h)				
14回	職員間の協働 職員の研修と協力体制	事前:テキストP.183~P.192を読む(2h) 事後:テキストとノートを使用し授業内容の確認をする。(2h)				
15回	障がい児の理解のまとめ	事前:今まで学んだところを見直しておく(2h) 事後:テキストとノートを使用し授業内容の確認をする。(2h)				
16回	定期試験	事前:試験に向けてしっかり準備する。(2h) 事後:試験結果を受けて、確認・再整理する。(2h)				
テキスト	監修 小橋明子 編著小橋拓真 著小山内あかね・竹野内ゆかり『障がい児保育』中山書店 2022 第2刷発行					
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 小林徹・栗山宣夫 編『ライフステージを見通した障害児保育と特別支援教育』みらい 2021 初版第2発行 監修 藤永保 著者 阿部五月 大熊光穂 小泉左江子 田中規子 村田カズ『障害児保育子どもとともに成長する保育者を目指して』萌文書林 2020 年第3版					
到達目標(学修成果)及び観点	【到達目標(学修成果)及び観点】					
	到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()
	到達目標①	○	○			
	到達目標②				○	
	到達目標③			○		
評価方法・基準	【評価方法・基準】					
ルーブリック評価	評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢 その他()
	到達目標①	60%				
	到達目標②				10%	10%
	到達目標③			20%		
	ルーブリック評価: 取り入れている <input type="checkbox"/> 取り入っていない <input type="checkbox"/>					
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:事前に予約の上、個別に応じます。なお、学習内容のささやかな質問は、授業の前中後でも応じます。 学習成果のフィードバック:試験結果に基づく。					
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:保育の内容・方法に関する科目/各指定保育士養成施設において設定					
授業評価アンケート結果を受けての改善点	試験対策としても、復習が重要になってくると考えます。そのため、授業外での復習ができるような問題や小レポート等も課題として出すこともしていきたい。					
受講生へのメッセージ・その他	現場に出た時に、子どものみでなく保護者との関わりが必須になります。障がいのある子どもの保護者の気持ちや理解も深めていって欲しいと思います。					
実務経験の有無	<input type="checkbox"/> あり ・ なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無			<input type="checkbox"/> あり ・ なし	

科目区分	専門教育 科目	科 目 名	乳幼児の理解	担当者	北畠香世子	開講時期	2 前期	授業形態・ 単位数	講義 2単位
卒業要件	プログラム 必修(乳幼 児プロ)	ナンバリング	CS40208	資格等取得との関連	保育士:選択必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	<p>テーマ: 乳幼児期の子どもへの理解を深め、発達援助の知識や技術を学ぶ。</p> <p>到達目標(学修成果)①: 乳幼児期の子どもの発達について理解し、説明することができる。</p> <p>到達目標(学修成果)②: 子どもの理解に基づく具体的な関わりや援助方法を学び、実践する力を身につけることができる。</p> <p>到達目標(学修成果)③: 事例を通して、子どものつまずきや課題解決に必要な視点や手立てを考えることができるようになる。</p>								
授業概要	<p>本科目は公立幼稚園において教諭、教頭、園長として、子どもたちや保護者と関わった経験及び未就園児教室等での0歳からの未就園の子どもたちとその保護者と関わった経験を生かして、実践事例をまじえた講義を主軸に置きながら、保育・教育現場で活用できる教材や遊びを紹介する。</p> <p>人格形成の基礎を培う重要な乳幼児期に携わる保育者は、子どもを深く理解するように努め、適切な援助を行うことが求められる。本講義において乳幼児期の子どもの発達特性、環境、生活や遊び、子育て支援等について理解するとともに、適宜 DVD 視聴や模擬保育・模擬体験・グループワークを通して保育・教育において子どもの内面を理解することの重要性について理解を深める。</p>								
ディプロマ (DP)と到達目 標(学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目									
		授業計画				時間外学習			
1回	オリエンテーション(授業の進め方等) ・「子ども理解」の意義について考える ・絵本の読み聞かせワークや「えほんだより」作成について説明する				事前: シラバスに目を通し、内容を把握する(2h) 事後: テキスト第1章と資料を振り返り、内容を整理する(2h)				
2回	子どもを取り巻く社会環境の変化と現状 ・「子どもの誕生にまつわる行事」からグループワークを行う ・遊びの研究 ① (0・1 歳児と楽しみたい「ふれあい遊び」)				事前: 配布資料(課題)について調べ学習を行う(2h) 事後: 「ふれあい遊び」を演習し、実践できるようにする(2h)				
3回	保育における養護および教育の一体的展開 ・遊びの研究 ② (2・3 歳児と楽しみたい「手遊び」)				事前: テキスト第2章を読む(2h) 事後: 「手遊び」を演習し、実践できるようにする(2h)				
4回	保育における共感的理解と子どもとの関わり ・遊びの研究 ③ (4・5 歳児と楽しみたい「ことば遊び」)				事前: テキスト第3章・第5章を読む(2h) 事後: 「ことば遊び」を演習し、実践できるようにする(2h)				
5回	生活の場面における保育者の援助 ・遊びの研究 ④ (つながる楽しさ・喜びを体験する遊び)				事前: 保育所保育指針第1章を読む(2h) 事後: 「つながり遊び」を復習し、実践できるようにする(2h)				
6回	遊びの場面における保育者の援助 ・教材研究 ① (エプロンシアター) ・小テストを通して授業内容の理解度を確認する				事前: テキスト第4章を読む。小テストに取り組めるよう授業内容を復習する(2h) 事後: 小テストを振り返り、自己評価をする(2h)				
7回	子ども相互の関わりと集団における経験と育ち (インクルーシブ保育の実践から) ・教材研究 ② (腹話術・手づくり絵本) ※外部講師招聘予定				事前: テキスト第6章・第7章を読む(2h) 事後: ワークシートを記入し、整理する(2h)				
8回	保育環境の理解と構成 ・教材研究 ③ (パネルシアター)				事前: テキスト第8章を読む(2h) 事後: ワークシートを記入し、整理する(2h)				
9回	子どもを理解する方法(観察・記録・評価・省察) ・教材研究 ④ (子育て支援と絵本)				事前: テキスト第9章を読む(2h) 事後: ワークシートを記入し、整理する(2h)				
10回	保護者への関わりの基本と支援 ・適宜 DVD 視聴や保護者との関わり方の模擬体験をし、グループワークを通して考え合う				事前: 子どもへの不適切な対応に関わる事象について調べる(2h) 事後: グループで話し合った内容をまとめる(2h)				

11回	職員間の対話・園内の協力体制 ・グループワーク(0.1歳児と読みたい絵本)	事前:テキスト第10章を読む。絵本を選書し、読み聞かせの練習をする(2h) 事後:ワークシートにまとめ、振り返る(2h)				
12回	発達の課題に応じた援助や関わり(個と集団の両義性の視点から) ・グループワーク(2.3歳児と読みたい絵本)	事前:テキスト第11章・第12章を読む。絵本を選書し、読み聞かせの練習をする(2h) 事後:ワークシートにまとめ、振り返る(2h)				
13回	保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園の保育・教育 ・グループワーク(4.5歳児と読みたい絵本)	事前:配布資料(課題)について調べ学習をする。絵本を選書し、読み聞かせの練習をする(2h) 事後:ワークシートにまとめ、振り返る(2h)				
14回	子育て支援の現状と課題 ・適宜DVD視聴し、グループワークを通して考え合う ・「えほんだより」を提出	事前:「えほんだより」を作成する(2h) 事後:グループで話し合った内容をまとめる(2h)				
15回	発達の連続性と就学への支援(保幼小の接続) ・振り返りとまとめ	事前:テキスト第13章・第14章を読む(2h) 事後:授業内容を総合的に振り返り、復習する(2h)				
16回	定期試験					
テキスト	請川滋大 著書『子どもの理解—個と集団の育ちを支える理論と方法—』萌文書林(2020) 文部科学省編『幼稚園教育要領』(2017) 厚生労働省編『保育所保育指針』(2017) 内閣府・文部科学省・厚生労働省編『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(2017)					
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 適宜授業で紹介します。					
到達目標(学修成果)及び観点	【到達目標(学修成果)及び観点】					
	到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()
	到達目標①	○			○	
	到達目標②		○	○	○	
	到達目標③		○	○		
評価方法・基準	【評価方法・基準】					
ルーブリック評価	評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験(筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢 その他()
	到達目標①	20%	10%			5%
	到達目標②	10%		10%	15%	5%
	到達目標③	10%		10%		5%
	ルーブリック評価: 取り入れている・ <input type="checkbox"/> 取り入っていない					
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:授業後やオフィスアワーの日時に対応します。 学習成果のフィードバック:授業の中で小テストやワークシート等は後日返却します。					
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:保育の内容・方法に関する科目/各指定保育士養成施設において設定					
授業評価アンケート結果を受けての改善点	新規担当のため評価なし。 学生自身が楽しみながら「遊びの研究」「教材研究」「読み聞かせ」等に主体的に参加できるようにし、乳幼児の理解を深める知識の習得をできるようにしていきたい。					
受講生へのメッセージ・その他	子どもが楽しむ姿をイメージしながら遊びや教材研究をしましょう。 子どもとともに楽しさや様々な思いを共感する保育者をめざしましょう。					
実務経験の有無	<input type="checkbox"/> あり・なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無			<input type="checkbox"/> あり・なし	

科目区分	専門教育 科目	科 目 名	子どもの食と栄養	担当者	川端美鶴	開講時期	2年 通年	授業形態・ 単位数	演習 2単位
卒業要件		ナンバリング	CS40209	資格等取得との関連	保育士：必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	<p>テーマ：保育者は子どもの健康にとって望ましい食生活と支援を常に考え、確に捉えて実践する。</p> <p>到達目標(学修成果)①：食事と栄養素の関係を理解し、栄養バランスのとれた献立を考えることができる。</p> <p>到達目標(学修成果)②：調乳方法及び離乳食の適切な味・形態・量を理解し、実践できる。</p> <p>到達目標(学修成果)③：子どもの発達と栄養摂取法・食生活の関係を説明できる。</p> <p>到達目標(学修成果)④：子どもを取り巻く食の現状と課題から、食育の必要性、その内容を理解し、実践できる。</p> <p>到達目標(学修成果)⑤：特別な配慮の必要な子どもの食と栄養について理解し、説明できる。</p>								
授業概要	<p>健康な生活を送る上での食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学ぶ。家庭や児童福祉施設での子どもの食生活の現状と問題点を解説し、望ましい食生活のための食育の意義・目的・基本的な考え方を学ぶ。さらに調理を通じた食育について、総合病院の勤務経験を持つ管理栄養士(教科担当)が、調理指導を行い、実生活に則した調理法を習得する。また、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について、関連するガイドラインやデータを踏まえて解説を行う。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と到達目 標(学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1回	子どもの健康と食生活					事前：テキスト第1章を熟読する。(0.5時間) 事後：テキストを参考にノートにまとめる(0.5時間)			
2回	栄養に関する基礎知識① 栄養素の消化吸収					事前：テキスト第2章1と2を熟読する。(0.5時間) 事後：テキストを参考にノートにまとめる(0.5時間)			
3回	栄養に関する基礎知識② 栄養素の種類とはたらき					事前：テキスト第2章3を熟読する。(0.5時間) 事後：テキストを参考にノートにまとめる(0.5時間)			
4回	栄養に関する制度① 日本人の食事摂取基準					事前：テキスト第3章1を熟読する。(0.5時間) 事後：テキストを参考にノートにまとめる(0.5時間)			
5回	栄養に関する制度② 献立作成・調理の基本					事前：テキスト第3章2を熟読する(0.5時間) 事後：テキストを参考にノートにまとめる(0.5時間)			
6回	演習「食事バランスの取れた1日分の献立を考える」					事前：食事バランスの取れた献立について調べておく (0.5時間) 事後：テキストを参考にノートにまとめる(0.5時間)			
7回	妊娠期と授乳期の食生活					事前：テキスト第4章を熟読する。(0.5時間) 事後：テキストを参考にノートにまとめる(0.5時間)			
8回	乳児期の食生活① 乳汁栄養					事前：テキスト第5章1を熟読する(0.5時間) 事後：テキストを参考にノートにまとめる(0.5時間)			
9回	乳児期の食生活② 哺乳瓶の消毒と調乳					事前：テキスト67ページを熟読する。(0.5時間) 事後：テキストを参考にノートにまとめる(0.5時間)			
10回	乳児期の食生活③ 離乳の意義とその実践(離乳初期、離乳中期)					事前：テキスト第5章2を熟読する。(0.5時間) 事後：テキストを参考にノートにまとめる(0.5時間)			
11回	乳児期の食生活④ 離乳の意義とその実践(離乳後期、離乳完了期)					事前：テキスト第5章2を熟読する。(0.5時間) 事後：テキストを参考にノートにまとめる(0.5時間)			
12回	演習「ベビーフードの試食」					事前：演習説明のプリントを熟読する。(0.5h) 事後：プリントを参考にノートにまとめる(0.5時間)			

13回	幼児期の心身の発達と食生活	事前:テキスト第6章1を熟読する。(0.5時間) 事後:テキストを参考にノートにまとめる(0.5時間)
14回	幼児期の栄養の問題	事前:テキスト第6章2を熟読する。(0.5時間) 事後:テキストを参考にノートにまとめる(0.5時間)
15回	演習「幼児期の間食を考える」	事前:幼児期の間食レシピについて調べておく。(0.5時間) 事後:プリントを参考にノートにまとめる(0.5時間)
16回	学童期、思春期の心身の発育・発達と食生活と栄養の問題	事前:テキスト第7章1を熟読する。(0.5時間) 事後:テキストを参考にノートにまとめる(0.5時間)
17回	学童期、思春期の学校給食と栄養問題	事前:テキスト第7章2を熟読する。(0.5時間) 事後:テキストを参考にノートにまとめる(0.5時間)
18回	生涯発達と食生活	事前:テキスト第8章を熟読する。(0.5時間) 事後:テキストを参考にノートにまとめる(0.5時間)
19回	食育の基本	事前:テキスト第9章1と2を熟読する。(0.5時間) 事後:テキストを参考にノートにまとめる(0.5時間)
20回	食育の内容と計画および評価	事前:テキスト第9章3を熟読する。(0.5時間) 事後:テキストを参考にノートにまとめる(0.5時間)
21回	食育のための環境づくりと食を通じた保護者への支援	事前:テキスト第9章4と5を熟読する。(0.5時間) 事後:テキストを参考にノートにまとめる(0.5時間)
22回	演習「食育に関する絵本の発表」	事前:食育に関する絵本を調べ発表に向けてレポート作成をする。(0.5時間) 事後:プリントを参考にノートにまとめる(0.5時間)
23回	児童福祉施設における食事と栄養	事前:テキスト第10章を熟読する。(0.5時間) 事後:テキストを参考にノートにまとめる(0.5時間)
24回	調理実習「幼児食 子どもも参加できる料理の調理と試食」	事前:調理実習内容を確認しておく。(0.5時間) 事後:プリントを参考にノートにまとめる(0.5時間)
25回	疾病および体調不良の子どもへの対応	事前:テキスト第11章1を熟読する(0.5時間) 事後:テキストを参考にノートにまとめる(0.5時間)
26回	障がいのある子どもへの対応	事前:テキスト第11章2を熟読する(0.5時間) 事後:テキストを参考にノートにまとめる(0.5時間)
27回	食物アレルギーの基礎知識	事前:テキスト第12章1を熟読する(0.5時間) 事後:テキストを参考にノートにまとめる(0.5時間)
28回	保育所での食物アレルギー対応	事前:テキスト第12章2を熟読する(0.5時間) 事後:テキストを参考にノートにまとめる(0.5時間)
29回	調理実習「食物アレルギー対応の間食(おやつ)の調理と試食」	事前:調理実習内容を確認しておく(0.5時間) 事後:プリントを参考にノートにまとめる(0.5時間)
30回	まとめ 保育者に求められることを「子ども」「食」から考える	事前:授業内容を振り返り、食と栄養について子どもたちに伝えたいことを整理しておく(0.5時間) 事後:テキストを参考にノートにまとめる(0.5時間)
31回	定期試験	
テキスト	『子どもの食と栄養 第3版 ~保育現場で活かせる食の基本』 太田百合子 堤ちはる 編 羊土社(2025)	
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 授業内で紹介する	

到達目標(学修成果)及び観点	【到達目標(学修成果)及び観点】						
	到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	
	到達目標①	○			○		
	到達目標②	○					
	到達目標③	○					
	到達目標④	○		○	○		
	到達目標⑤	○					
	評価方法・基準	【評価方法・基準】					
		評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢 その他()
		到達目標①	20%				
到達目標②		20%					
到達目標③		20%					
到達目標④		20%					
到達目標⑤		20%					
ルーブリック評価	ルーブリック評価: 取り入れている・ 取り入っていない						
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:授業終了前後に教室(もしくは非常勤講師室)で質問を受け付ける 学習成果のフィードバック:授業時間内に行います						
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:保育の対象の理解に関する科目/子どもの食と栄養						
授業評価アンケート結果を受けての改善点	新規担当のため、評価なし						
受講生へのメッセージ・その他	「子どもの食と栄養」を学ぶこの機会に、自分自身の食生活についても再確認してみましょう。そして、授業を通して食べることの楽しさ、栄養バランスの大切さを知り、子どもたちにとって望ましい食生活を伝えることができる保育者になってくれることを期待しています。						
実務経験の有無	○あり・なし		双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無		あり・○なし		

科目区分	専門教育 科目	科 目 名	子ども家庭支援論	担当者	河村浩世	開講時期	2年 後期	授業形態・ 単位数	講義 2単位
卒業要件		ナンバリング	CS40210	資格等取得との関連	保育士：必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	<p>テーマ：「家庭」を理解し、子どもの生活環境や生活状況の多様性を理解しつつ、子どもの最善の利益を尊重した柔軟な支援をおこなえる実践力を身につける。</p> <p>到達目標(学修成果)①：子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解し、説明することができる。</p> <p>到達目標(学修成果)②：子ども家庭支援の現状、課題について理解し、説明することができる。</p> <p>到達目標(学修成果)③：子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と、子育て家庭に対する支援体制について説明することができる。</p>								
授業概要	<p>幼稚園教諭・保育士・社会福祉士としての現場経験を有する経験を活かし、臨場感のある授業を行います。保育士の専門性を活かした、子育て家庭に対する支援の意義、目的、具体的な支援体制や社会資源とその活用について理解する。また今日の子育て家庭の現状や地域のニーズを知り、関係機関との連携を含めた多様な支援の展開と今後の課題について理解する。授業の中では適宜ディスカッション、ディベートを取り入れるので積極的に参加し、理解を深めること。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と到達目標 (学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1回	子ども家庭支援のシステムと子ども家庭支援の意義					事前：シラバス等を確認すること。序章・第1章1節を熟読すること(2H) 事後：コメントシートにその都度、気づきと要点をまとめて書くとともに、毎回の内容について復習すること。(2H)			
2回	子ども家庭支援の目的と機能					事前：第1章2節・3節を熟読すること(2H) 事後：コメントシートにその都度、気づきと要点をまとめて書くとともに、毎回の内容について復習すること。(2H)			
3回	子ども家庭支援に活かす保育の専門性と子どもの育ちの喜びの共有					事前：第2章・3章を熟読すること(2H) 事後：コメントシートにその都度、気づきと要点をまとめて書くとともに、毎回の内容について復習すること。(2H)			
4回	保護者および地域の子育てに関する保育施設の保育者による支援					事前：第4章を熟読すること(2H) 事後：コメントシートにその都度、気づきと要点をまとめて書くとともに、毎回の内容について復習すること。(2H)			
5回	保育者に必要な基本的姿勢(受容的関わり・自己決定の尊重・秘密保持等)					事前：第5章を熟読すること(2H) 事後：コメントシートにその都度、気づきと要点をまとめて書くとともに、毎回の内容について復習すること。(2H)			
6回	家庭の実情に応じた保育施設・保育者による支援と社会資源のつながり					事前：第6章・7章を熟読すること(2H) 事後：コメントシートにその都度、気づきと要点をまとめて書くとともに、毎回の内容について復習すること。(2H)			
7回	地域資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力					事前：第8章を熟読すること(2H) 事後：コメントシートにその都度、気づきと要点をまとめて書くとともに、毎回の内容について復習すること。(2H)			
8回	保育施設・事業所等が実践する子ども家庭支援の展開					事前：第9章を熟読すること(2H) 事後：コメントシートにその都度、気づきと要点をまとめて書くとともに、毎回の内容について復習すること。(2H)			
9回	児童福祉施設や事業所が実践する多様な子ども家庭支援の展開					事前：第10章を熟読すること(2H) 事後：コメントシートにその都度、気づきと要点をまとめて書くとともに、毎回の内容について復習すること。(2H)			
10回	要保護児童およびその過程に対する子ども家庭支援の展開					事前：第11章を熟読すること(2H)			

		事後:コメントシートにその都度、気づきと要点をまとめて書くとともに、毎回の内容について復習すること。(2H)																												
11回	低所得世帯の児童や保護者に対する多様な子ども家庭支援の展開	事前:第12章を熟読すること(2H) 事後:コメントシートにその都度、気づきと要点をまとめて書くとともに、毎回の内容について復習すること。(2H)																												
12回	障がいのある子ども、医療的ケア児およびその家庭に対する子ども家庭支援の展開	事前:第13章を熟読すること(2H) 事後:コメントシートにその都度、気づきと要点をまとめて書くとともに、毎回の内容について復習すること。(2H)																												
13回	アレルギー、外国にルーツ等のある子どもおよびその家庭に対する支援の展開	事前:第14章を熟読すること(2H) 事後:コメントシートにその都度、気づきと要点をまとめて書くとともに、毎回の内容について復習すること。(2H)																												
14回	人間関係の形成と多様な子どもおよびその家庭に対する支援の展開	事前:第15章を熟読すること(2H) 事後:コメントシートにその都度、気づきと要点をまとめて書くとともに、毎回の内容について復習すること。(2H)																												
15回	ふりかえりと学びの発表	事前:今までの授業の内容を振り返り、まとめること(2H) 事後:コメントシートにその都度、気づきと要点をまとめて書くとともに、毎回の内容について復習すること。(2H)																												
16回	定期試験																													
テキスト	中典子 他編著者『こどもまんなか社会に活かす「子ども家庭支援論」』晃洋書房 2025年																													
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】																													
到達目標(学修成果)及び観点	【到達目標(学修成果)及び観点】																													
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標(学修成果)及び観点</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>技能・表現</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○					到達目標②	○		○			到達目標③	○	○	○						
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○																													
到達目標②	○		○																											
到達目標③	○	○	○																											
評価方法・基準	【評価方法・基準】																													
ルーブリック評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標(学修成果)</th> <th>期末試験(筆記試験・実技試験)</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物・レポート</th> <th>発表・実技</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>20%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>20%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>20%</td> <td></td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験(筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()	到達目標①	20%		10%				到達目標②	20%				10%		到達目標③	20%		10%	10%		
評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験(筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①	20%		10%																											
到達目標②	20%				10%																									
到達目標③	20%		10%	10%																										
	ルーブリック評価: 取り入れていない																													
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談: オフィスアワーの時間に対応する。 学習成果のフィードバック: 授業のなかで行う。																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士: 保育の本質・目的に関する科目/子ども家庭支援論																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	新規担当のため評価なし																													
受講生へのメッセージ・その他	<ul style="list-style-type: none"> 授業後に毎回コメントを記入提出し、質問等には次回授業時に全体にフィードバックを行います。 教科書を活用し、事前・事後学習を計画的に進めていきます。毎回必ず持参してください。 授業は、グループワークやディスカッションを取り入れますので、積極的に発言し、他者の意見を聞いて、知見を広げてください。 																													
実務経験の有無	あり	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無																												
		あり																												

科目区分	専門教育科目	科目名	乳児保育Ⅱ	担当者	寺西恵子	開講時期	2年後期	授業形態・単位数	演習 1単位
卒業要件		ナンバリング	CS40211	資格等取得との関連	保育士：必修				
テーマ・授業の到達目標(学修成果)	<p>テーマ:乳児期の保育について、実践的な知識と技能を修得する。</p> <p>到達目標(学修成果)①:乳児の生活の援助と保育者の関わりの仕方が分かり、実践できるようになる。</p> <p>到達目標(学修成果)②:各々の発達に応じた保育内容や環境構成を具体的に考えることができる。</p> <p>到達目標(学修成果)③:指導計画立案と評価、記録の必要性を学び、実践できるようになる。</p>								
授業概要	<p>三重県内保育所での実務経験を有する教員が、保育現場の実態に即して、乳児保育の重要性や乳児期における心身の発達、さらに保育内容と記録のとり方など、乳児の保育について理解を深め実践力を身につける科目である。</p> <p>一人一人の子どもの主体性や育ちを大切に、保育の内容や環境を具体的に学び、個別の指導計画や記録のとり方・保育者間の連携、保護者・子育て支援のあり方など事例を交えて、保育者としての実践的能力と資質が身につくようにする。</p>								
ディプロマ・リソ (DP)と到達目標(学修成果)との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
		③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画				時間外学習				
1回	授業の進め方、評価の仕方等 毎回、乳児向け「絵本」の紹介方法の説明 乳児の手作り玩具(プレゼンテーション)				事前:シラバスを読む。手作り玩具を完成し、プレゼンの準備をする(0.5h) 事後:手作り玩具作成のプリントの整理をする(0.5h)				
2回	乳児保育の重要性 (養護と教育の一体性、主体性の尊重、個別の関わり等)				事前:保育所保育指針第1章総則の2を読む(0.5h) 事後:授業内容をまとめる(0.5h)				
3回	食事の援助と環境 授乳の演習				事前:前期教科書のP82~P86の振り返りと教科書P36~P49を読む(0.5h) 事後:授業内容をまとめ、課題をする(0.5h)				
4回	排泄と着脱の援助と環境 おむつ交換の演習				事前:前期教科書のP90~P97の振り返りと教科書P50~P59・P68~P79を読む(0.5h) 事後:授業内容をまとめ、課題をする(0.5h)				
5回	睡眠・休息の援助と環境 小テスト・視聴覚教材「子どもを育む保育の環境」 第1巻 3歳未満児				事前:前期教科書のP86~P89の振り返り、教科書P60~P67を読む(0.5h) 事後:授業をまとめ、課題をする(1.0h)				
6回	清潔に関する援助と環境 沐浴と着替えの演習				事前:前期の教科書のP98~P101を振り返り、教科書P80~P89を読む(0.5h) 事後:授業内容をまとめ、課題をする(1.0h)				
7回	0,1,2歳児の保育内容・あそびと保育者の援助 グループワークをする				事前:前期の教科書のP36~P47・P64~P81を振り返り、教科書P98~P105を読み調べる(0.5h) 事後:授業をまとめ、課題プリントを作成する(1.0h)				
8回	0,1,2歳児保育内容・あそびと保育者の援助 グループワークをする				事前:前期教科書のP48~P81の振り返りと教科書P106~P119を読み調べる(0.5h) 事後:授業をまとめ、課題プリントを作成する(1.0h)				
9回	0,1,2歳児保育内容・あそびと保育者の援助 グループワークをする 発表にむけ各グループでディスカッション				事前:前期の教科書のP48~P81を振り返り、教科書P106~P119を読み調べる(0.5h) 事後:授業をまとめ、課題プリントを作成する(1.0h)				
10回	学びのプレゼンテーション(0,1,2歳児)				事前:調べたことを発表にむけて準備する(1.0h) 事後:学びを振り返り、プリントを整理する(0.5h)				
11回	乳児保育の健康管理と安全管理 グループワーク				事前:調べたことを発表にむけて準備する(1.0h) 事後:学びを振り返り、プリントを整理する。前期教科書のP76~P81の振り返りと教科書P90~P97を読み課題プリントを完成する(1.0h)				
12回	学びのプレゼンテーション 乳児保育の健康管理と安全管理				事前:課題プリントを準備する。前期教科書のP76~P81の振り返りと教科書P90~P97を読み調べる(1.0h) 事後:授業内容をまとめ、確認する(0.5h)				

13回	保育の計画と評価	事前:教科書 P120~P129 を読む(0.5h) 事後:事例について考え、授業内容を確認する(0.5h)				
14回	乳児の養育環境とこれからの課題 (少子化と子育て支援・虐待問題など)	事前:教科書 P130~P136 を読んで、そのうえで今、社会で話題になっていることを調べる(1.0h) 事後:修得したことをまとめ、確認する(0.5h)				
15回	今までの振り返りとまとめ 手作り玩具集の製作	事前:授業内容を振り返り復習し、確認する(1.0h) 事後:学びの振り返りとわからないところを確認する(0.5h)				
16回	定期試験(筆記試験)	事前:今までの授業を振り返り、確認する(2.0h) 事後:今までの学びをまとめる(0.5h)				
テキスト	善本真弓 編著 小山朝子 亀崎美沙子 「演習で学ぶ乳児保育」(わかば社)(2020) 保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領					
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 前期の乳児保育 I のテキスト「講義で学ぶ乳児保育」					
到達目標(学修成果)及び観点	【到達目標(学修成果)及び観点】					
	到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()
	到達目標①	○		○	○	
	到達目標②	○	○	○	○	
	到達目標③	○		○		
到達目標(学修成果)及び観点	【評価方法・基準】					
評価方法・基準	評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢 その他()
	到達目標①	15%		5%	10%	10%
	到達目標②	15%	10%	5%	10%	10%
	到達目標③	10%				
ルーブリック評価	テスト・小テストでは、記述内容の質・量、技術の習得度ともに評価する 課題・提出物では、提出期日を厳守したうえで、記述内容の質・量、文字の丁寧さを評価する 発表では、みんなが理解できるように分かりやすく発表する内容や態度、積極性を評価する 取り組み姿勢では、事前事後学習や授業時の真面目で意欲的な姿勢を評価する。また人とディスカッションを行い、グループで創意工夫し、協働する姿勢も評価する ルーブリック評価: 取り入れている・ <u>取り入っていない</u>					
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:授業終了前後に教室(または非常勤講師室)で応じます。 学習成果のフィードバック:課題や提出物は授業時間内に後日返却します					
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:保育の内容・方法に関する科目/乳児保育Ⅱ					
授業評価アンケート結果を受けての改善点	演習授業では、等身大の赤ちゃん人形を使っての実践授業を行ったことで、実際に経験するのが、初めての学生が多く、それに対してリアルな学びにつながったという意見をいただき、命の重みも同時に感じてもらえたように思う。今後も演習授業も含め、講義内でも、現場ですぐ実践できること、また幅広い視野を持って臨機応変に考える保育者を目指せるように伝えていきたい。					
受講生へのメッセージ・その他	・乳児用の絵本について、授業の初めに毎回紹介しますので、日ごろから、いろんな絵本に触れて読むようにしましょう ・授業内で調べたりまとめたりした資料は、ファイルに綴じて、実習や現場に行った時の参考になるように丁寧に保管しましょう ・今、社会で起きている子育てに関する情報等に関心を持ちましょう					
実務経験の有無	あり・なし		双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無		あり・なし	

科目区分	専門教育 科目	科 目 名	地域ボランティア実践Ⅰ	担当者	徳増全矢・浦中こういち 河村浩世・于丹	開講時期	Ⅰ年 前期	授業形態・ 単位数	演習 Ⅰ単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS60101	資格等取得との関連	保育士：必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	<p>テーマ：地域活動やフィールドワーク等を通して、ボランティアの意義・実践技術を習得する。</p> <p>到達目標(学修成果)①：ボランティアの基本である他人への「思いやり」や「つながり」の意義について、実践を通して理解できる。</p> <p>到達目標(学修成果)②：ボランティア精神に基づく地域との関わり方に触れるなかで、ボランティア活動について意欲と関心を持つことができる。</p> <p>到達目標(学修成果)③：地域におけるボランティア活動が子どもや市民の生活にもたらす影響について理解を深めることができる。</p>								
授業概要	<p>小学校教員、保育者、児童養護施設職員、子育て支援担当の経験を活かし、学生の地域ボランティア活動を教員がコーディネートしていく授業となる。現代社会において、ボランティア活動の重要性が増大してきている。私たちの社会が少子高齢社会となり、特に地域に密着したボランティア活動の意義はますます重要なものとなってきている。大学が所在する近隣地域でのボランティア活動の実践やフィールドワークを通して、地域の状況を知るとともに、地域社会に生活する様々な人との交流を通じて、学生自身のさらなるコミュニケーション能力の伸長を図る。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と到達目標 (学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
	◎	③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画				時間外学習				
1回	オリエンテーション <授業の概要と学習方法、評価について>				事前：シラバスを熟読し理解しておく(0.5h) 事後：授業の概要と学習方法、内容等を振り返る(1h)				
2回	ボランティア活動の基本と応用 浦中先生による、アイデア紹介				事前：ボランティア活動への意識を深める(0.5h) 事後：レクチャーに対する振り返り(1h)				
3回	ボランティアイベントの企画① 前回のレクチャーで得たアイデアをもとにグループでブースを考案する				事前：自らの考えをまとめる(0.5h) 事後：プリントや資料を通しての振り返り(1h)				
4回	ボランティアイベントの企画② グループでブース案を作成する。				事前：自らの考えをまとめる(0.5h) 事後：プリントや資料を通しての振り返り(1h)				
5回	ボランティアイベントの準備① 具体的な制作物の作成				事前：自らの考えをまとめる(0.5h) 事後：プリントや資料を通しての振り返り(1h)				
6回	ボランティアイベントの準備② 具体的な制作物の作成				事前：自らの考えをまとめる(0.5h) 事後：プリントや資料を通しての振り返り(1h)				
7回	ボランティアイベントの準備③ 浦中先生からのレクチャー、提供に関する注意等				事前：自らの考えをまとめる(0.5h) 事後：レクチャーに対する振り返り(1h)				
8回	ボランティアイベントの準備④ 前回の授業をふまえて内容を改善。リハーサル等を行う				事前：自らの考えをまとめる(0.5h) 事後：プリントや資料を通しての振り返り(1h)				
9回	ボランティア活動の実践①(現場での参加) ※学外授業				事前：ボランティア活動の自らの考えをまとめる(0.5h) 事後：プリントや資料を通しての振り返り(1h)				
10回	ボランティア活動の実践②(現場での参加) ※学外授業				事前：ボランティア活動の自らの考えをまとめる(0.5h) 事後：プリントや資料を通しての振り返り(1h)				
11回	リフレクション				事前：ボランティア参加の感想をまとめる(0.5h) 事後：グループでの発表を受けて個人で振り返る(1h)				
12回									

13回																														
14回		事前: 事後:																												
15回		事前: 事後:																												
16回	定期試験(振り返りレポートの提出)																													
テキスト	なし。授業の中で資料を配布。																													
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 適宜、授業で紹介をする。																													
到達目標(学修成果)及び観点	<p>【到達目標(学修成果)及び観点】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標(学修成果)及び観点</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>技能・表現</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○	○				到達目標②				○		到達目標③		○	○						
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○	○																												
到達目標②				○																										
到達目標③		○	○																											
評価方法・基準	<p>【評価方法・基準】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標(学修成果)</th> <th>期末試験 (筆記試験・実技試験)</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物 レポート</th> <th>発表・実技</th> <th>取り組み 姿勢</th> <th>その他 ()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>40%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>20%</td> <td>20%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()	到達目標①	40%						到達目標②			20%				到達目標③				20%	20%	
評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()																								
到達目標①	40%																													
到達目標②			20%																											
到達目標③				20%	20%																									
ルーブリック評価	ルーブリック評価: 取り入れている ・ <input type="checkbox"/> 取り入っていない																													
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談: 毎回の授業の際に提出する、Teams に記入された質問や疑問を通して相談を受ける。また、オフィスアワーを活用して対応する。 学習成果のフィードバック: 提出物の返却を通して実施する。																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士: 保育士の資格取得ではないが、学校独自の科目として開設されている教科目																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	昨年度の授業では、ブースに分かれた際に温度差があったりしたことが報告されていました。今年度は、教員間で分担して細かくケアをしていく形をとります。浦中先生からの助言を得ることで、学生が具体的なイメージを持てるようにしていきます。貴重な学外授業になるので、教員側で共通認識を持って臨みます。																													
受講生へのメッセージ・その他	今年度の児童館まつりは7月12日(日)に実施される。本授業は、そこに向けて内容を醸成していく形で行う。受講者は参加が必須となるので、しっかり準備しておくこと。																													
実務経験の有無	<input checked="" type="checkbox"/> あり ・ なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無																												
		<input checked="" type="checkbox"/> あり ・ なし																												

科目区分	専門教育 科目	科 目 名	幼稚園教育実習 事前事後指導	担当者	田中裕子・北畠香世子	開講時期	1年(2年課 程のみ) 通年	授業形態・ 単位数	演習 1単位
卒業要件		ナンバリング	CS60102	資格等取得との関連	幼稚園:必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	<p>テーマ:幼稚園教諭としての基本的資質を身につける</p> <p>到達目標(学修成果)①:幼稚園教育実習に向けた書類の作成方法や社会でのマナーを身につけることができる。</p> <p>到達目標(学修成果)②:幼稚園教諭としての役割を理解し、専門性の向上に向けて自己課題を設定することができる。</p> <p>到達目標(学修成果)③:幼稚園教育実習を通じて、幼稚園教育および教諭について学習し、実践へつなげることができる。</p>								
授業概要	<p>本科目は幼稚園教諭また園長としての長年の実務経験をもつ教員により指導する。教育実習の意義と幼稚園や子どもへの理解を深め、大学で得た理論や技術を教育実習の場で活用するために必要となる事柄について学修する。また、実習に際して必要となる準備やマナー、記録の取り方や、子どもや教職員とのコミュニケーションについて理解し、幼稚園教諭としての資質を身につける。実習後には、経験を記録等から振り返り、気づきや学びを記録に残したり共有したりすることで、次の実習に向けた自己の課題を明らかにする。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と到達目 標(学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
	◎	③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1回	教育実習への心構え・教育実習の概要と意義 入学前教育「すたーとあっぷ」第12回課題の提出 幼稚園・保育所・認定こども園の違い					事前:自分の出身園(幼稚園・保育所)を確認しておく。 教科書 P5~7 第1章第1節「実習とは」を読む(0.5h) 事後:学外実習に関する調査書を記入する(1h)			
2回	教育実習の流れと諸手続き 入学前教育「すたーとあっぷ」第12回課題の振り返り					事前:教科書 P8~9第2節「教育実習(幼稚園)」を読む(0.5h) 事後:学外実習先に関する希望調査書を記入する(1h)			
3回	幼稚園実習の1日					事前:教科書 P10~13「幼稚園実習の1日」を読む(0.5h) 事後:講義時に指示する(1h)			
4回	DVD視聴「幼稚園教諭になるために」					事前:教科書「幼稚園実習の1日」をまとめる(0.5h) 事後:講義時に指示する(1h)			
5回	観察実習の方法と実習記録の意義					事前:プリント第2章-5を読む(0.5h) 事後:講義時に指示する(1h)			
6回	実習記録の作成と文章表現					事前:プリント第3章-5を読む(0.5h) 事後:講義内で配布された実習記録の修正を行う(1h)			
7回	参加実習の方法と記録の関連性					事前:プリント第3章-5.6を読む(0.5h) 事後:講義時に指示する(1h)			
8回	指導案の意義と作成方法					事前:プリント第3章-4を読む(0.5h) 事後:講義時に指示する(1h)			
9回	必要書類の作成(1)個人票・誓約書・園の概要記入 実習先発表・オリエンテーションの受け方・計画書の記入法					事前:教科書 P36~39第2節「オリエンテーションとは」を読む(0.5h) 事後:提出期限内に必要な書類を作成し提出する。オリエンテーションでの質問事項をまとめておく(1h)			
10回	課題の明確化と教育実習の計画(グループディスカッション)					事前:教育実習で学びたい事項を具体的に考えておく(0.5h) 事後:実習計画書を作成する(1h)			
11回	必要書類の作成(2)計画書・オリエンテーション報告書・訪問用案内地 図・お礼状の書き方					事前:各種書類について、分かる範囲で下書きしておく(0.5h) 事後:各種書類の清書(1h)			

12回	直前指導(1)教育実習 I	事前:これまでの実習事前指導を振り返って、書類の準備と実習に関する質問をまとめておく(1h) 事後:直前指導を踏まえて、実習までに不備がないか今一度確認する(0.5h)																												
13回	教育実習事後指導(1)自己評価、抱負と課題から	事前:幼稚園教育実習 I での学びを振り返る(0.5h) 事後:自己評価と他者評価から、教育実習 II の課題を設定する(1h)																												
14回	直前指導(2)教育実習 II	事前:これまでの実習事前指導と教育実習 I を振り返って、書類の準備と実習に関する質問をまとめておく(1h) 事後:直前指導を踏まえて、実習までに不備がないか今一度確認する(0.5h)																												
15回	教育実習事後指導(2)教育実習 I・II の振り返りと総括	事前:設定した課題に対し、幼稚園教育実習 II での学びを振り返る(0.5h) 事後:教育実習全体を通じて、自分が思い描く教諭像を明確にするとともに、目標達成への課題設定を行う(1h)																												
16回	定期試験 なし																													
テキスト	大豆生田啓友、渋谷行成、鈴木美枝子、田澤里喜「これからの時代の保育者養成・実習ガイド」中央法規 2020 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、2018																													
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 内閣府保育福祉六法 編集委員会「保育福祉小六法」2020																													
到達目標(学修成果)及び観点	<p>【到達目標(学修成果)及び観点】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標(学修成果)及び観点</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>技能・表現</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○	○	○	○		到達目標②	○	○	○			到達目標③			○	○					
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○	○	○	○																										
到達目標②	○	○	○																											
到達目標③			○	○																										
評価方法・基準	<p>【評価方法・基準】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標(学修成果)</th> <th>定期試験 (筆記試験・実技試験)</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物 レポート</th> <th>発表・実技</th> <th>取り組み 姿勢</th> <th>その他 ()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td></td> <td></td> <td>30%</td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()	到達目標①			30%		20%		到達目標②			10%		20%		到達目標③			10%		10%	
評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()																								
到達目標①			30%		20%																									
到達目標②			10%		20%																									
到達目標③			10%		10%																									
ルーブリック評価	ルーブリック評価: 取り入れている・ <input type="checkbox"/> 取り入れていない																													
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:火曜 12:40~13:10 学習成果のフィードバック:ノートや課題については、返却時に添削にて指導する。作成教材については、個別指導のうえ返却する。																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	幼稚園:教育実践に関する科目/教育実習 保育士:保育士の資格取得ではないが、学校独自の科目として開設されている教科目																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	総合評価は 4.73 と大変高い評価をいただきました。初めての実習に向けて、必要な準備を着実に進められたことが、学生の安心感と学習効果につながったものと思われます。 提出期限後の書類提出は他の学生や教職員に迷惑がかかるため、期限遵守の意識を高められるよう、丁寧に指導していきたい。																													
受講生へのメッセージ・その他	学外実習の内規に定める事項に該当する者には実習への参加を認めない。 実習5か条の遵守および学外実習内規に準ずるため、謙虚にかつ保育者を目指す者として「先生」と呼ばれる自覚をもって受講することを期待する。この授業は、欠席が3回に達した場合は不可となる(1・2年生を通した通算回数です)のでご注意ください。																													
実務経験の有無	<input type="checkbox"/> あり ・ なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無																												

科目区分	専門教育科目	科目名	保育実習指導 I	担当者	田中浩之・于丹 仲森みどり・河村浩世	開講時期	1年(2年 課程のみ) 通年	授業形態・ 単位数	演習 2単位
卒業要件		ナンバリング	CS60103	資格等取得との関連	保育士:必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	<p>テーマ:「保育実習」を通じて、「保育士」として必要となる専門性を学ぶ</p> <p>到達目標(学修成果)①:実習に必要な心構え等を学び、実習につなげることができる</p> <p>到達目標(学修成果)②:実習に必要な記録の書き方等を学び、実習では記録を通じて子どもや保育について省察することができる</p> <p>到達目標(学修成果)③:保育士として必要な職業倫理等を学び、日頃から自覚をもって行動することができる</p>								
授業概要	<p>〈保育所〉 保育園での実務経験を持つ教員が、保育所での保育実習前には、実習に向けた自己課題を明確にし、保育所の特性や保育士の仕事、保育所実習の目的や内容、実習の流れについて理解するとともに、記録や提出書類の書き方を授業の中で学ぶ。実習後には、実習を経験したことを振り返り、実践の中での気づきや学びを記録に残すことによって、保育所の特性や保育士の仕事、子どもについての理解を深める。</p> <p>〈施設〉 保育園、児童相談所、母子生活支援施設、児童養護施設での実務経験を持つ教員が、施設での実習前には、実習に向けた自己の課題を明確にし、施設の特性や施設保育士の仕事、施設実習の目的や内容、実習の流れについて理解するとともに、記録や提出書類の書き方の実際を学ぶ。また、実習施設における子どもの人権と最善の利益、プライバシーの保護と守秘義務についても学ぶ。実習後には、実習を経験したことを振り返り、実践の中での気づきや学びを記録に残すことによって、施設の特性や施設保育士の仕事、子どもや児童についての理解を深める。</p>								
ディプロマ (DP)と到達目 標(学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
	◎	③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目									
	授業計画					時間外学習			
1回	オリエンテーション 保育実習における記録と実践の視点(入学前教育をふまえて)					事前:前期の教育実習事前事後指導を受けて、幼稚園と保育所とこども園について復習する(1h) 事後:講義時に指示された書類を作成する(0.5h)			
2回	保育実習の概要と意義					事前:『考え、実践する教育・保育実習』第5章1節を読む(0.5h) 事後:講義時に指示する(1h)			
3回	保育実習の流れと諸手続き					事前:『考え、実践する教育・保育実習』第6章を読む(0.5h) 事後:講義時に指示する(1h)			
4回	保育実習生としての心構え(グループワーク)					事前:『考え、実践する教育・保育実習』第5章3節を読む(0.5h) 事後:講義時に指示する(1h)			
5回	実習に向けた書類作成(1)個人票・誓約書他					事前:1年前期に下書きした個人票を確認しておく(0.5h) 事後:必要書類作成(1h)			
6回	保育実習と乳幼児の理解					事前:『考え、実践する教育・保育実習』第5章2節を読む(0.5h) 事後:講義時に指示する(1h)			
7回	保育実習の内容(観察・参加・責任実習)					事前:『考え、実践する教育・保育実習』第7章2節を読む(0.5h) 事後:講義時に指示する(1h)			
8回	実習日誌の書き方(子どもの姿・ねらい・活動・記録)					事前:『考え、実践する教育・保育実習』第8章を読む(0.5h) 事後:講義時に指示する(1h)			

9回	指導計画案の作成意義と書き方	事前:『考え、実践する教育・保育実習』第7章4節を読む(0.5h) 事後:講義時に指示する(1h)
10回	実習に向けた自己課題の設定と実習への抱負(グループワーク)	事前:実習園について保育方針や保育課程を調べておく(0.5h) 事後:講義時に指示する(1h)
11回	実習に向けた書類作成(2)実習計画書	事前:自己課題と実習への抱負をまとめておく(0.5h) 事後:実習計画書の下書きする(1h)
12回	オリエンテーションの意義と受け方	事前:『考え、実践する教育・保育実習』第6章1節を読む(1h) 事後:実習先へオリエンテーションのアポイントをとる(0.5h)
13回	実習指導(保育所)のまとめ	事前:実習指導ノートをまとめ復習しておく(1h) 事後:実習前の準備について確認する(0.5h)
14回	保育所実習事後指導(1)自己評価、抱負と課題から	事前:保育所実習を振り返り感想をまとめる(1h) 事後:配布されたシートを記入する(0.5h)
15回	保育所実習事後指導(2)グループ討議と今後に向けての課題	事前:グループ討議に向けて実習園の保育の特徴や子どもや保育士から学んだことをまとめておく(1h) 事後:保育実習Ⅱに向けて今後の課題をまとめる(0.5h)
16回	施設実習の意義と実習先の選定	事前:『改定版施設実習 パーフェクトガイド』pp.8~pp.15を読む(0.5h) 事後:テキストと配布レジュメを参考にノートにまとめる(1h)
17回	施設実習先の理解(1)乳児院 外部講師(記載がなかったため、R8年から追加すること)	事前:『改定版施設実習 パーフェクトガイド』pp.16~pp.29を読む(0.5h) 事後:テキストと配布レジュメを参考にノートにまとめる(1h)
18回	施設実習先の理解(2)児童養護施設	事前:『改定版施設実習 パーフェクトガイド』pp.38~pp.47を読む(0.5h) 事後:テキストと配布レジュメを参考にノートにまとめる(1h)
19回	施設実習先の理解(3)知的障害児・者施設	事前:『改定版施設実習 パーフェクトガイド』pp.48~pp.58を読む(0.5h) 事後:テキストと配布レジュメを参考にノートにまとめる(1h)
20回	施設実習への心構え	事前:『改定版施設実習 パーフェクトガイド』pp.90~pp.105を読む(0.5h) 事後:テキストと配布レジュメを参考にノートにまとめる(1h)
21回	施設実習に向けての書類作成	事前:下書きした個人票を確認しておく(0.5h) 事後:必要書類作成(1h)
22回	施設実習の内容(1)観察・参加実習	事前:『改定版施設実習 パーフェクトガイド』pp.106~pp.115を読む(0.5h) 事後:テキストと配布レジュメを参考にノートにまとめる(1h)
23回	施設実習の内容(2)責任実習	事前:『改定版施設実習 パーフェクトガイド』を読み返す(0.5h) 事後:テキストと配布レジュメを参考にノートにまとめる(1h)
24回	施設実習における留意事項	事前:『改定版施設実習 パーフェクトガイド』を読み返す(0.5h)

		事後:テキストと配布レジュメを参考にノートにまとめる(1h)																												
25回	施設実習における記録の書き方(1)子どもの理解	事前:1年次実習指導のレジュメを確認する(0.5h) 事後:記録の書き方をもとに書いてみる(1h)																												
26回	施設実習における記録の書き方(2)保育士の動き	事前:1年次実習指導のレジュメを確認する(0.5h) 事後:記録の書き方をもとに書いてみる(1h)																												
27回	施設実習における指導計画案作成について	事前:1年次実習指導のレジュメを確認する(0.5h) 事後:指導案を立案してみる(1h)																												
28回	施設実習事後指導(1)実習報告書の作成	事前:施設実習を振り返り感想をまとめる(0.5h) 事後:配布された報告書を記入する(1h)																												
29回	施設実習事後指導(2)実習評価に基づく振り返り	事前:施設実習を振り返り自己評価を行う(0.5h) 事後:実習評価から自己課題を見つける(1h)																												
30回	施設実習事後指導(3)保育者としての自己課題	事前:実習評価から自己課題をまとめる(0.5h) 事後:今後の課題をまとめる(1h)																												
テキスト	大豆生田啓友・渋谷行成・鈴木美枝子・田澤里喜『これからの時代の保育者養成・実習ガイド』中央法規 2020 守巧・小櫃智子・二宮祐子・佐藤恵『改定版施設実習 パーフェクトガイド』わかば社 2023 改訂版発行 厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館 2018 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館 2018																													
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】																													
到達目標(学修成果)及び観点	<p>【到達目標(学修成果)及び観点】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標(学修成果)及び観点</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>技能・表現</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①		○	○			到達目標②		○	○	○		到達目標③	○	○		○					
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①		○	○																											
到達目標②		○	○	○																										
到達目標③	○	○		○																										
評価方法・基準	<p>【評価方法・基準】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標(学修成果)</th> <th>定期試験(筆記試験・実技試験)</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物・レポート</th> <th>発表・実技</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td></td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ノートや課題等の提出物は、期限内に提出することを前提とし、質・量の両面から判断する 取り組み姿勢は、授業の参加度から評価する なお、学外実習の内規に定める事項に抵触する者には実習への参加を認めない ルーブリック評価: <input type="checkbox"/> 取り入れている <input type="checkbox"/> 取り入れていない</p>		評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験(筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()	到達目標①			20%		20%		到達目標②			10%		10%		到達目標③			20%		20%	
評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験(筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①			20%		20%																									
到達目標②			10%		10%																									
到達目標③			20%		20%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談:各担当教員のオフィスアワーに対応する。 学習成果のフィードバック:ノートや課題については、返却時に添削にて指導する。作成教材については、個別指導のうえ返却する。</p>																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:保育実習/保育実習指導 I																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	<div style="border: 1px solid black; background-color: yellow; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>「授業評価アンケート」結果の改善点を記入してください</p> </div>																													
受講生へのメッセージ・その他	<p>学外実習内規の事項に抵触する者は実習の参加を認めない。履修する学生は保育者を目指す者として実習5か条を遵守し、謙虚にそして誠実に、「先生」と呼ばれる自覚をもって受講することを期待する。</p>																													
実務経験の有無	<input type="checkbox"/> あり ・ なし	<p>双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無</p> <input type="checkbox"/> あり ・ なし																												

科目区分	専門教育 科目	科 目 名	幼稚園教育実習 I	担当者	田中裕子・北畠香世子	開講時期	1年 後期	授業形態・ 単位数	実習 1単位
卒業要件		ナンバリング	CS60104	資格等取得との関連	幼稚園：必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	<p>テーマ：幼稚園教諭として必要とされる基礎的知識・技術について実践的に考える</p> <p>到達目標(学修成果)①：幼稚園や幼稚園教育に関してイメージできる。</p> <p>到達目標(学修成果)②：子どもの動きや遊びの様子など、観察を通じて学び、子どもの心情を考察することができる。</p> <p>到達目標(学修成果)③：幼稚園教諭の役割等について、観察を通じて理解し幼稚園教育実習Ⅱに向けて学びを構築することができる。</p>								
授業概要	<p>本科目は幼稚園教諭また園長としての長年の実務経験をもつ教員により指導する。大学での幼児教育に対する理論や技術を基盤として、1年後期に、学生の居住地周辺の幼稚園において、子どもの活動、遊びの姿、幼稚園教諭の役割を観察、あるいは保育活動に参加し記録を取りながら、「保育の展開と方法」、「保育の環境構成と整備」、「保育者の役割」について学修する。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と到達目 標(学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
	◎	③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
	<p>以下の点について、実習を通じて総合的に学ぶ。なお、必要に応じて、実習園職員による反省会、指導教員による実習指導を実施する。</p> <p>1年次 10月下旬 1週間</p> <p>・オリエンテーション、園の理念・方針の理解</p> <p>・観察実習（1日のクラスの流れ、子どもの活動や生活の流れ、教師の活動の流れ、環境構成等観察を通じて学ぶ）</p> <p>・参加実習（幼児の理解、幼児の生活等、幼稚園教諭の補助的なかわりから学ぶ）</p>					<p>事前：幼稚園教育実習事前事後指導をとおして、教育実習に向けて自己課題を明確にする。</p> <p>また、オリエンテーションにおいて課題が明らかとなった場合には、早急に準備や練習等を行う。</p> <p>事後：実習期間中の事後学習は、日誌への記入をもって行う。</p> <p>実習終了後の事後学習は、新たに明らかとなった課題について今後の実習に向けて自己学習や受講することにより修得する。</p>			
テキスト	大豆生田啓友、渋谷行成、鈴木美枝子、田澤里喜「これからの時代の保育者養成・実習ガイド」中央法規 2020 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、2018								
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 内閣府保育福祉六法 編集委員会「保育福祉小六法」2020								
到達目標(学修 成果)及び観点	【到達目標(学修成果)及び観点】								
	到達目標(学修 成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()			
	到達目標①	○		○	○				
	到達目標②		○	○					
	到達目標③			○	○				
評価方法・基準	【評価方法・基準】								
	評価方法・到達 目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・ レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()		
ルーブリック評価	到達目標①			20%		20%			
	到達目標②			10%		10%			
	到達目標③			20%		20%			
	<p>課題・提出物は、期限内に提出されることを前提とするともに、質・量の両面から判断する。</p> <p>また、実習指導の授業内容が、実習時における各種書類の内容や管理に反映されているかにより評価する。</p> <p>学外実習の内規の事項に接触するものは実習への参加が認められない。</p> <p>ルーブリック評価：取り入れている・取り入れていない</p>								

学習相談・ 学習成果の フィードバック	<p>学習相談:実習期間の前後に別に日程を定める。</p> <p>学習成果のフィードバック:事後面談において、希望者へは総合的評価を伝える。</p>		
法令等に定めら れた授業科目に 含める必要事項	<p>幼稚園:教育実践に関する科目/教育実習</p> <p>保育士:保育士の資格取得ではないが、学校独自の科目として開設されている教科目</p>		
授業評価アンケ ート結果を受け ての改善点	<p>アンケートなし。</p> <p>1週間の実習を、体調不良者を出すことなく全員が無事に終了することができた。初めての实習ということもあり、書類作成から実習事前指導まで丁寧に取り組んだ様子がうかがえた。緊張もあったとのことだが、最後までやり遂げた点は評価できる。今回の経験を自信につなげ、次の実習にも前向きに臨んでほしい。</p>		
受講生へのメッ セージ・その他	<p>学外実習の内規の事項に接触するものは実習への参加が認められない。</p> <p>実習生として謙虚に、保育者として子ども達の手本となるように自覚と責任をもって実習に臨むことを期待する。</p>		
実務経験の有無	<input checked="" type="checkbox"/> あり ・ なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無	<input checked="" type="checkbox"/> あり ・ なし

科目区分	専門教育 科目	科 目 名	地域ボランティア演習Ⅰ	担当者	河村浩世・加藤大門	開講 時期	Ⅰ年 (長期履修課程のみ) 通年	授業形態・ 単位数	演習 Ⅰ単位
卒業要件	長期履修課 程のみ選択 必修	ナンバリング	CS60105	資格等取得との関連	長期履修課程学生:卒業選択必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	<p>テーマ: 地域活動やフィールドワーク等を通して、ボランティアの意義・実践技術を習得する。</p> <p>到達目標(学修成果)①: ボランティアの基本である他人への「思いやり」や「つながり」の意義について、実践を通して理解できる。</p> <p>到達目標(学修成果)②: ボランティア精神に基づく地域との関わり方に触れるなかで、活動について意欲と関心を持つことができる。</p> <p>到達目標(学修成果)③: 地域におけるボランティア活動が子どもや市民の生活にもたらす影響について理解を深めることができる。</p>								
授業概要	<p>本科目は、保育インターン実習Ⅰと本科目のどちらかを選択する形で履修する科目である。社会福祉系の職務に就いたことのある教員が、学生の地域ボランティア活動をコーディネートする。フィールドワークを基本とするため、内容に関してはその日によって変化する。大学が所在する近隣地域でのボランティア活動の実践が主なものとなる。地域の状況を知るとともに、地域社会に生活する様々な人との交流を通じて、学生自身のコミュニケーション能力の醸成と伸長を図る。内容の詳細については、喫緊になって変更する可能性があるため、この場での明記は避ける。</p>								
ディプロマ (DP)と到達目 標(学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
	◎	③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目									
	授業計画					時間外学習			
1回	オリエンテーション 〈授業の概要と学習方法、評価の仕方について〉					事前: 地域ボランティア活動のイメージを持つ(0.5h) 事後: 授業の概要と学習方法、内容等を振り返る(1h)			
2回	ボランティア活動の基本について					事前: ボランティア活動への意識を深める(0.5h) 事後: 具体的な活動へ心構えをもつ(1h)			
3回	ボランティア演習①					事前: 前日までに活動のイメージを持っておく(0.5h) 事後: 活動を振り返り、今後の活動に生かす(1h)			
4回	ボランティア演習②					事前: 前日までに活動のイメージを持っておく(0.5h) 事後: 活動を振り返り、今後の活動に生かす(1h)			
5回	ボランティア演習③					事前: 前日までに活動のイメージを持っておく(0.5h) 事後: 活動を振り返り、今後の活動に生かす(1h)			
6回	ボランティア演習④					事前: 前日までに活動のイメージを持っておく(0.5h) 事後: 活動を振り返り、今後の活動に生かす(1h)			
7回	ボランティア演習⑤					事前: 前日までに活動のイメージを持っておく(0.5h) 事後: 活動を振り返り、今後の活動に生かす(1h)			
8回	活動の中間まとめと報告Ⅰ					事前: 5回の演習について、経験をまとめておく(0.5h) 事後: 報告書を見直し、次回へのイメージを作る(1h)			
9回	ボランティア活動の展望・計画Ⅰ					事前: 8回目までの経験から今後を展望する(0.5h) 事後: 今後の活動に対しての見通しを持っておく(1h)			
10回	ボランティア演習⑥					事前: 前日までに活動のイメージを持っておく(0.5h) 事後: 活動を振り返り、今後の活動に生かす(1h)			
11回	ボランティア演習⑦					事前: 前日までに活動のイメージを持っておく(0.5h) 事後: 活動を振り返り、今後の活動に生かす(1h)			
12回	ボランティア演習⑧					事前: 前日までに活動のイメージを持っておく(0.5h) 事後: 活動を振り返り、今後の活動に生かす(1h)			
13回	ボランティア演習⑨					事前: 前日までに活動のイメージを持っておく(0.5h) 事後: 活動を振り返り、今後の活動に生かす(1h)			
14回	ボランティア演習⑩					事前: 前日までに活動のイメージを持っておく(0.5h) 事後: 活動を振り返り、今後の活動に生かす(1h)			

15回	活動のまとめと報告Ⅱ	事前:10回の演習について、経験をまとめておく(0.5h) 事後:報告書を見直し、次回へのイメージを作る(1h)																												
16回	ボランティア活動の展望と計画Ⅱ	事前:15回目までの経験から今後を展望する(0.5h) 事後:今後の活動に対しての見通しを持っておく(1h)																												
17回	ボランティア演習⑪	事前:前日までに活動のイメージを持っておく(0.5h) 事後:活動を振り返り、今後の活動に生かす(1h)																												
18回	ボランティア演習⑫	事前:前日までに活動のイメージを持っておく(0.5h) 事後:活動を振り返り、今後の活動に生かす(1h)																												
19回	ボランティア演習⑬	事前:前日までに活動のイメージを持っておく(0.5h) 事後:活動を振り返り、今後の活動に生かす(1h)																												
20回	ボランティア演習⑭	事前:前日までに活動のイメージを持っておく(0.5h) 事後:活動を振り返り、今後の活動に生かす(1h)																												
21回	ボランティア演習⑮	事前:前日までに活動のイメージを持っておく(0.5h) 事後:活動を振り返り、今後の活動に生かす(1h)																												
22回	活動の中間まとめと報告Ⅲ	事前:15回の演習について、経験をまとめておく(0.5h) 事後:報告書を見直し、次回へのイメージを作る(1h)																												
23回	ボランティア活動の展望と計画Ⅲ	事前:22回目までの経験から今後を展望する(0.5h) 事後:今後の活動に対しての見通しを持っておく(1h)																												
24回	ボランティア演習⑯	事前:前日までに活動のイメージを持っておく(0.5h) 事後:活動を振り返り、今後の活動に生かす(1h)																												
25回	ボランティア演習⑰	事前:前日までに活動のイメージを持っておく(0.5h) 事後:活動を振り返り、今後の活動に生かす(1h)																												
26回	ボランティア演習⑱	事前:前日までに活動のイメージを持っておく(0.5h) 事後:活動を振り返り、今後の活動に生かす(1h)																												
27回	ボランティア演習⑲	事前:前日までに活動のイメージを持っておく(0.5h) 事後:活動を振り返り、今後の活動に生かす(1h)																												
28回	ボランティア演習⑳	事前:前日までに活動のイメージを持っておく(0.5h) 事後:活動を振り返り、今後の活動に生かす(1h)																												
29回	活動の中間まとめと報告Ⅳ	事前:20回の演習について、経験をまとめておく(0.5h) 事後:報告書を見直し、次回へのイメージを作る(1h)																												
30回	一年間のボランティア演習の総括	事前:一年の演習について、経験をまとめておく(0.5h) 事後:																												
テキスト	特になし																													
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 適宜授業で紹介する。ボランティア演習専用のノートを作成し、ポートフォリオとして活用していく。																													
到達目標(学修成果)及び観点	<p>【到達目標(学修成果)及び観点】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標(学修成果)及び観点</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>技能・表現</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○	○				到達目標②				○		到達目標③		○	○						
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○	○																												
到達目標②				○																										
到達目標③		○	○																											
評価方法・基準	<p>【評価方法・基準】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標(学修成果)</th> <th>期末試験 (筆記試験・実技試験)</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物 レポート</th> <th>発表・実技</th> <th>取り組み 姿勢</th> <th>その他 ()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td>20%</td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>20%</td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>20%</td> <td>10%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()	到達目標①			10%	20%	10%		到達目標②				20%	10%		到達目標③				20%	10%	
評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()																								
到達目標①			10%	20%	10%																									
到達目標②				20%	10%																									
到達目標③				20%	10%																									
ルーブリック評価																														

	ルーブリック評価: 取り入れている・ <input type="checkbox"/> 取り入っていない		
学習相談・ 学習成果の フィードバック	学習相談:毎回の授業の際に提出する、Teams に記入された質問や疑問を通して相談を受ける。また、オフィスアワーを活用して対応する。また、専用のノートによるやりとりも相談ツールとして活用する。 学習成果のフィードバック:提出物等の返却等を通して実施する		
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:保育士の資格取得ではないが、学校独自の科目として開設されている教科目		
授業評価アンケート結果を受けての改善点	新設科目のため、改善点はなし。		
受講生へのメッセージ・その他	自分の特性に合わせ、インターン実習か本科目を選択する。どちらも実践を重視した演習科目であるため、積極的な授業参加と意欲的な態度が必要とされる。		
実務経験の有無	<input type="checkbox"/> あり	・	なし
	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無		<input type="checkbox"/> あり
			・
			なし

科目区分	専門教育 科目	科 目 名	保育インターン実習 I	担当者	徳増全矢 北島香世子・于丹	開講 時期	1年 (長期履修課程のみ) 通年	授業形態・ 単位数	実習 1単位
卒業要件	長期履修課 程のみ選択 必修	ナンバリング	CS60106	資格等取得との関連	長期履修課程学生:卒業選択必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	<p>テーマ:「保育インターン実習」を通じて、「保育士」として必要となる専門性を保育現場から学ぶ</p> <p>到達目標(学修成果)①:インターン実習に必要な心構え等を学び、実践へとつなげることができる</p> <p>到達目標(学修成果)②:インターン実習に必要な実践の振り返り方を学び、自らの行動や保育者・子どもの様子について省察できる</p> <p>到達目標(学修成果)③:保育士として必要な職業的専門性等を学び、自覚を持って実践へと結びつけることができる</p>								
授業概要	<p>保育現場での実務経験を持つ教員が、保育所における実践活動の基本を指導する。保育所の特性や保育士の仕事、インターン実習の目的や内容、実習の流れについて理解するとともに、実際の子どもたちや先生方との関わり方を検討していく。毎回の報告書をもとに、自らの学びと成長を記録しながら、保育者として必要な資質を身につける。前半は実践活動に向けた心構えや態度を身に付け、後半は実際に保育所等で経験を積んでいく。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と到達目 標(学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
	◎	③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
1回	オリエンテーション 保育インターン実習についての基本的な考え方					事前:今までの経験などから、保育所について復習(1h) 事後:保育所に対するイメージを深める(0.5h)			
2回	保育所の機能と専門性					事前:今までの経験などから、保育所について復習(1h) 事後:保育所に対するイメージを深める(0.5h)			
3回	児童福祉法などの法律から見た保育所の役割について					事前:保育所に関する法律等をさらしておく(1h) 事後:こどもの権利について復習をする(0.5h)			
4回	保育所における職員の配置や職務分担について					事前:職員配置や職務分担についてイメージする(1h) 事後:学んだ保育所運営について復習する(0.5h)			
5回	保育所に通う子どもの発達段階について(未満児)					事前:未満児の子どもの発達の発達をさらしておく(1h) 事後:未満児の発達段階を復習する(0.5h)			
6回	保育所に通う子どもの発達段階について(以上児)					事前:以上児の子どもの発達の発達をさらしておく(1h) 事後:以上児の発達段階を復習する(0.5h)			
7回	保育所における保護者の対応や特徴について					事前:保護者の対応や特徴を新聞などで知る(1h) 事後:保護者対応の特徴を復習する(0.5h)			
8回	保育所における衛生管理について					事前:衛生管理について新聞などで知る(1h) 事後:衛生管理の特徴を復習する(0.5h)			
9回	保育所における環境構成について					事前:環境構成について事例などで知る(1h) 事後:環境構成の特徴を復習する(0.5h)			
10回	保育所におけるクラス運営について					事前:クラス運営について経験を振り返る(1h) 事後:クラス運営について学んだことを復習する(0.5h)			
11回	保育所における食育について					事前:保育所での食事や家庭の食事をふりかえる(1h) 事後:食育について学んだことを復習する(0.5h)			
12回	保育者の援助、留意点について(DVD 視聴) インターン先の確定・発表					事前:保育者の様子等を振り返っておく(1h) 事後:保育者の援助や留意点等を振り返る(0.5h)			
13回	インターン先を調べ、その特徴等をレポートとしてまとめる					事前:保育所一般の特徴を振り返っておく(1h) 事後:インターン先の情報を復習しておく(0.5h)			
14回	事前オリエンテーションについて					事前:インターン先レポートを振り返っておく(1h) 事後:事前オリエンテーションについて理解する(0.5h)			
15回	検便検査・健康診断書の配布 オリエン報告書の提出について					事前:健康診断などの必要性について理解する(1h) 事後:提出書類について把握して整理する(0.5h)			

16回	保育インターン実習 01	事前:前日までに実習のイメージを持っておく(0.5h) 事後:実習を振り返り、今後の活動に生かす(1h)																												
17回	保育インターン実習 02	事前:前日までに実習のイメージを持っておく(0.5h) 事後:実習を振り返り、今後の活動に生かす(1h)																												
18回	保育インターン実習 03	事前:前日までに実習のイメージを持っておく(0.5h) 事後:実習を振り返り、今後の活動に生かす(1h)																												
19回	保育インターン実習 04	事前:前日までに実習のイメージを持っておく(0.5h) 事後:実習を振り返り、今後の活動に生かす(1h)																												
20回	保育インターン実習 05	事前:前日までに実習のイメージを持っておく(0.5h) 事後:実習を振り返り、今後の活動に生かす(1h)																												
21回	保育インターン実習 06	事前:前日までに実習のイメージを持っておく(0.5h) 事後:実習を振り返り、今後の活動に生かす(1h)																												
22回	保育インターン実習 07	事前:前日までに実習のイメージを持っておく(0.5h) 事後:実習を振り返り、今後の活動に生かす(1h)																												
23回	保育インターン実習 08	事前:前日までに実習のイメージを持っておく(0.5h) 事後:実習を振り返り、今後の活動に生かす(1h)																												
24回	保育インターン実習 09	事前:前日までに実習のイメージを持っておく(0.5h) 事後:実習を振り返り、今後の活動に生かす(1h)																												
25回	保育インターン実習 10	事前:前日までに実習のイメージを持っておく(0.5h) 事後:実習を振り返り、今後の活動に生かす(1h)																												
26回	保育インターン実習 11	事前:前日までに実習のイメージを持っておく(0.5h) 事後:実習を振り返り、今後の活動に生かす(1h)																												
27回	保育インターン実習 12	事前:前日までに実習のイメージを持っておく(0.5h) 事後:実習を振り返り、今後の活動に生かす(1h)																												
28回	保育インターン実習 13	事前:前日までに実習のイメージを持っておく(0.5h) 事後:実習を振り返り、今後の活動に生かす(1h)																												
29回	保育インターン実習 14	事前:前日までに実習のイメージを持っておく(0.5h) 事後:実習を振り返り、今後の活動に生かす(1h)																												
30回	保育インターン実習 15	事前:前日までに実習のイメージを持っておく(0.5h) 事後:実習を振り返り、今後の活動に生かす(1h)																												
テキスト	特になし																													
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 適宜授業で紹介する。保育インターン実習専用のノートを作成し、ポートフォリオとして活用していく。																													
到達目標(学修成果)及び観点	<p>【到達目標(学修成果)及び観点】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標(学修成果)及び観点</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>技能・表現</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○	○				到達目標②				○		到達目標③		○	○						
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○	○																												
到達目標②				○																										
到達目標③		○	○																											
評価方法・基準	<p>【評価方法・基準】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標(学修成果)</th> <th>期末試験 (筆記試験・実技試験)</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物・レポート</th> <th>発表・実技</th> <th>取り組み姿勢</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td>20%</td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>20%</td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>20%</td> <td>10%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()	到達目標①			10%	20%	10%		到達目標②				20%	10%		到達目標③				20%	10%	
評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()																								
到達目標①			10%	20%	10%																									
到達目標②				20%	10%																									
到達目標③				20%	10%																									
ルーブリック評価	ルーブリック評価: 取り入れている・ <input type="checkbox"/> 取り入っていない																													

学習相談・ 学習成果の フィードバック	学習相談:毎回の授業の際に提出する、Teams に記入された質問や疑問を通して相談を受ける。また、オフィスアワーを活用して対応する 学習成果のフィードバック:提出物等の返却を通して実施する。		
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:保育士の資格取得ではないが、学校独自の科目として開設されている教科目		
授業評価アンケート結果を受けての改善点	新設科目のため、改善点はなし。		
受講生へのメッセージ・その他	自分の特性に合わせ、インターン実習か本科目を選択する。どちらも実践を重視した演習科目であるため、積極的な授業参加と意欲的な態度が必要とされる。		
実務経験の有無	<input checked="" type="checkbox"/> あり ・ なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無	<input checked="" type="checkbox"/> あり ・ なし

科目区分	専門教育科目	科目名	保育実習 I	担当者	田中浩之・于丹 仲森みどり・河村浩世	開講時期	2年 前期	授業形態・ 単位数	実習 4単位
卒業要件		ナンバリング	CS60201	資格等取得との関連	保育士：必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	<p>テーマ:実習を通して、保育士として必要な知識・技術・マインドを学ぶ</p> <p>到達目標(学修成果)①:講義、演習などを通して、基礎的な知識や技術について学んできたことを、保育所や児童福祉施設の実践に携わることによって、体験的に保育に必要な事項を考え、知識や技術の取得向上に結びつけることができる(保育所・施設)</p> <p>到達目標(学修成果)②:乳幼児の心身の発達や発育を理解し、実習先の保育方針や1日の生活の流れを踏まえて、保育士としてかかわることができる(保育所)</p> <p>到達目標(学修成果)③:社会的養護の現状を理解し、施設を利用する子どもたちの特徴を踏まえて、施設保育士としてかかわることができる(施設)</p>								
授業概要	<p>【保育実習 I (保育所)】</p> <p>講義、演習などで学習した理論や技術をもとに、保育所において乳幼児や職員と直接触れ合う体験を通して、保育の基本的な有り様の理解を目標とする。保育実習 I では、主に「乳幼児の理解と関わり」「保育所の特性」「保育の計画と準備」について、観察実習、参加実習、部分実習において学習する。なお、実習における学習効果を高めるために、実習施設の指導担当教員による日々の実習指導に加えて、担当教員が巡回指導を行う。</p> <p>【保育実習 I (施設)】</p> <p>保育所以外の児童福祉施設等における養護や、自立支援の実際について現場での実習を通して体験的に学ぶ。施設の目的・機能を理解し、適切な援助方法を学ぶ。様々な背景やニーズをもつ子どもの実態について理解し、対応について学ぶ。子どもの言葉や行動を観察し、観察内容を適切に考察し、実習記録の書き方を学ぶ。以上の事柄を通して、施設保育士の倫理・職務等についても理解を深め、それに関わる資質・能力・技術を習得し、必要とされる能力を養う。</p>								
ディプロマ・リソ (DP)と到達目 標(学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
	◎	③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目									
	授業計画					時間外学習			
1回	<p>以下の点について実習を通じて総合的に学ぶ。なお、必要に応じて、実習園職員による反省会、指導教員による実習指導を実施する。</p> <p>〈保育所〉</p> <p>1年次2月 保育所における実習 おおむね 10 日間</p> <p>・オリエンテーション、園の理念・方針の理解</p> <p>・観察実習(実習1日目～3日目)</p> <p>→ 1日のクラスの流れ、乳幼児の活動や生活の流れ、保育士の活動の流れ、環境構成等観察を通じて学ぶ</p> <p>・参加実習(実習4日目～8日目)</p> <p>→ 乳幼児の理解、乳幼児の生活等、保育士の補助的なかかわりから学ぶ</p> <p>・責任実習(実習9日目～10日目)</p> <p>→ 観察・参加実習での学びから、子どもの姿に応じた指導計画を立案し、実践する</p> <p>〈施設〉</p> <p>2年次8・9月 保育所以外の児童福祉施設等 おおむね 10 日間</p> <p>・オリエンテーション、施設の理念・方針の理解</p> <p>・観察実習(実習1日目～3日目)</p> <p>→ 一日の流れ、子どもの生活について観察を通して学ぶ</p> <p>・参加実習(実習4日目～7日目)</p> <p>→ 施設を利用する子どもたちの理解、施設保育士の補助的なかかわりから学ぶ</p>					<p>〈保育所〉</p> <p>事前:実習指導を通して、保育所実習に向けて自己課題を明確にする。また、オリエンテーションにおいて課題が明らかとなった場合には、早急に準備を行う。</p> <p>事後:実習期間中の事後学習は日誌に記入をもって行う。</p> <p>実習終了後の事後学習は、新たに明らかとなった課題について保育実習Ⅱに向けて自己学習や受講することにより修得する。</p> <p>〈施設〉</p> <p>事前:実習指導を通して、施設実習に向けて実習目標および自己課題を明確にする。施設から事前に課題が明らかとなった場合、早急に準備を進める。</p> <p>事後:実習期間中の事後学習は日誌に記入をもって行う。</p> <p>実習終了後の事後学習は、実習を振り返り、明確となった課題について自己学習や講義を受講することによって修得する。</p>			

	・指導実習(実習8日目～9日目) → 観察・参加実習での学びから、子どもの姿に応じた指導計画を立案し、実践する																														
テキスト	大豆生田啓友・渋谷行成・鈴木美枝子・田澤里喜 『これからの時代の保育者養成・実習ガイド』中央法規 2020 守巧・小櫃智子・二宮祐子・佐藤恵 『改定版施設実習 パーフェクトガイド』わかば社 2023 改訂版発行 厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館 2018 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 2018																														
参考書・参考資料・参考 URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 保育福祉小六法編集委員会編『保育福祉小六法』みらい 2020																														
到達目標(学修成果)及び観点	【到達目標(学修成果)及び観点】 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">到達目標(学修成果)及び観点</th> <th style="width: 15%;">知識・理解</th> <th style="width: 15%;">思考・判断</th> <th style="width: 15%;">関心・意欲</th> <th style="width: 15%;">技能・表現</th> <th style="width: 20%;">その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○	○	○	○		到達目標②	○	○	○	○		到達目標③	○	○	○	○					
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																										
到達目標①	○	○	○	○																											
到達目標②	○	○	○	○																											
到達目標③	○	○	○	○																											
評価方法・基準	【評価方法・基準】 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">評価方法・到達目標(学修成果)</th> <th style="width: 20%;">定期試験 (筆記試験・実技試験)</th> <th style="width: 15%;">小テスト</th> <th style="width: 15%;">課題・提出物・レポート</th> <th style="width: 15%;">発表・実技</th> <th style="width: 15%;">取り組み姿勢</th> <th style="width: 20%;">その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td></td> <td></td> <td>50%(保・施)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>25%(保育所)</td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>25%(施設)</td> </tr> </tbody> </table> <p>課題・提出物は、期限内に提出されることを前提とするとともに、質、量の両面から判断する。 また、実習指導の授業内容が、実習時における各種書類の内容や管理に反映されているかにより評価する。 学外実習内規の事項に抵触する者は実習への参加が認められない。 ルーブリック評価: 取り入れている・取り入れていない</p>			評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()	到達目標①			50%(保・施)				到達目標②						25%(保育所)	到達目標③						25%(施設)
評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢	その他()																									
到達目標①			50%(保・施)																												
到達目標②						25%(保育所)																									
到達目標③						25%(施設)																									
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談: 実習期間の前後に別に日程を定める。 学習成果のフィードバック: 事後面談において、希望者へは総合的評価を伝える。																														
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士: 保育実習/保育実習 I																														
授業評価アンケート結果を受けての改善点																															
受講生へのメッセージ・その他	実習生として謙虚に、保育者としてこどもたちの手本となるように自覚と責任をもって実習に臨むことを期待する。 学外実習内規の事項に抵触する者は実習への参加を認めない。																														
実務経験の有無	あり ・ なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無		あり ・ なし																											

科目区分	専門教育 科目	科 目 名	幼稚園教育実習Ⅱ	担 当 者	田中裕子・北畠香世子	開講時期	2年 前期	授業形態・ 単位数	実習 3単位
卒業要件		ナンバリング	CS60202	資格等取得との関連	幼稚園：必修				
テーマ・授業の到達目標(学修成果)	<p>テーマ:幼稚園教諭として必要な資質、なる知識・技術の修得をめざす</p> <p>到達目標(学修成果)①:子どもの姿や幼稚園教諭のあり方について理解を深め、実践することができる。</p> <p>到達目標(学修成果)②:指導案の立案・実施について理解し実践することができる。</p> <p>到達目標(学修成果)③:幼稚園教諭としての職業倫理について学び、自覚をもって行動することができる。</p>								
授業概要	<p>本科目は幼稚園教諭また園長としての長年の実務経験をもつ教員により指導する。</p> <p>幼稚園教育実習Ⅰでの学習を基盤として、2年前期に、学生の居住地周辺の幼稚園において、子どもの動きや遊びへの関わり、幼稚園教諭の役割をさらに理解するため、観察実習、参加実習、部分実習、責任実習等の方法で学習する。実習における学習効果を高めるために、実習施設の指導担当教員による日々の実習指導に加えて、担当教員が巡回指導を行う。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と到達目標 (学修成果)との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
	◎	③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画						時間外学習		
	<p>以下の点について、実習を通じて総合的に学ぶ。なお、必要に応じて、実習園職員による反省会、指導教員による実習指導を実施する。</p> <p>2年次 6月 3週間</p> <p>第1週</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション、園の理念・方針の理解 ・観察実習(1日のクラスの流れ、子どもの活動や生活の流れ、教師の活動の流れ、環境構成等) <p>第2週</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加実習(遊びや生活場面における幼児の理解、幼稚園教諭の役割、指導についての理解) <p>第3週</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加実習(遊びや生活場面における幼児の理解、幼稚園教諭の役割、指導についての理解) ・責任実習(部分実習、半日実習、全日実習等、担当教諭に代わり、担当クラスにおける指導計画を立案、作成し、保育を実施する。) 						<p>事前:幼稚園教育実習Ⅰで明らかとなった自己課題について、準備または学習を深めておく。</p> <p>また、オリエンテーションにおいて課題が明らかとなった場合には、早急に準備や練習等を行う。</p> <p>事後:実習期間中の事後学習は日誌に記入をもって行う。</p> <p>実習終了後の事後学習は、教育実習全体を振り返り総合的に省察する。</p>		

テキスト	大豆生田啓友、渋谷行成、鈴木美枝子、田澤里喜「これからの時代の保育者養成・実習ガイド」中央法規 2020 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、2018																																	
参考書・参考資料・ 参考 URL・準備物 など	【購入を必須としないもの】 内閣府保育福祉六法 編集委員会「保育福祉小六法」20																																	
到達目標(学修成 果)及び観点	<p>【到達目標(学修成果)及び観点】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標(学修成果)及び観点</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>技能・表現</th> <th colspan="2">その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td colspan="2"></td> </tr> </tbody> </table>						到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()		到達目標①	○		○	○			到達目標②		○	○				到達目標③			○	○		
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																													
到達目標①	○		○	○																														
到達目標②		○	○																															
到達目標③			○	○																														
評価方法・基準	<p>【評価方法・基準】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達 目標(学修成果)</th> <th>定期試験 (筆記試験・実技試験)</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物・ レポート</th> <th>発表・実技</th> <th>取り組み 姿勢</th> <th>その他 ()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td>20%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td>10%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						評価方法・到達 目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・ レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()	到達目標①			10%	10%	10%		到達目標②			10%	10%	20%		到達目標③			10%	10%	10%	
評価方法・到達 目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・ レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()																												
到達目標①			10%	10%	10%																													
到達目標②			10%	10%	20%																													
到達目標③			10%	10%	10%																													
ルーブリック評価	<p>課題・提出物は、期限内に提出されることを前提とするとともに、質・量の両面から判断する。 また、実習指導の授業内容が、実習時における各種書類の内容や管理に反映されているかにより評価する。 ルーブリック評価: 取り入れている ・ <input type="checkbox"/> 取り入れていない</p>																																	
学習相談・ 学習成果の フィードバック	<p>学習相談: オフィスアワーの時間に対応する。 学習成果のフィードバック: 授業の中で指示する。</p>																																	
法令等に定められ た授業科目に含め る必要事項																																		
授業評価アンケー ト結果を受けての 改善点	<p>総合評価4.83と高い評価を受けました。 学生が自分たちの課題を見つけて主体的に取り組む姿が見られました。 インフルエンザで休講となり、認定こども園への実習ができなかったため、来年は時期を考慮します。</p>																																	
受講生へのメッセ ージ・その他	<p>・受講姿勢は、実践を含む授業への参加態度をもとに評価します。 ・提出物は、分量や授業内容の理解度をもとに評価します。 ・学生が主体的に取り組むようにしてください。</p>																																	
実務経験の有無	<input type="checkbox"/> あり ・ なし		双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無		<input type="checkbox"/> あり ・ なし																													

科目区分	専門教育 科目	科 目 名	保育実習指導Ⅱ	担当者	田中浩之・于丹	開講時期	2年 通年	授業形態・ 単位数	演習 1単位
卒業要件		ナンバリング	CS60203	資格等取得との関連	保育士：必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	<p>テーマ：保育について実践を中心に応用的・総合的に学ぶ。</p> <p>到達目標(学修成果)①：保育の意義と目的、保育士の専門性と職業倫理を理解し、保育について総合的なイメージができる。</p> <p>到達目標(学修成果)②：既習の教科や実習での経験を踏まえ、保育実践力を培い、実習に向けて活かすことができる。</p> <p>到達目標(学修成果)③：実習の事後指導を通して、実習の統括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にできる。</p>								
授業概要	<p>教育者・保育者として実務経験のある教員が、実習に向けて啓蒙を図る授業である。保育実習Ⅱに向け、新たな自己課題を立て、保育実習Ⅰを通して学んだことを理論的に意識化していく。実習前には、保育実習Ⅰを振り返って、乳幼児の生活や遊びの姿、保育士の仕事や乳幼児に対する関わりなど保育実践の実際について整理する。記録や提出書類の書き方や教材研究の実際に加え、指導計画の立案準備をする。実習後には、実習を経験したことを振り返り、実践の中での気づきや学びを記録に残すことによって、保育所の特性や保育士の仕事、子どもについての理解を深める。</p>								
ディプロマ (DP)と到達目 標(学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
	◎	③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目									
授業計画					時間外学習				
1回	オリエンテーション 実習時期及び実習先の確認				事前：実習を希望する園を確認する。(0.5h) 事後：学外実習に関する調査書を記入する。(1h)				
2回	実践演習①(乳児を対象とした絵本の読み聞かせ) (プレゼンテーション演習)				事前：乳児を対象とした絵本を探しておく。(1h) 事後：授業内容を復習する。(0.5h)				
3回	実践演習②(幼児を対象とした絵本の読み聞かせ) (プレゼンテーション演習)				事前：幼児を対象とした絵本を探しておく。(1h) 事後：授業内容を復習する。(0.5h)				
4回	実践演習③(言葉がけの研究)(グループワーク)				事前：実習を振り返り、言葉がけの課題を明確にしておく。 (1h) 事後：授業内容を復習する。(0.5h)				
5回	実習書類作成				事前：実習に必要な書類を確認しておく。(0.5h) 事後：実習に必要な書類を作成する。(1h)				
6回	実習計画書の作成				事前：これまでの実習から、自身の課題を明確にしておく。 (0.5h) 事後：実習計画書を作成する。(1h)				
7回	実習日誌の書き方 ― 保育実習Ⅰをふまえて―				事前：これまでの実習の課題を明確にしておく。(0.5h) 事後：授業内容を復習する。(1h)				
8回	事例の検証① 0・1・2 歳児とのかかわり				事前：0・1・2 歳児の発達について保育所保育指針を読み込む。(0.5h) 事後：学習内容を振り返り、まとめる。(1h)				
9回	事例の検証② 3 歳児とのかかわり				事前：3歳児の発達について保育所保育指針を読み込む。(0.5h) 事後：学習内容を振り返り、まとめる。(1h)				
10回	事例の検証③ 4 歳児とのかかわり				事前：4歳児の発達について保育所保育指針を読み込む。(0.5h) 事後：学習内容を振り返り、まとめる。(1h)				
11回	事例の検証④ 5 歳児とのかかわり				事前：5歳児の発達について保育所保育指針を読み込む。(0.5h) 事後：学習内容を振り返り、まとめる。(1h)				

12回	課題の確認と指導計画案の作成	事前:指導計画案の参考となる文献を用意する。(1h) 事後:指導計画案を作成する。(1h)																												
13回	実習直前指導	事前:実習の日々の目標を明確にしておく。(0.5h) 事後:チェックリストを用いて実習の確認を行う。(1h)																												
14回	保育実習Ⅱ事後指導① 自己評価、抱負と課題から	事前:保育実習Ⅱでの学びを振り返る。(0.5h) 事後:保育実践における自身の課題を明確にする。(1h)																												
15回	保育実習Ⅱ事後指導② 全体のふり返り (ディスカッション)	事前:これまでの保育実習を振り返り、課題の設定と自己評価について検討しておく。(0.5h) 事後:今後の自身の目標を設定する。(1h)																												
16回																														
テキスト	厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018年 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館、2018年																													
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 必要に応じて授業内で資料を適宜配布する。																													
到達目標(学修成果)及び観点	<p>【到達目標(学修成果)及び観点】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標(学修成果)及び観点</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>技能・表現</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○	○	○	○		到達目標②		○	○	○		到達目標③		○	○	○					
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○	○	○	○																										
到達目標②		○	○	○																										
到達目標③		○	○	○																										
到達目標(学修成果)及び観点	<p>【評価方法・基準】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標(学修成果)</th> <th>期末試験 (筆記試験・実技試験)</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物 レポート</th> <th>発表・実技</th> <th>取り組み 姿勢</th> <th>その他 ()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td></td> <td></td> <td>30%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td></td> <td>30%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ノートや課題等の提出物は、期限内に提出することを前提とし、質・量の両面から判断する。 取り組み姿勢は、授業の参加度から評価する。 なお、学外実習の内規に定める事項に抵触する者には実習への参加を認めない。</p> <p>ルーブリック評価: 取り入れている・ <input type="checkbox"/> 取り入っていない</p>		評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()	到達目標①			30%		10%		到達目標②			30%		10%		到達目標③			10%		10%	
評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()																								
到達目標①			30%		10%																									
到達目標②			30%		10%																									
到達目標③			10%		10%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:担当教員のオフィスアワーを確認すること。 学習成果のフィードバック:ノートや課題については、返却時に添削にて指導する																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:保育実習/保育実習指導Ⅱ又は保育実習指導Ⅲ																													
受講生へのメッセージ・その他	学外実習内規に抵触する者は実習への参加を認めない。履修する学生は保育者を目指す者として実習5か条を遵守し、謙虚にそして誠実に、「保育者」と呼ばれる自覚をもって受講することを期待する。																													
実務経験の有無	<input type="checkbox"/> あり ・ なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無																												
		<input type="checkbox"/> あり ・ なし																												

科目区分	専門教育 科目	科目 名	保育実習Ⅱ	担当者	田中浩之・于丹	開講時期	2年 前期	授業形態・ 単位数	実習 2単位
卒業要件		ナンバリング	CS60204	資格等取得との関連	保育士：必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	<p>テーマ：保育士として必要な知識・技術・マインドについて実習を通して学ぶ。</p> <p>到達目標(学修成果)①：保育所の役割や機能、保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践をとおして理解を深め、イメージできる。</p> <p>到達目標(学修成果)②：保育及び保護者支援について既習の教科や実習をふまえ実践的に学ぶことで、子どもの観察やかかわりの視点を明確にできる。</p> <p>到達目標(学修成果)③：保育士としての自己課題を明確化できる。</p>								
授業概要	<p>保育実習Ⅰをもとに、その内容を深めながら、「保育の展開と方法」「保育の環境構成と整備」「保育士の職務と役割」について、観察実習、参加実習、部分実習、責任実習等の方法で学習する。なお、実習における学習効果を高めるために、実習施設の指導担当教員による日々の実習指導に加えて、担当教員が巡回指導を行う。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と到達目標 (学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
	◎	③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画					時間外学習			
	<p>以下の点について、実習を通じて総合的に学ぶ。なお、必要に応じて実習園職員による反省会、指導教員による実習指導を実施する。</p> <p>2年次 10月 2週間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション、園の理念・方針の理解 ・観察実習(1日のクラスの流れ、子どもの活動や生活の流れ、保育士の活動の流れ、環境構成等、観察を通じて学ぶ) ・参加実習(乳幼児の理解、乳幼児の生活等、保育士の補助的なかわりから学ぶ) ・責任実習(可能であれば責任実習もしくは部分実習を行う) 					<p>事前：これまでの実習と保育実習指導Ⅱをとおして、保育実習Ⅱに向けて自己課題を明確にしておく。実習に備え、保育教材の準備や練習を行う。</p> <p>事後：実習期間中の事後学習は、日誌の記入をもって行う。実習終了後の事後学習については、これまでの課題や今回の実習をふまえ、自己学習をすることにより修得する。</p>			
テキスト	<p>厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館、2018年</p> <p>内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館、2018年</p>								
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】								
到達目標(学修 成果)及び観点	【到達目標(学修成果)及び観点】								
	到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()			
	到達目標①	○	○	○	○				
	到達目標②	○	○	○	○				
	到達目標③	○	○	○	○				
評価方法・基準 ルーブリック評価	【評価方法・基準】								
	評価方法・到達目標(学修成果)	期末試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()		
	到達目標①			10%		10%	10%		
	到達目標②			10%			30%		
	到達目標③			10%		10%	10%		
	課題・提出物は、期限内に提出されることを前提とするとともに、質、量の両面から判断する。								

	<p>また、実習指導の授業内容が、実習時における各種書類の内容や管理に反映されているかにより評価する。 学外実習内規の事項に抵触する者は実習への参加が認められない。</p> <p>ルーブリック評価： 取り入れている ・ <input type="checkbox"/> 取り入っていない</p>		
学習相談・ 学習成果の フィードバック	<p>学習相談：実習期間の前後に別に日程を定める。 学修成果のフィードバック：事後面談において、希望者へは総合的評価を伝える。</p>		
法令等に定めら れた授業科目に 含める必要事項	<p>保育士：保育実習/保育実習Ⅱ又は保育実習Ⅲ</p>		
受講生へのメッ セージ・その他	<p>保育現場から貴重な時間を提供していただいているという視点をもって、謙虚に取り組むこと。また、保育者として子どもたちの手本となるよう自覚と責任をもって実習に臨むことを期待する。学外実習内規の事項に抵触する者は実習への参加を認めない。</p>		
実務経験の有無	<input checked="" type="checkbox"/> あり ・ なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無	<input checked="" type="checkbox"/> あり ・ なし

科目区分	専門教育科目	科目名	保育実習指導Ⅲ	担当者	仲森みどり・加藤大門	開講時期	2年 前期	授業形態・ 単位数	演習 1単位
卒業要件		ナンバリング	CS60205	資格等取得との関連	保育士:選択必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	<p>テーマ：児童福祉施設（児童館、放課後児童館クラブ含）における保育について、総合的に学ぶ。</p> <p>到達目標(学修成果)①：児童福祉施設（児童館、放課後児童館クラブ含）および児童厚生員の機能と役割を説明できるようになる。</p> <p>到達目標(学修成果)②：乳幼児や児童、その保護者への関わり方を修得できるようになる。</p> <p>到達目標(学修成果)③：対象者にあわせた指導案を立案することができるようになる。</p>								
授業概要	<p>保育実習Ⅲの新たな自己課題に向けて、援助計画を立てて養護の実際を実践する際に必要な児童厚生員としての資質・能力・技術が習得できるように、保育実習Ⅰを通して学んだことを理論的に意識化していく。子どもの家族とのコミュニケーションや地域への理解・連携の方法を学ぶことを通して、子育て支援、保護者に対する支援への理解を基に保育実習Ⅰを通して学んだことをさらに理論化していく。実習後には、実習を経験したことを振り返り、実践の中での気付きや学びを記録に残すことによって、児童厚生員の特性や業務についての理解を深める。適宜、グループワークやプレゼンテーション授業を用いて学習の進捗を深める。</p>								
ディプロマ (DP)と到達目 標(学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
	◎	③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目									
		授業計画				時間外学習			
1回		オリエンテーション				事前：事前に参考書を熟読する。(0.5h) 事後：参考書と配布レジメを参考にノートをまとめる。(0.5h)			
2回		児童館・児童厚生員の役割				事前：事前に参考書を熟読する。(0.5h) 事後：参考書と配布レジメを参考にノートをまとめる。(0.5h)			
3回		実習の心構えと目的				事前：事前に参考書を熟読する。(0.5h) 事後：参考書と配布レジメを参考にノートをまとめる。(0.5h)			
4回		実習計画書および実習課題				事前：実習計画を考える(0.5h) 事後：実習計画書を読み返す(0.5h)			
5回		学外活動 ※フィールドワーク型授業				事前：活動先の概要を調べる(0.5h) 事後：活動の振り返りをまとめる(0.5h)			
6回		外部講師 大型児童館の機能と役割、実践活動				事前：事前に参考書を熟読する。(0.5h) 事後：講演の内容をノートにまとめる(0.5h)			
7回		夏期における大型児童館実習直前指導 実習に向けての準備				事前：実習において事前の準備を行う(0.5h) 事後：実習において準備する(0.5h)			
8回		夏期における大型児童館実習の振り返り ※プレゼンテーション、グループワーク授業				事前：大型児童館の実習を振り返る(0.5h) 事後：振り返りをもとにノートにまとめる(0.5h)			
9回		外部講師 地域児童館の機能と役割、実践活動				事前：事前に参考書を熟読する。(0.5h) 事後：講演の内容をノートにまとめる(0.5h)			
10回		地域児童館実習の直前指導 実習計画および課題の確認				事前：実習において事前の準備を行う(0.5h) 事後：実習計画書を読み返す(0.5h)			
11回		地域の児童館実習の振り返り ※プレゼンテーション、グループワーク授業				事前：児童館の実習を振り返る(0.5h) 事後：振り返りをもとにノートにまとめる(0.5h)			

12回	外部講師 児童厚生員からみた地域子育て支援	事前：事前に参考書を熟読する。(0.5h) 事後：講演の内容をノートにまとめる(0.5h)																												
13回	冬期における大型児童館直前指導 実習計画および課題の確認	事前：実習にむけて事前の準備を行う(0.5h) 事後：実習にむけて準備する(0.5h)																												
14回	冬期における地域の児童館実習の直前指導 実習計画および課題の確認	事前：実習にむけて事前の準備を行う(0.5h) 事後：実習計画書を読み返す(0.5h)																												
15回	冬期における大型児童館および地域の児童館実習の振り返り ※プレゼンテーション、グループワーク授業	事前：大型児童館の実習を振り返る(0.5h) 事後：振り返りをもとにノートにまとめる(0.5h)																												
16回																														
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省『幼稚園教育要領』、厚生労働省『保育所保育指針』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型こども園教育・保育要領』フレーベル館、2018 ・守巧・小櫃智子・二宮祐子・佐藤恵『改定版施設実習 パーフェクトガイド』（保育実習指導Ⅰ（施設実習で使用）にて購入の指示あり） ・一般財団法人 児童健全育成推進財団『児童館』2025 初版 ・大豆生田啓友・渋谷行成・鈴木美枝子・田澤里喜 編著『学生・養成校・実習園がともに学ぶ これからの時代の保育者養成・実習ガイド』中央法規 2023年 初版第4刷発行（保育実習指導Ⅰにて購入の指示あり） 																													
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 花直樹編著『施設実習』ミネルヴァ書房、2019 『安全指導・安全管理』児童健全育成推進財団編集・発行、2017																													
到達目標(学修成果)及び観点	【到達目標(学修成果)及び観点】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標(学修成果)及び観点</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>技能・表現</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○					到達目標②			○			到達目標③	○	○							
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○																													
到達目標②			○																											
到達目標③	○	○																												
評価方法・基準	【評価方法・基準】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標(学修成果)</th> <th>定期試験 (筆記試験・実技試験)</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物 レポート</th> <th>発表・実技</th> <th>取り組み 姿勢</th> <th>その他 ()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td></td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ルーブリック評価： 取り入れている ・ 取り入れていない		評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()	到達目標①			20%		10%		到達目標②			20%		20%		到達目標③			10%		20%	
評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()																								
到達目標①			20%		10%																									
到達目標②			20%		20%																									
到達目標③			10%		20%																									
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談：オフィスアワーの時間に対応する。 学習成果のフィードバック：授業の中で指示する。																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士：保育実習/保育実習指導Ⅱ又は保育実習指導Ⅲ																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	授業評価アンケート実施が無かったため、評価なし。																													
受講生へのメッセージ・その他	実習 5 か条の遵守および学外実習内規に準ずるため、謙虚にかつ児童厚生員を目指す者として子どもの手本となる自覚をもって受講することを期待します。																													
実務経験の有無	あり ・ なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無																												

科目区分	専門教育科目	科目名	保育実習Ⅲ	担当者	仲森みどり・加藤大門	開講時期	2年 前期	授業形態・ 単位数	実習 2単位
卒業要件		ナンバリング	CS60206	資格等取得との関連	保育士:選択必修・児童厚生員2級:必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	<p>テーマ:実習を通して、児童厚生員として必要な知識・技術・マインドを学ぶ。</p> <p>到達目標(学修成果)①:児童福祉施設(児童館、放課後児童クラブ等)の役割や機能について実践を通して理解し説明できるようになる。</p> <p>到達目標(学修成果)②:地域の子育て支援の役割等について理解し説明できるようになる。</p> <p>到達目標(学修成果)③:児童厚生員の業務内容や、職業倫理について具体的な実践に結びつけることができるようになる。</p>								
授業概要	<p>児童福祉施設(児童館、放課後児童クラブ等)の養護全般に参加し、様々な背景やニーズをもつ子どもの実態について理解し、対応について学ぶ。また、施設保育士の倫理・職務等について理解する。さらに、子どもの家族とのコミュニケーションの方法を具体的に習得し、地域社会に対する理解を深め、連携の方法について学ぶ。以上の事柄をとおして、児童厚生員として必要な資質・能力・技術を習得させ、家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズを理解させるとともに、地域の子育て支援に必要なとされる能力を養うことを目的とする。</p>								
ディプロマ・リソ (DP)と到達目 標(学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
	◎	③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目									
	授業計画					時間外学習			
1回	<p>以下の点について、実習を通じて総合的に学ぶ。なお、必要に応じて、実習先職員による反省会、指導教員による実習指導を実施する。また、実習前後にてグループワークやプレゼンテーションを用いて実習振り返り・まとめを行う。</p> <p>〈大型児童館〉 7月・11月におおむね2日間、三重県立みえこどもの城にて実習を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション、施設の理念・方針の理解 <p>〈地域児童館〉 8月・12月におおむね8日間、三重県内における児童館等にて実習を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション、施設の理念・方針の理解 ・観察実習 (一日の流れ、利用児童の活動、児童厚生員の業務を学ぶ) ・参加実習 (児童厚生員の補助的なかわりから利用児童および保護者対応を学ぶ) ・責任実習 (観察・参加実習での学びから、子どもの姿に応じた指導計画を立案し、実践する) 					<p>事前:実習指導を通して、児童館実習に向けての自己課題を明確にする。また、オリエンテーションにおいて課題が明らかになった場合には、早急に準備を進める。</p> <p>事後:実習期間中の事後学習は、日誌に記入をもって行う。実習終了後の事後学習は、新たに明らかとなった課題について、自己学習や関連講義を受講するなどによって修得する。</p> <p>事前・事後学習はそれぞれ適宜2時間以上実施する。</p>			
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・守巧・小櫃智子・二宮祐子・佐藤恵 改定版施設実習 パーフェクトガイド(保育実習指導Ⅰ「施設実習で使用」)にて購入の指示あり) ・一般財団法人 児童健全育成推進財団『児童館』2025初版 ・大豆生田啓友・渋谷行成・鈴木美枝子・田澤里喜 編著『学生・養成校・実習園がともに学ぶ これからの時代の保育者養成・実習ガイド』中央法規 2023年 初版第4刷発行(保育実習指導Ⅰにて購入の指示あり) 								
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	<p>【購入を必須としないもの】</p> <p>花直樹編著『施設実習』ミネルヴァ書房、2019</p> <p>文部科学省『幼稚園教育要領』、厚生労働省『保育所保育指針』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型こども園教育・保育要領』フレーベル館、2018</p>								

到達目標(学修成果)及び観点	【到達目標(学修成果)及び観点】					
	到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()
	到達目標①	○				
	到達目標②	○				
評価方法・基準	【評価方法・基準】					
	評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物・レポート	発表・実技	取り組み姿勢 その他(実習先からの評価)
	到達目標①			40%		20%
	到達目標②					20%
到達目標③					20%	
ループリック評価: <input type="checkbox"/> 取り入れている <input checked="" type="checkbox"/> 取り入っていない						
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:実習期間の前後に別に日程を定める 学習成果のフィードバック:事後面談において行う					
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:保育実習/保育実習Ⅱ又は保育実習Ⅲ					
授業評価アンケート結果を受けての改善点						
受講生へのメッセージ・その他	実習生として謙虚に、児童厚生員として子どもたちの手本となり得るよう、自覚と責任をもって実習に臨むことを期待します。					
実務経験の有無	あり <input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/>		双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無		あり <input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/>	

科目区分	専門教育 科目	科 目 名	子育て支援演習	担当者	田中裕子・北島香世子 于丹	開講時期	2年 後期	授業形態・ 単位数	演習 1単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS60207	資格等取得との関連	保育士：必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	<p>テーマ：子育て支援の必要性と役割について理解する</p> <p>到達目標(学修成果)①:地域における子育ての実情を理解して、子育て支援の必要性や、その方法及び内容について説明ができる</p> <p>到達目標(学修成果)②:通常の保育と子育て支援の違いについて理解し、子育て支援活動にふさわしい環境構成について理解し、具体的な指導計画を立案することができる。</p> <p>到達目標(学修成果)③:子育て支援ルームでの実践を通して、地域の乳幼児と触れ合って遊ぶことができる。</p>								
授業概要	<p>子育て広場指導員、幼稚園園長の実務経験をもつ教員が、実際の保育現場で行われている子育て支援の実践事例を教材として使用し、子育て支援に求められている社会的役割やそこに従事している保育者の役割について理解する。この授業では、実際に本学子育て支援ルームの子どもたちや保護者と関わったり、指導計画立案、実践、振り返りをし、子育て支援員としての基本的技術のあり方や保育者が行う子育て支援について学んでいく。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と到達目標 (学修成果) との対応	◎	① 保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	◎	② 日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
	◎	③ 様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画				時間外学習				
1回	オリエンテーション 子育てをめぐる現代的課題				事前:「子育て支援」について調べておく(0.5h) 事後:振り返りシートを作成する(0.5h)				
2回	保育所における子育て支援の意義 グループ決め				事前:「保育所保育指針解説 第4章 子育て支援」を読 んでくる(0.5h) 事後:振り返りシートを作成する(0.5h)				
3回	保育と一体になった子育て支援の独自性とその構造				事前:事例を読んてくる(0.5h) 事後:振り返りシートを作成する(0.5h)				
4回	子育て支援の基本① グループワークをする				事前:事例を読んてくる(0.5h) 事後:振り返りシートを作成する(0.5h)				
5回	子育て支援の基本② グループワークをする ★11月担当2グループはリハーサル				事前:事例を読んてくる(0.5h) 事後:振り返りシートを作成する(0.5h)				
6回	子育て支援ルームにおける実習①11月1回目				事前:保育の場における環境の意味について調べて おく(0.5h) 事後:振り返りシートを作成する(0.5h)				
7回	他のグループは、準備				事前:実践の練習をグループでしておく(0.5h) 事後:振り返りシートを作成する(0.5h)				
8回	子育て支援ルームにおける実習②11月2回目				事前:支援者の役割りとは何か、考えておく(0.5h) 事後:振り返りシートを作成する(0.5h)				
9回	他のグループは、準備				事前:子育て支援員に質問したいことをまとめておく(0. 5h) 事後:振り返りシートを作成する(0.5h)				
10回	子育て支援ルームにおける実習③ 12月、1月リハーサル				事前:保育の場における環境の意味について調べて おく(0.5h) 事後:振り返りシートを作成する(0.5h)				
11回	子育て支援ルームにおける実習③12月 他のグループは、準備				事前:実践の練習をグループでしておく(0.5h) 事後:振り返りシートを作成する(0.5h)				

12回	子育て支援ルームにおける実習③12月	事前:連絡帳を作成してくる(0.5h) 事後:振り返りシートを作成する(0.5h)																												
13回		事前:保育の場における環境の意味について調べておく(0.5h) 事後:振り返りシートを作成する(0.5h)																												
14回		他のグループは、振り返り 事前:実践の練習をグループでしておく(0.5h) 事後:振り返りシートを作成する(0.5h)																												
15回	まとめ 子育て支援における支援者の役割 実践レポート作成:交流、まとめ	事前:15回の授業を振り返り、保育者に求められる子育て支援の在り方についてまとめておく(0.5h) 事後:振り返りシートを作成する(0.5h)																												
16回	定期試験																													
テキスト	必要に応じて、教員が準備する																													
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	【購入を必須としないもの】 厚生労働省「保育所保育指針解説(2018)」フレーベル館 文部科学省「幼稚園教育要領解説(2018)」フレーベル館 内閣府、文部科学省、厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(2018)」フレーベル館																													
到達目標(学修成果)及び観点	【到達目標(学修成果)及び観点】																													
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標(学修成果)及び観点</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>技能・表現</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○					到達目標②	○					到達目標③		○	○	○					
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																									
到達目標①	○																													
到達目標②	○																													
到達目標③		○	○	○																										
評価方法・基準	【評価方法・基準】																													
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標(学修成果)</th> <th>定期試験 (筆記試験・実技試験)</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物 レポート</th> <th>発表・実技</th> <th>取り組み 姿勢</th> <th>その他 ()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>25%</td> <td></td> <td>10%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td>25%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td>10%</td> <td>20%</td> <td>10%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()	到達目標①	25%		10%				到達目標②	25%						到達目標③			10%	20%	10%	
評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()																								
到達目標①	25%		10%																											
到達目標②	25%																													
到達目標③			10%	20%	10%																									
ルーブリック評価	ルーブリック評価: 取り入れている・ <input type="checkbox"/> 取り入れていない																													
学習相談・学習成果のフィードバック	学習相談:「振り返りシート」またはオフィスアワーにて対応する 学習成果のフィードバック:課題・提出物の返却を通して実施する																													
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士:保育の内容・方法に関する科目/子育て支援																													
授業評価アンケート結果を受けての改善点	「ユマっころームでは、実践的な子ども・保護者との関わりを通して多くの学びが得られました。特に、実習では得にくい保護者対応の経験や、グループで協力しながら活動をつくり上げたことが大きな成長につながりました」「準備や話し合いでは大変さもありましたが、仲間と試行錯誤して本番を成功させたことで達成感があり、楽しい思い出にもなりました。先生方の丁寧なアドバイスにも支えられ、課題点や改善点に気づく良い機会となりました」「今回の経験は、今後の保育に必ず活かせると感じています」等前向きな記述がたくさん寄せられました。実際の指導では時間外に対応した場面もあり、限られた時間をどのように活用するかが今後の改善点です。																													
受講生へのメッセージ・その他	・本科目は卒業必修です。 ・身近な子育て支援について知る努力をすること。 ・子育て支援ルームでの実践が多いので、実習と同じ心構え、服装で臨むようにして下さい。																													
実務経験の有無	<input type="checkbox"/> あり ・ なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無																												
		<input type="checkbox"/> あり ・ なし																												

科目区分	専門教育 科目	科 目 名	専門ゼミナールⅡ (乳幼児プログラム)	担当者	田中裕子・北畠香世子	開講時期	2 後期	授業形態・ 単位数	演習 1 単位
卒業要件	必修	ナンバリング	CS30202	資格等取得との関連	保育士：必修				
テーマ・授業の 到達目標(学修 成果)	<p>テーマ：保育専門職(幼稚園教諭・保育士等)に必要とされる専門性についてさらに理解を深める</p> <p>到達目標(学修成果)①:専門職として必要とされるコミュニケーション能力、特に「書く力」についての理解を深める。</p> <p>到達目標(学修成果)②:専門職として必要とされる「研究力」について、実践発表・ディスカッション等を通じて実践的にできる。</p> <p>到達目標(学修成果)③:修得した専門的知識を包括的に研究につなげることができる。</p>								
授業概要	<p>専門ゼミナールⅠでの実践を継承しつつ、本ゼミナールではゼミ内でのディスカッション、保育現場でのさらなる実践、実践や学習成果に対する発表を通じて、保育専門職としてのさらなる向上を図ることをねらいとする。本プログラムでは保育指導法、乳幼児の理解の科目が専門ゼミナール必修科目となっている。これらの科目の単位が認められてこの科目の単位が認定される。</p>								
ディプロマポリシー (DP)と到達目標 (学修成果) との対応	①	保育や教育に携わる者にふさわしい基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技術を身につけている。							
	②	日々の実践の中で保育や教育に関する問題を見だし、課題に対して最善の解決方法を思考する力や判断する力、他者に伝える力としてのコミュニケーション能力を身につけている。							
	③	様々な学びの体験を通して、子どもや家庭、地域社会において多様なあり方を尊重しながら協働する力、地域社会に貢献する強い意志を身につけている。							
	◎=DP 達成のために特に重要な項目 ○=DP 達成のために重要な項目 △=DP 達成のために望ましい項目								
	授業計画				時間外学習				
1 回	オリエンテーション、面談② 成果レポートの作成準備①				事前:専門ゼミナールⅠの内容を復習する(0.5h) 事後:研究テーマについて調査を進める(1h)				
2 回	実践1 子育て支援ルーム指導計画案作成				事前:指導案を作成する(0.5h) 事後:をまとめる(1h)				
3 回	教材研究1 (カプラ)				事前:カプラについて調べてくる(0.5h) 事後:実践後レポートをまとめる(1h)				
4 回	実践2 学祭教材準備・実習後面談				事前:実践内容を検討する(0.5h) 事後:実践の練習をしておく(1h)				
5 回	実践2 学祭教材準備・実習後面談				事前:指導計画案を作成する(0.5h) 事後:実践の練習をしておく(1h)				
6 回	実践2 学祭(保育実習室で実践する)				事前:保育実習室の環境構成をする(0.5h) 事後:実践後レポートをまとめる(1h)				
7 回	実践3 学外演習準備(指導案作成・リハーサル)				事前:指導計画案を作成する(0.5h) 事後:実践の練習をしておく(1h)				
8 回	実践3 学外演習(たのしい中央こども園)				事前:実践の練習をする(0.5h) 事後:振り返りシートを作成する(1h)				
9 回	実践3 学外演習振り返り				事前:学外演習のビデオを観て共有する(0.5h) 事後:グループでの学びをまとめる(1h)				
10 回	教材研究(スライム・その他)				事前:スライムについて調べる(0.5h) 事後:実践後レポートをまとめる(1h)				
11 回	教材研究(泥団子)				事前:泥団子について調べる(0.5h) 事後:実践後レポートをまとめる(1h)				
12 回	卒業研究				事前:成果発表の準備をする(0.5h) 事後:指導をもとに成果発表の振り返りをする(1h)				
13 回	卒業研究				事前:成果発表の準備をする(0.5h) 事後:指導をもとに成果発表の振り返りをする(1h)				
14 回	卒業研究最終提出				事前:成果発表の振り返りをする(0.5h) 事後:指導をもとに成果発表の振り返りをする(1h)				

15回	まとめ	事前:成果発表の振り返りをする(0.5h) 事後:指導をもとに成果発表の振り返りをする(1h)																															
16回	定期試験																																
テキスト	なし																																
参考書・参考資料・参考URL・準備物など	<p>【購入を必須としないもの】</p> <p>厚生労働省編『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018</p> <p>文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、2018</p> <p>内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館、2018</p> <p>必要に応じて担当教員から指示、資料等を配布する</p>																																
到達目標(学修成果)及び観点	<p>【到達目標(学修成果)及び観点】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標(学修成果)及び観点</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>技能・表現</th> <th>その他()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()	到達目標①	○					到達目標②		○		○		到達目標③		○	○						
到達目標(学修成果)及び観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現	その他()																												
到達目標①	○																																
到達目標②		○		○																													
到達目標③		○	○																														
評価方法・基準	<p>【評価方法・基準】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法・到達目標(学修成果)</th> <th>定期試験 (筆記試験・実技試験)</th> <th>小テスト</th> <th>課題・提出物 レポート</th> <th>発表・実技</th> <th>取り組み 姿勢</th> <th>その他 ()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>到達目標①</td> <td></td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標②</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>20%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達目標③</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>20%</td> <td>20%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ルーブリック評価: 取り入れている・<input type="checkbox"/>取り入っていない</p>					評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()	到達目標①			20%		20%		到達目標②				20%			到達目標③				20%	20%	
評価方法・到達目標(学修成果)	定期試験 (筆記試験・実技試験)	小テスト	課題・提出物 レポート	発表・実技	取り組み 姿勢	その他 ()																											
到達目標①			20%		20%																												
到達目標②				20%																													
到達目標③				20%	20%																												
学習相談・学習成果のフィードバック	<p>学習相談: オフィスアワーの時間に対応する。</p> <p>学習成果のフィードバック: 授業の中で指示する。</p>																																
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	保育士: 保育士の資格取得ではないが、学校独自の科目として開設されている教科目																																
授業評価アンケート結果を受けての改善点	<p>総合評価4.83と高い評価を受けました。</p> <p>学生が自分たちの課題を見つけて主体的に取り組む姿が見られました。</p> <p>インフルエンザで休講となり、認定こども園への実習ができなかったため、来年は時期を考慮します。</p>																																
受講生へのメッセージ・その他	<p>・受講姿勢は、実践を含む授業への参加態度をもとに評価します。</p> <p>・提出物は、分量や授業内容の理解度をもとに評価します。</p> <p>・学生が主体的に取り組むようにしてください。</p>																																
実務経験の有無	<input type="checkbox"/> あり	・	なし	双方向・多方向に行われる討論を含む 総授業回数のうち5割以上の有無	<input type="checkbox"/> あり	・	なし																										